
川 越 市

戸宮前 II / 在家 II

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

2 0 0 7

国土交通省 関東地方整備局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 在家遺跡（第4次）航空写真



1 戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）航空写真



在家遺跡4次調査出土旧石器



戸宮前館跡2次・在家遺跡5次調査出土中世陶器

序

首都東京に隣接し、705万人の人口を擁する埼玉県は、高速道路を補完する幹線道路では交通量の増加に道路の整備が追いつかず、県内各地で交通渋滞が発生しています。

こうした状況の中、埼玉県では、誰もが安全・安心・快適に通行でき、環境にも十分配慮した「人と自然にやさしい道づくり」を道路整備の基本理念とし、「時間が読める道づくり」、「安心と活力の道づくり」を推進するという目標のもとで体系的な道路網の整備と総合的な交通渋滞対策を実施しております。

国土交通省による、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の新設事業は、具体的な施策のひとつであります。この「圏央道」の整備に伴って、首都圏における本県の交通アクセスの優位性は飛躍的に高まり、経済活動もさかんに行われ、より魅力的で活力ある地域の形成が期待されております。

建設路線内には、在家遺跡・戸宮前館跡の存在が知られており、埋蔵文化財の取り扱いにつきましては、埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課（当時）が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置が講じられることとなりました。発掘調査は、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

遺跡の周辺は、中世の遺跡が密集する地域として以前から注目されてきたところであります。今回の調査の結果、中世の集落跡の他、旧石器時代、縄文時代の生活跡も発見されました。特に、未解明の部分が多い室町時代の集落や入間台地で類例の少ない旧石器時代の生活跡の発見は、大変貴重なものといえます。

本書はこれらの成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護、学術研究の基礎資料として、また普及・啓発および各教育機関の参考資料として広く活用いただければ幸いです。

最後に本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力をいただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所、川越市教育委員会並びに地元関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成19年 3 月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 福 田 陽 充

例言

1. 本書は、埼玉県川越市に所在する在家遺跡（第4次）と戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
在家遺跡（第4次）
（略号ZIK、遺跡番号19—228）
埼玉県川越市大字下広谷字天神前673—1番地
他
平成17年10月25日付け教生文第2—72号
戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）
（略号TMYME・ZIK、遺跡番号19—001・19—228）
埼玉県川越市大字下広谷字戸宮前431—3番地
他
平成17年11月30日付け教生文第2—82号
3. 発掘調査は、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局の委託を受けて、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 本事業は、I—3に示す組織により実施した。
5. 調査期間と調査担当者は以下のとおりである。
在家遺跡（第4次）
戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）
平成17年9月15日～平成18年3月10日
調査担当者 田中広明 上野真由美
松本美佐子 清水慎也
6. 報告書作成事業は、村端が担当し以下のとおり実施した。
平成18年度
平成18年11月1日～平成19年3月31日
7. 遺跡の基準点測量は、在家遺跡（第4次）は精進測量株式会社、戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）は株式会社GIS関東に委託した。
8. 遺跡の空中写真撮影は、株式会社GIS関東に委託した。
9. 掲載した遺構写真撮影は、各調査担当者が、遺物写真撮影は大屋道則が行った。
10. 黒曜石の蛍光X線分析は大屋が行った。
11. 出土遺物の整理および図版の作成は村端が行い、中嶋淳子の補助、新屋雅明、山本靖、栗岡潤、矢田美知子の協力を得た。
12. 本書の執筆は、第I章—1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、III—2—(3)を大谷徹・中嶋が、IV—2—(2)を山本・大谷・中嶋が、他は村端が行った。
13. 本書の編集は、村端が行った。
14. 本書にかかる資料は、平成19年度以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
15. 発掘調査から報告書の刊行まで下記の機関・方々にご教示、ご協力を賜った。
川越市教育委員会
浅野晴樹 石川安司 岡田賢治 亀田直美
小菅将夫 平野寛之 高崎直成 田中 信
村上伸二

凡例

1. 本書中におけるX・Yの数値は、世界測地系による平面直角座標第IX系（原点：北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示し、各挿図における方位は、すべて座標北を示す。
2. 遺跡におけるグリッドは、前記座標系に基づいて設定し、10m×10mを基本グリッドとしている。
3. グリッドの名称は、北西杭を基準として、南北方向は北からA・B・C、東西方向は西から1・2・3と付し、A-1グリッド等の名称を付けた。
4. 遺構番号は、原則として調査時に付した遺構番号を掲載している。
5. 本文中に使用した遺構・遺物の略号は以下のとおりである。

遺構

FP	炉穴
SJ	竪穴住居跡
SD	溝跡
SA	柵列
SB	掘立柱建物跡
SK	土壌（集石土壌・地下式土壌を含む）
SE	井戸跡

遺物（在家遺跡第4次調査旧石器）

Ob	黒曜石
Ch	チャート
SSh	珪質頁岩
Ho	ホルンフェルス
An	安山岩
Sa	砂岩

6. 遺構図及び実測図の縮尺は以下のとおりである。
同一図中に縮尺の異なる場合は、図中にその都度例示した。

遺構	全測図	1/250・1/600
	溝跡	1/250
	石器集中区・礫群	1/80
	竪穴住居跡・掘立柱建物跡	1/60

- | | | |
|--|-----------|------|
| | 土壌・井戸跡 | 1/60 |
| | 集石土壌 | 1/30 |
| | ピット | 1/60 |
| | 遺構出土遺物微細図 | 1/30 |
7. 遺構断面図に表記した水準値は、海拔標高で、単位はmである。
 8. 遺物観察表については次のとおりである。
 - ・口径・器高・底径はcm、重さはgを単位とする。
 - ・（ ）内の数値は復元推定値、〔 〕内の数値は現存値である。
 - ・胎土は、肉眼で観察できるものを示した。
A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：輝石
E：長石 F：石英 G：砂粒子
H：赤色粒子 I：白色粒子
J：白色針状物質 K：黒色粒子
L：チャート M：その他
 - ・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分類した。
 - ・瓦の焼成は、硬質・軟質とに分類した。
 9. 本文遺構図に示したスクリーンは、各遺構種別ごとに凡例が異なるため、遺構図ごとにその都度凡例を例示した。
 10. 本書に掲載した地形図は、国土地理院1/25,000地形図、川越市1/2,500都市計画図を使用した。
 11. 土層および土器類の色調の表記は、『新版標準土色帖』2002年度（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に従った。
 12. 本書に使用した引用・参考文献は、巻末にその一覧表を記載した。

目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	c ピット	79
1 発掘調査に至る経過	1	IV 戸宮前館跡(第2次)・在家遺跡(第5次)	81
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	1 遺跡の概要	81
3 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	2 検出された遺構と遺物	82
II 遺跡の立地と環境	4	(1) 縄文時代	82
1 地理的環境	4	a 住居跡	82
2 周辺の遺跡	5	b 遺構外	84
III 在家遺跡(第4次調査)	8	(2) 中世	86
1 遺跡の概要	8	a 溝跡	87
2 検出された遺構と遺物	10	b 柵列	103
(1) 旧石器時代	10	c 掘立柱建物跡	111
(2) 縄文時代	61	d 井戸跡	121
a 炉穴	62	e 土壌	123
b 落とし穴	64	f ピット群	136
c 集石土壌	64	V 在家遺跡(4次)出土黒曜石の蛍光X線分析	142
(3) 中・近世	68	VI 調査のまとめ	143
a 溝跡	68	写真図版	
b 土壌	70		

插图目次

第1図	埼玉県の地形	4	第35図	第3号石器集中区出土石器(3)	42
第2図	周辺の遺跡	5	第36図	第3号石器集中区出土石器(4)	43
第3図	遺跡の範囲と周辺の地形	7	第37図	第3号石器集中区出土石器(5)	44
在家遺跡(第4次)					
第4図	在家遺跡周辺遺跡地図	8	第38図	第3号石器集中区出土石器(6)	45
第5図	在家遺跡(4次)全測図	9	第39図	第3号石器集中区出土石器(7)	46
第6図	旧石器時代石器・礫分布図	11	第40図	第3号礫群分布図	47
第7図	旧石器時代調査基本土層(1)	12	第41図	炉穴	61
第8図	旧石器時代調査基本土層(2)	13	第42図	第1号炉穴出土土器	62
第9図	旧石器時代調査基本土層(3)	14	第43図	落とし穴	63
第10図	第1号礫群分布図	15	第44図	第8号土壙(集石)	65
第11図	第1号石器集中区器種別分布図	16	第45図	第8号土壙出土石器	66
第12図	第1号石器集中区母岩別分布図	17	第46図	遺構外出土縄文土器・石器	67
第13図	第1号石器集中区出土石器(1)	19	第47図	溝跡	69
第14図	第1号石器集中区出土石器(2)	20	第48図	土壙(1)	71
第15図	第1号石器集中区出土石器(3)	21	第49図	土壙(2)	73
第16図	第1号石器集中区出土石器(4)	22	第50図	土壙(3)	75
第17図	第1号石器集中区出土石器(5)	23	第51図	出土遺物(中・近世)	79
第18図	第1号石器集中区出土石器(6)	24	戸宮前館跡(第2次)・在家遺跡(第5次)		
第19図	第1号石器集中区出土石器(7)	25	第52図	周辺遺跡地図	81
第20図	第1号石器集中区出土石器(8)	26	第53図	戸宮前(2次)・在家(5次)全測図	82
第21図	第1号石器集中区出土石器(9)	27	第54図	第1号住居跡・第32号土壙	83
第22図	第1号石器集中区出土石器(10)	28	第55図	第1号住居跡出土土器	84
第23図	第1号石器集中区出土石器(11)	29	第56図	第32号土壙出土土器	84
第24図	第2号石器集中区器種別分布図	30	第57図	遺構外出土縄文土器・石器	85
第25図	第2号石器集中区母岩別分布図	31	第58図	溝跡(1)	88
第26図	第2号石器集中区出土石器(1)	32	第59図	溝跡(2)	89
第27図	第2号石器集中区出土石器(2)	33	第60図	溝跡(3)	90
第28図	第2号石器集中区出土石器(3)	34	第61図	溝跡(4)	91
第29図	第2号石器集中区出土石器(4)	35	第62図	溝跡(5)	92
第30図	第2号石器集中区出土石器(5)	36	第63図	溝跡(6)	93
第31図	第3号石器集中区器種別分布図	38	第64図	第16号溝跡遺物出土状況	93
第32図	第3号石器集中区母岩別分布図	39	第65図	第28号溝跡遺物出土状況	93
第33図	第3号石器集中区出土石器(1)	40	第66図	第1号溝跡出土遺物(1)	96
第34図	第3号石器集中区出土石器(2)	41	第67図	第1号溝跡出土遺物(2)	97

第68図	第4・5・8・9・11・13・15号 溝跡出土遺物……………98	第82図	第2号掘立柱建物跡……………118
第69図	第16号溝跡出土遺物……………99	第83図	第4号掘立柱建物跡……………119
第70図	第17・18・23・24・25・26号 溝跡出土遺物……………100	第84図	第1号掘立柱建物跡……………120
第71図	第28号溝跡出土遺物……………101	第85図	井戸跡……………121
第72図	第1・4号柵列……………104	第86図	第4号井戸跡 E-3グリッド出土遺物……………122
第73図	第2・3・5・6・8・9号柵列……………106	第87図	土壇(1)……………125
第74図	第7・10号柵列……………108	第88図	土壇(2)……………126
第75図	第11・12号柵列……………110	第89図	土壇(3)……………127
第76図	第3号掘立柱建物跡……………112	第90図	土壇(4)……………128
第77図	第8号掘立柱建物跡……………113	第91図	土壇(5)……………129
第78図	第9号掘立柱建物跡……………114	第92図	第2・8・9・21・22号 土壇出土遺物……………132
第79図	第6号掘立柱建物跡……………115	第93図	第23号土壇出土遺物……………133
第80図	第7号掘立柱建物跡……………116	第94図	第28・31号土壇出土遺物……………134
第81図	第5号掘立柱建物跡……………117	第95図	ピット群……………136

表 目 次

第 1 表	旧石器時代出土石器組成表	48	第10表	ピット計測表	80
第 2 表	礫群別礫属性表	48	第11表	溝跡計測表	94
第 3 表	出土石器一覧表	49	第12表	土壌計測表	135
第 4 表	出土礫一覧表	53	第13表	ピット計測表	138
第 5 表	溝跡計測表	70	第14表	遺物観察表 (土器)	140
第 6 表	土壌計測表	78	第15表	遺物観察表 (瓦)	141
第 7 表	遺物観察表 (土器)	79	第16表	遺物観察表 (石製品)	141
第 8 表	遺物観察表 (瓦)	79	第17表	中世遺物集計表	141
第 9 表	遺物観察表 (銭)	79	第18表	在家遺跡 (4 次) 黒曜石産地推定表	142

図版目次

在家遺跡4次

- 図版1 1 全景(南から)
2 全景(北から)
- 図版2 1 旧石器出土状況(谷部に向かって)
2 第1号石器集中区(北から)
3 第2号石器集中区(南から)
4 第2号石器集中区(東から)
5 第3号石器集中区(南から)
6 第1号礫群(西から)
7 第2号礫群(南から)
8 第3号礫群(西から)
- 図版3 1 第1号炉穴
2 第2号炉穴
3 第3号炉穴
4 第4号炉穴
5 第5号炉穴
6 第8号土壙(集石)
7 第49号土壙(落とし穴)
8 第56・55号土壙(落とし穴)
- 図版4 1 第1号溝跡
2 第2・3・4号溝跡
3 第5号溝跡
4 第6号溝跡
5 第9号溝跡
6 第9号土壙
7 第15・16号土壙
8 第38・39・40・41・42号土壙
- 図版5 1 第1号石器集中区出土石器(1)(表)
2 第1号石器集中区出土石器(1)(裏)
- 図版6 1 第1号石器集中区出土石器(2)(表)
2 第1号石器集中区出土石器(2)(裏)
- 図版7 1 第2号石器集中区出土石器(表)
2 第2号石器集中区出土石器(裏)
- 図版8 1 第3号石器集中区出土石器(表)
2 第3号石器集中区出土石器(裏)

- 図版9 1 第1号炉穴出土遺物
2 第8号土壙出土遺物
3 遺構外出土縄文土器
4 遺構外出土石器
- 図版10 1 遺構外出土縄文土器
2 出土遺物(中・近世)

戸宮前館跡2次・在家遺跡5次

- 図版11 1 全景(西から)
2 ピット群(西から)
- 図版12 1 第1号住居跡
2 第32号土壙遺物出土状況
3 第1号溝跡
4 第5・6・7号溝跡
5 第9・10・11・12号溝跡
6 第13・14・15・17号溝跡
7 第15・16号溝跡
8 第18・24号溝跡
- 図版13 1 第20号溝跡
2 第19・20・21・22・23号溝跡
3 第25・50号溝跡
4 第25・26・27・28・51・55号溝跡
5 第34・40号溝跡
6 第30~37・41~44号溝跡
7 第45・46・47号溝跡
8 第53・54号溝跡
- 図版14 1 第1号掘立柱建物跡
2 第2号掘立柱建物跡
3 第1号井戸跡
4 第4号井戸跡
5 第8・9号土壙
6 第20号土壙
7 第21号土壙
8 第22・28号土壙
- 図版15 1 第23号土壙遺物出土状況
2 第23号土壙(完掘)

	3	第29号土壙	3	第9号溝跡出土遺物
	4	第30号土壙	4	第15号溝跡出土遺物
	5	第31号土壙遺物出土状況	5	第26号溝跡出土遺物
	6	第36号土壙	6	第28号溝跡出土遺物
	7	第40号土壙	7	第22号土壙出土遺物
	8	第41・42号土壙	8	第23号土壙出土遺物
図版16	1	第1号住居跡・第32号土壙出土土器	9	第23号土壙出土遺物
	2	遺構外出土縄文土器	10	第23号土壙出土遺物
	3	遺構外出土石器	図版20	1 第1号溝跡出土遺物 (1)
図版17	1	第1号溝跡出土遺物	2	第1号溝跡出土遺物 (2)
	2	第16号溝跡出土遺物	3	第4・5・8・9・11・13号溝跡出土遺物
	3	第16号溝跡出土遺物	4	第16号溝跡出土遺物
	4	第16号溝跡出土遺物	5	第17・18・23・24・25号溝跡出土遺物
	5	第16号溝跡出土遺物	6	第28号溝跡出土遺物 (1)
	6	第16号溝跡出土遺物	図版21	1 第28号溝跡出土遺物 (2)
図版18	1	第23号土壙出土遺物	2	第2・8・9・21・22号土壙出土遺物
	2	第23号土壙出土遺物	3	第23号土壙出土遺物
	3	第23号土壙出土遺物	4	第28・31号土壙出土遺物
図版19	1	第1号溝跡出土遺物	5	第4号井戸跡・E-3グリッド出土遺物
	2	第1号溝跡出土遺物		

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、『彩の国5か年計画21』に「便利で快適な総合交通体系を整備する」という基本目標を掲げて、「県土の骨格となる高速道路網やインターチェンジへのアクセス道路の整備推進」を重要施策としている。こうした中で、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所が主体となって建設を進める首都圏中央連絡自動車道は県内を東西に結ぶ大動脈としてその完成が待望されている。

埼玉県教育委員会では、首都圏中央連絡自動車道建設に係る埋蔵文化財の保護について、昭和62年度の入間・狭山・日高地区を皮切りに現在まで国土交通省などの関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

さて、本書で報告される地区は平成10年度に建設省関東地方建設局大宮国道工事事務所（当時）から「埋蔵文化財の所在及び取扱いについて」照会がなされたところである。これに対し、県教育委員会では複数次にわたる試掘調査を実施し、宮廻館跡（19-003、31-147）、戸宮前館跡（19-001）、在家遺跡（19-228）等の所在及び取扱いについて回答したところである。なお、これらの遺跡は平成11年度から13年度にかけて発掘調査が実施され、平成15年度に報告書が刊行されている。

本書で報告される在家遺跡第4次調査区は前述の発掘調査の未調査部分であり、戸宮前館跡第2次調査・在家遺跡第5次調査は平成17年度の試掘調査により確定した範囲である。（平成17年10月19日付け教生文第1652号）

これらの遺跡の埋蔵文化財の取扱いについては、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所と県教育委員会との間で協議を重ね、平成17年度に発掘調査を実施することになった。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業団、国土交通省関東地方整備局大宮国道事務所、生涯学習文化財課の三者により調査方法、期間、経費などの問題を中心に協議が行われた。

なお、発掘調査は次のとおり実施した。
在家遺跡第4次、戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査：平成17年9月15日～平成18年3月10日

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知は建設省関東地方建設局長から平成11年3月26日付け建関道工第71号の3で提出されており、それに対する保護法上必要な勧告は平成17年3月31日付け教文第3-867号で行った。

文化財保護法第92条の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。発掘調査の届出に対する指示通知番号は次のとおりである。

在家遺跡第4次調査：平成17年10月25日付け教生文第2-72号

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査：平成17年11月30日付け教生文第2-82号

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

在家遺跡第4次、戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次の発掘調査は、平成17年9月15日から平成18年3月10日まで実施した。調査面積は合わせて5,940㎡である。なお、在家遺跡第1次～第3次調査は、平成11年から平成13年にかけて断続的に調査が実施された。戸宮前館跡第1次調査は、平成12年度に調査が実施され、合わせて平成15年度に『事業団報告書第297集』として、報告書が刊行されている。

在家遺跡第4次

在家遺跡第4次調査の調査地点は、平成11年度に発掘調査が実施された在家遺跡B区（第1次調査）の北側部分にあたる。

平成17年9月に、事務手続き、事務所設置作業を行い、重機による表土除去作業を開始した。引き続き基準点測量を実施し、補助員による遺構確認作業に着手した。確認の結果、縄文時代の炉穴・落とし穴・集石土壌の他に、近世と考えられる溝跡・土壇を確認した。その後速やかに確認された遺構の精査を実施し、順次、土層断面図・平面図等の作成、写真撮影を行った。11月中に縄文時代、近世の遺構精査を完了した。

12月から、前回の調査の結果、予想された旧石器時代の調査を開始した。遺構確認時等に出土した石器を手がかりとして、ローム層中に2m四方の深掘り区を数ヶ所設け、石器や礫の出土の広がりに合わせて調査区を拡張した。深掘り区は土層断面の崩落などの危険が伴うため、細心の注意を払って調査を実施し、安全の確保に努めた。

調査終了後、調査区の埋め戻しを行い、調査を終了した。

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次

調査地点は平成12年度に実施された第1次調査区の北東部に位置する。

在家遺跡第4次調査と平行し、11月下旬に事務手続き、表土除去を11月下旬から12月上旬にかけて行った。基準点測量は12月中旬に実施した。

1月より、補助員による遺構確認作業に着手し、縄文時代や中世の遺構を確認した。その後速やかに確認された遺構を精査し、順次、土層断面図・平面図の作成、写真撮影を行い、記録保存に努めた。遺構の調査終了後、2月末に重機による調査区の埋め戻しを行い、3月に機材の搬出、事務所撤去、事務手続きを行い、調査を終了した。

(2) 整理・報告書の作成

在家遺跡第4次、戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次の整理事業は平成18年11月1日から平成19年3月31日まで行った。

11月1日から出土遺物の水洗・注記、接合・復元作業および写真・図面整理を開始した。遺構図については、図面整理を経て第二原図を作成し、スキャナーで読み込んだ後にコンピューターによるデジタルトレース作業および土層注記を挿入し、版下を作成した。

遺物には石器・土器・陶磁器などがあり、これらの遺物を接合・復元して、実測・採拓作業を行い、その後トレース・版組作業を行った。

続いて遺物写真の撮影を行い、図面・写真・本文の割付作業と原稿執筆を進めて編集作業に着手した。

2月に印刷業者を選定して入稿し、校正作業を経て、平成19年3月28日に報告書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

平成17年度（発掘調査）

理事長	福田陽充	調査部	
常務理事兼管理部長	保永清光	調査部長	今泉泰之
管理部		調査部副部長	坂野和信
管理部副部長	村田健二	主席調査員（調査第一担当）	昼間孝志
主 席	高橋義和	統括調査員	田中広明
		統括調査員	上野真由美
		調 査 員	松本美佐子
		調 査 員	清水慎也

平成18年度（整理報告書刊行）

理事長	福田陽充	調査部	
常務理事兼総務部長	岸本洋一	調査部長	今泉泰之
総務部		調査部副部長兼資料活用部副部長	小野美代子
総務部副部長	昼間孝志	整理第二課長	富田和夫
総務課長	高橋義和	主 事	村端和樹

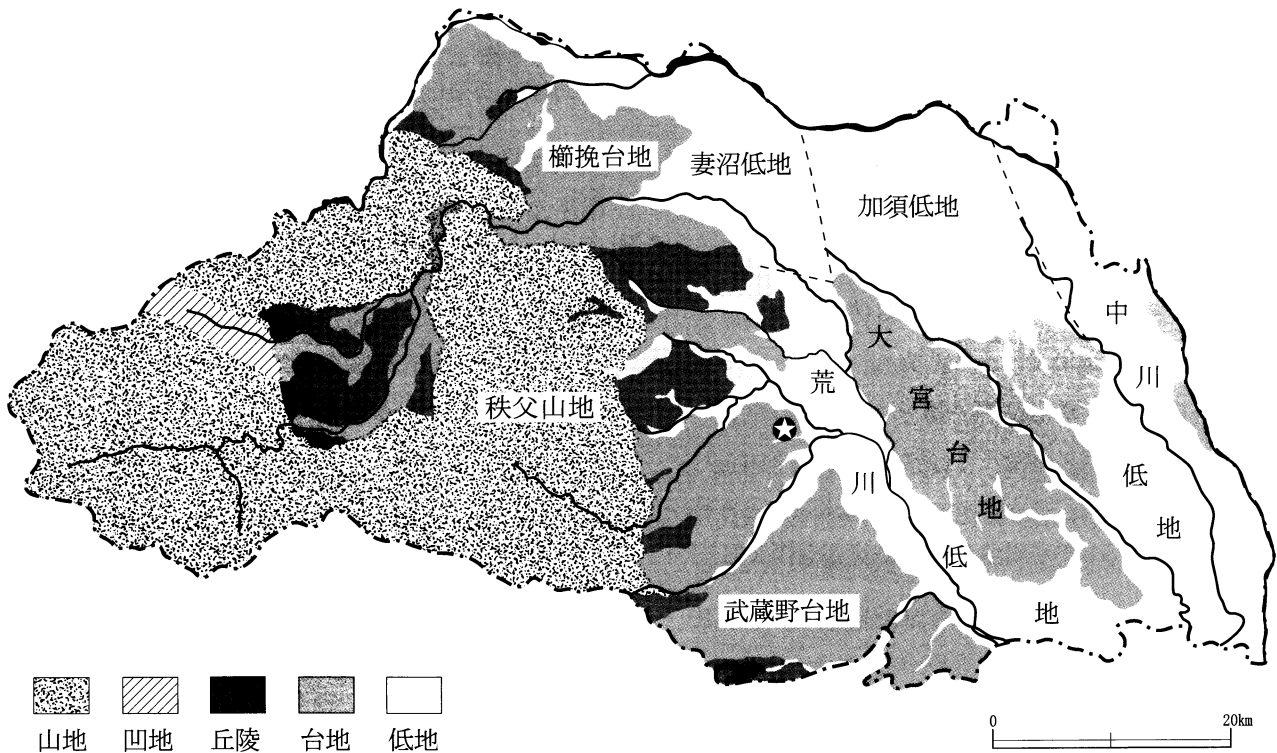
II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

在家遺跡・戸宮前館跡は、埼玉県川越市北部の大字下広谷地内に所在する。付近は行政的に、川越市、鶴ヶ島市、坂戸市が入り組んでいる。最寄の駅は、東部東上線鶴ヶ島駅で、遺跡は駅から北北東に約2kmほどに位置する。

遺跡は埼玉県の中央部からやや南に位置する。地形分類上では入間台地の支台である坂戸台地に立地する。入間台地は、外秩父山地から流れ出る入間川、越辺川、高麗川によって形成された扇状地性の台地で、起伏が少なく平坦であることを特徴とする。標高は、日高市高麗川駅付近で約80m、台地先端部分の坂戸市小沼から川越市下小坂にかけては19m前

後を測る。台地は河川によって細分され、越辺川と、高麗川の間を毛呂台地、高麗川と小畔川の間を坂戸台地、小畔川の南入間側までを飯能台地と呼んでいる。遺跡の立地する坂戸台地は東は荒川低地、西は高麗川、南は小畦川、北は越辺川によって画され南西から北東に向かって緩やかに傾斜している。沖積低地に面した台地縁辺部は、小河川によって開析された幾筋かの狭小な谷が見られるほかは、概ね起伏の少ない平坦地が広がっている。遺跡は、坂戸台地の先端から約2kmほど奥に立地し、標高は25m前後である。



第1図 埼玉県の地形

2. 周辺の遺跡

在家遺跡第4次調査では、主に旧石器時代の石器集中区、礫群、縄文時代の落とし穴、集石土壙、近世期の溝跡、土壙、ピットが検出された。

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査では縄文時代の竪穴住居跡や中世の遺構・遺物が検出された。以下に該当する時代について周辺の遺跡を概観する。

旧石器時代の遺跡は、小畔川流域で、鶴ヶ丘遺跡が学史的にも有名でやや規模の大きい遺跡である。それ以外の旧石器時代の遺跡は、表面採集資料により確認された遺跡のみであった。近年では、平成11年度に行われた在家遺跡第1次調査で礫群に伴い石器が発見され、事業団報告書第297集(木戸2004)にて報告されている。隣接する今回の在家遺跡第4次調査区でも、集中部をとまなう石器群が発見された。また、平成17年度に調査された木曾免遺跡第5次調査で、石器集中区2箇所、礫群1基が、また番匠・下道遺跡でも石器集中区が1箇所発見された。今後小規模ながらも石器集中部をとまなう遺跡が発見

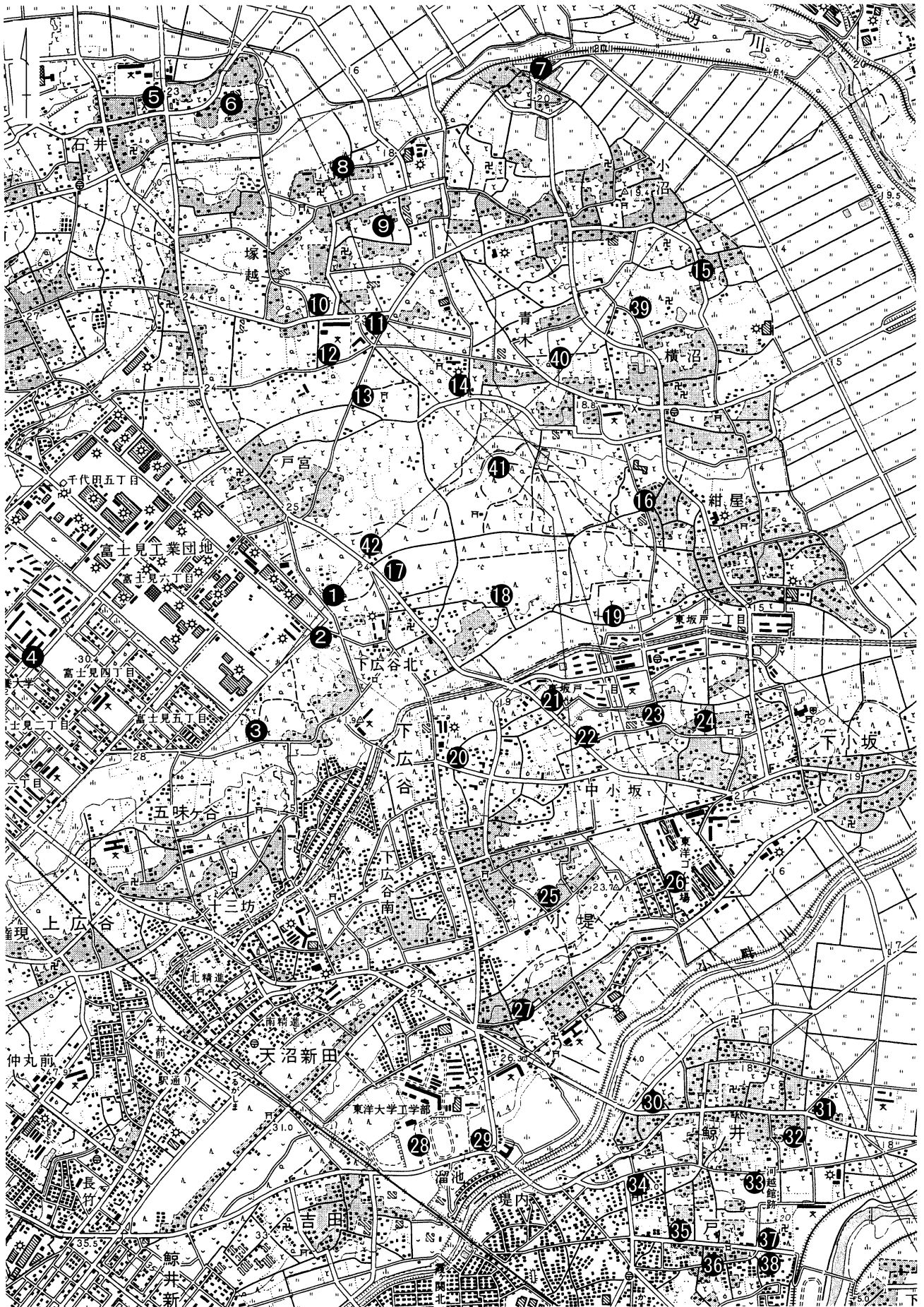
される可能性が高いといえよう。

縄文時代の遺跡はあまり多くはない。縄文時代早期の遺跡は周辺には少なく台地内奥部が多いが、坂戸市北谷遺跡、番匠・下道遺跡、御新田遺跡で縄文時代の炉穴群が検出されている。前期になって周辺に遺跡がみられるようになる。坂戸市の木曾免遺跡、番匠・下道遺跡、附島遺跡では、関山期の住居が発見されている。中期には登戸遺跡、金山遺跡、勝呂遺跡、景台遺跡、牛原遺跡などで集落が営まれるようになる。中期の遺跡は台地の先端部や、やや奥に入った小支谷に面して立地する傾向がある。後期は前林遺跡、西窪遺跡、渡戸遺跡などがありいずれも堀ノ内期の遺跡である。

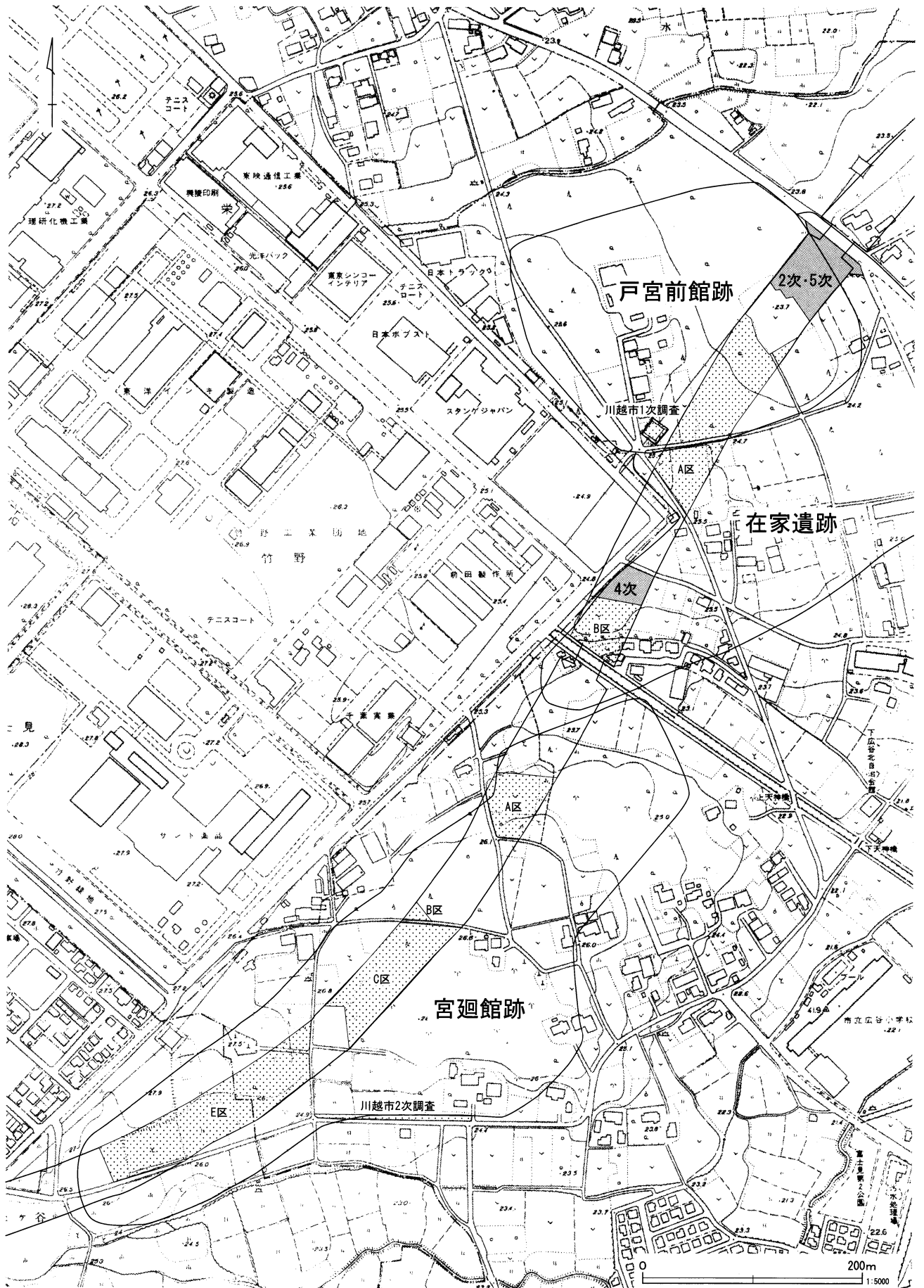
中世城館跡は遺跡周辺に多く存在する。下広谷には宮廻館跡、戸宮前館跡、大堀山館跡、宮前館跡があり、大谷川を挟んで対岸の坂戸市中小板には大穴城跡がある。台地の北方には堀構屋敷跡、塚越館跡、明泉館跡、勝豊前守館跡などがあり、他にも、城跡関連の遺構が数ヶ所存在するとされる。

周辺の遺跡

1 戸宮前館跡	2 在家遺跡	3 宮廻館跡	4 若葉台遺跡	5 勝呂廃寺
6 勝呂遺跡	7 附島遺跡	8 渡戸遺跡	9 明泉遺跡	10 青木堀之内遺跡
11 宮町遺跡	12 住吉中学校遺跡	13 精進場遺跡	14 番匠・下道遺跡	15 木曾免遺跡
16 丸山遺跡	17 大堀山遺跡	18 宮前遺跡	19 景台遺跡	20 西窪遺跡
21 大穴山遺跡	22 金山遺跡	23 前林遺跡	24 お寺山遺跡	25 鶴ヶ丘遺跡
26 登戸遺跡	27 夜幣賀伎遺跡	28 東洋大学敷地内遺跡	29 中野台遺跡	30 有泉遺跡
31 会下遺跡	32 花見堂遺跡	33 龍光遺跡	34 日枝神社遺跡	35 新田屋敷遺跡
36 山王久保遺跡	37 河越館跡	38 天王遺跡	39 北谷遺跡	40 横沼新田遺跡
41 御新田遺跡	42 牛原遺跡			



第2図 周辺の遺跡



第3図 遺跡の範囲と周辺の地形

III 在家遺跡（第4次）

1. 遺跡の概要

在家遺跡は川越市大字下広谷地内に所在し台地上に立地する。在家遺跡第4次調査は平成17年度に行われた。

本調査区の南側に平成11年度に調査された、在家遺跡B区が、また本調査区の北側に、平成12年度から13年度にかけて断続的に調査が行われた、在家遺跡A区が位置する。A区・B区共に、事業団報告書第297集（木戸2004）ですでに報告されている。

遺跡は坂戸台地の先端から約2 kmほど奥で、一見平坦な地形であるが、調査区南側には、大谷川にのびる谷が東西方向に入り、その谷から北東方向に樹枝状に延びる小さな埋没谷がみられる。遺跡の立地する台地はその埋没谷に向かって、緩やかに傾斜している。標高は約25mである。

在家遺跡第4次調査では旧石器時代、縄文時代、近世以降の各時代の遺構が検出された。

旧石器時代は、石器集中区3ヶ所、礫群3基が発見された。出土石器には尖頭器、ナイフ形石器、削器、搔器などがある。出土礫は、熱を受け、赤化し、割れているものがほとんどである。石器集中区、礫群は調査区南東隅の小さな埋没谷を取り囲むように分布している。

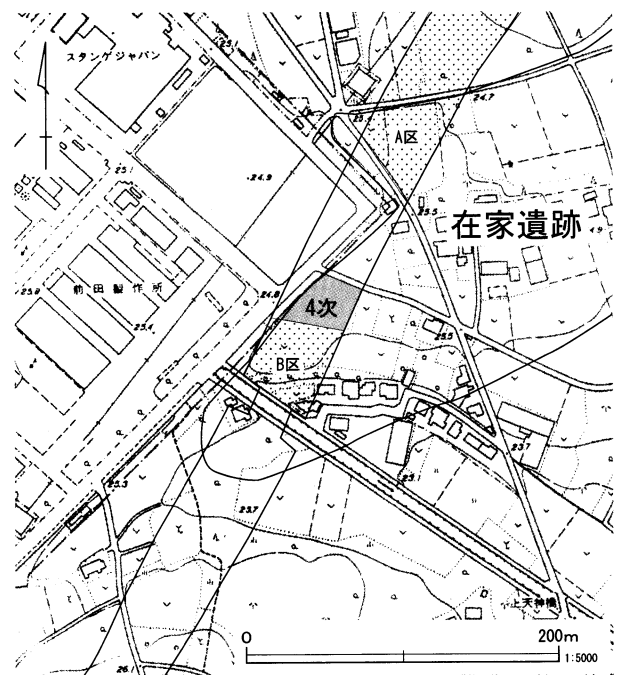
縄文時代は早期の炉穴5基、落とし穴3基、中期と考えられる集石土壌1基が検出された。炉穴は掘込みの少ない小規模なものが主体的であり、明瞭な炉床を持つものは少ない。落とし穴3基はいずれも南南東に主軸を合わせて構築されている。中期と考えられる集石土壌は、調査区やや北側に位置する。集石土壌内からは礫の他、凹石などの石器も出土している。

縄文時代の遺構は、集石土壌を除いて調査区南側に多く、旧石器時代から縄文時代早期にかけて、やや低い所に遺構は集中するようである。

中・近世と考えられる遺構は、土壌53基、溝跡10条が検出された。

土壌は、不定形なものが多く、調査区全体に分布し、集中域を持つものは無い。覆土の状態から、ほとんどが近世期のものと考えられる。ピットは調査区全体に分布しているが、第1号溝跡、第2～4号溝跡に画された調査区北東隅に特に集中している。いずれも建物を構成する規則性のある配置は見られない。

溝跡は、調査区南東隅に湾入する埋没谷の谷頭を取り巻く斜面地に分布する1群と、台地の肩部を画する1群に分けられる。出土遺物は少なく明確な時期決定はできないが、遺構の重複関係から大半は近世以降の所産と推定される。



第4図 在家遺跡周辺遺跡地図

2. 検出された遺構と遺物

(1) 旧石器時代

在家遺跡第4次調査では、石器集中区3ヶ所、礫群3基が発見され、石器211点、礫503点、総数714点が出土した。今回の調査区で検出された石器群は、出土層位・母岩分類・石器形態などから検討した結果、すべて同一時期の石器群と認識した。石器は、立川ローム第IV層に相当する層を前後して出土しており、武蔵野台地、IV下～V層段階から砂川期への移行期にあたる石器群と考えられる。

遺物の分布（第6図）

在家遺跡第4次調査区は、北西から南東部の埋没谷に向かって緩やかに傾斜する所に位置する。石器は、南東部の埋没谷を囲むように、調査区南側に分布する。ソフトローム上面の標高は、調査区北西の最高位で25.3m、埋没谷が始まる谷頭部で24.9m、埋没谷内では24.1mである。調査区内で約1.2mの標高差がある。（第5図参照）

石器集中区間で接合関係は確認できなかったものの、第1～3号石器集中区間で、同一の母岩を共有しており、ほぼ同時期に形成された可能性が高いと考えているが、垂直分布は各石器集中区、礫群間で多少の違いがある。

4次調査では石器が比較的散漫な分布状態を示しているということを考慮して、石器集中区を、最大限の視覚的なまとまりで捉えることにし、中心から外れた位置で出土した石器についても、近接した石器集中区の中に含めた。

また、礫群についても同様に、全体的に散漫な分布状態を示していることを考慮し、中心から外れた位置で出土した礫についても、一番近接した礫群に含めた。

第1号礫群はC-2・C-3・D-2・D-3グリッドにまたがって位置する。礫はI層のソフトロームを中心に検出された。範囲は長径10m、短径8mである。破碎礫のみで構成され、被熱・付着物

の割合が高い。第1号石器集中区は、D-3・D-4グリッドに位置する。I層のソフトローム～II層のハードロームにかけて出土し、分布は径約8m前後である。石器は115点出土した。黒曜石を主体とする。尖頭器・ナイフ形石器が出土し、縦長剥片に関する資料が多いのが特徴である。

第2号礫群は、D-5グリッドに位置し、すぐ北側に第2号石器集中区がある。礫はI層のソフトロームからII層ハードロームにかけて出土した。分布は密集しており、礫の平均重量は、第1号礫群の礫より重い。

第2号石器集中区は、D-5グリッドに位置する。すぐ南側に第2号礫群がある。径約4mの範囲で分布する。I層のソフトローム～II層のハードロームにかけて36点の石器が出土した。珪質頁岩を主体とし、ナイフ形石器・角錐状石器・搔器などが出土する。

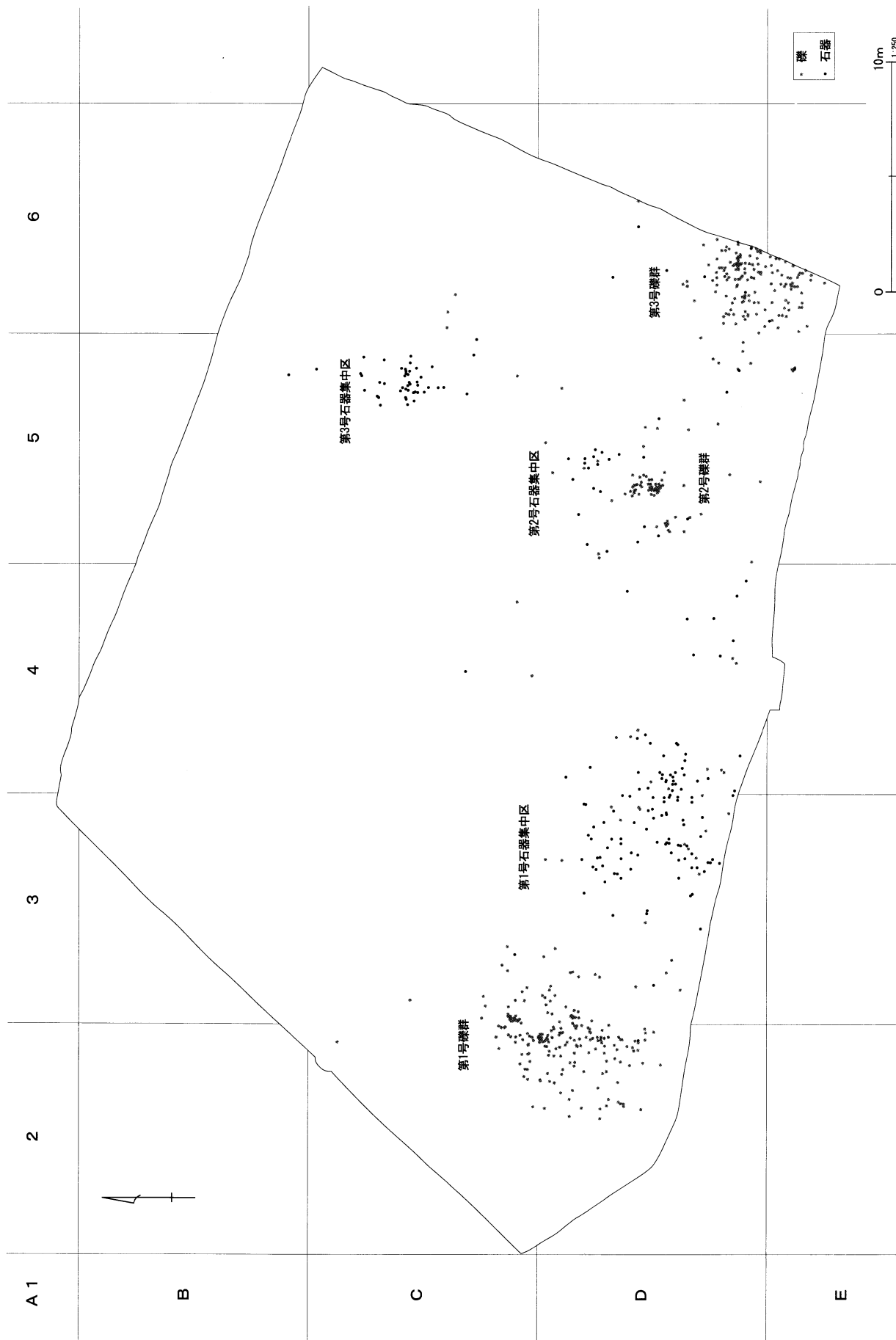
第3号礫群は、D-6・E-6グリッドに位置する。I層のソフトロームを中心に出土し、範囲は長径約7m、短径6mである。3分の1程度が東側の調査区外へ及ぶと推測される。

第3号石器集中区は、C-5グリッドに位置する。第2号石器集中区の北東側にある。石器はII層下部～III層にかけて出土し、範囲は長径5m、短径3mでやや密集した分布である。

基本土層（第7～9図）

入間台地は概してローム層の堆積が薄く、本遺跡の立川ロームの層厚は1.3m前後である。I～V層までが立川ローム層に相当する。I～III層では白色粒子を多く含み、いわゆる大里ロームである。VI層以下は武蔵野ローム層に相当する。

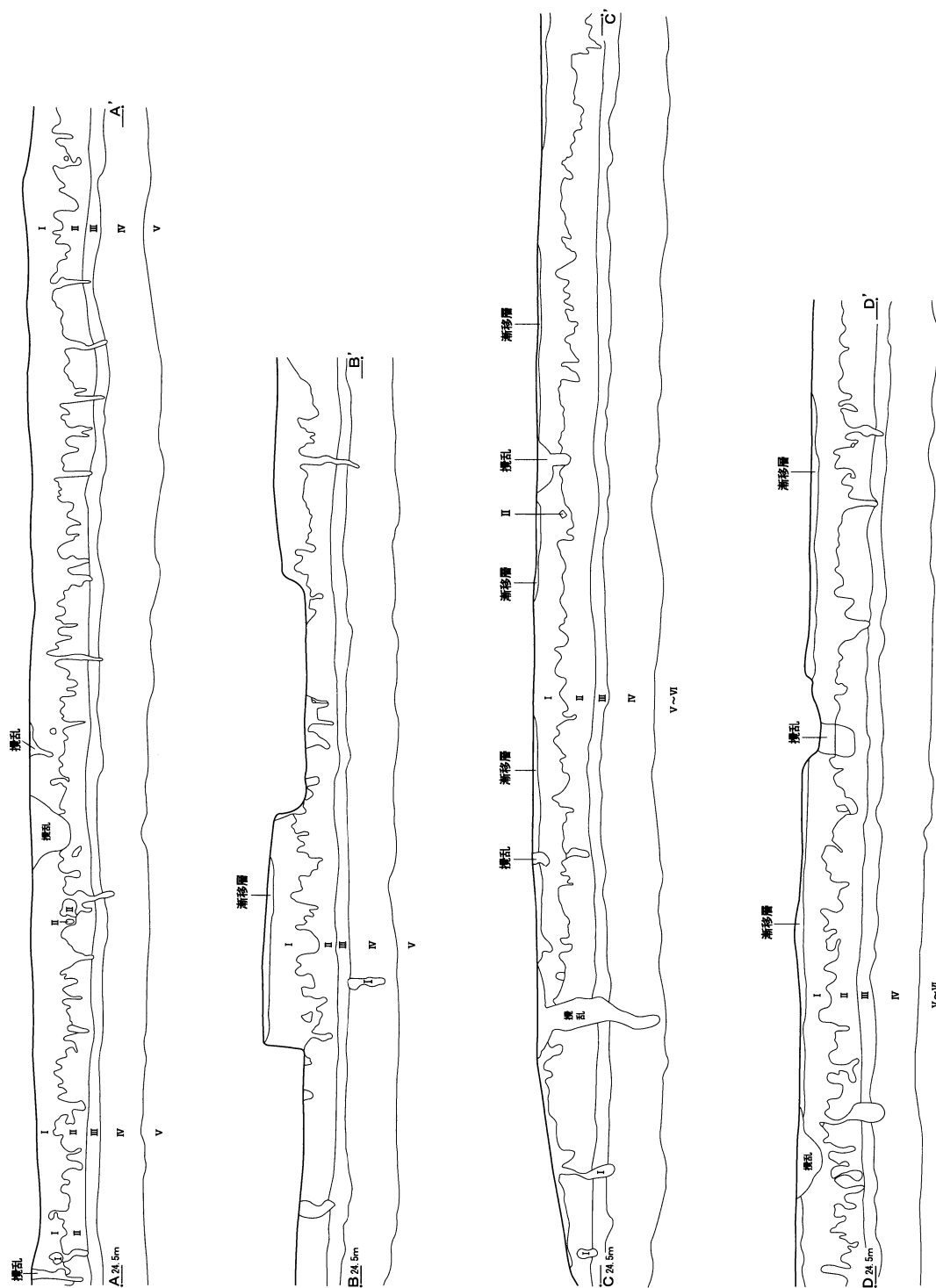
基本土層を記述するにあたり、前回調査の在家遺跡B区で付された層位名称（木戸2004）と今回4次調査で付された層位名称が異なるので、以下対応関係も含めて、説明する。



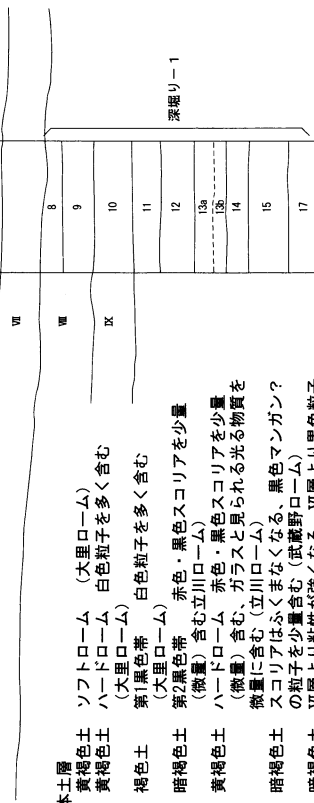
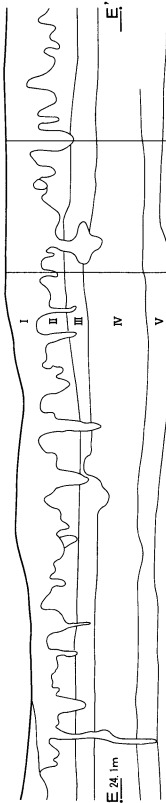
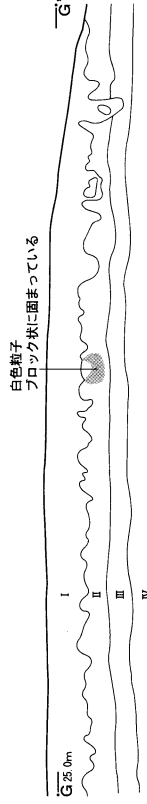
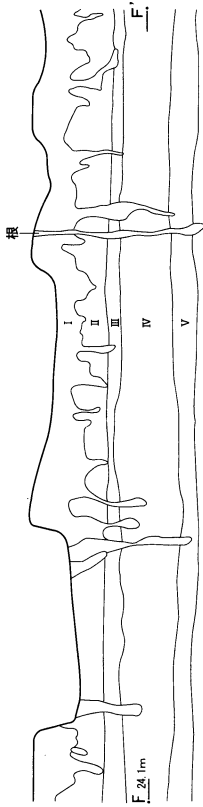
第 6 図 旧石器時代石器・礫分布図



第7図 旧石器時代調査基本土層 (I)

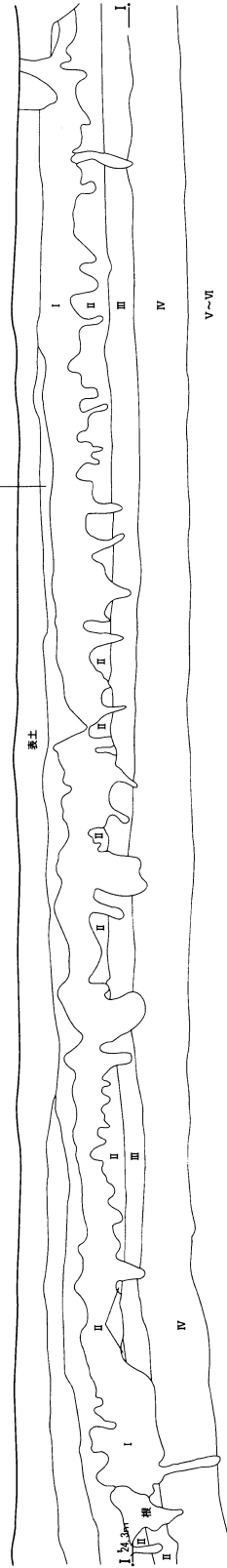


第 8 図 旧石器時代調査基本土層 (2)



- 基本土層
 I 黄褐色土 ソフトローム (大里ローム)
 II 黄褐色土 ハードローム 白色粒子を多く含む (大里ローム)
 III 褐色土 第1黒色帯 白色粒子を多く含む (大里ローム)
 IV 暗褐色土 第2黒色帯 赤色・黒色スコリアを少量 (微量) 含む立川ローム
 V 黄褐色土 ハードローム 赤色・黒色スコリアを少量 (微量) 含む、ガラスと見られる光る物質を微量に含む (立川ローム)
 VI 暗褐色土 スコリアを少量含む (武蔵野ローム) の粒子をふくまなくなると、黒色マンガン? が多くなる武蔵野ローム、VI層より黒色粒子
 VII 暗褐色土 やや砂質になる (武蔵野ローム)
 VIII 暗褐色土 粘性が強い (武蔵野ローム)
 IX 暗褐色土 粘性が強い (武蔵野ローム)
 * VII~IX層は粘質になるが、しまりは弱い、白色のロームと白色に近い粘土が霽降り状になる
- 深掘り-1
 8 白色の砂質粘土のローム、マンガンの小粒を含む、9層より粘性がやや強い
 9 白色の砂質粘土のローム、マンガンの小粒を含む、8層より砂質
 10 ・粘性やあり、やや大きめのスコリアorマンガン(7mm)入る、白色粘土を多量に含む、ブロック状に細粒の白色砂?入る
 11 これより下位水がつく状態。粘性強い、ベースは8・9層と同じ、10層より更に白味が強い、白色粘土・砂?多量に含む、赤色スコリアorマンガン粗は10層に比べて小さく少ない

- 12 水のついた状態がより強い。粘土質、白灰が強い、灰色の粘土がブロック状に入る、マンガン(1.5mm)多く部分的にブロック状に入る、白灰色の小粒子?が混じる
 13 水が薄く状態。
 13a 白灰色をベースにマンガンの付着により茶色に斑に入る粘土層、細粒砂?含む
 13b (13層の下位9cm) 淘汰の良い白色粘土、黒粒子(マンガン)入る
 14 オレンジ色の粘土層、白色粒子が霽降り状に入る、小礫1~2mm混じる
 15 暗茶色の粘土層(ピートの可能性は?)、礫8~15mm混じる
 17 礫層、明灰青色の粘土と礫3~5cmが混ざりセメント状となる
 *10~13層にかけて植物の根痕と考えられるものが多い、11層にとくに多い



第9図 旧石器時代遺跡跡地土層(3)



第11図 第I号石器集中区器種別分布図



第12図 第I号石器集中区母岩別分布図

I層はソフトロームである(前回報告のIII層)。II層はハードロームで白色粒子を多く含む(前回報告ではIV層)。III層はII層よりもやや暗い色調で白色粒子を多く含む。(前回報告ではV層)。前回報告では、これに相当する層位は、第2黒色帯上部と認識されたが、今回の報告では第1黒色帯と認識し直す。IV層は暗い色調で赤色・黒色スコリアを含み第2黒色帯に相当する(前回報告のVI層)。V層は明るい褐色である(前回報告のVII層)。VI層以下はやや暗い褐色で、下位になるほど粘質化し、しまりの弱い土層となる。石器・礫はI層からIV層にかけて出土している。前回調査で、火山ガラス分析・テフラ分析が行われており、V層中(今回のIII層)に始良Tn火山灰(AT)が検出されている。

調査で掘削した範囲及び、達した層位を第7図に示した。いずれの試掘坑もIV層、もしくは、さらに下層まで掘削したが、第IV層より下位では石器は出土しなかった。

母岩分類

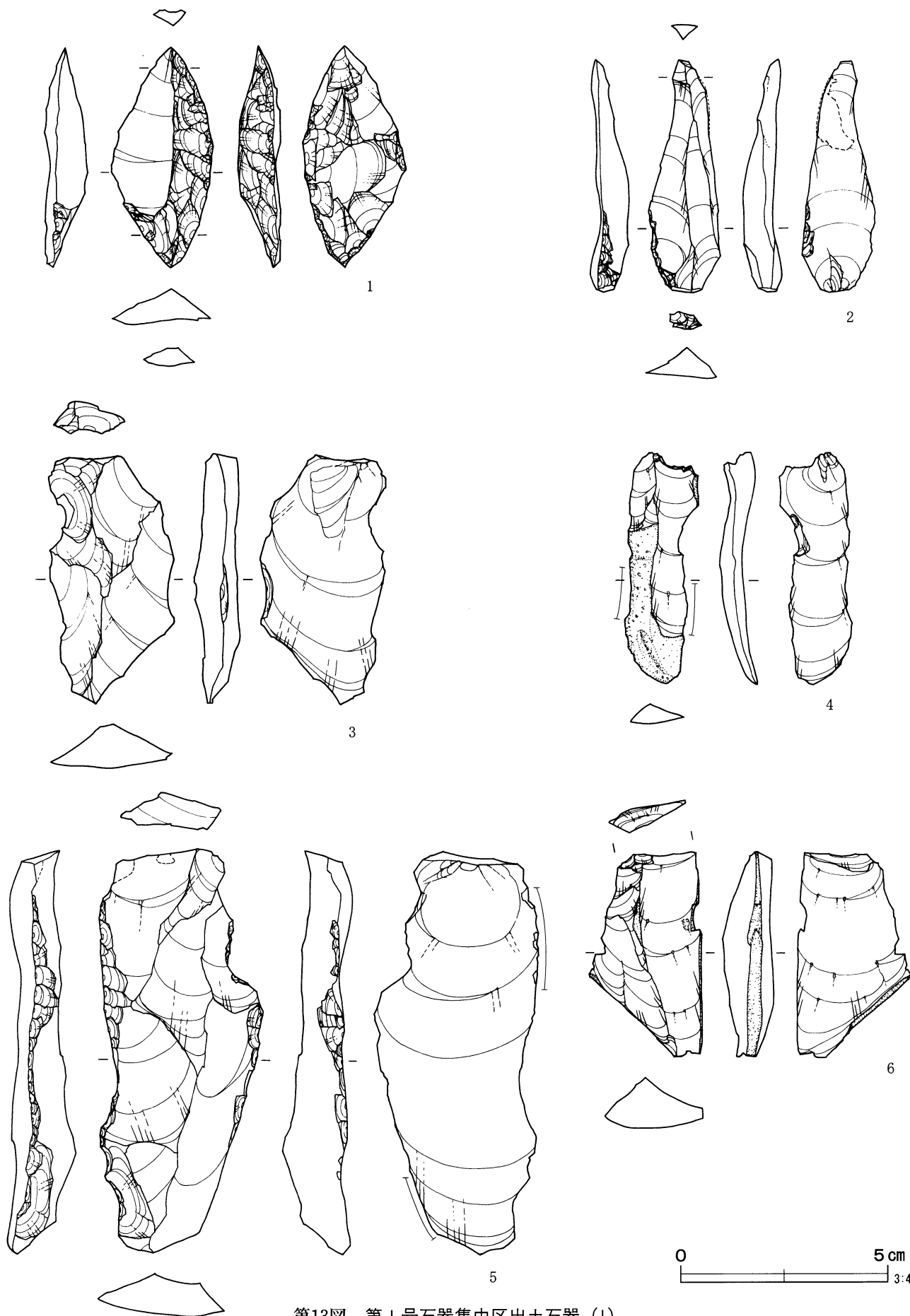
本書では黒曜石8母岩、チャート4母岩、珪質頁岩3母岩を設定した。

前回報告でも、母岩分類されており、今回の調査で、前回報告で設定された母岩と同一のものがある一方、無いものもあり、また、今回の4次調査で新たに認識した母岩も加わるため、母岩分類を設定し直した。以下に前回報告で設定された母岩との対応関係も含めて記述する。

- Ob-1 : 全体的に赤みを帯び、不純物を含む。在家遺跡の黒曜石の主要な部分を占める。前回報告(以下前回)の黒曜石1と一致。
- Ob-2 : 不純物を殆ど含まない透明度の高い黒曜石である。前回の黒曜石2と一致。
- Ob-3 : 不純物を殆ど含まず、Ob-2に似るが、それよりも曇りを含み透明度のやや低い黒曜石である。前回の黒曜石3と一致。
- Ob-4 : 不純物はほとんど含まない透明感の高い黒曜石である。黒色の縞がみられる。前回

の黒曜石5と一致。

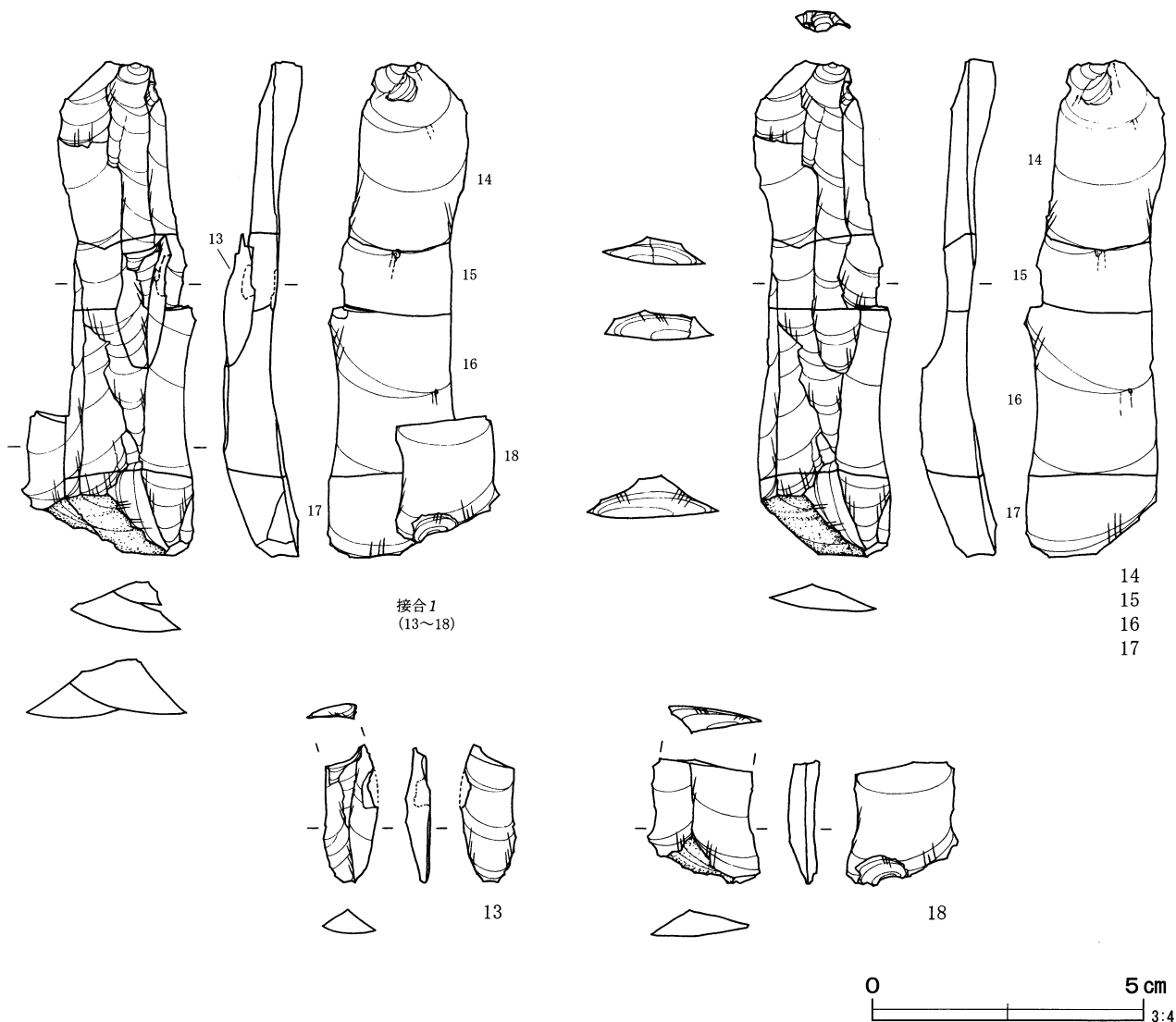
- Ob-5 : 不純物はほとんど含まないが透明感の無い黒曜石である。やや灰色がかっている。今回、新たに設定した母岩である。
- Ob-6 : 白い流理が密にみられ灰色がかった透明感の無い黒曜石である。単独出土である。今回、新たに設定した母岩である。
- Ob-7 : 不純物はほとんど無い漆黒の黒曜石である。単独出土である。基部加工のナイフ形石器に使用されている。前回の黒曜石7と一致。
- Ob-8 : 不純物はほとんど無く漆黒に近いが、黒色の縞と透明な部分が密に交わる黒曜石である。単独出土である。搔器に使用されている。今回、新たに設定した母岩である。
- Ch-1 : 緑灰色で黒色の筋がみられ、節理が発達したチャートである。単独出土である。
- Ch-2 : やや暗い緑灰色であり節理の発達していないチャートである。単独出土で尖頭器に使用されている。
- Ch-3 : 緑灰色のチャートである。わずかに黒色の筋が入る。単独出土でナイフ形石器に使用されている。
- Ch-4 : 暗灰色のチャートである。節理はあまり発達していない。単独出土である。
- Ch-5 : 赤色のチャートである。単独出土である。
- SSh-1 : 暗緑灰色で多方向に向かう黒色の筋が見られる。風化により乳白色を呈する部分がある。非常に緻密で、光沢はほとんどない。前回の黒色頁岩1と一致。
- SSh-2 : 淡い黄色の珪質頁岩である。緻密でやや光沢がある。単独出土で削器1点が出土している。
- SSh-3 : 暗赤褐色の珪質頁岩である。緻密でやや光沢がある。単独出土で削器1点が出土している。
- その他の石器石材には、ホルンフェルス・安山岩・



第13图 第I号石器集中区出土石器 (I)



第14图 第1号石器集中区出土石器 (2)



第15図 第1号石器集中区出土石器 (3)

砂岩がある。ホルンフェルスは、削器・礫器に、安山岩・砂岩は磨石に使用されている。

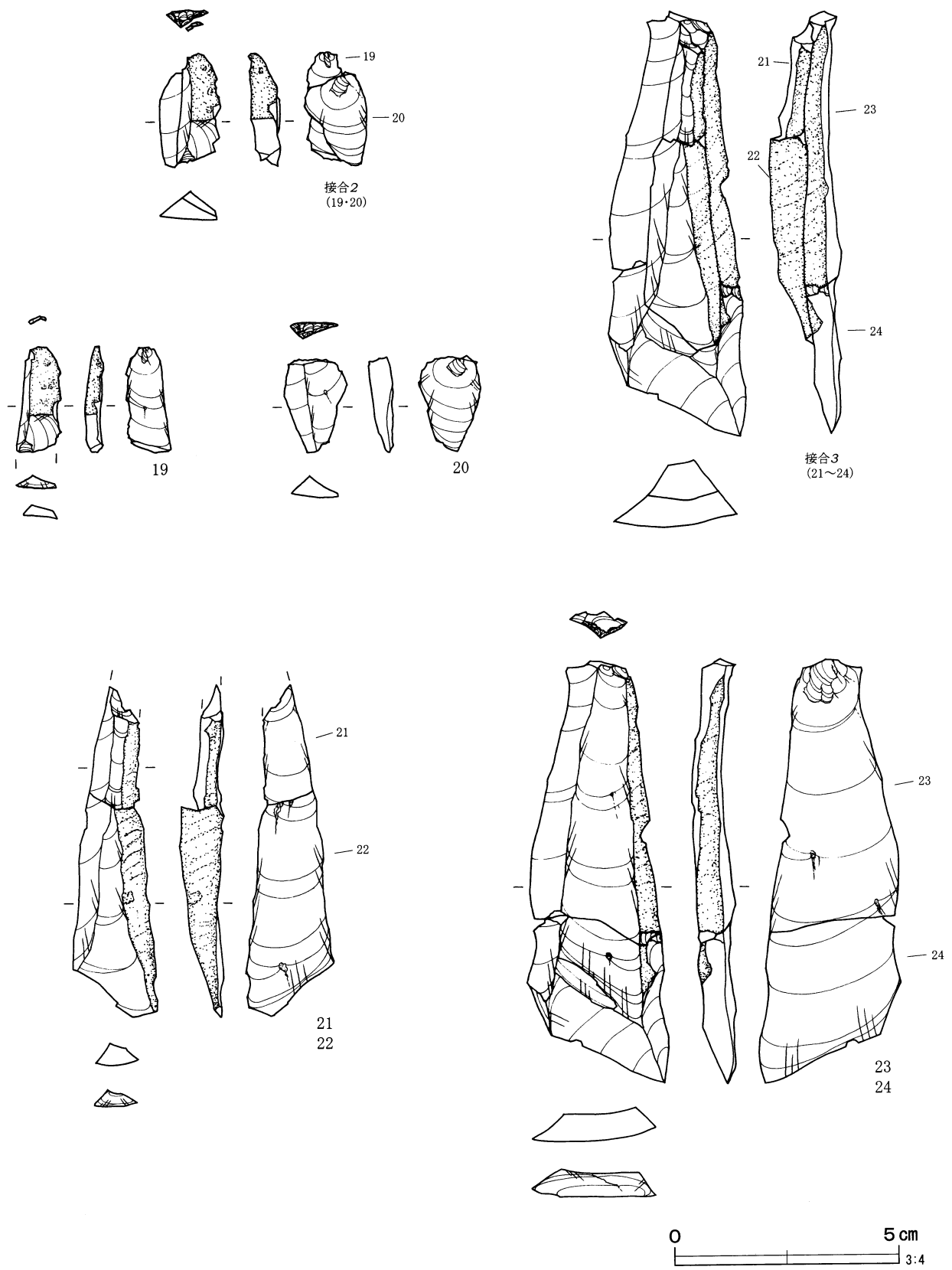
SSh-1は前回調査の黒色頁岩1にほぼ対応し、今回、新たに、黒色頁岩ではなく珪質頁岩と認識し直した。Ob-5~8・SSh-2・SSh-3は新たに設定した母岩である。前回報告の黒曜石4、黒曜石6は4次調査では出土しなかった。黒曜石4は不純物、節理を多く含む黒曜石で、灰色がかった外観である。黒曜石6は気泡、節理を非常に多く含む黒曜石である。

器種分類

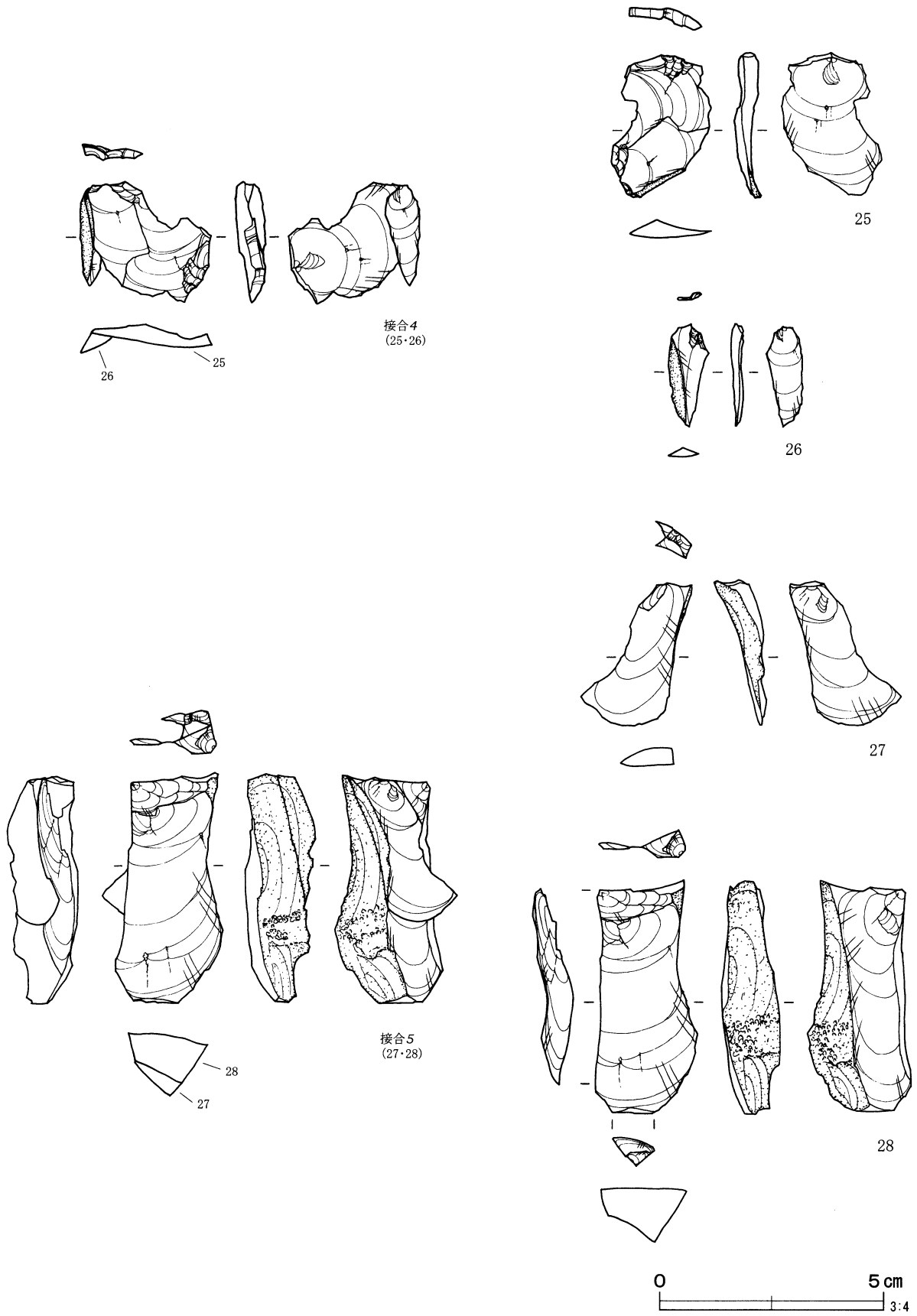
本書で使用する器種名には、尖頭器、ナイフ形石器、角錐状石器、削器、搔器、錐器、縦長剥片、二次加工剥片、使用痕剥片、石核、剥片、碎片がある。尖頭器・ナイフ形石器・削器・搔器・錐器・石核の定義は(加藤・鶴丸1991)に準じるものとする。

角錐状石器についてはナイフ形石器との異同が問題になると思われる。本書では、急斜度な調整加工により先端部を作り出すものを角錐状石器、未加工の直線的な素材縁辺を残すものをナイフ形石器と認識し、類似した石器を区別する。

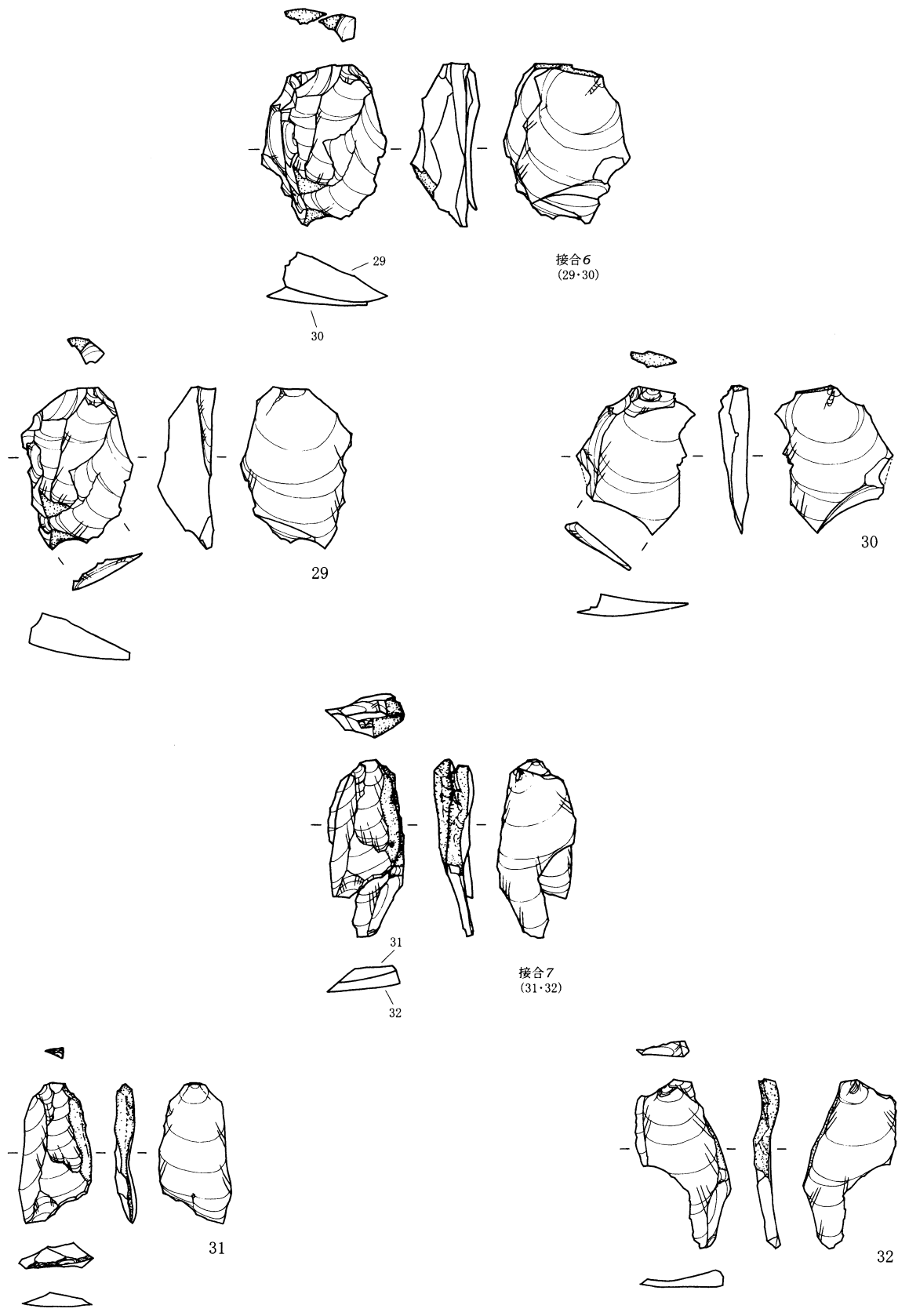
また、今回、剥片を縦長剥片・剥片・碎片の3種



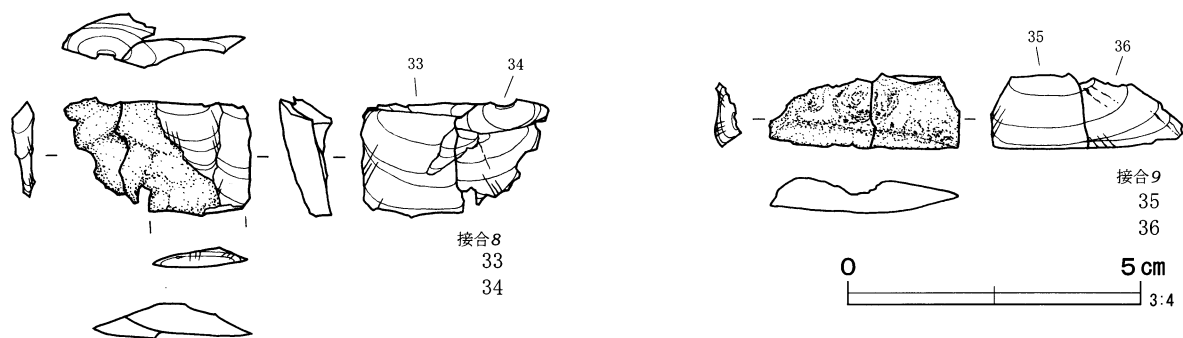
第16图 第1号石器集中区出土石器(4)



第17图 第1号石器集中区出土石器 (5)



第18图 第I号石器集中区出土石器 (6)



第19図 第1号石器集中区出土石器 (7)

に分類した。石刃状の剥片を目的的に剥離しているという認識に立ち、長さが幅の2倍以上で、両側縁がほぼ平行し、それに並行する稜を背面に残すものを縦長剥片とし、他の剥片と区別した。以下、認識上問題となる器種について説明する。

縦長剥片

長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、背面にそれと平行する稜を持つもの。

剥片・碎片

上記の縦長剥片の基準に合致しない剥片、横長剥片や、石核調整剥片等を剥片とする。

径1 cm未満の微小な剥片の中で打面・バルブなどが欠損するものを碎片とする。

二次加工剥片

二次加工を有するもので尖頭器、ナイフ形石器、削器、搔器、錐器などの基準を満たさないもの。

使用痕剥片

微細な剥離痕が剥片縁辺に連続的に認められるもの。実際に、微細剥離痕が使用痕であるかは不明であるが、便宜的にこの用語を使用する。

礫の分類

礫群の礫については赤化の状態により4分類、付着物により、4分類、残存状態により3分類を行った。(第2・4表参照)

赤化①：全面赤化している礫。完形礫の場合焼成を受けたもの。破損礫の場合は原礫面及び割れ口全てが焼成を受けたもの。

赤化②：破損礫で原礫面が焼成され、割れ口が未焼成なもの。

赤化③：破損礫で原礫面および一部の割れ口面が焼成され、一部の割れ口は未焼成なもの。

赤化④：完形礫、破損礫共に未焼成なもの。

付着物①：スス状（光沢の無い黒色物が面的に存在）。

付着物②：タール状（光沢のある点状の黒色物の存在）。

付着物③：スス状、タール状が両方付着するもの。

付着物④：付着物なし。

残存①：完形礫。

残存②：準完形礫（9割以上残存）。

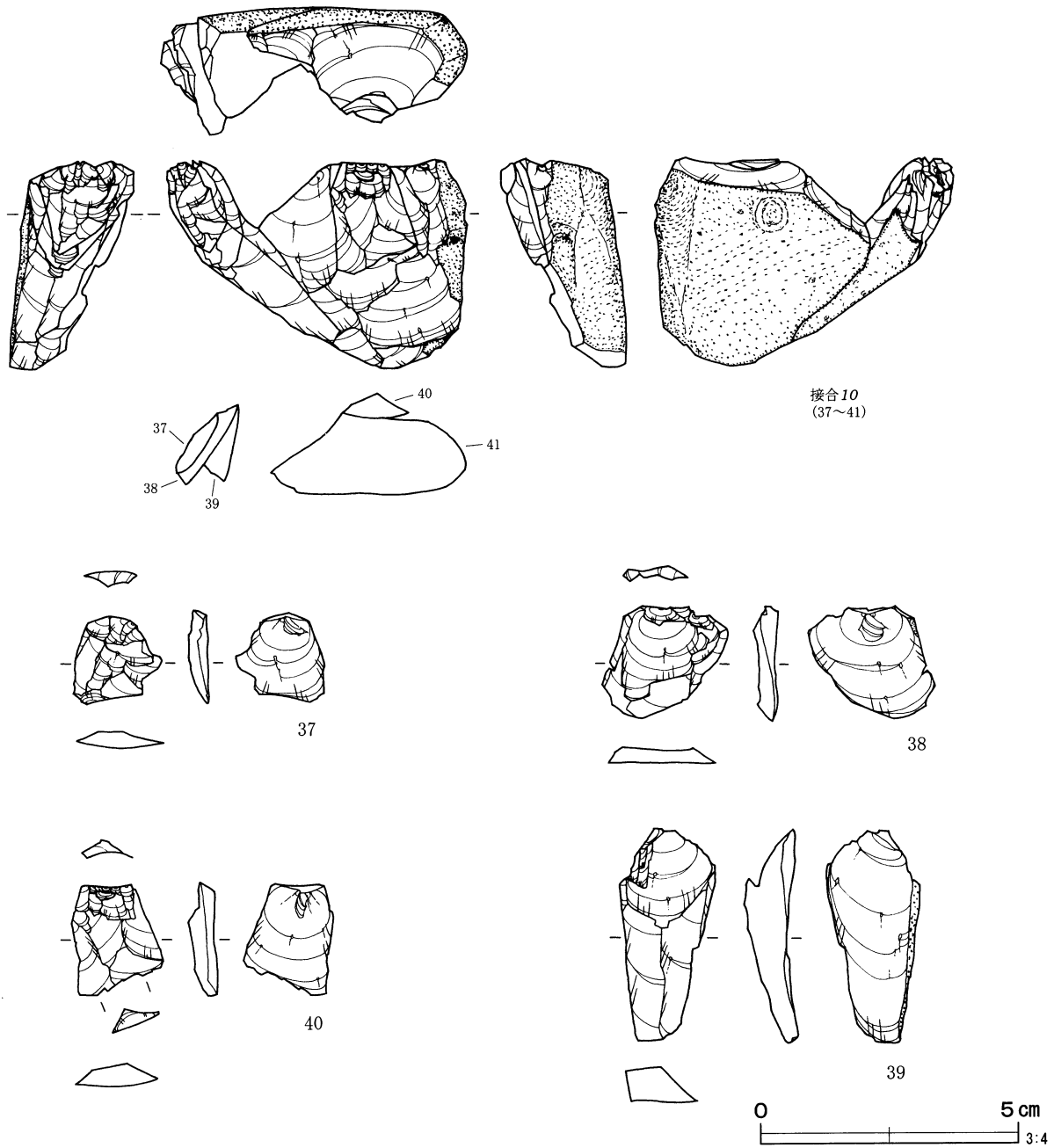
残存③：破損礫。

第1号礫群 (第10図、第2表)

第1号礫群はC-2・C-3・D-2・D-3グリッドにまたがって分布する。長径10m、短径8mで、南北方向に長い。全体的には散漫な分布状況を示す。

礫は標高25.0mから25.4mの間の、I層のソフトロームを中心に出土した。240点出土し、総重量は4116gである。平均17gで、全て50g以下の破碎礫で構成される。赤化は196点(82%)、付着物は97点(40%)に観察される。

その中でもスス状の付着物が、73点に観察され、割合が高い。タール状の付着物は10点、スス状ター



第20図 第1号石器集中区出土石器 (8)

ル状、両方が付着するもの14点である。

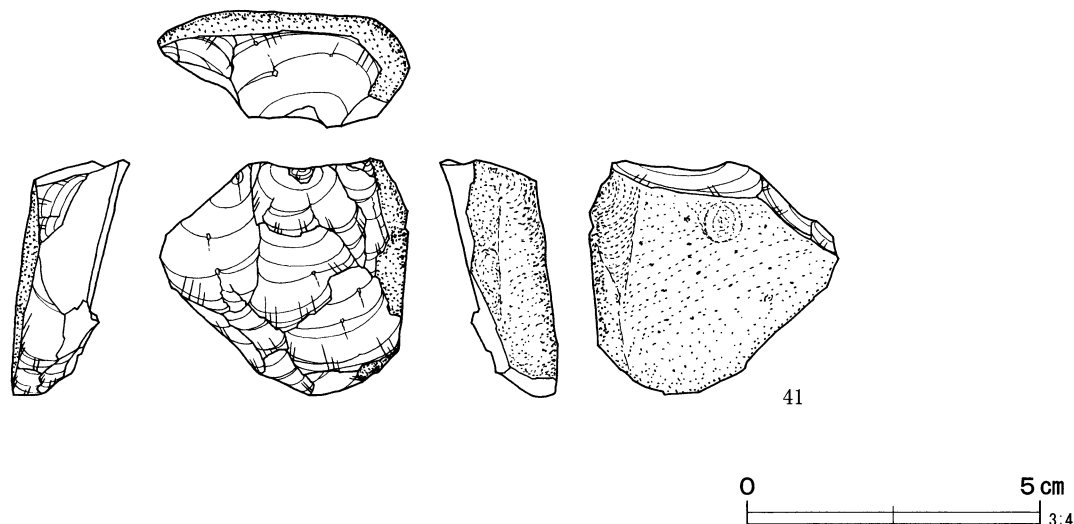
石材は、ほとんどをチャートが占め、砂岩が若干加わる程度である。

礫群東側外縁部では若干の石器が出土する。これらの石器の中には第1号石器集中区と接合するものもあるため、第1号石器集中区に含めた。礫の接合を試みたが、極めて破砕が進んだ礫であるため難しく、接合できたのは1個体のみである。

第1号石器集中区 (第10~12図、第1表)

D-3・D-4グリッドで検出された。遺物は径約8mの範囲で散漫に分布し、密集した分布域を持たない。垂直分布は標高24.8mにピークがあり、I層のソフトロームからII層のハードロームにかけて出土している。50cm程度の垂直幅を持つが比較的まとまっている。石器総点数は115点である。

第1号礫群内から出土した石器も第1号石器集中区に含めた。石器集中区には、若干であるが、礫も



第21図 第1号石器集中区出土石器 (9)

出土している。

石器器種は尖頭器1点、ナイフ形石器1点、削器1点、二次加工剥片2点、使用痕剥片2点、縦長剥片21点、剥片58点、碎片26点、石核2点、磨石1点である。尖頭器(第13図1)は集中区南側外縁部、ナイフ形石器(第13図2)は第1号礫群東側で出土した。

黒曜石はOb-1が97点で84%を占め、Ob-2が3点、Ob-3が4点、Ob-4が2点、Ob-5が3点、Ob-6とOb-7がそれぞれ各1点である。チャートはCh-1、Ch-2、Ch-4が各1点で、珪質頁岩はSSh-2が1点である。主体を占めるOb-1は、集中区全体に分布する。Ob-1のみ11個体が接合する。

出土石器 (第13~23図)

1はCh-2の尖頭器である。縦長剥片を素材とし、表裏面に素材面を一部残す。腹面側と背面側に調整加工が施され、表裏面に残る素材面を切っている。平面形態は東内野型に類似し、左側縁部がくの字に張り出す左右非対称形を呈し、断面形態は三角形を呈す。

2はOb-7のナイフ形石器である。調整打面を有す縦長剥片を使用する。打面を残置したまま、左側

縁下部に腹面側から背面側に急斜度な調整加工が施される。

3はCh-1の調整打面を有す縦長剥片である。左側縁部にはノッチ状の剥離痕が見られるが、意図的なものであるか不明である。

4はOb-4の使用痕剥片である。縦長剥片を使用する。打面は点状である。背面左側に礫面を大きく残す。両側縁部下半に微細剥離痕が観察される。

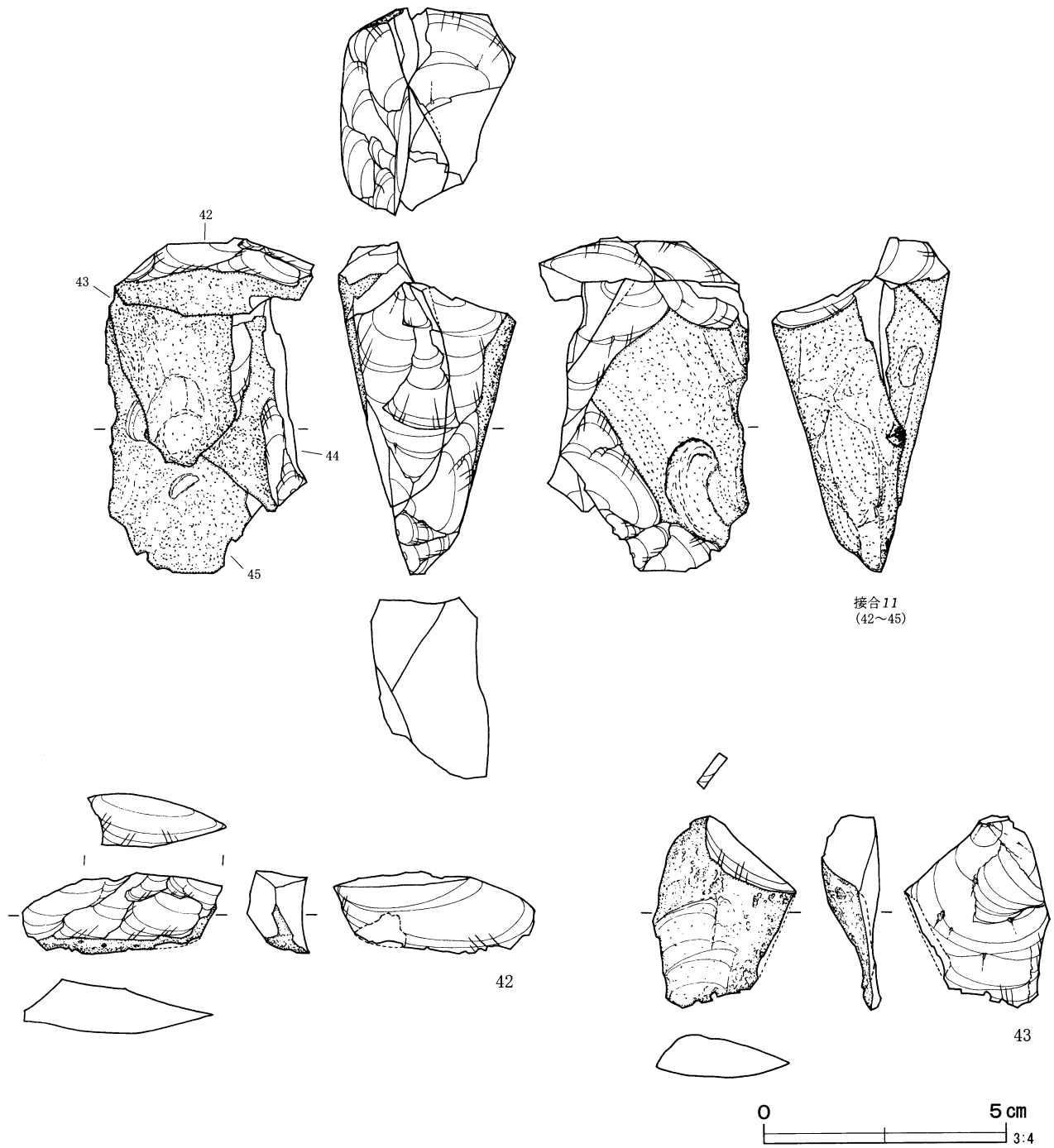
5はSSh-2の削器である。単剥離打面から剥離された縦長剥片を使用し、その両側縁に調整加工が施される。

6はOb-2の縦長剥片である。打面は剥離時の衝撃により欠損している可能性が高い。右側縁と下端部に平坦な礫面を残し、角礫を素材としていることが分かる。

7はOb-2の二次加工剥片である。石核側に内反する縦長剥片を使用する。

打面は剥離時の衝撃で欠損している可能性が高い。平行する両側縁の腹面側に微細な調整加工が施される。下端部には礫面を利用して打面調整の痕跡が残り、背面にはそこから剥片剥離を行った痕跡を残す。

8はOb-1の調整打面を有す縦長剥片である。下



第22図 第1号石器集中区出土石器 (10)

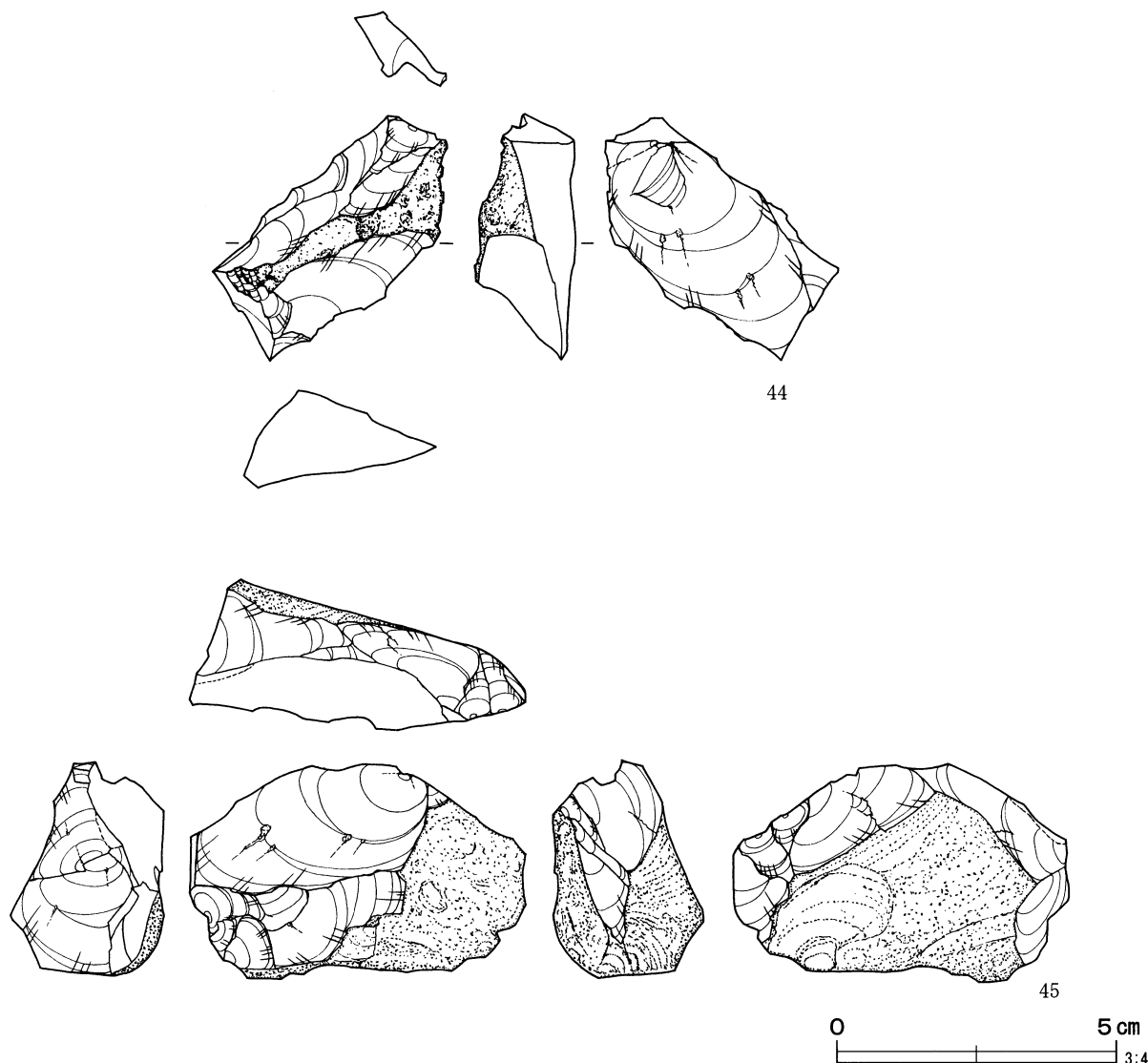
半部が折損する。

9はOb-1の縦長剥片である。2点が接合する。打面は剥離時の衝撃で欠損している可能性が高い。

10はOb-4の剥片である。下半部が折損する。

11はOb-1の二次加工剥片である。剥片の右側縁の一部に調整加工が施される。

12はOb-1の剥片である。礫面除去段階の剥片である。打点が剥離時の衝撃によって欠損し、腹面の



第23図 第1号石器集中区出土石器 (11)

途中から不純物等により屈曲している。

13~18 (接合1) はOb-1の縦長剥片6点が接合する資料である。縦長剥片6点のうち4点は折れ面で接合し、1つの剥片を構成する (14~17)。

13・18は上半部を欠損する。石材に不純物を多く含むことによる剥離時の折損である可能性が高い。13→14~16→17の順で剥離される。

19・20 (接合2) はOb-1の剥片2点が接合する資料である。19の剥離後、新たに打面調整し、20が剥離される。

21~24 (接合3) はOb-1の縦長剥片4点が接合する資料である。21と22、23と24は折れ面で接合し、それぞれ1つの縦長剥片を構成する。打面調整の後、

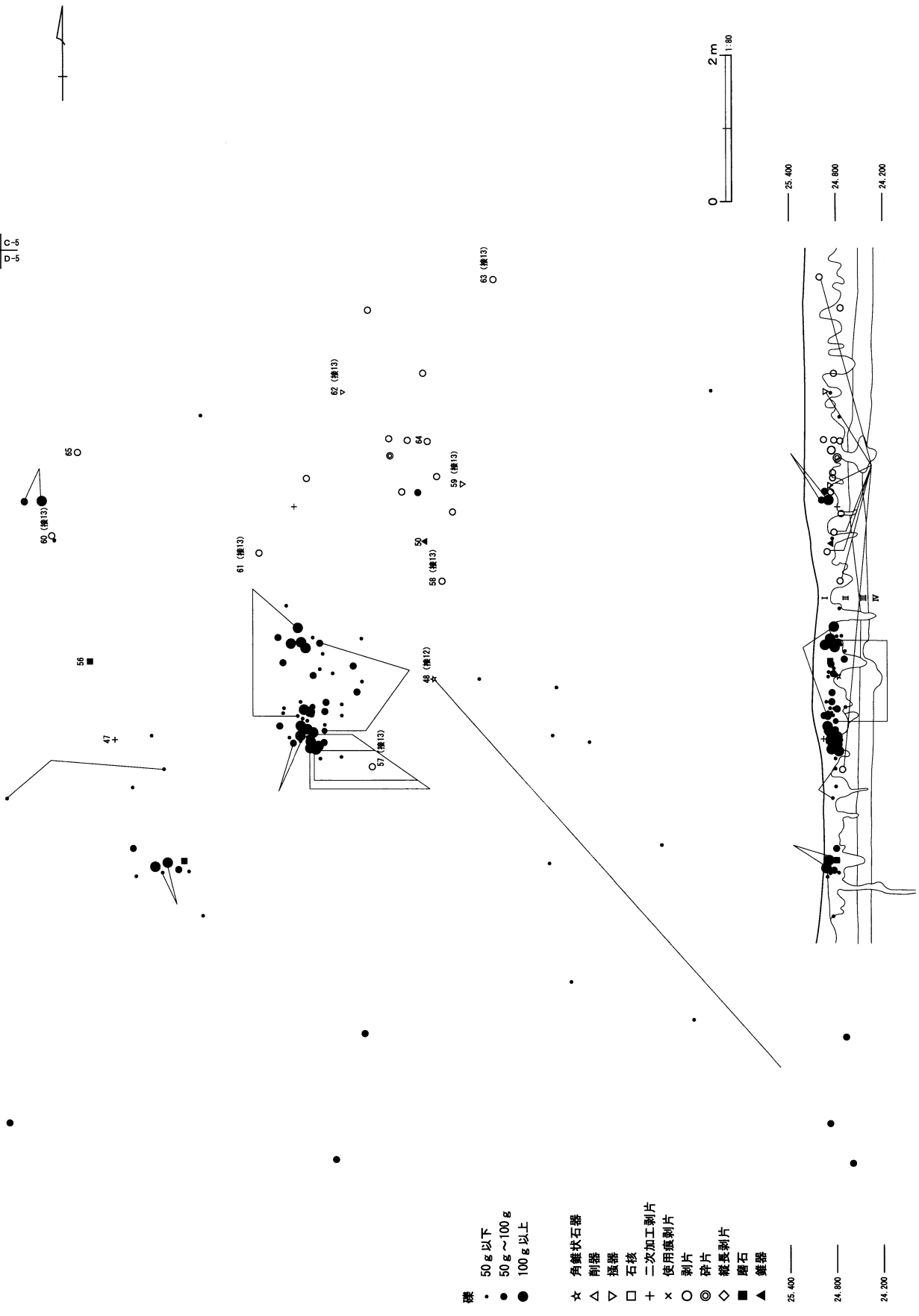
21・22と23・24が剥離される。13~18 (接合1) と同様、折損は剥離時の可能性が高く、不純物が主な要因と考えられる。

25・26 (接合4) はOb-1の剥片2点が接合する資料であり、石核調整に関わる剥片である。25が剥離され、その後90°打面転移して26が剥離される。25の背面には26と同一方向の剥離痕が残されている。

27・28 (接合5) はOb-1の剥片2点が接合する資料である。打面調整を行った後、27→28の順に剥離される。28は右側縁部に折れ面を残す。

29・30 (接合6) はOb-1の剥片2点が接合する資料である。礫面を打面として29→30の順に剥離される。礫面を一部残し、肉厚であることから打面形

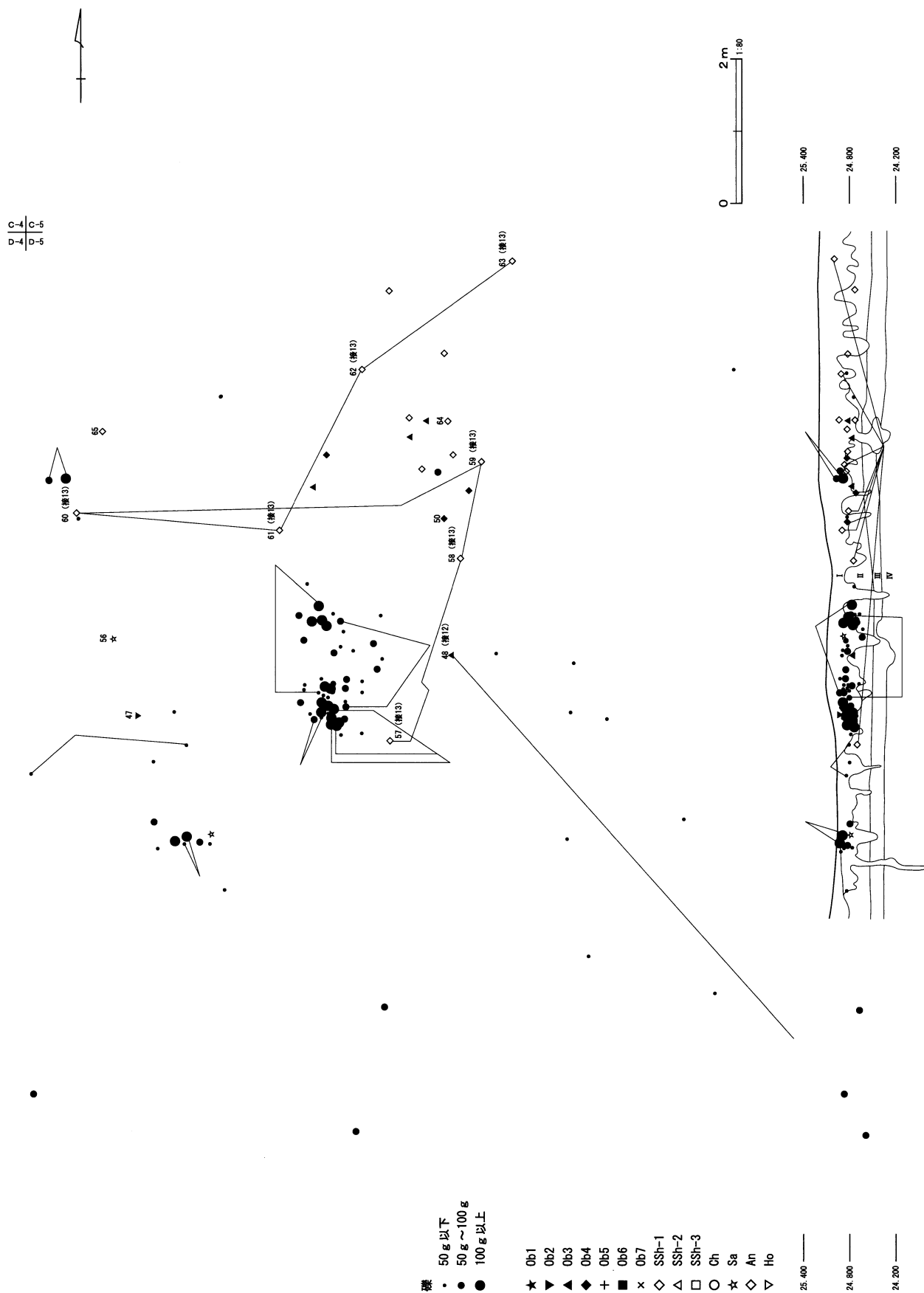
D-4
D-5



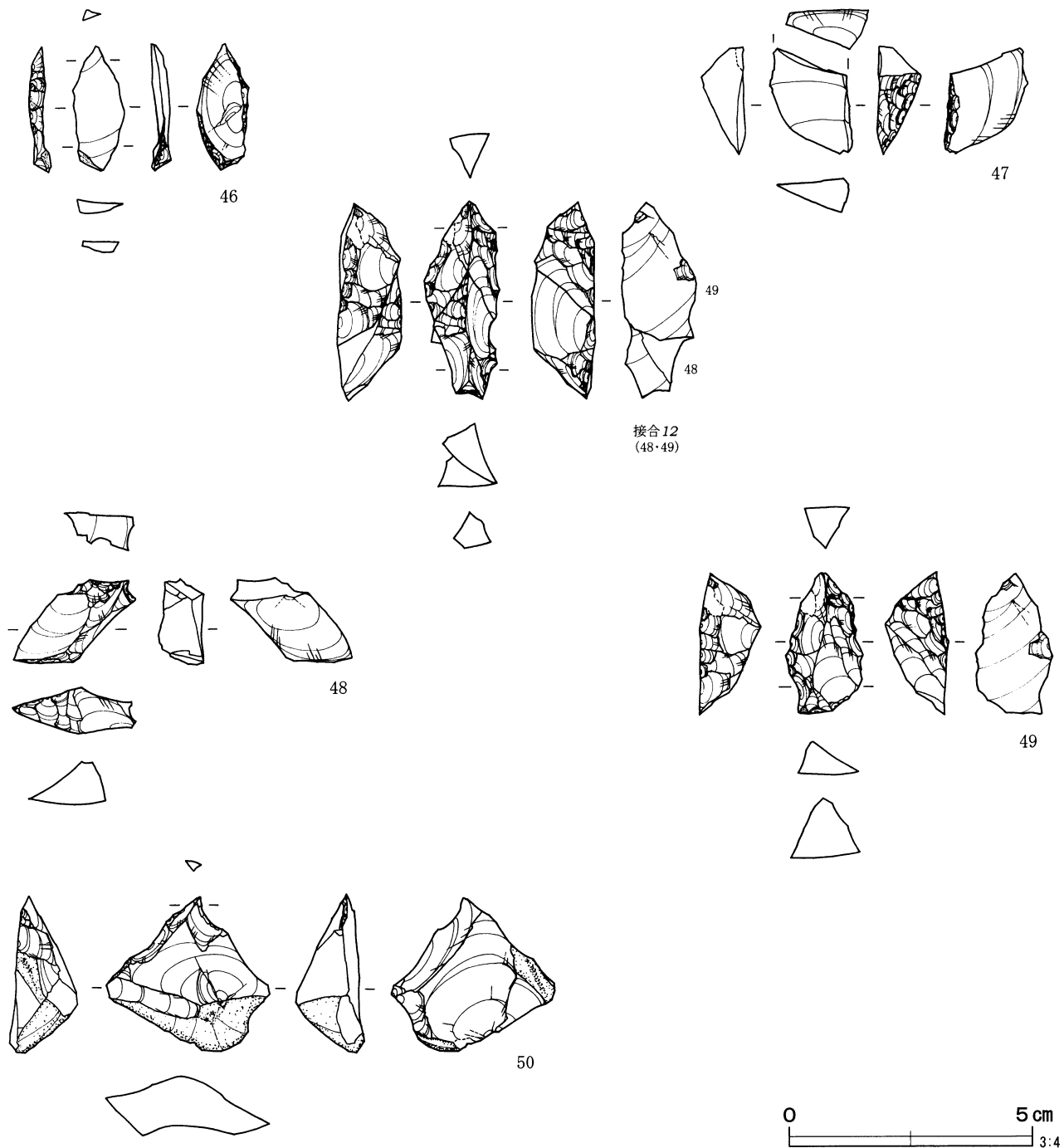
- 標
- 50g以下
- 50g~100g
- 100g以上
- ☆ 角錐状石器
- △ 削器
- ▽ 掻器
- 石核
- + 二次加工剥片
- x 使用痕剥片
- 剥片
- ◎ 碎片
- ◇ 縫紮剥片
- 磨石
- ▲ 鏃器

25.400
24.800
24.200

第24図 第2号石器集中区器種別分布図



第25図 第2号石器集中区母岩別分布図



第26図 第2号石器集中区出土石器 (1)

成時の剥片であると考えられる。

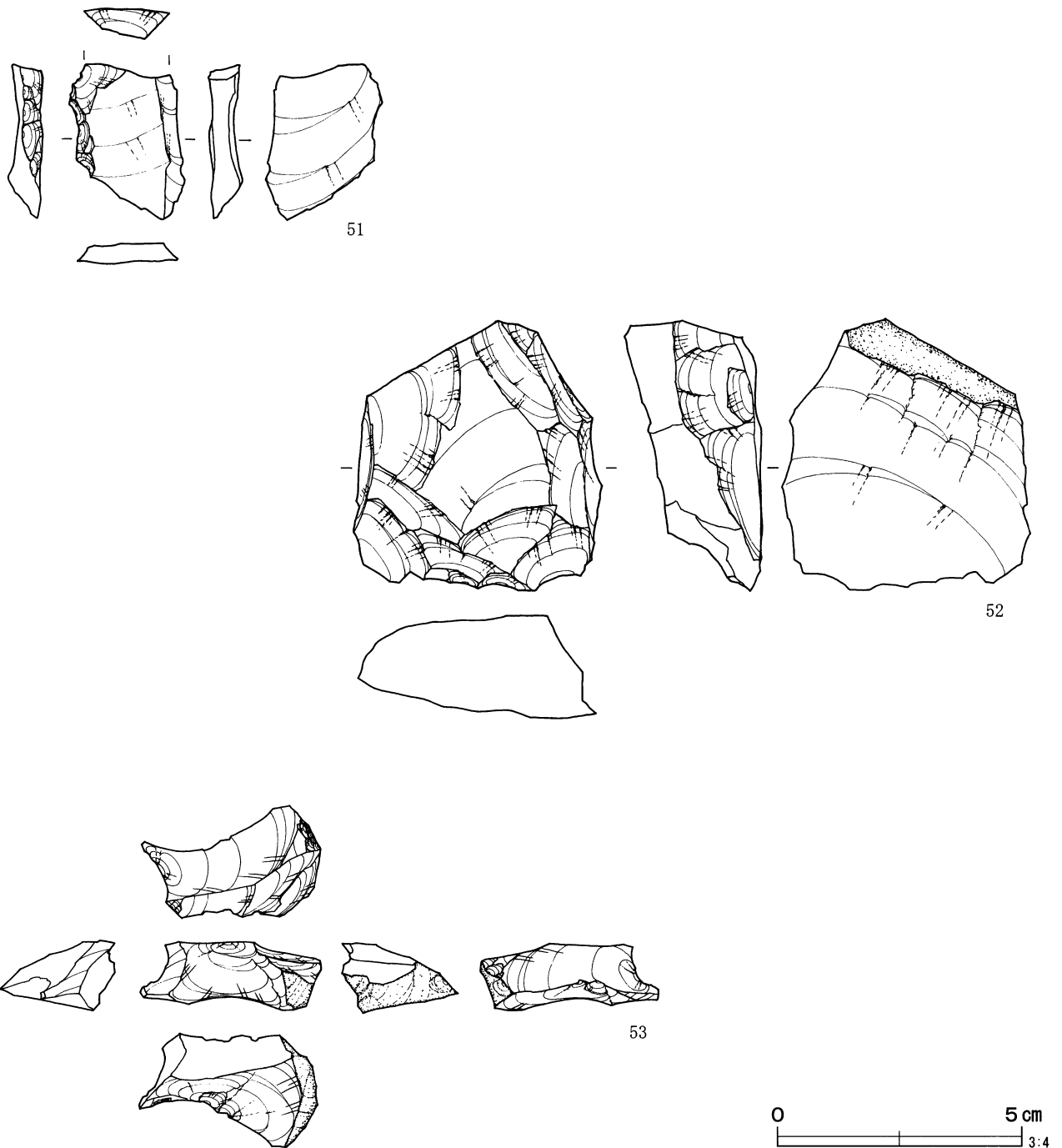
31・32 (接合7) はOb-1の剥片2点が接合する資料である。打面調整後、31→32の順で剥離される。

31は、末端部に微細剥離痕が観察される。

33・34 (接合8) はOb-1の剥片である。剥離時に不純物が原因で折損したと考えられる。

35・36 (接合9) はOb-1の剥片である。2点が折れ面で接合する。

37～41 (接合10) はOb-1の石核1点と剥片4点が接合する資料である。扁平な角礫の短軸方向に打面が形成され、まず、礫の左側面に作業面が設定される。そこで何度か剥片剥離が行われており、37・



第27図 第2号石器集中区出土石器 (2)

38では寸詰まりの剥片、39で縦長剥片が剥離される。

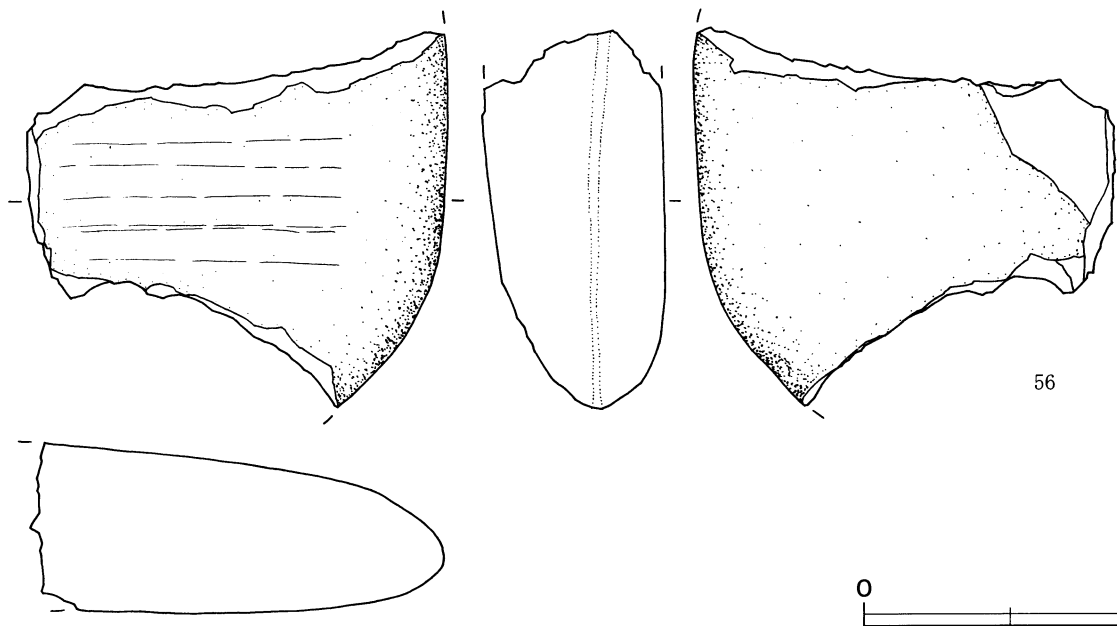
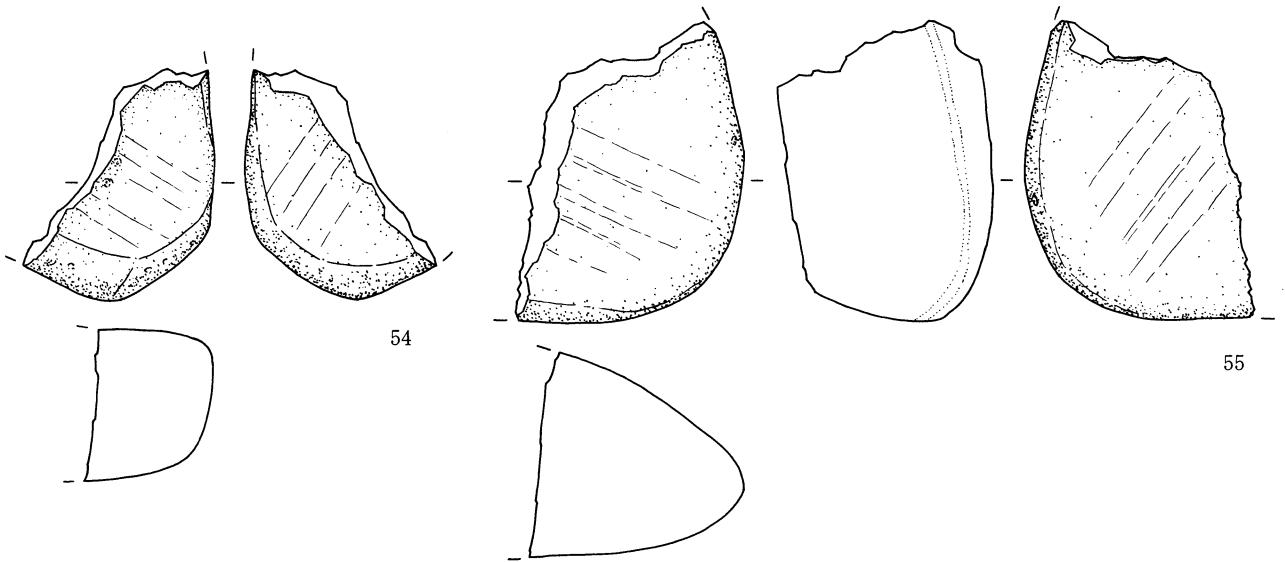
39は剥離の衝撃により打面が欠損している。

その後、打面再生し、今度は正面に作業面が設けられる。そこで何回か剥片剥離が行われ、40が剥離される。最後に41が石核として残される。

42～45 (接合11) はOb-1の石核1点、剥片3点が接合する資料である。やや扁平な角礫を素材とす

る。打面形成は礫の短軸方向から行われている。

42は打面形成時の剥片で上半部を欠損する。打面形成後、扁平な角礫側縁部の長軸方向に作業面を設定し、数度の剥片剥離が行われる。その後打点を左側に移動し礫の平坦面で、43を剥離する。その後180度打面転移し、打面調整後、44が剥離される。最後に石核として45が残される。



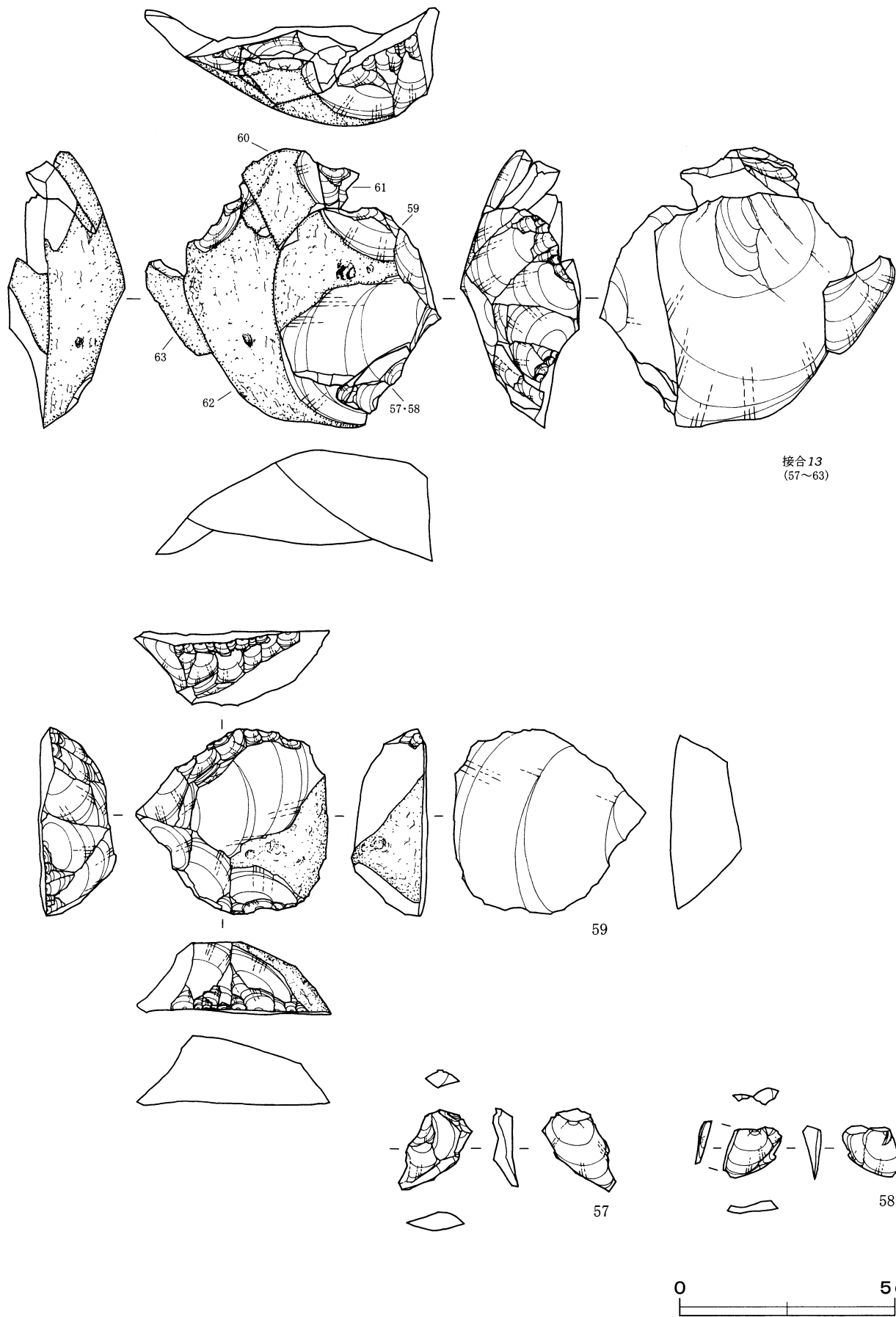
第28図 第2号石器集中区出土石器 (3)

第2号礫群 (第24・25図、第2表)

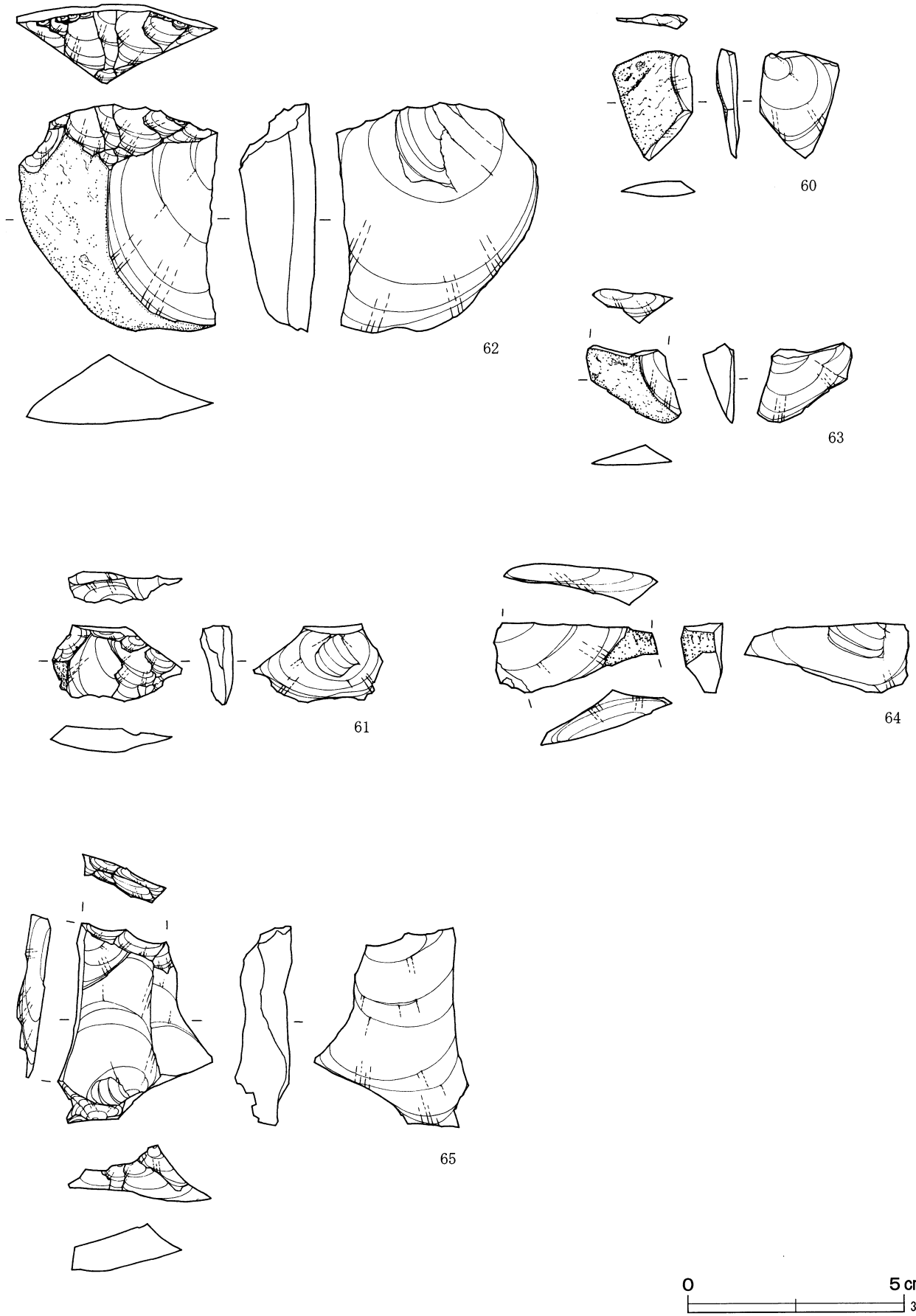
D-5グリッドに位置する。すぐ北側には第2号石器集中区がある。礫は、I層のソフトロームからII層のハードローム上部にかけて出土する。垂直分布は標高24.9mをピークにもち、あまり上下差が無い。第2号石器集中区の石器と垂直分布はほぼ一致する。

礫は80点出土し、総重量は4477gである。完形礫5点、準完形礫8点、破損礫67点である。100g以上の礫は14点、50g～100gの礫は21点、50g以下の礫は45点で平均56gである。

赤化礫は73点(91%)、付着物は29点(36%)に観察される。タール状の付着物は、24点に認められ、割合が高い。石材はチャートが主体を占める。



第29图 第2号石器集中区出土石器 (4)



第30图 第2号石器集中区出土石器 (5)

礫群の周辺には安山岩製磨石、砂岩製磨石も分布しており（第28図）、いずれも被熱し、破損しているため、礫群の礫として再利用されたと考えられる。

接合は10個体確認できた。いずれも近接した位置で接合している。第2号礫群の礫の属性、分布状況は、前回調査の埋没谷で出土した礫群と類似する。

第2号石器集中区（第24・25・40図、第1表）

D-5グリッドで検出された。第2号礫群が南側に近接し、さらに南東部には第3号礫群が広がる。

径約4mの範囲が分布の中心である。

石器はI層のソフトローム下部からII層のハードローム上部にかけて出土した。垂直分布は標高24.9mをピークにもち、垂直幅は30cm程度で、あまり上下差が無い。第2号礫群と石器の垂直分布はほぼ一致する。

石器総点数は36点である。器種は、ナイフ形石器1点、角錐状石器2点、搔器2点、削器1点、錐器1点、二次加工剥片1点、縦長剥片1点、剥片15点、碎片5点、石核1点、磨石5点、礫器1点である。近接した位置にあるため、第3号礫群内で出土した石器も、第2号石器集中区の石器として含めた。

黒曜石はOb-1が1点、Ob-2が2点、Ob-3が6点、Ob-4が3点、Ob-5が2点、チャートはChが1点、珪質頁岩はSSh-1が14点である。珪質頁岩が高い割合を占める。その他、磨石に安山岩・砂岩が、削器・礫器にホルンフェルスが使われている。

石器はやや散漫な分布状態を示している。珪質頁岩が分布する範囲に黒曜石も同じように分布している。

SSh-1は7点、Ob-3は2点がそれぞれ接合し、搔器製作、角錐状石器製作に関わる石器が主体的である。

磨石はいずれも礫群に近い位置にあり、いずれの磨石も破損し、被熱していることから、礫群に再利用したと考えられる。

出土遺物（第26～30図）

46はCh-3のナイフ形石器である。横長の剥片を使用する。左側縁部では剥片の打瘤部分を除去するかのよう、腹面側からの急斜度な調整加工が施される。基部側では右側縁部に背面側から調整加工が施される。

47はOb-2の二次加工剥片である。上半部を折損する。幅広な剥片を用い、その打面部分に急斜度な調整加工が施される。加工の仕方がナイフ形石器に類似する。しかし、完形状態を想定すると、半円形となり、刃部としての直線的な縁辺を有さないことから二次加工剥片とした。

48・49（接合12）はOb-3の接合資料である。角錐状石器の刃部作成時の剥片48と角錐状石器49が接合する。この資料の当初の先端は180°反対側であったと推定される。調整段階では、まず、背面中央で稜上からの調整が行われ、この後、腹面側から背面側に調整が行われる。

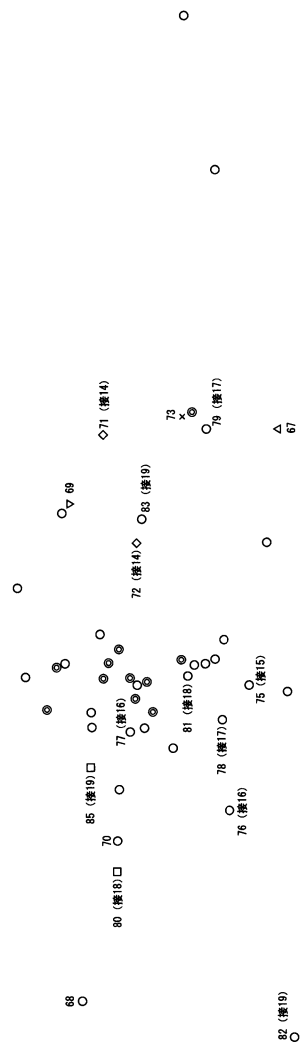
角錐状石器の刃部作成時に、素材剥片の中央まで剥離が及んでしまい、この方向からの先端部を作り出すことが難しくなり、図示した方向で先端部を作り直したと考えられる。48の剥離後、49は、左側縁部や先端部周囲に、新たに調整加工が施され、当初の形より小さくなっている。

50はOb-4の錐器である。主要剥離面の末端部を利用して両側縁から調整加工を行い、先端部を作り出している。裏面には剥片剥離を行った痕跡を残し、当初は石核であったと推定される。

51はホルンフェルス製の削器である。上半部を欠損する。剥片の左側縁に調整加工が施される。

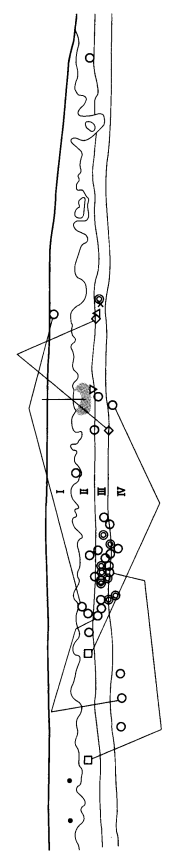
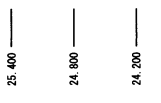
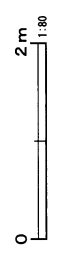
52はホルンフェルス製の礫器である。大形の剥片を使用する。両側縁と剥片の打面部に調整加工が施される。両側縁に比べ下端部が鋭くなっており、この部分が刃部と思われる。51と石質は類似する。

53はOb-4の石核である。作業面は全部で3箇所認められる。最終作業面を正面側から見た場合、まず、正面裏側で横方向の剥離が行われ、縦長の剥片

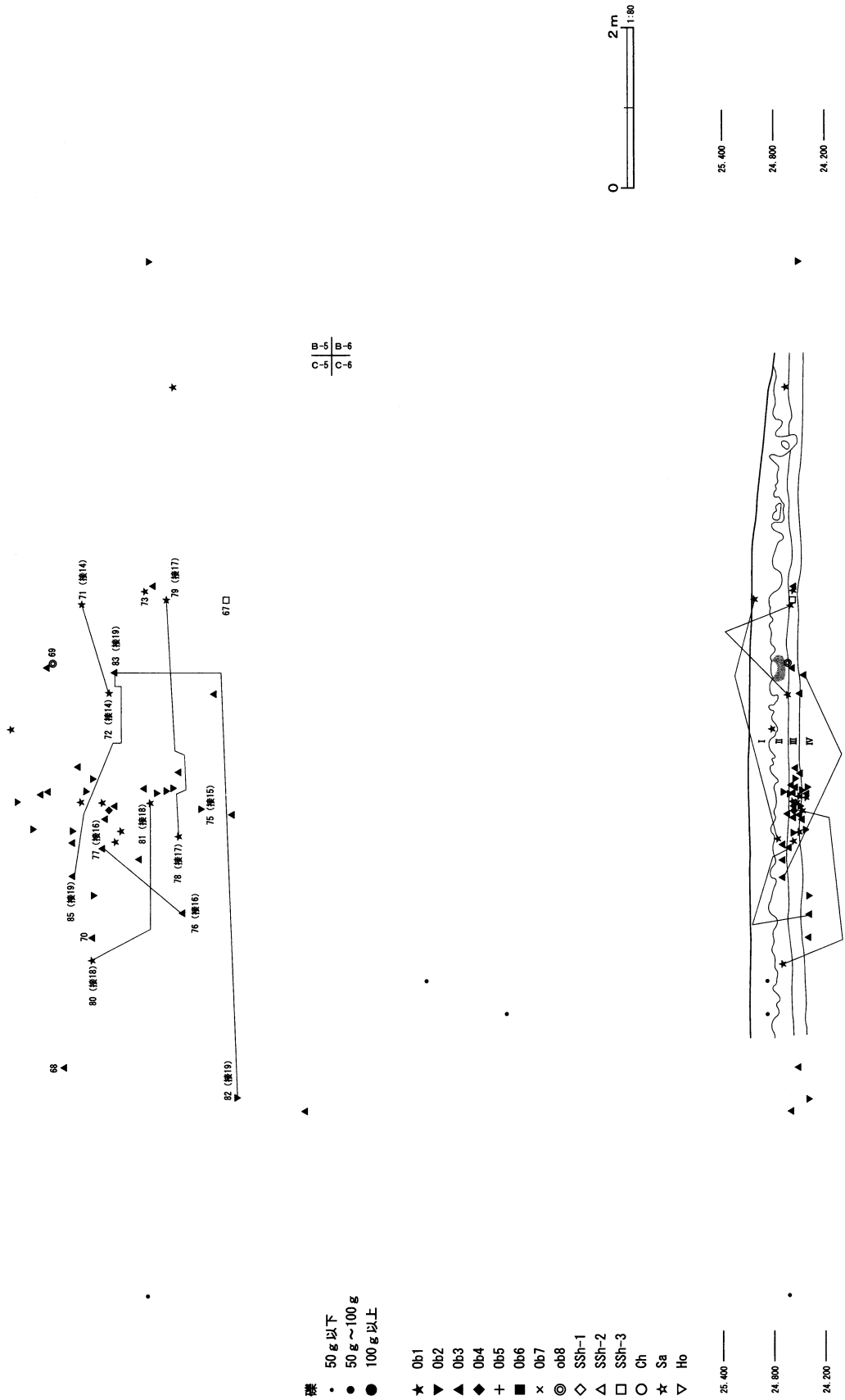


B	5	B	6
C	5	C	6

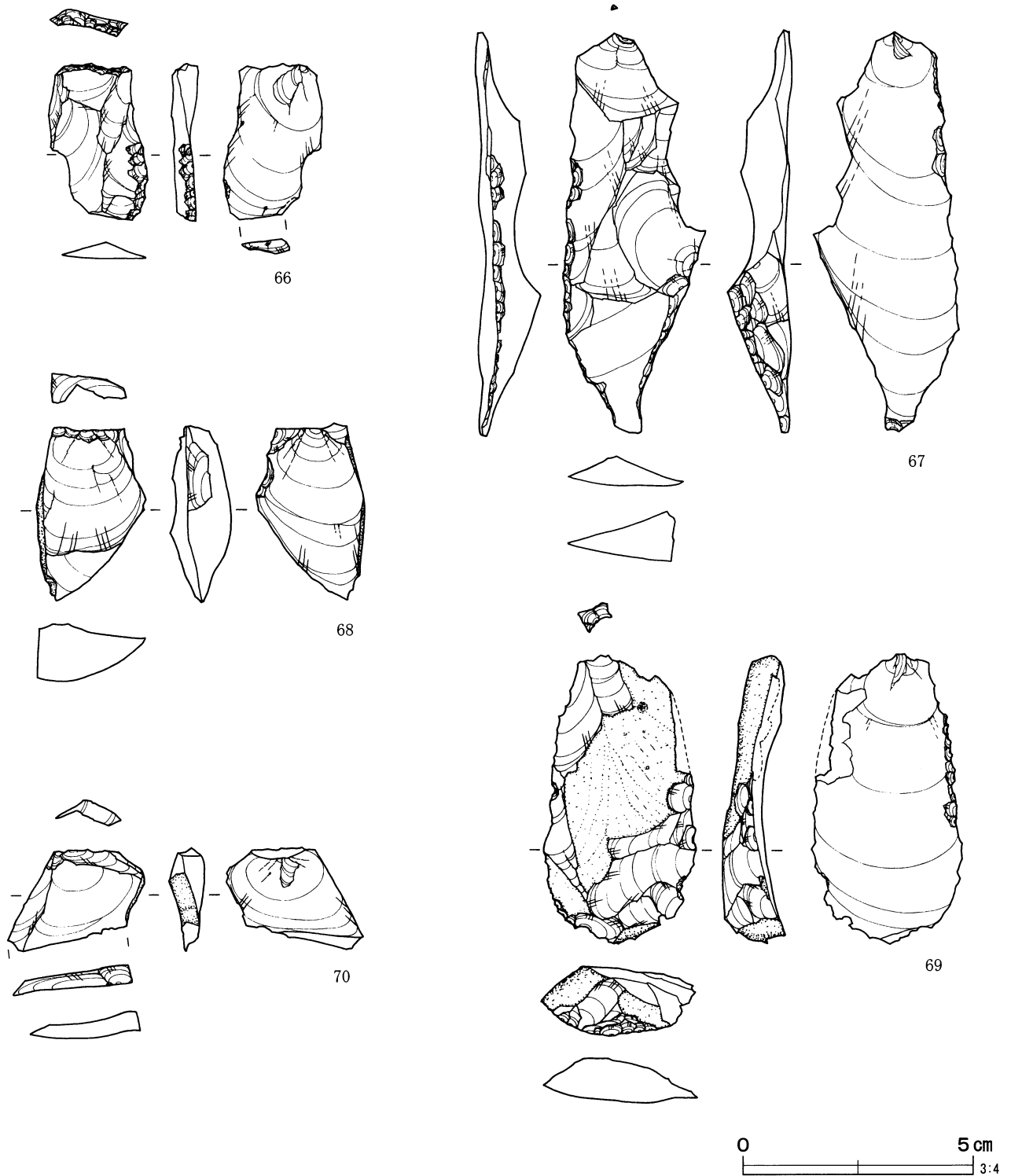
- 標
- 50 g 以下
 - 50 g ~ 100 g
 - 100 g 以上
- ナイフ形石器
- ☆ 削器
 - △ 撻器
 - ▽ 石器
 - 石核
 - + 二次加工剥片
 - x 使用痕剥片
 - 剥片
 - ◎ 碎片
 - ◇ 縫長剥片



第31図 第3号石器集中区器種別分布図



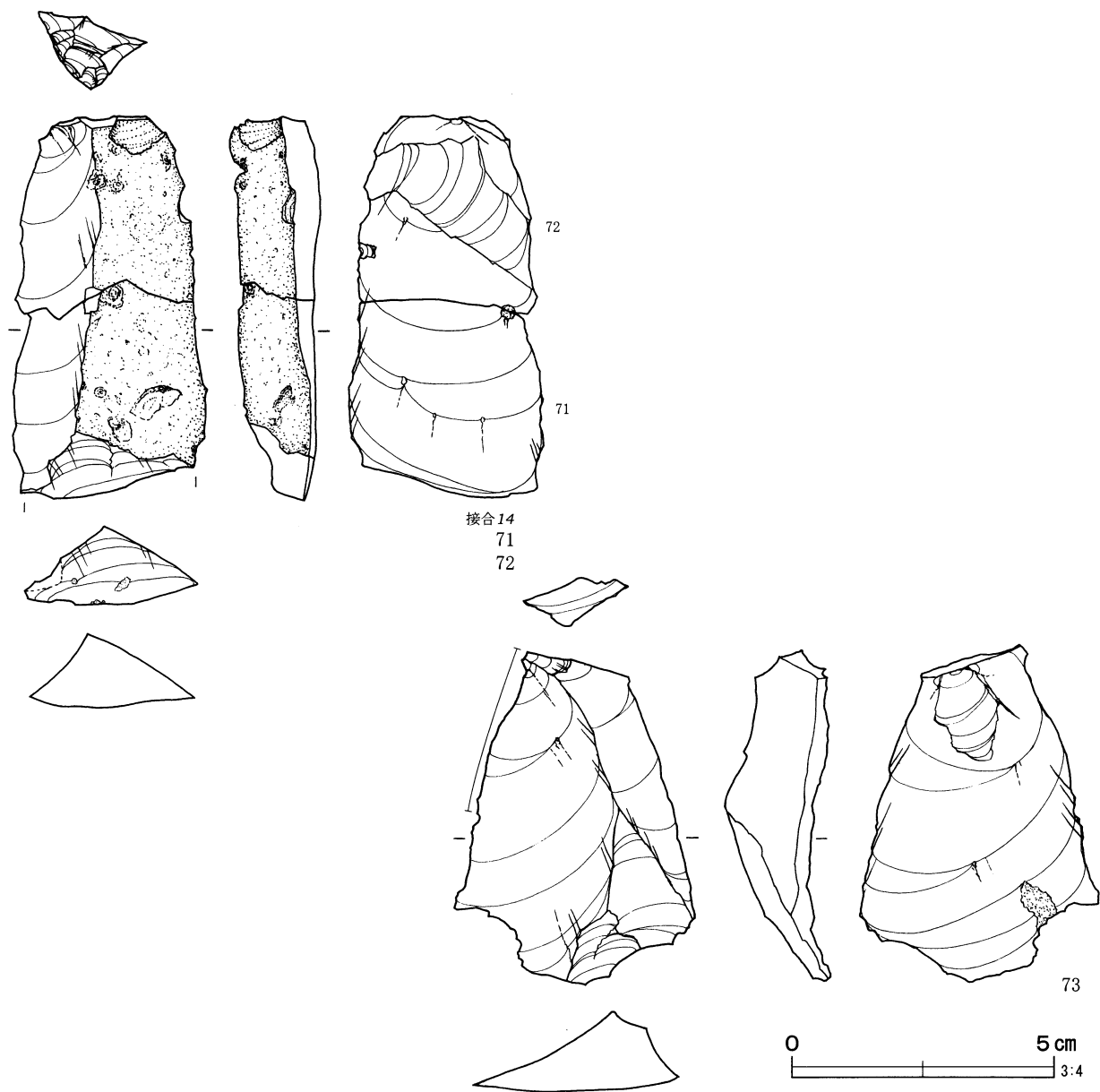
第32図 第3号石器集中区母岩別分布図



第33図 第3号石器集中区出土石器 (I)

が剥離される。次に、剥離が行われたこの面を打面に設定し、幅広な剥片の剥離が行われる。さらに、その後、打面を移動して、幅広の剥片を剥離し、正面に見られる作業面を残す。

54は安山岩製の磨石である。残存は全体の1/4以下である。磨り跡は両面に観察される。破損面は赤化しており、礫群の礫として、転用されたようである。



第34図 第3号石器集中区出土石器 (2)

55は安山岩製の磨石である。残存は全体の約1/4程度である。磨り跡は表裏両面に観察される。表面にはスス状、タール状の付着物が観察される。

56は砂岩製の磨石である。残存は1/4程度である。表側の平坦面で磨り跡が観察される。破損面はわずかに赤みを持ち、被熱痕跡と考えられる。

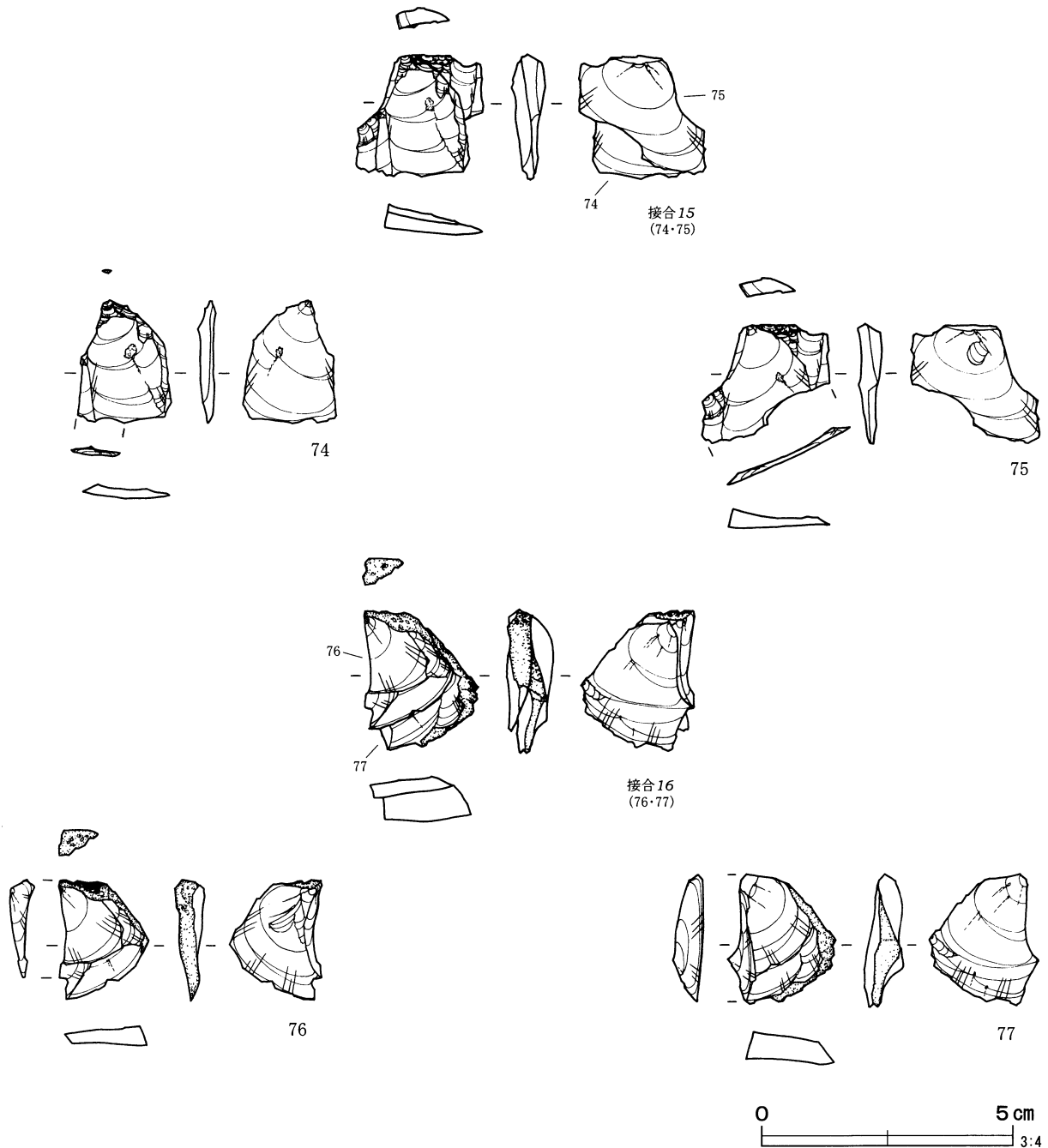
57~63 (接合13) はSSh-1の搔器2点と剥片5点が接合する資料である。礫面に近い部分を使用し、搔器を製作している。接合状態から復元すると、原

石は、こぶし大よりも2回りぐらい大きい円礫と推定される。

59の剥離後、90度左側に打点を移動して、62、63を剥離する。

58・57は59の搔器の刃部調整剥片であり、60・61は、62の搔器の刃部調整剥片である。

59は搔器である。幅広な剥片を使用し、その剥片の両側縁から末端部側にかけて搔器刃部の調整加工が施される。剥片の両側縁には大きな調整加工の後、



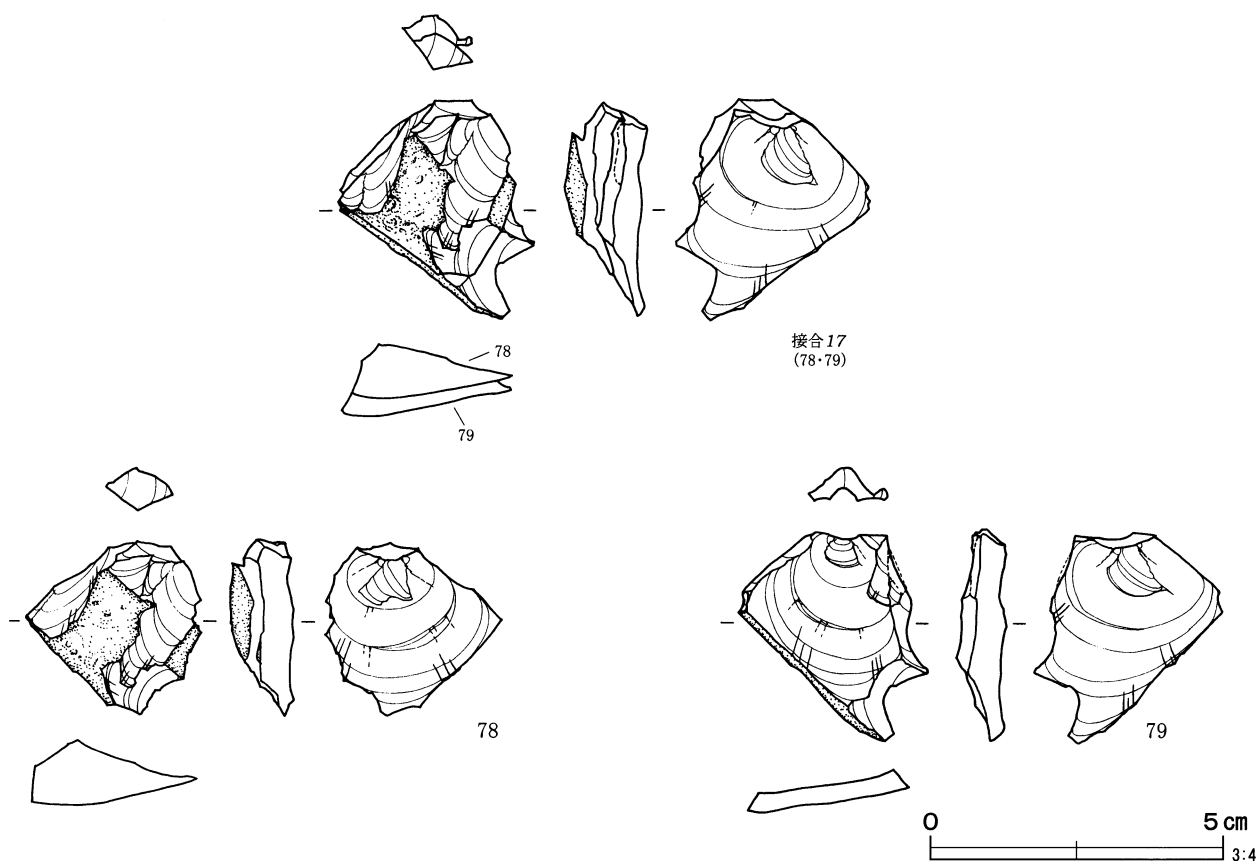
第35図 第3号石器集中区出土石器 (3)

細かい調整加工が加えられる。この大きな調整加工を施した時の剥片が57・58である。

末端部側は細かい調整加工が行われず、大きな剥離調整痕を残し、尖頭状を呈す。この尖頭部を中心とすると、全体的な形状が左右対称となり、この尖頭部は意識的に作出された可能性が高い。しかし、錐器のように細かい調整を加えてはいない。ここで

は、上下両方に刃部を有する搔器と認識する。

62も搔器である。本資料は刃部を上にした状態で図示した。肉厚な打面部分を利用して搔器の刃部調整が行われる。調整加工は、やや大きな剥離によって構成される。搔器刃部の一部と、右側縁の下半部に連続した微細剥離痕が観察される。この搔器刃部にまず61が接合し、その上に60が接合する。



第36図 第3号石器集中区出土石器 (4)

64はSSh-1の剥片である。上下両端を折損する。

65はSSh-1の剥片である。打面部の欠損は剥離時の衝撃によるものと考えられる。剥片末端部に打面調整が施され、背面には、そこから剥片剥離された被剥離面を残す。

第3号石器集中区 (第31・32図、第1表)

C-5グリッドで検出された。石器は長径約8m、短径約3mの範囲に分布する。石器はハードロームのII層下部からIII層を中心に出土し、一部はIV層まで達する。垂直分布は、標高24.6mにピークを持ち、約50cm幅の上下差がある。

点数は60点である。器種は、搔器1点、削器2点、使用痕剥片1点、縦長剥片2点、剥片31点、碎片21点、石核2点である。

他の石器集中区、礫群よりも下位に出土ピークを

持つ点が注目される。黒曜石はOb-1が17点、Ob-2が14点、Ob-3が25点、Ob-4が1点、Ob-8が1点、チャートはCh-5が1点、珪質頁岩はSSh-2が1点である。

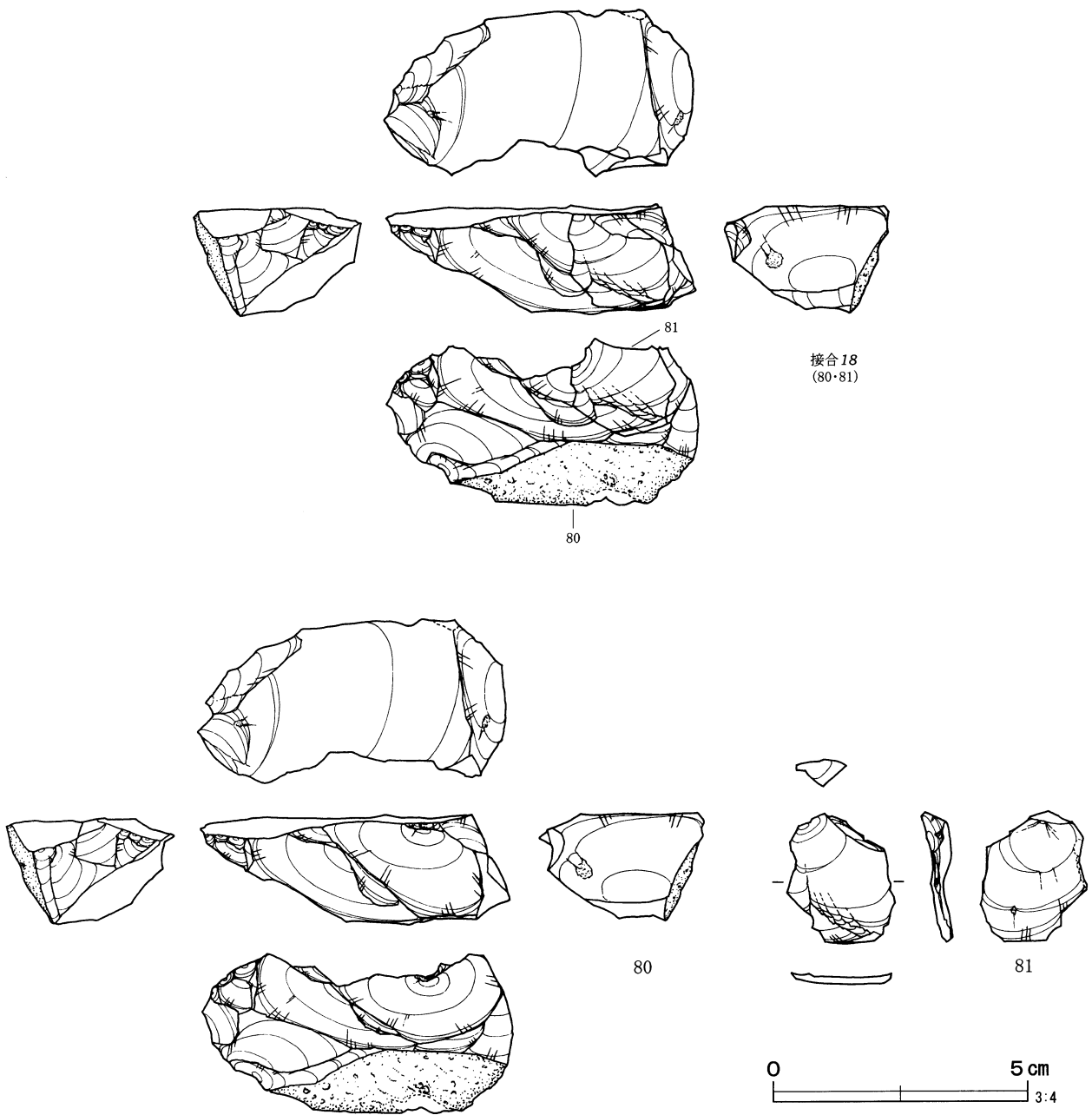
接合資料は6個体確認された。Ob-1が3個体、Ob-3が2個体、Ob-2が1個体である。

出土石器 (第33～39図)

66はOb-2の削器である。入念に打面調整が行われた剥片を素材としている。右側縁の下半部に調整加工が施される。

67はSSh-3の削器である。石核の稜調整の痕跡を残す縦長剥片を使用する。左側縁部に連続した調整加工が施され、左側縁部腹面側には上半部に微細剥離痕が観察される。

68はOb-3の剥片である。単剥離打面から剥離されている。背面に、打点がはっきり残された先行す



第37図 第3号石器集中区出土石器 (5)

る剝離面を残す。

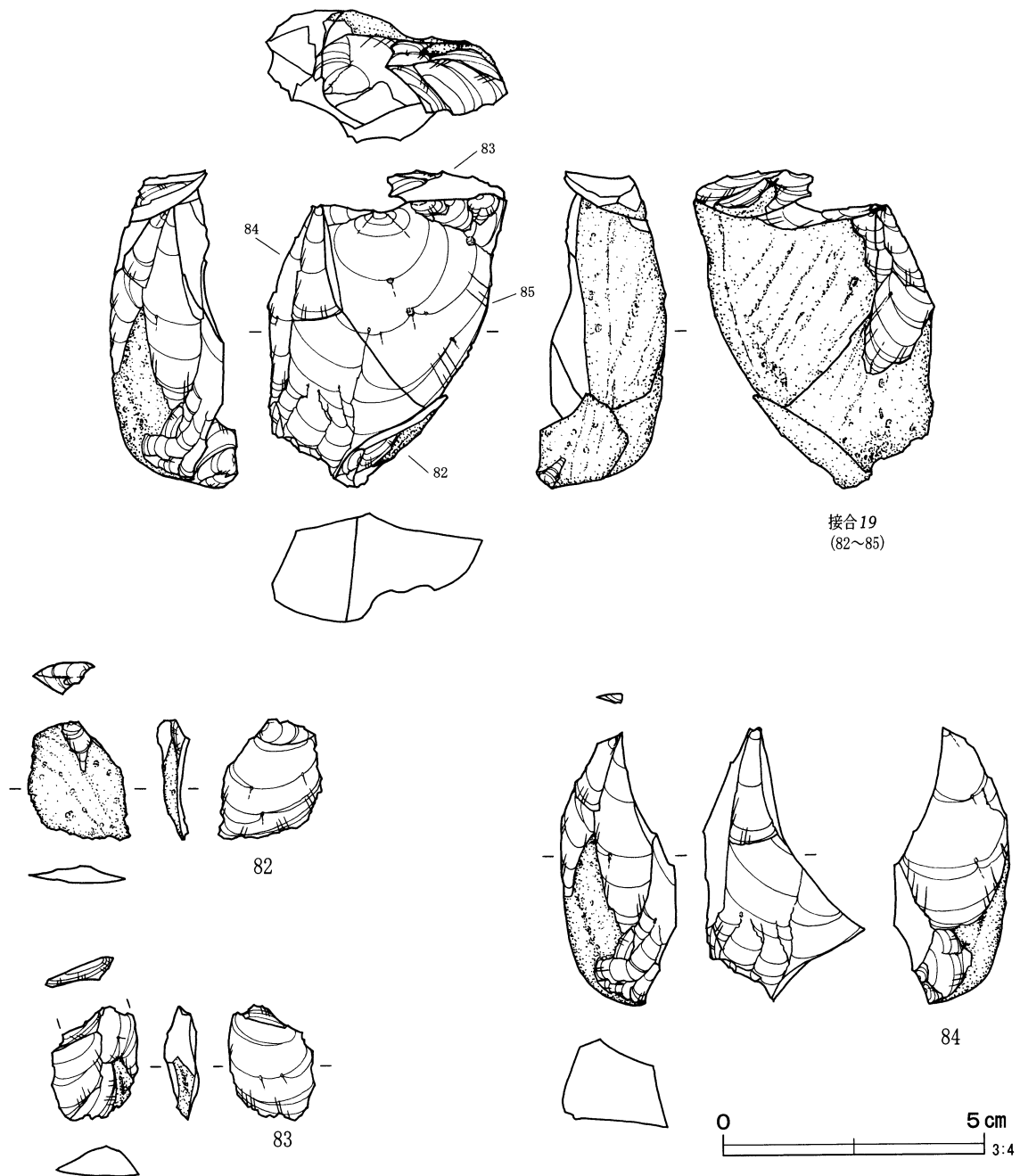
69はOb—8の搔器である。礫面を多く残し、厚手でやや石核側へ内反した縦長剝片を使用する。背面側の右側縁部にみられる調整痕のような剝離面は、主要剝離面に切られており、搔器の刃部調整ではない。これは石核調整に関わるものと考えられる。搔器の刃部調整は剝片末端部にのみ施されている。左側縁腹面上半部に連続した微細剝離痕が観察される。

70はOb—3の剝片である。単剝離打面で、下半部を欠損する。

71・72 (接合14) はOb—1の剝片で2点が折れ面で接合する。打面調整が入念に行われた縦長剝片である。

73はOb—1の使用痕剝片である。単剝離打面から剝離される。左側縁上半部に微細剝離痕が観察される。

74・75 (接合15) はOb—2の剝片2点が接合する



第38図 第3号石器集中区出土石器 (6)

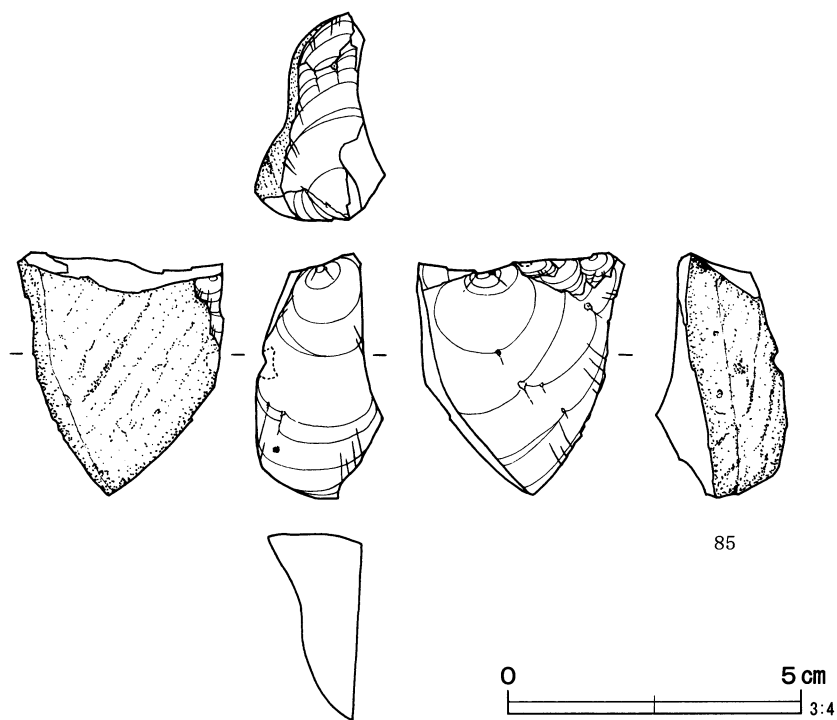
資料である。同一の打面から74、75の順で剥離される。

76・77 (接合16) はOb-3の剥片2点が接合する資料である。礫面を打面に76、77の順で剥離される。双方ともに左側面が剥離時の衝撃で欠損する。

78・79 (接合17) はOb-1の剥片2点が接合する資料である。同一面を打面とし、78、79の順に剥離

される。礫面が多く、肉厚な剥片のため打面調整時の剥片の可能性はある。

80・81 (接合18) はOb-1の石核と剥片が接合する資料である。縦長剥片を使用し、その主要剥離面を打面として設定している。まず、素材剥片の打面側で石核調整と考えられる剥離が行われている。その後、側縁部で幅広剥片の剥離が数回行われ、81が



第39図 第3号石器集中区出土石器 (7)

剥離される。

82～85 (接合19) はOb-3の石核1点、剥片3点が接合する資料である。石核は扁平な角礫を使用している。礫の短軸方向に数度の剥離が行われ、打面を形成する。83はこのときの打面形成剥片である。作業面は礫の平坦面に設定され、その部分でおそらく数回の剥片剥離が行われ、最終的に、作業面全体を取り込む大きな剥離が行われる。このことにより、今度は礫側縁部側に作業面を移動する。そこで数回の縦長剥片を剥離した後、84の剥片が、石核を大きく取り込んだため、作業を終了し、85の石核が残される。82は剥片剥離に先立ち、石核下部の厚みをとるための調整剥片であろう。

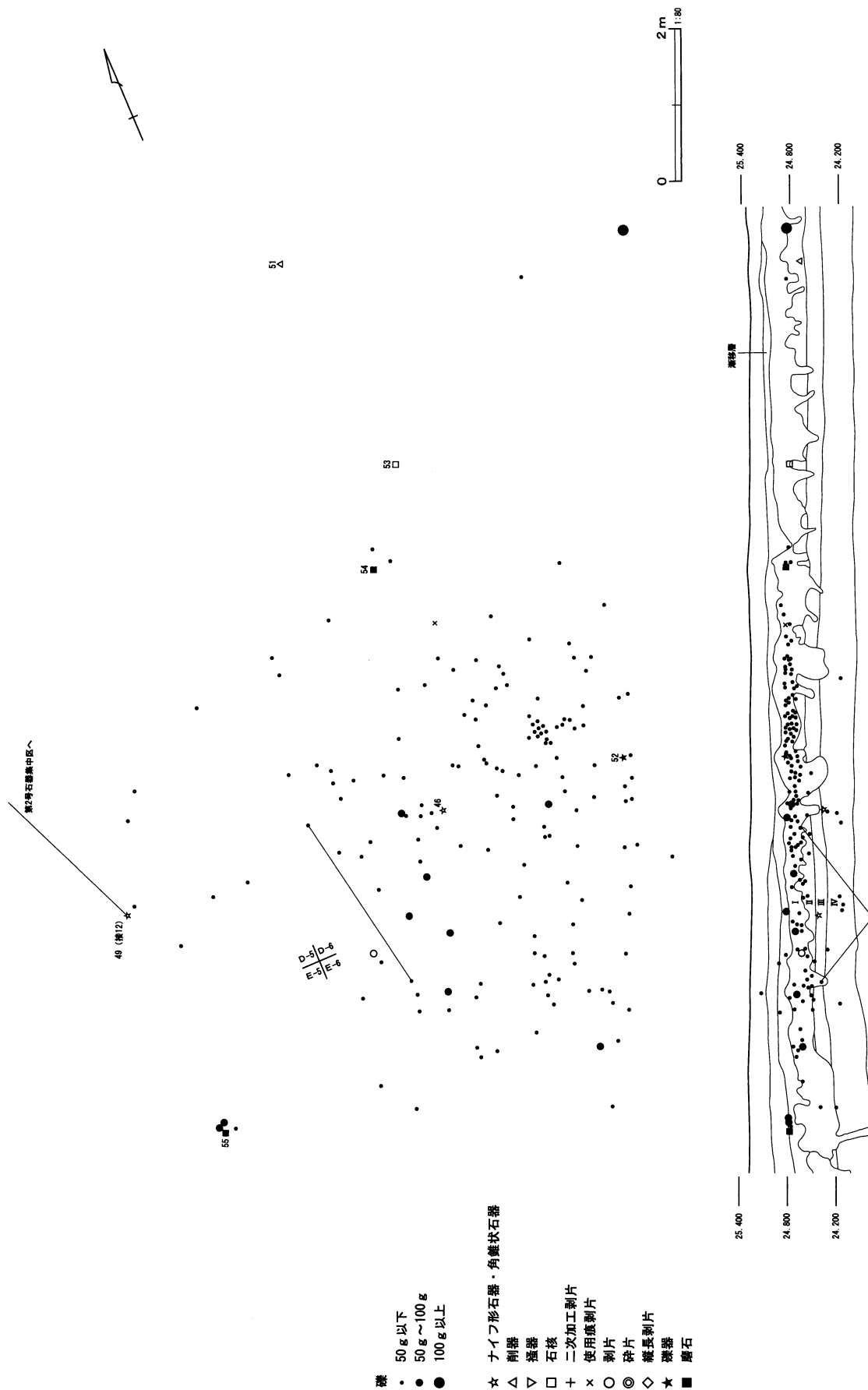
第3号礫群 (第40図、第2表)

D-5・D-6・E-5・E-6グリッドにまたがって分布する。長径7m、短径6mを測る。東側は調査区外へ及ぶ。

第3号礫群は、分布状況からはほぼ円形の集中域を持つと考えられる。第1号礫群と類似し、散漫な分布状況を示し、明確な密集域を持たない。礫はI層のソフトロームを中心に出土した。標高24.8m～24.6mにピークを持ち、40cm程度の垂直幅を持つ。

礫は167点出土した。総重量は2512gで、平均15gである。完形礫1点、準完形礫2点、破損礫164点である。100g以上の礫は1点、50～100gの礫は10点、50g以下が156点である。赤化礫は、119点(71%)である。付着物は43点(26%)で、スス状の付着物26点、タール状の付着物礫9点、両方認められるもの8点である。石材はチャートが主体を占め、他の礫群と大差ない。礫群の中には被熱した磨石も含まれている。

接合を試みたが細かく破碎された礫が多いため、難しく、1個体の接合に留まっている。



第40図 第3号礫群分布図

第1表 旧石器時代出土石器組成表

第1号石器集中区															
母岩	尖頭器	ナイル形石器	角錐状石器	搔器	削器	錐器	二次加工剥片	使用痕剥片	縦長剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫器	合計
An													1(8.3)		1(8.3)
Ch-1									1(17.6)						1(17.6)
Ch-2	1(9.3)														1(9.3)
Ch-4										1(2.1)					1(2.1)
Ob-1							1(2.1)	1(1.9)	17(56.8)	55(141.0)	21(3.0)	2(73.7)			97(278.5)
Ob-2							1(24.6)		1(11.4)	1(0.4)					3(36.4)
Ob-3											4(1.4)				4(1.4)
Ob-4								1(3.3)		1(14.7)					2(3.7)
Ob-5									1(2.5)		1(0.1)				2(2.6)
Ob-6									1(0.4)						1(0.4)
Ob-7		1(5.2)													1(5.2)
SSh-2								1(45.8)							1(45.8)
合計	1(9.3)	1(5.2)					2(26.7)	2(5.2)	21(88.7)	58(143.9)	26(4.5)	2(73.7)	1(8.3)		115(411.3)
第2号石器集中区															
母岩	尖頭器	ナイル形石器	角錐状石器	搔器	削器	錐器	二次加工剥片	使用痕剥片	縦長剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫器	合計
An													3(114.7)		3(114.7)
Ch-3		1(0.8)													1(0.8)
Ho						1(4.8)								1(72.9)	2(77.7)
Ob-1										1(3.0)					1(3.0)
Ob-2							1(1.8)				1(0.4)				2(2.2)
Ob-3			2(6.1)							2(0.4)	2(0.2)				6(6.7)
Ob-4							1(8.7)			2(1.2)		1(5.3)			4(15.2)
Ob-5									1(1.6)						1(1.6)
Sa													2(241.2)		2(241.2)
SSh-1				2(66.9)						10(26.8)	2(0.4)				14(94.1)
合計		1(0.8)	2(6.1)	2(66.9)	1(4.8)	1(8.7)	1(1.8)		1(1.6)	15(31.4)	5(1.0)	1(5.3)	5(355.9)	1(72.9)	36(557.2)
第3号石器集中区															
母岩	尖頭器	ナイル形石器	角錐状石器	搔器	削器	錐器	二次加工剥片	使用痕剥片	縦長剥片	剥片	碎片	石核	磨石	礫器	合計
Ch-5											1(1.1)				1(1.1)
Ob-1								1(29.8)	2(34.2)	6(16.8)	7(0.7)	1(31.9)			17(113.4)
Ob-2						1(2.5)				8(9.9)	5(0.7)				14(13.1)
Ob-3										16(47.5)	8(1.0)	1(22.0)			25(70.5)
Ob-4										1(0.8)					1(0.8)
Ob-8				1(18.4)											1(18.4)
SSh-3								1(18.5)							1(18.5)
合計				1(18.4)	2(21.0)			1(29.8)	2(34.2)	31(75.0)	21(3.5)	2(53.9)			60(235.8)
総計	1(9.3)	2(6.0)	2(6.1)	3(85.3)	4(71.6)	1(8.7)	3(28.5)	3(35.0)	24(124.5)	104(250.3)	52(9.0)	5(132.9)	6(364.2)	1(72.9)	211(1204.3)

第2 礫群別礫属性表

数量/重量	赤化				付着物				残存		
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③
第1号礫群	114/1062.6	1/3.5	81/742.8	44/380.9	73/681.1	10/74.8	14/136.5	143/1297.4	0/0	0/0	240/2189.8
第2号礫群	25/1937.8	3/88.5	45/1881.1	7/569.5	5/282.6	19/1239.3	5/395	51/2560	5/752.1	8/788.5	67/2936.3
第3号礫群	75/1085.5	2/29.3	42/680.2	48/717.9	26/356.7	9/191	8/270.5	124/1694.7	1/50.8	2/183	162/2260.3
その他	1/30.8	0/0.0	12/121.3	3/27.1	1/19.6	0/0	1/19.3	14/421.1	0/0	0/0	16/460
合計	215/4116.7	6/121.3	180/3425.2	102/1695.4	105/1340	38/1505.1	28/821.3	332/5973.2	6/802.9	10/971.5	485/7846.4
平均(g)	赤化				付着物				残存		
	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③
第1号礫群	9.3	3.5	9.2	8.7	9.3	7.5	9.8	9.1	0.0	0.0	9.1
第2号礫群	77.5	29.5	41.8	81.4	56.5	65.2	79.0	50.2	150.4	98.6	43.8
第3号礫群	14.5	14.7	16.2	15.0	13.7	21.2	33.8	13.7	50.8	91.5	14.0
その他	30.8	0.0	33.5	9.0	19.6	0.0	19.3	30.1	0.0	0.0	28.8

凡例

赤化①：全面赤化している礫。完形礫の場合は焼成を受けたもの。破損礫の場合は原礫面及び割れ口面全てが焼成を受けたもの。

赤化②：破損礫で原礫面が焼成され、割れ口が未焼成なもの。

赤化③：破損礫で原礫面及び一部の割れ口面が焼成され、一部の割れ口は未焼成なもの。

赤化④：完形礫、破損礫共に未焼成なもの。

付着物①：スス状（光沢の無い黒色物が面的に存在。）

残存①：完形礫。

付着物②：タール状（光沢のある点状の黒色物の存在。）

残存②：準完形礫（9割以上残存。）

付着物③：スス状、タール状が両方付着するもの。

残存③：破損礫。

付着物④：付着物なし。

第 3 表 出土石器一覽表

番号	遺物番号	挿図番号	石器 中	石質	母岩	接合	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	自然	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
1	D4-60	第13図	1	チャート	Ch-2		尖頭器	52.5	23.9	8.9	9.3	無	8.86	1.64	25.015	
2	D3-150	第13図	2	黒曜石	Ob-7		ナイフ形石器	55.4	17.7	7.4	5.2	無	5.10	1.70	24.838	
3	D4-68	第13図	3	チャート	Ch-1		縦長剥片	58.9	30.0	10.9	17.6	無	7.70	7.61	24.307	
4	D4-69	第13図	4	黒曜石	Ob-4		使用痕剥片	55.8	16.8	5.3	3.3	有	6.80	6.06	24.529	分析
5	D4-31	第13図	5	珪質真岩	SSh-2		削器	95.9	37.1	15.8	45.8	無	5.30	0.35	24.695	
6	D3-88	第13図	6	黒曜石	Ob-2		縦長剥片	49.2	26.4	12.2	11.4	無	2.02	9.58	24.660	分析
7	D4-65	第14図	7	黒曜石	Ob-2		二次加工剥片	(57.6)	37.2	17.0	24.6	有	5.80	0.82	24.472	
8	D3-104	第14図	8	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	(18.1)	12.0	3.8	0.7	無	3.68	7.20	24.865	分析
9	D3-112	第14図	9	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	27.1	18.4	2.9	0.5	無	4.22	8.74	24.648	分析
10	D4-37	第14図	10	黒曜石	Ob-4		剥片	(33.1)	37.8	17.0	14.7	有	5.90	0.75	24.760	分析
11	D3-106	第14図	11	黒曜石	Ob-1		二次加工剥片	27.6	22.0	4.3	2.1	無	3.08	7.68	24.795	分析
12	D3-69	第14図	12	黒曜石	Ob-1		剥片	46.0	47.7	16.1	29.1	有	4.18	9.95	24.735	分析
13	D3-109	第15図	14	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(34.9)	20.1	3.8	3.4	無	3.72	9.94	24.880	分析
14	D3-120	第15図	15	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(15.3)	21.0	5.6	1.8	無	6.28	7.78	24.949	分析
15	D4-24	第15図	16	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(29.6)	23.5	8.5	7.3	無	4.48	0.20	24.960	分析
16	D4-53	第15図	17	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(15.4)	23.2	7.7	3.2	有	7.00	0.54	24.767	分析
17	D3-125	第15図	13	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(24.4)	10.0	3.8	0.7	無	7.66	7.19	24.662	分析
18	D3-98	第15図	18	黒曜石	Ob-1	1	縦長剥片	(22.1)	28.7	5.4	1.9	無	2.86	6.87	24.800	分析
19	D3-117	第16図	19	黒曜石	Ob-1	2	剥片	(23.5)	9.5	2.9	0.7	有	5.76	7.84	24.865	
20	D3-116	第16図	20	黒曜石	Ob-1	2	剥片	20.3	13.5	5.0	1.0	無	5.64	7.88	24.887	
21	D3-50	第16図	22	黒曜石	Ob-1	3	縦長剥片	(49.4)	18.4	8.8	5.8	有	4.02	9.93	24.955	分析
22	D3-75	第16図	21	黒曜石	Ob-1	3	縦長剥片	(27.4)	10.7	5.7	1.3	有	7.22	8.99	24.749	分析
23	D4-59	第16図	24	黒曜石	Ob-1	3	縦長剥片	(30.4)	31.5	5.8	7.6	無	8.62	0.15	24.922	分析
24	C3-37	第16図	23	黒曜石	Ob-1	3	縦長剥片	(63.8)	29.1	6.5	11.0	有	9.01	3.02	24.735	分析
25	D3-119	第17図	25	黒曜石	Ob-1	4	剥片	31.7	19.9	4.7	2.0	有	6.18	7.80	24.967	分析
26	D3-71	第17図	26	黒曜石	Ob-1	4	剥片	21.9	8.5	1.9	0.4	有	6.40	8.69	24.716	分析
27	D3-64	第17図	27	黒曜石	Ob-1	5	剥片	35.1	18.9	5.4	2.3	無	5.58	9.65	24.990	分析
28	D3-70	第17図	28	黒曜石	Ob-1	5	剥片	(49.2)	21.8	12.4	12.0	有	5.76	9.84	24.786	分析
29	D3-153	第18図	29	黒曜石	Ob-1	6	剥片	(35.5)	25.2	7.2	6.0	有	4.80	4.92	25.065	分析
30	D3-132	第18図	30	黒曜石	Ob-1	6	剥片	(31.8)	23.0	5.4	2.9	有	6.70	5.60	24.948	分析
31	D3-93	第18図	32	黒曜石	Ob-1	7	剥片	36.7	17.9	3.8	1.9	無	2.62	7.73	24.865	分析
32	D4-52	第18図	31	黒曜石	Ob-1	7	使用痕剥片	31.0	15.2	4.3	1.9	有	6.49	1.74	24.750	分析
33	D3-114	第19図	33	黒曜石	Ob-1	8	剥片	(18.3)	23.9	5.1	2.2	有	5.07	9.84	24.637	分析
34	D3-136	第19図	34	黒曜石	Ob-1	8	剥片	(16.0)	20.3	6.4	0.9	有	7.98	7.04	24.752	
35	D3-68	第19図	36	黒曜石	Ob-1	9	剥片	12.9	(16.6)	4.9	1.2	有	5.66	9.13	24.826	
36	D3-142	第19図	35	黒曜石	Ob-1	9	剥片	12.1	(16.1)	5.2	0.9	有	8.52	9.96	25.070	
37	D3-61	第20図	37	黒曜石	Ob-1	10	剥片	17.4	16.0	3.7	0.8	無	4.80	8.49	24.985	分析
38	D3-63	第20図	38	黒曜石	Ob-1	10	剥片	23.0	20.0	2.7	1.3	無	5.58	9.84	24.700	分析
39	D4-33	第20図	39	黒曜石	Ob-1	10	縦長剥片	(40.8)	19.9	7.8	4.5	有	5.90	0.19	24.840	分析
40	D3-78	第20図	40	黒曜石	Ob-1	10	剥片	(21.7)	17.5	4.8	1.5	無	6.75	9.65	24.940	分析
41	D4-40	第21図	41	黒曜石	Ob-1	10	石核	43.5	42.2	15.2	28.2	有	5.95	0.57	24.790	分析
42	D4-54	第22図	42	黒曜石	Ob-1	11	剥片	(41.7)	14.6	10.7	7.0	有	7.48	0.69	24.685	分析
43	D4-63	第22図	43	黒曜石	Ob-1	11	剥片	37.1	30.6	11.4	8.7	有	6.30	0.20	24.500	分析
44	D4-27	第23図	44	黒曜石	Ob-1	11	剥片	50.5	24.5	16.7	16.2	有	4.42	0.93	24.850	分析
45	D3-77	第23図	45	黒曜石	Ob-1	11	石核	57.1	39.6	20.0	45.5	有	6.16	9.89	24.075	分析
46	D6-50	第26図	46	チャート	Ch-3		ナイフ形石器	25.7	10.1	3.0	0.8	無	9.10	1.78	24.323	
47	D5-13	第26図	47	黒曜石	Ob-2		二次加工剥片	(16.7)	23.6	7.8	1.8	無	5.24	1.20	24.936	分析
48	D5-77	第26図	48	黒曜石	Ob-3	12	角錐状石器	12.3	28.3	8.2	2.1	無	4.63	4.60	24.788	分析
49	D5-84	第26図	49	黒曜石	Ob-3	12	角錐状石器	28.2	14.6	11.5	4.0	無	8.80	8.39	24.452	分析
50	D5-107	第26図	50	黒曜石	Ob-4		錐器	30.3	33.2	11.7	8.7	無	2.63	4.47	24.814	分析
51	D6-128	第27図	51	ホルンフェルス	Ho		削器	(35.1)	21.8	5.4	4.8	無	3.30	2.44	24.665	
52	D6-99	第27図	52	ホルンフェルス	Ho		礫器	55.9	49.3	25.1	72.9	無	9.34	3.68	24.817	
53	D6-127	第27図	53	黒曜石	Ob-4		石核	32.2	17.5	13.2	5.3	無	5.66	2.72	24.779	分析
54	D6-107	第28図	54	安山岩	An		磨石	(44.6)	(20.3)	26.7	35.8	有	6.51	2.08	24.810	被熱
55	E5-5	第28図	55	安山岩	An		磨石	(59.8)	(42.3)	(33.7)	69.8	有	1.23	8.44	24.768	被熱・付着物
56	D5-49	第28図	56	砂岩	Sa		磨石	(71.4)	(38.8)	29.2	157.1	有	4.40	0.95	24.864	
57	D5-105	第29図	59	珪質真岩	SSh-1	13	搔器	44.5	41.4	16.9	29.5	有	2.56	4.98	24.866	
58	D5-109	第29図	58	珪質真岩	SSh-1	13	剥片	10.4	16.0	3.9	0.4	無	3.59	4.72	24.766	
59	D5-118	第29図	57	珪質真岩	SSh-1	13	剥片	19.3	10.8	3.9	0.8	無	5.54	3.96	24.725	
60	D5-91	第30図	62	珪質真岩	SSh-1	13	搔器	58.8	44.9	17.3	37.4	有	1.56	3.66	24.864	
61	D5-97	第30図	60	珪質真岩	SSh-1	13	剥片	24.9	19.5	4.7	2.0	有	3.08	0.53	24.813	
62	D5-2	第30図	63	珪質真岩	SSh-1	13	剥片	25.4	17.0	6.3	1.7	有	0.37	5.30	25.000	
63	D5-69	第30図	61	珪質真岩	SSh-1	13	剥片	(16.3)	29.2	7.0	3.0	無	3.24	2.74	24.900	
64	D5-110	第30図	64	珪質真岩	SSh-1		剥片	(16.1)	(36.5)	8.4	4.4	有	2.09	4.56	24.850	
65	D5-95	第30図	65	珪質真岩	SSh-1		剥片	45.2	(34.1)	13.5	13.4	有	2.18	0.83	24.814	

番号	遺物番号	挿入番号	石器 中 区	石質	母岩	接合	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	自然	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考	
66	SD6	第33図	66	3	黒曜石	Ob-2		削器	(33.1)	18.7	3.9	2.5	無	—	—	—	分析
67	C5-22	第33図	67	3	珪質頁岩	SSH-3		削器	85.9	29.8	12.0	18.5	有	2.40	8.98	24.636	微細剝離痕有
68	C5-10	第33図	68	3	黒曜石	Ob-3		剥片	38.5	22.9	13.3	9.8	有	6.90	7.36	24.550	分析
69	C5-24	第33図	69	3	黒曜石	Ob-8		搔器	61.7	31.7	8.4	18.4	有	3.00	7.26	24.658	分析
70	C5-17	第33図	70	3	黒曜石	Ob-3		剥片	(32.5)	19.0	5.2	2.8	有	5.63	7.63	24.435	分析
71	C5-20-1	第34図	73	3	黒曜石	Ob-1		使用痕剥片	63.7	45.4	17.0	29.8	無	2.30	8.15	24.608	分析
72	C5-19	第34図	71	3	黒曜石	Ob-1	14	縦長剥片	(41.0)	48.4	14.5	17.8	有	2.41	7.52	24.648	分析
73	C5-26	第34図	72	3	黒曜石	Ob-1	14	縦長剥片	(42.5)	41.7	15.1	16.4	有	3.30	7.80	24.574	分析
74	SK5	第35図	74	3	黒曜石	Ob-2	15	剥片	(23.9)	18.9	2.3	1.1	無	—	—	—	一括
75	C5-43	第35図	75	3	黒曜石	Ob-2	15	剥片	(18.8)	32.3	3.7	1.5	無	4.42	8.70	24.640	分析
76	C5-13	第35図	76	3	黒曜石	Ob-3	16	剥片	26.2	(22.1)	6.0	2.8	有	5.40	8.52	24.400	分析
77	C5-7-1	第35図	77	3	黒曜石	Ob-3	16	剥片	23.4	(21.3)	5.9	1.6	有	4.77	7.76	24.665	
78	C5-12	第36図	78	3	黒曜石	Ob-1	17	剥片	29.8	29.2	9.6	6.2	有	4.70	8.50	24.780	分析
79	C5-48	第36図	79	3	黒曜石	Ob-1	17	剥片	37.4	27.6	3.3	3.4	有	2.40	8.36	25.072	分析
80	C5-9	第37図	80	3	黒曜石	Ob-1	18	石核	61.5	28.5	24.0	31.9	有	5.90	7.64	24.740	分析
81	C5-40	第37図	81	3	黒曜石	Ob-1	18	剥片	26.9	20.7	3.9	1.8	無	4.32	8.20	24.584	分析
82	C5-14	第38図	82	3	黒曜石	Ob-3	19	剥片	20.3	26.1	5.7	1.6	有	7.20	9.06	24.420	分析
83	SK7	第38図	84	3	黒曜石	Ob-3	19	剥片	45.6	22.2	23.4	21.8	有	—	—	—	一括・分析
84	C5-25	第38図	83	3	黒曜石	Ob-3	19	剥片	(23.1)	16.4	5.8	1.5	有	3.10	7.86	24.480	
85	C5-4	第39図	85	3	黒曜石	Ob-3	19	石核	37.0	35.4	21.1	22.0	有	5.05	7.44	24.740	分析
86	D3-46			1	黒曜石	Ob-1		破片	10.0	8.8	2.5	0.1	無	3.36	9.25	24.951	
87	D3-58			1	黒曜石	Ob-1		破片	7.9	13.3	1.9	0.1	無	4.86	9.29	25.010	
88	D3-60			1	黒曜石	Ob-1		剥片	16.0	22.5	5.0	1.3	有	5.08	8.95	24.885	
89	D3-66			1	黒曜石	Ob-1		破片	6.3	16.5	4.1	0.3	無	5.64	9.10	24.912	
90	D3-67			1	黒曜石	Ob-1		剥片	19.4	14.2	6.4	1.4	有	5.43	9.07	24.840	
91	D3-72			1	黒曜石	Ob-1		剥片	21.0	(9.3)	5.2	0.7	無	6.36	8.86	25.010	
92	D3-73			1	黒曜石	Ob-1		破片	(6.4)	7.6	1.3	0.1	無	7.16	8.15	24.766	
93	D3-76			1	黒曜石	Ob-1		破片	(9.2)	12.3	2.0	0.2	無	6.11	9.72	24.685	
94	D3-87			1	黒曜石	Ob-1		破片	13.0	9.4	2.0	0.2	有	2.10	9.54	24.687	
95	D3-90			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(24.3)	15.7	3.3	1.2	無	1.94	7.16	24.725	分析
96	D3-91			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(15.6)	15.9	3.1	0.7	無	2.21	8.20	24.752	
97	D3-92			1	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	41.7	28.4	6.7	5.9	無	2.36	8.06	24.872	分析
98	D3-94			1	黒曜石	Ob-1		剥片	13.4	7.1	5.4	0.6	有	2.76	7.24	24.677	
99	D3-96			1	黒曜石	Ob-1		剥片	40.2	25.8	5.7	4.3	無	2.42	6.82	24.762	分析
100	D3-97			1	チャート	Ch-4		剥片	25.6	13.4	7.5	2.1	有	2.58	6.72	25.119	
101	D3-99			1	黒曜石	Ob-1		破片	7.5	(12.8)	2.1	0.2	無	2.94	6.20	24.740	
102	D3-101-1			1	黒曜石	Ob-5		剥片	(14.5)	(19.2)	2.0	0.4	無	3.68	6.33	24.848	
103	D3-101-2			1	黒曜石	Ob-3		破片	6.5	11.8	1.0	0.1	無	3.68	6.33	24.848	
104	D3-101-3			1	黒曜石	Ob-3		破片	8.3	2.4	0.8	1.1	無	3.68	6.33	24.848	
105	D3-102			1	黒曜石	Ob-3		破片	5.1	4.6	0.6	0.1	無	3.50	6.62	25.002	
106	D3-103			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(17.0)	16.3	2.9	0.8	無	3.36	6.63	24.917	分析
107	D3-107			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(15.3)	10.4	3.5	0.7	無	3.24	8.02	24.779	分析
108	D3-108			1	黒曜石	Ob-1		破片	(5.6)	9.6	2.3	0.1	無	3.68	7.84	24.857	
109	D3-110			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(19.6)	12.4	5.3	0.8	有	2.46	8.56	24.665	
110	D3-111			1	黒曜石	Ob-5		破片	7.7	5.2	1.6	0.1	無	2.90	8.75	24.795	
111	D3-113			1	黒曜石	Ob-2		剥片	16.8	(14.3)	2.6	0.4	無	5.22	7.90	24.700	
112	D3-115			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(21.2)	14.1	4.8	0.9	無	5.60	7.86	24.895	分析
113	D3-118			1	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	(10.5)	8.5	2.0	0.2	有	5.76	8.08	24.737	
114	D3-121			1	黒曜石	Ob-1		剥片	23.2	14.7	3.5	1.0	無	6.76	9.86	24.472	
115	D3-123			1	黒曜石	Ob-1		剥片	15.5	7.9	3.7	0.4	無	6.52	7.77	25.050	
116	D3-126			1	黒曜石	Ob-1		剥片	12.1	20.0	3.2	0.6	無	7.54	7.02	24.726	
117	D3-127			1	黒曜石	Ob-1		破片	3.1	5.5	1.1	0.1	無	7.30	7.15	24.880	
118	D3-128			1	黒曜石	Ob-1		剥片	11.4	12.5	2.2	0.3	無	6.98	7.33	24.935	
119	D3-129			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(12.7)	22.2	2.3	0.3	無	6.74	6.81	24.719	
120	D3-130			1	黒曜石	Ob-1	20	剥片	16.0	16.0	2.7	0.5	無	6.46	7.20	24.954	
121	D3-131			1	黒曜石	Ob-1		剥片	21.4	(8.6)	1.2	0.2	有	7.14	4.16	24.832	
122	D3-134			1	黒曜石	Ob-1		剥片	(20.5)	9.6	3.5	0.5	有	6.18	6.38	24.796	
123	D3-135			1	黒曜石	Ob-1		破片	7.2	3.6	0.9	0.1	無	4.10	6.75	24.682	
124	D3-137			1	黒曜石	Ob-1	20	剥片	31.4	23.6	5.1	3.4	有	6.20	7.17	24.798	分析
125	D3-138			1	黒曜石	Ob-1		破片	6.1	4.4	0.9	0.1	有	4.40	7.35	24.776	
126	D3-139			1	黒曜石	Ob-1		破片	(7.4)	(11.5)	1.3	0.1	無	4.10	7.48	24.786	
127	D3-140-1			1	黒曜石	Ob-1		破片	(7.1)	5.6	0.8	0.1	有	5.88	7.47	24.802	
128	D3-140-2			1	黒曜石	Ob-3		破片	5.1	4.7	1.5	0.1	無	5.88	7.47	24.802	
129	D3-141			1	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	(23.5)	8.8	2.6	0.5	無	4.80	4.82	24.980	分析
130	D3-147			1	黒曜石	Ob-1		破片	(7.6)	6.8	2.7	0.1	無	3.68	8.02	24.706	
131	D3-148			1	黒曜石	Ob-1		破片	5.6	3.7	0.6	0.1	無	6.74	7.40	24.708	

番号	遺物番号	挿入番号	石器 中 区	石質	母岩	接合	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	自然	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
132	D3-149		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(12.0)	14.3	2.7	0.4	無	6.74	5.66	24.618	
133	D3-152		1	黒曜石	Ob-1		碎片	10.0	16.4	3.1	0.3	無	3.32	4.76	24.685	
134	D4-20		1	黒曜石	Ob-1		碎片	(7.5)	14.8	1.4	0.1	無	2.30	1.14	24.789	
135	D4-30		1	黒曜石	Ob-1		剥片	19.2	19.5	3.0	0.9	無	4.85	0.26	24.790	
136	D4-34		1	黒曜石	Ob-1		碎片	(7.6)	12.6	3.6	0.3	無	5.61	0.51	24.770	
137	D4-35		1	黒曜石	Ob-5		縦長剥片	(23.7)	21.9	5.0	2.5	無	5.61	0.56	24.752	分析
138	D4-38		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(13.1)	15.6	3.5	0.3	無	5.45	0.68	25.025	
139	D4-39		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(14.5)	15.2	2.8	0.4	無	5.47	0.83	24.792	
140	D4-41		1	黒曜石	Ob-1		碎片	(6.3)	7.9	2.6	0.1	無	5.35	0.93	24.690	
141	D4-45		1	黒曜石	Ob-1		剥片	15.6	9.3	3.2	0.2	無	4.73	2.57	24.800	
142	D4-46		1	黒曜石	Ob-1		剥片	13.0	(15.2)	2.4	0.4	無	4.96	2.21	24.700	
143	D4-47		1	黒曜石	Ob-1		剥片	25.0	35.3	10.3	7.1	有	6.03	0.45	24.860	分析
144	D4-48		1	黒曜石	Ob-1	21	剥片	(15.4)	16.5	3.5	0.8	無	6.03	0.91	24.740	
145	D4-49		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(14.1)	(18.6)	3.3	0.5	有	6.42	0.84	24.739	
146	D4-50		1	黒曜石	Ob-1	21	剥片	(12.4)	15.1	3.6	0.6	無	6.31	1.13	24.985	
147	D4-51		1	黒曜石	Ob-6		縦長剥片	(20.5)	10.5	2.2	0.4	無	6.46	1.48	24.839	分析
148	D4-56		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(29.5)	16.1	8.9	3.9	有	6.08	2.20	24.680	分析
149	D4-57		1	黒曜石	Ob-1		剥片	27.6	32.3	6.6	3.8	有	6.11	2.14	24.754	分析
150	D4-62		1	黒曜石	Ob-1		剥片	16.1	18.0	1.8	0.8	有	8.54	6.62	24.916	分析
151	D4-64		1	黒曜石	Ob-1		碎片	6.4	4.7	0.8	0.1	無	5.90	0.42	24.475	
152	D4-66		1	黒曜石	Ob-1		縦長剥片	22.0	9.2	3.2	0.5	無	1.26	0.72	24.830	分析
153	D4-67		1	黒曜石	Ob-1		碎片	8.9	10.0	1.4	0.1	無	5.50	1.68	24.767	
154	D2-35		1	安山岩	An		磨石	(37.7)	(12.7)	(11.3)	8.3	有	4.42	9.26	25.237	
155	D4-62		1	黒曜石	Ob-1		剥片	14.5	21.2	2.9	0.8	有	8.54	6.62	24.916	
156	D4-70		1	黒曜石	Ob-1		剥片	(19.0)	10.2	4.1	0.5	無	9.10	9.26	24.639	
157	D5-71		2	砂岩	Sa		磨石	(50.3)	(54.1)	50.5	84.1	有	6.55	1.98	24.800	
158	D5-90		2	珪質頁岩	SSH-1		剥片	22.9	14.2	1.2	0.3	無	0.68	3.94	24.770	
159	D5-94		2	珪質頁岩	SSH-1		剥片	14.7	9.5	2.1	0.3	無	1.36	4.54	24.830	
160	D5-97-2		2	黒曜石	Ob-2		碎片	5.7	15.5	2.2	0.4	無	3.08	0.53	24.813	
161	D5-98		2	黒曜石	Ob-3		剥片	12.3	6.5	1.8	0.1	無	2.79	3.12	24.800	
162	D5-99		2	黒曜石	Ob-4		剥片	15.0	18.5	4.7	0.9	有	2.45	3.28	24.825	
163	D5-100		2	珪質頁岩	SSH-1		碎片	7.8	11.8	3.8	0.3	有	2.05	4.14	24.756	
164	D5-101		2	黒曜石	Ob-3		碎片	6.8	8.5	1.4	0.1	無	2.25	4.14	24.776	
165	D5-102		2	黒曜石	Ob-3		剥片	10.0	10.2	3.5	0.3	無	2.09	4.36	24.820	
166	D5-103		2	珪質頁岩	SSH-1		碎片	8.7	7.3	1.6	0.1	無	2.61	4.27	24.847	
167	D5-104		2	珪質頁岩	SSH-1		剥片	14.7	(11.1)	2.9	0.5	無	2.45	4.66	24.817	
168	D5-108		2	黒曜石	Ob-4		剥片	20.7	5.4	3.2	0.3	無	2.83	4.82	24.690	
169	D5-136		2	黒曜石	Ob-5		縦長剥片	29.0	13.7	4.2	1.6	無	5.30	6.30	24.144	
170	D5-135		2	黒曜石	Ob-3		碎片	9.5	8.3	2.4	0.1	無	8.27	7.48	24.116	
171	D6-32		2	安山岩	An		磨石	(32.3)	(26.2)	8.3	9.1	有	6.52	2.37	24.814	被熱・付着物
172	E6-1		2	黒曜石	Ob-1		剥片	29.6	31.9	3.8	3.0	有	0.15	0.54	24.810	分析
173	B5-1		3	黒曜石	Ob-2		剥片	(14.0)	(22.7)	2.5	0.5	無	9.14	8.20	24.249	
174	C5-2		3	黒曜石	Ob-2		碎片	5.6	7.9	1.3	0.1	無	4.59	7.16	24.470	
175	C5-3		3	黒曜石	Ob-3		剥片	(14.7)	14.2	2.1	0.2	有	4.73	7.46	24.718	
176	C5-5-1		3	黒曜石	Ob-1		碎片	12.2	5.9	1.8	0.1	無	4.66	7.91	24.560	
177	C5-5-2		3	黒曜石	Ob-1		碎片	5.2	4.7	0.5	0.1	無	4.66	7.91	24.560	
178	C5-5-3		3	黒曜石	Ob-1		碎片	4.3	4.2	0.6	0.1	無	4.66	7.91	24.560	
179	C5-5-4		3	黒曜石	Ob-1		碎片	2.6	5.8	0.8	0.1	無	4.66	7.91	24.560	
180	C5-5-5		3	黒曜石	Ob-1		碎片	4.9	2.4	1.4	0.1	無	4.66	7.91	24.560	
181	C5-6		3	黒曜石	Ob-1		剥片	35.6	21.7	5.0	3.1	無	4.75	7.88	24.570	分析
182	C5-7-2		3	黒曜石	Ob-2		剥片	(12.5)	11.7	1.5	0.2	無	4.77	7.76	24.665	
183	C5-8		3	黒曜石	Ob-2		剥片	(10.6)	8.8	1.9	0.1	有	5.24	7.64	24.424	
184	C5-11		3	黒曜石	Ob-3		剥片	22.8	(16.0)	4.1	1.6	有	4.90	8.10	24.400	
185	C5-15		3	黒曜石	Ob-3		剥片	22.1	16.3	6.0	1.8	無	7.34	9.72	24.636	分析
186	C5-16		3	黒曜石	Ob-2		剥片	11.6	11.3	5.3	0.5	有	4.62	7.45	24.605	
187	C5-18		3	黒曜石	Ob-1		剥片	26.9	11.8	2.7	0.7	無	0.33	8.43	24.714	分析
188	C5-20-2		3	黒曜石	Ob-3		剥片	(11.0)	13.5	3.2	0.2	無	2.30	8.15	24.608	分析
189	C5-21		3	黒曜石	Ob-3		碎片	(5.5)	9.7	1.8	0.1	無	2.28	8.23	24.602	
190	C5-23		3	黒曜石	Ob-3		剥片	16.3	12.4	5.6	0.9	有	3.05	7.20	24.650	
191	C5-27-1		3	黒曜石	Ob-1		剥片	19.9	23.2	5.1	1.6	無	3.65	6.86	24.574	
192	C5-27-2		3	黒曜石	Ob-3		剥片	12.3	4.3	1.7	0.1	無	3.65	6.86	24.574	
193	C5-28		3	黒曜石	Ob-3		剥片	24.5	7.7	2.3	0.3	無	4.00	7.50	24.584	
194	C5-29		3	黒曜石	Ob-3		剥片	16.4	7.8	1.6	0.2	無	4.24	7.20	24.526	
195	C5-30-1		3	黒曜石	Ob-3		碎片	8.1	3.8	0.9	0.1	有	4.28	7.15	24.560	
196	C5-30-2		3	黒曜石	Ob-3		碎片	6.7	3.7	0.8	0.1	無	4.28	7.15	24.560	
197	C5-31		3	黒曜石	Ob-2		剥片	23.3	23.1	8.0	3.5	無	4.35	6.90	24.520	分析

番号	遺物番号	挿図番号	石器 種別	石質	母岩	接合	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	自然面	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
198	C5-32		3	黒曜石	Ob-1		碎片	11.2	4.0	1.6	0.1	無	4.35	7.52	24.604	
199	C5-33		3	黒曜石	Ob-2		碎片	11.6	4.5	1.6	0.1	無	4.11	7.65	24.596	
200	C5-34		3	黒曜石	Ob-2		碎片	3.9	10.1	1.4	0.1	無	4.25	7.68	24.464	
201	C5-35		3	黒曜石	Ob-1		碎片	6.9	6.0	1.2	0.1	無	4.35	7.75	24.534	
202	C5-36		3	黒曜石	Ob-4		剥片	(12.3)	18.5	4.3	0.8	無	4.42	7.80	24.526	
203	C5-37		3	黒曜石	Ob-3		碎片	10.6	6.3	4.6	0.2	有	4.40	7.86	24.502	
204	C5-38		3	黒曜石	Ob-3		碎片	11.0	6.7	1.8	0.1	無	4.50	7.77	24.514	
205	C5-39		3	黒曜石	Ob-3		碎片	4.6	3.4	1.5	0.1	無	4.20	8.14	24.517	
206	C5-41		3	黒曜石	Ob-2		碎片	11.9	9.3	2.9	0.3	無	4.28	8.28	24.710	
207	C5-42		3	黒曜石	Ob-3		碎片	12.8	11.7	2.3	0.2	無	4.07	8.50	24.525	
208	C5-44		3	黒曜石	Ob-3		剥片	10.6	14.8	2.3	0.3	無	4.48	9.00	24.620	
209	C5-45		3	黒曜石	Ob-3		碎片	8.3	5.4	1.6	0.1	無	3.30	8.83	24.674	
210	C5-46		3	黒曜石	Ob-2		剥片	27.0	28.6	4.9	2.5	有	4.22	8.37	24.665	分析
211	C5-47		3	黒曜石	Ob-2		碎片	10.8	12.2	2.0	0.1	無	4.25	8.40	24.444	
212	C4-4		3	チャート	Ch-5		碎片	10.3	(31.3)	4.2	1.1	有	4.90	7.30	25.092	
213	C3一括			黒曜石	Ob-1		剥片	(27.3)	10.4	2.9	0.6	無	—	—	—	一括
214	C5一括-1			黒曜石	Ob-3		剥片	35.7	37.4	5.0	3.9	有	—	—	—	一括
215	C5一括-2			黒曜石	Ob-2		剥片	(13.5)	(21.6)	3.5	0.7	無	—	—	—	一括
216	C5一括-3			黒曜石	Ob-2		碎片	5.6	(2.7)	1.6	0.1	無	—	—	—	一括
217	C5一括-4			黒曜石	Ob-3		剥片	14.2	(7.2)	7.0	0.3	無	—	—	—	一括
218	C5一括-5			黒曜石	Ob-3		碎片	8.9	14.0	0.7	0.1	無	—	—	—	一括
221	D3一括-2			黒曜石	Ob-1		剥片	(12.4)	7.1	2.1	0.1	無	—	—	—	一括・分析
219	SD1-4			黒曜石	Ob-1		剥片	(25.2)	16.3	4.3	1.5	有	—	—	—	一括
220	SD3一括			黒曜石	Ob-1		剥片	24.4	(11.5)	7.5	1.6	有	—	—	—	一括
223	SK49一括			黒曜石	Ob-2		剥片	14.1	5.9	2.5	0.2	無	—	—	—	一括
222	FP3-1			黒曜石	Ob-2		剥片	14.9	7.4	3.4	0.4	有	—	—	—	一括
223	SK49一括			黒曜石	Ob-2		剥片	14.1	5.9	2.5	0.2	無	—	—	—	一括

凡例

長さ・幅・厚さの単位はmmとし、折損の場合は、()で表示

接合資料は、番号で表示

出土位置を示す座標は北西杭を基準とした10m×10mの基本グリッドであり、遺物番号に付されたグリッド名称を参照。

第 4 表 出土礫一覽表

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備 考
1	C2-1	1		チャート	①	④	③	36.3	21.2	11.6	9.8	5.27	8.29	25.340	
2	C2-3	1		チャート	①	④	③	15.0	11.6	7.7	1.3	8.38	9.92	25.335	
3	C2-4	1		チャート	①	④	③	11.5	9.5	9.0	1.2	8.45	9.87	25.325	
4	C2-5	1		チャート	①	①	③	14.6	9.0	5.9	1.0	8.22	9.44	25.337	
5	C2-7	1		チャート	①	①	③	32.4	19.2	14.7	8.6	9.08	9.23	25.329	
6	C2-9	1		チャート	①	④	③	24.2	11.5	10.9	3.4	9.80	9.44	25.228	
7	C2-10	1		チャート	①	③	③	19.7	10.5	9.5	1.8	9.44	7.76	25.312	
8	C2-14	1		チャート	③	④	③	8.9	7.5	4.5	0.5	9.63	8.06	25.325	
9	C2-15	1		チャート	④	④	③	26.0	17.8	15.0	7.6	8.35	8.96	25.302	
10	C2-17	1		チャート	④	④	③	16.8	11.1	5.6	0.9	9.36	8.70	25.225	
11	C2-18	1		チャート	①	④	③	22.5	15.7	2.7	1.1	9.48	8.06	25.288	
12	C2-19	1		チャート	③	①	③	27.0	17.7	7.4	3.6	9.71	8.40	25.295	
13	C2-20	1		チャート	③	④	③	18.9	12.9	8.9	2.8	9.57	8.72	25.265	
14	C2-21	1		チャート	③	①	③	20.4	13.5	12.7	4.9	9.62	8.74	25.298	
15	C2-22	1		チャート	①	①	③	17.0	8.5	7.9	1.7	9.63	9.11	25.170	
16	C2-23	1		チャート	③	④	③	24.8	20.0	12.9	6.2	9.67	9.17	25.285	
17	C2-24	1		砂岩	①	①	③	43.4	25.3	19.2	29.6	9.85	9.34	25.265	
18	C2-25	1		チャート	④	④	③	19.0	13.4	13.3	2.8	9.68	9.48	25.245	
19	C2-26	1		チャート	①	①	③	20.8	14.0	16.6	3.7	9.57	9.66	25.270	
20	C2-27	1		チャート	①	③	③	37.0	20.2	18.1	21.0	9.40	9.34	25.264	
21	C2-28	1		チャート	③	④	③	25.7	19.0	17.9	10.1	9.28	9.51	25.290	
22	C2-30	1		チャート	③	④	③	15.8	15.0	13.0	4.7	9.08	9.45	25.180	
23	C2-32	1		チャート	①	④	③	25.2	18.9	10.5	3.3	8.86	9.49	25.315	
24	C2-33	1		チャート	①	④	③	30.1	17.3	17.7	13.5	8.75	9.54	25.270	
25	C2-35	1		チャート	④	④	③	15.4	9.2	8.8	1.4	8.61	9.89	25.015	
26	C2-36	1		チャート	③	②	③	28.3	14.6	10.8	4.2	8.58	9.86	25.005	
27	C2-39	1		チャート	①	④	③	27.1	19.9	8.3	6.1	9.85	6.47	25.256	
28	C2-40	1		チャート	①	②	③	22.7	11.2	9.3	2.6	9.60	7.63	25.228	
29	C2-43	1		チャート	①	④	③	39.9	24.5	17.5	15.7	1.26	9.24	25.229	
30	C3-3	1		チャート	①	②	③	32.0	20.5	13.8	16.4	9.63	0.19	25.287	
31	C3-4	1		チャート	①	①	③	23.6	20.3	10.3	6.7	9.31	0.24	25.260	
32	C3-5	1		チャート	①	①	③	41.5	27.6	22.2	37.7	9.09	0.38	25.257	
33	C3-6	1		砂岩	①	④	③	40.7	18.9	9.7	12.5	8.87	0.27	25.332	
34	C3-7	1		チャート	①	①	③	40.2	31.0	19.0	40.1	8.78	0.79	25.325	
35	C3-8	1		チャート	①	④	③	34.1	27.3	15.7	19.9	9.07	1.30	25.335	
36	C3-10	1		チャート	①	④	③	31.5	24.1	16.4	17.0	9.49	1.30	25.087	
37	C3-19	1		砂岩	①	①	③	30.9	17.2	15.5	6.0	8.83	0.27	25.326	
38	C3-20	1		チャート	④	②	③	15.1	11.7	8.8	1.9	8.80	0.21	25.120	
39	C3-21	1		チャート	①	①	③	17.9	10.8	4.9	1.2	8.88	0.12	25.196	
40	C3-22a	1		チャート	③	④	③	29.5	28.1	18.8	15.5	8.94	0.12	25.196	
41	C3-22b	1		チャート	①	①	③	27.6	26.1	17.8	13.7	8.94	0.12	25.196	
42	C3-22c	1		チャート	①	④	③	16.6	11.3	8.6	2.5	8.94	0.12	25.196	
43	C3-22d	1		チャート	③	④	③	19.4	10.0	9.9	2.4	8.94	0.12	25.196	
44	C3-22e	1		チャート	③	④	③	9.3	6.0	3.3	0.4	8.94	0.12	25.196	
45	C3-23	1		頁岩	④	④	③	16.5	10.3	6.9	2.5	8.75	0.37	25.138	
46	C3-24	1		チャート	③	①	③	24.4	22.7	14.1	14.5	8.84	0.37	25.130	
47	C3-25	1		チャート	①	①	③	10.9	7.8	4.0	0.6	9.01	0.24	25.106	
48	C3-26	1		チャート	①	④	③	9.9	5.3	4.1	0.3	9.00	0.26	25.076	
49	C3-27	1		チャート	③	④	③	18.9	17.7	8.7	3.5	9.05	0.17	25.092	
50	C3-28	1		チャート	①	③	③	28.7	18.5	16.9	13.1	9.30	0.12	15.196	
51	C3-29	1		砂岩	①	①	③	20.6	12.4	9.5	3.2	9.32	0.18	25.088	
52	C3-30	1		チャート	①	①	③	21.1	18.1	11.7	5.3	8.76	0.46	24.955	
53	C3-32	1		チャート	①	④	③	16.9	16.0	7.4	3.1	9.37	1.41	24.955	
54	C3-33	1		チャート	①	③	③	17.7	12.0	7.7	1.6	9.57	1.59	24.930	
55	C3-34	1		チャート	①	①	③	15.1	14.6	13.1	4.3	8.70	2.33	25.140	
56	C3-35	1		チャート	①	④	③	44.4	22.3	18.3	21.7	8.48	2.58	25.095	
57	C3-39	1		チャート	③	④	③	17.2	13.0	11.0	32.0	8.68	3.38	25.260	
58	C3-44	1		砂岩	①	④	③	14.0	10.3	4.5	0.8	4.48	1.14	25.100	
59	C3-47	1		チャート	③	④	③	31.0	28.1	7.8	13.5	8.83	0.20	25.116	
60	C3-48	1		チャート	①	④	③	19.7	6.6	5.1	0.8	9.30	0.03	25.105	
61	C3-49	1		チャート	①	④	③	19.0	16.0	12.3	2.5	7.74	0.80	25.230	
62	C3-50	1		頁岩	③	④	③	12.3	10.3	9.3	1.9	7.66	1.20	25.227	
63	C3-51	1		チャート	①	④	③	24.3	20.8	11.9	9.7	7.60	0.26	25.000	
64	C4-5			砂岩	③	④	③	64.4	58.2	43.2	219.6	9.76	5.16	25.040	
65	C4-6			砂岩	③	④	③	27.1	23.8	10.8	12.1	9.60	8.32	25.015	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
66	C5-1			砂岩	③	①	③	46.0	18.4	10.0	19.6	9.10	8.20	24.655	
67	C6-1			砂岩	③	③	③	33.4	22.8	16.1	19.3	6.09	0.90	24.897	
68	C6-2			チャート	③	④	③	22.8	15.0	7.2	3.2	6.40	1.70	24.925	
69	C6-3			チャート	③	④	③	34.3	31.4	9.1	16.7	0.01	2.21	25.171	
70	D2-1	1		チャート	④	④	③	35.2	19.8	21.5	13.4	2.05	7.99	25.274	
71	D2-3	1		チャート	①	④	③	35.5	26.5	26.2	28.0	0.00	0.00	25.272	
72	D2-5	1		チャート	③	①	③	30.8	18.5	20.4	17.0	2.68	7.25	25.284	
73	D2-7	1		チャート	③	③	③	21.5	20.0	13.8	8.3	3.05	6.48	25.290	
74	D2-8	1		チャート	③	④	③	20.5	14.8	11.3	4.8	3.80	6.48	25.279	
75	D2-9	1		チャート	③	①	③	15.7	10.4	12.8	2.8	3.79	6.59	25.272	
76	D2-10	1		チャート	③	④	③	19.9	16.2	14.9	7.1	1.04	7.12	25.302	
77	D2-11	1		チャート	③	①	③	22.3	17.5	18.0	8.2	0.53	7.55	25.295	
78	D2-12	1		チャート	①	④	③	27.8	16.7	7.6	4.2	1.10	7.83	25.282	
79	D2-13	1		チャート	①	①	③	20.3	12.2	7.5	3.2	0.45	7.89	25.299	
80	D2-14	1		チャート	①	③	③	21.7	11.3	16.6	9.8	0.10	9.22	25.316	
81	D2-15	1		チャート	③	①	③	20.8	12.8	6.0	2.5	1.13	8.02	25.301	
82	D2-16a	1		チャート	③	④	③	22.0	20.1	20.1	10.0	0.13	9.31	25.322	
83	D2-16b	1		チャート	③	①	③	25.7	14.0	5.2	2.7	0.13	9.31	25.322	
84	D2-17	1		チャート	④	④	③	24.3	21.5	15.7	13.2	0.11	9.38	25.308	
85	D2-18	1		チャート	①	④	③	35.9	24.7	13.6	17.0	0.15	9.44	25.300	
86	D2-19	1		チャート	③	④	③	24.4	19.0	19.0	15.7	0.33	9.29	25.318	
87	D2-20	1		チャート	①	①	③	30.3	185.0	15.6	6.1	0.39	9.27	25.322	
88	D2-22	1		チャート	③	④	③	18.5	15.6	4.4	2.1	0.43	9.40	25.319	
89	D2-23	1		チャート	④	④	③	30.5	19.6	13.2	7.3	0.49	9.51	25.320	
90	D2-24	1		チャート	①	①	③	26.7	26.7	21.3	20.3	0.25	9.59	25.300	
91	D2-25	1		チャート	①	①	③	19.2	11.2	9.1	2.5	1.08	9.83	25.305	
92	D2-26	1		チャート	④	④	③	10.3	8.4	6.0	0.7	1.08	9.65	25.300	
93	D2-28	1		チャート	①	④	③	26.8	18.8	13.2	9.6	1.00	9.10	25.287	
94	D2-29a	1		チャート	①	④	③	16.0	15.5	16.6	5.7	4.06	8.23	25.250	
95	D2-29b	1		チャート	①	④	③	15.7	10.2	7.7	1.4	4.06	8.23	25.250	
96	D2-31	1		チャート	①	①	③	22.4	18.8	13.1	9.5	4.23	8.88	25.257	
97	D2-32	1		チャート	①	①	③	29.7	25.2	7.2	8.7	4.20	9.00	25.190	
98	D2-33	1		チャート	④	④	③	14.9	9.8	6.6	1.3	4.43	8.90	25.276	
99	D2-34	1		チャート	③	①	③	18.7	15.1	5.6	2.4	4.30	9.30	25.097	
100	D2-35	1		安山岩	③	②	③	37.8	16.2	12.2	8.4	4.42	9.26	25.237	磨石状
101	D2-39	1		チャート	④	④	③	11.4	6.5	4.5	0.7	5.11	9.68	25.200	
102	D2-40	1	1a	チャート	①	③	③	27.4	20.8	21.1	18.3	5.40	8.26	25.217	
103	D2-41	1		チャート	③	③	③	25.2	20.6	13.4	10.6	2.75	5.95	25.298	
104	D2-42	1		チャート	①	④	③	36.4	21.3	20.3	18.3	3.64	6.00	25.270	
105	D2-43	1		チャート	①	④	③	13.4	11.2	13.0	2.8	4.55	6.31	25.250	
106	D2-44	1		砂岩	①	①	③	29.7	21.7	21.5	24.0	0.72	8.65	25.252	
107	D2-45	1		チャート	④	④	③	30.3	16.0	8.6	5.7	0.50	8.69	25.265	
108	D2-46	1		チャート	③	①	③	22.5	22.8	18.1	15.6	0.52	8.85	25.298	
109	D2-47	1		チャート	③	①	③	14.6	10.4	7.8	2.2	0.82	8.95	25.260	
110	D2-48	1		チャート	③	③	③	21.8	14.1	6.5	2.5	0.42	9.02	25.230	
111	D2-49	1		チャート	①	③	③	24.7	21.0	15.4	9.4	0.36	9.05	25.226	
112	D2-50	1		チャート	①	①	③	29.6	15.0	9.9	4.7	0.50	9.23	25.260	
113	D2-51	1		チャート	③	④	③	42.7	18.7	14.7	17.2	0.35	9.30	25.298	
114	D2-52	1		チャート	④	④	③	25.5	24.1	17.7	17.0	0.24	9.22	25.290	
115	D2-53	1		チャート	④	④	③	18.7	11.0	12.2	4.3	0.20	9.32	25.272	
116	D2-54	1		チャート	④	④	③	20.1	9.6	18.5	4.7	0.20	9.42	25.286	
117	D2-55	1		チャート	①	①	③	10.9	9.0	9.3	1.1	0.08	9.42	25.308	
118	D2-56	1		チャート	①	④	③	23.7	18.0	16.9	11.1	0.12	9.52	25.252	
119	D2-57	1		チャート	③	④	③	22.4	18.8	16.4	9.1	0.45	9.34	25.312	
120	D2-58	1		チャート	③	④	③	27.6	23.2	15.4	14.1	0.68	9.43	25.286	
121	D2-59	1	1b	砂岩	①	④	③	42.6	18.4	15.4	13.4	0.62	9.72	25.260	
122	D2-60	1		チャート	③	①	③	30.8	20.9	13.8	15.4	0.72	9.81	25.272	
123	D2-61	1		チャート	③	①	③	12.8	12.2	8.8	2.1	0.71	9.89	25.292	
124	D2-62	1		チャート	③	④	③	22.7	16.0	13.3	6.3	1.12	9.66	25.276	
125	D2-63	1		チャート	④	④	③	11.3	8.9	7.5	1.6	0.96	9.51	25.240	
126	D2-64	1		チャート	③	④	③	14.2	6.9	6.9	1.2	1.02	9.62	25.230	
127	D2-65	1		チャート	③	①	③	20.4	19.2	13.4	4.7	1.01	8.62	25.230	
128	D2-66	1		チャート	③	③	③	32.1	20.0	17.8	14.1	1.22	9.10	25.242	
129	D2-67	1		チャート	①	④	③	23.2	13.1	9.5	4.1	1.31	9.24	25.204	
130	D2-68	1		砂岩	①	④	③	33.2	12.0	4.2	2.5	1.47	9.44	25.246	
131	D2-69	1		チャート	④	④	③	14.9	13.6	5.3	1.5	1.43	8.32	25.230	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
132	D2-70	1		チャート	③	①	③	20.5	17.6	7.9	4.6	1.62	8.20	25.245	
133	D2-71	1		チャート	③	④	③	18.3	13.6	3.2	1.2	1.64	8.78	25.238	
134	D2-72	1		チャート	④	④	③	31.1	19.1	22.0	18.3	1.92	9.09	25.240	
135	D2-73	1		チャート	③	④	③	59.9	36.0	13.7	36.5	1.74	9.10	25.230	
136	D2-74	1		チャート	④	④	③	25.0	22.9	16.0	13.5	1.65	9.32	25.252	
137	D2-75	1		砂岩	③	①	③	28.1	19.8	10.8	8.4	1.85	9.38	25.264	
138	D2-76	1		チャート	①	①	③	32.5	25.0	14.2	10.1	1.64	9.92	25.250	
139	D2-77	1		チャート	①	①	③	45.2	35.9	28.1	42.4	1.74	9.95	25.244	
140	D2-78	1		チャート	④	④	③	20.0	16.1	14.7	6.8	1.70	9.83	25.215	
141	D2-79	1		チャート	③	④	③	15.7	12.4	9.1	2.8	1.94	9.95	25.264	
142	D2-80	1		チャート	④	④	③	30.8	16.3	13.3	10.9	2.35	9.64	25.258	
143	D2-81	1		チャート	④	④	③	22.5	16.0	15.8	5.1	2.63	9.44	25.215	
144	D2-82	1		チャート	③	①	③	15.8	14.6	9.0	2.9	2.80	9.41	25.195	
145	D2-83a	1		砂岩	①	①	③	18.8	15.8	12.7	4.0	2.57	8.93	25.207	
146	D2-83b	1		砂岩	①	①	③	18.0	11.2	6.9	1.5	2.57	8.93	25.207	
147	D2-84	1		砂岩	①	④	③	13.3	11.6	12.9	2.3	2.86	9.75	25.220	
148	D2-85	1		チャート	①	④	③	14.0	9.5	6.4	1.1	3.05	8.41	25.220	
149	D2-86	1		砂岩	③	①	③	48.0	24.6	19.8	20.5	2.95	9.90	25.252	
150	D2-87	1		チャート	④	④	③	22.2	17.7	15.4	9.3	3.65	9.36	25.228	
151	D2-88	1		チャート	④	④	③	13.1	7.7	10.8	1.0	4.41	9.21	25.014	
152	D2-89	1		チャート	③	④	③	17.4	10.5	14.0	3.6	4.72	9.31	24.970	
153	D2-91	1		チャート	④	④	③	25.6	10.1	5.3	1.4	4.75	9.63	25.062	
154	D2-92	1		チャート	③	④	③	29.2	17.4	13.0	8.6	4.70	9.80	24.972	
155	D2-93	1		チャート	④	④	③	14.5	10.3	6.8	1.8	0.33	6.36	25.255	
156	D2-95	1		砂岩	①	④	③	41.9	23.1	9.4	12.1	0.14	7.60	25.255	
157	D2-96	1		チャート	①	④	③	31.8	27.4	18.6	18.2	0.77	7.47	25.272	
158	D2-98	1		チャート	④	④	③	19.0	17.0	9.6	3.6	1.40	6.77	25.270	
159	D2-99	1		チャート	③	④	③	22.8	12.9	4.9	1.8	1.55	7.17	25.248	
160	D2-100	1		チャート	③	④	③	27.2	21.1	21.0	16.6	1.95	6.38	25.224	
161	D2-101	1		チャート	③	④	③	17.4	12.1	6.7	1.6	0.15	7.57	25.218	
162	D2-102	1		砂岩	③	④	③	21.4	12.2	10.4	3.4	0.10	9.50	25.208	
163	D2-103	1		チャート	③	④	③	28.3	24.0	16.8	15.0	0.12	9.57	25.224	
164	D2-104	1		チャート	③	①	③	26.2	18.0	21.4	13.7	1.66	8.36	25.155	
165	D2-105	1		チャート	④	④	③	11.8	9.1	16.3	1.6	1.75	9.05	25.180	
166	D2-107	1		チャート	④	④	③	21.5	14.6	8.5	3.7	2.77	6.34	25.273	
167	D2-108	1		チャート	④	④	③	15.3	11.6	7.4	1.8	3.14	6.76	25.238	
168	D2-109	1		チャート	③	④	③	42.0	40.0	20.9	44.7	3.59	6.64	25.208	
169	D2-110	1		チャート	③	②	③	31.8	28.2	25.9	30.5	3.66	6.56	25.250	
170	D2-111	1		チャート	①	④	③	22.6	15.3	11.2	5.7	3.52	7.50	24.928	
171	D2-112	1		砂岩	④	④	③	21.3	8.7	11.5	1.9	2.88	7.87	25.065	
172	D2-113	1		チャート	④	④	③	24.3	18.3	13.1	9.5	3.03	7.96	25.130	
173	D2-114	1		砂岩	④	④	③	38.8	17.6	20.4	15.3	3.69	8.38	25.220	
174	D2-115	1		砂岩	①	①	③	36.0	18.6	19.6	10.1	3.40	8.52	25.202	
175	D2-117	1		チャート	③	①	③	30.4	27.3	16.7	17.6	2.84	9.20	25.035	
176	D2-118a	1		チャート	③	①	③	30.5	28.5	28.5	17.4	2.69	9.30	25.207	
177	D2-118b	1		チャート	③	①	③	30.8	14.0	12.9	6.8	2.69	9.30	25.207	
178	D2-119	1		チャート	④	④	③	23.5	9.8	4.8	1.3	2.95	8.76	25.105	
179	D2-120	1		チャート	④	④	③	18.8	12.6	5.9	2.0	3.50	8.94	25.243	
180	D2-121a	1		チャート	①	②	③	18.0	14.7	9.5	3.4	3.40	9.10	25.145	
181	D2-121b	1		チャート	①	②	③	20.5	11.7	12.7	3.0	3.40	9.10	25.145	
182	D2-122	1		チャート	③	④	③	38.0	29.1	21.5	34.9	3.98	9.04	25.209	
183	D2-123	1		チャート	③	④	③	41.6	21.8	4.8	6.3	3.58	9.44	25.070	
184	D2-124	1		チャート	③	④	③	17.3	10.0	12.7	2.8	3.21	9.34	25.055	
185	D2-125	1		チャート	①	④	③	16.5	9.1	5.4	1.1	2.13	9.42	25.135	
186	D2-126	1		チャート	④	④	③	21.7	20.3	9.2	7.1	2.91	9.40	24.975	
187	D2-127	1		チャート	④	④	③	21.1	8.3	5.9	1.4	2.29	8.76	25.095	
188	D2-128	1		チャート	③	④	③	39.4	25.4	21.3	30.1	2.44	9.40	25.010	
189	D2-129a	1		チャート	③	④	③	10.8	7.3	8.3	1.0	2.32	9.32	24.990	
190	D2-129b	1		チャート	③	④	③	10.0	6.9	5.7	0.6	2.32	9.32	24.990	
191	D2-130	1		チャート	④	④	③	24.5	21.1	13.4	7.1	2.25	9.86	25.168	
192	D2-131	1		チャート	①	①	③	15.7	12.8	13.8	4.3	2.30	9.80	25.227	
193	D2-132	1		チャート	③	①	③	21.0	17.6	11.0	6.8	3.13	9.43	25.120	
194	D2-133	1		砂岩	④	④	③	14.8	9.7	6.7	1.3	3.11	9.96	24.936	
195	D2-134	1		砂岩	③	④	③	28.9	24.5	12.0	12.4	2.79	8.31	24.984	
196	D2-135	1		チャート	④	④	③	12.2	11.6	10.8	1.9	4.30	9.68	25.241	
197	D3-1	1		緑泥片岩	④	④	③	84.4	71.3	19.1	161.7	8.35	9.15	25.068	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
198	D3-3	1		チャート	①	④	③	51.4	30.1	19.1	38.9	0.27	7.15	25.254	
199	D3-4	1		チャート	③	④	③	15.1	14.8	5.8	2.3	0.66	0.45	25.275	
200	D3-5	1		チャート	③	④	③	8.8	7.4	7.3	0.6	1.26	0.75	25.259	
201	D3-6	1		チャート	①	④	③	27.3	19.5	10.6	5.9	1.66	0.60	25.262	
202	D3-7	1		チャート	①	①	③	24.2	13.8	11.3	3.5	1.81	0.30	25.265	
203	D3-8	1		チャート	①	①	③	24.0	20.4	11.1	6.8	1.80	0.55	25.272	
204	D3-15	1		砂岩	①	④	③	15.6	12.7	7.7	2.2	3.23	5.50	25.119	
205	D3-16	1		チャート	①	④	③	38.8	33.5	22.0	36.7	5.88	2.80	25.210	
206	D3-17	1		チャート	①	①	③	32.6	13.6	13.7	12.0	7.08	6.64	25.122	
207	D3-18	1		チャート	①	④	③	40.4	31.2	33.0	57.1	6.92	7.72	25.805	
208	D3-19	1		緑泥片岩	④	④	③	14.4	11.1	3.5	1.7	7.37	8.40	25.062	
209	D3-20	1		チャート	①	④	③	21.8	12.8	9.9	4.0	6.25	1.50	25.159	
210	D3-22	1		チャート	①	④	③	17.3	15.1	5.7	1.9	1.00	0.10	25.248	
211	D3-23	1		チャート	③	①	③	20.4	14.1	14.9	7.7	1.58	0.30	25.255	
212	D3-24	1		チャート	①	④	③	26.1	12.0	12.0	4.1	1.52	0.35	25.245	
213	D3-25	1		チャート	①	④	③	12.3	11.6	8.7	1.7	0.45	0.50	25.285	
214	D3-26	1		チャート	①	④	③	25.2	15.0	6.8	4.5	0.40	0.85	25.234	
215	D3-27	1		チャート	①	①	③	26.5	16.3	21.0	9.1	0.59	1.00	25.205	
216	D3-29	1		チャート	①	④	③	24.7	19.4	18.6	9.4	0.33	1.18	25.280	
217	D3-30	1		チャート	③	①	③	19.1	18.0	10.8	4.2	0.24	1.25	25.135	
218	D3-31	1		チャート	③	①	③	27.2	15.8	10.9	5.2	0.52	1.50	25.180	
219	D3-32	1		チャート	③	①	③	25.2	13.9	13.9	7.7	0.60	1.66	25.260	
220	D3-34	1		チャート	①	③	③	24.1	13.4	16.4	8.1	0.80	1.23	25.260	
221	D3-37	1		砂岩	①	④	③	14.3	9.8	8.6	2.4	1.83	2.05	25.245	
222	D3-38	1		チャート	①	①	③	31.2	13.8	14.8	7.9	1.53	2.28	24.930	
223	D3-39	1		チャート	③	②	③	21.2	17.7	14.4	3.6	1.46	2.28	24.932	
224	D3-40	1		砂岩	①	①	③	19.0	14.3	9.1	4.2	0.30	2.93	25.182	
225	D3-41	1		砂岩	①	①	③	24.2	23.8	11.5	12.1	0.80	3.30	25.155	
226	D3-42	1		チャート	①	③	③	24.7	17.8	13.0	7.4	4.33	1.56	25.215	
227	D3-44	1		チャート	①	③	③	24.0	20.9	14.5	10.5	4.70	4.46	25.196	
228	D3-45	1		チャート	①	④	③	22.4	12.3	10.0	4.1	3.24	9.42	24.945	
229	D3-48	1		チャート	②	④	③	23.7	18.6	6.0	3.5	3.62	8.89	25.103	
230	D3-51	1		チャート	①	④	③	20.1	17.1	8.2	5.6	4.46	9.42	24.987	
231	D3-52	1		チャート	③	④	③	18.8	12.6	6.4	1.8	4.49	9.34	24.916	
232	D3-59	1		チャート	①	①	③	14.9	11.2	7.5	2.2	5.02	9.32	24.830	
233	D3-79	1		チャート	①	④	③	24.3	14.6	9.0	4.3	7.20	9.93	25.030	
234	D3-81	1		チャート	③	①	③	25.9	23.6	19.7	21.1	1.50	0.35	25.132	
235	D3-82	1		砂岩	①	①	③	15.3	12.7	9.4	3.3	1.58	0.27	25.184	
236	D3-83	1		チャート	①	④	③	17.7	12.0	5.8	2.3	1.54	0.34	25.157	
237	D3-84	1		砂岩	①	①	③	22.6	19.5	14.7	10.0	1.50	0.40	25.126	
238	D3-85	1		チャート	③	②	③	11.6	6.8	5.2	0.8	1.56	0.02	25.230	
239	D3-89	1		砂岩	①	①	③	31.9	20.2	8.4	11.1	1.08	7.12	25.043	
240	D3-100	1		チャート	③	④	③	22.5	12.4	14.1	6.9	2.04	5.70	25.080	
241	D3-124	1		砂岩	①	①	③	33.6	20.9	20.7	16.0	6.60	7.62	25.042	
242	D3-133	1		チャート	①	④	③	27.0	24.2	7.2	8.4	6.46	7.82	24.914	
243	D3-143	1		緑泥片岩	④	④	③	21.9	18.2	2.6	1.4	2.40	0.15	24.487	
244	D3-144	1		チャート	①	①	③	32.7	16.5	17.0	14.2	2.74	2.06	25.250	
245	D3-145	1		チャート	①	①	③	20.5	14.0	12.4	6.0	2.54	2.15	25.230	
246	D3-151	1		チャート	①	①	③	18.5	17.0	6.1	3.6	4.64	2.26	25.023	
247	D4-15			チャート	①	④	③	33.7	25.1	17.8	30.8	8.52	5.90	24.975	
248	D4-16			砂岩	③	④	③	55.0	34.2	20.6	76.3	8.69	5.69	24.937	
249	D4-23			砂岩	③	④	③	49.9	14.3	5.8	6.0	3.47	2.45	25.074	
250	D4-29			砂岩	④	④	③	30.7	21.3	14.4	15.8	4.97	0.51	25.082	
251	D4-32			チャート	③	④	③	20.5	16.2	9.2	5.0	5.73	0.22	24.990	
252	D4-42			泥岩	④	④	③	15.2	10.6	1.6	0.5	4.07	2.50	24.980	
253	D4-44			チャート	③	④	③	18.9	18.2	5.5	2.0	4.41	2.77	25.070	
254	D4-55			チャート	③	④	③	20.0	16.2	10.2	4.6	7.41	1.09	25.024	
255	D4-58			チャート	④	④	③	34.3	19.6	13.4	10.8	8.04	1.02	25.040	
256	D4-61			チャート	③	④	③	32.1	21.8	17.2	17.7	8.14	0.96	25.032	
257	D5-14	2		砂岩	③	①	③	45.1	26.0	24.0	30.7	5.20	1.60	24.875	
258	D5-15	2		チャート	③	④	③	39.4	32.2	28.6	58.6	4.57	3.33	24.884	
259	D5-16	2		チャート	③	④	③	32.2	20.6	12.9	9.2	4.50	3.40	24.812	
260	D5-17	2		チャート	④	④	③	48.9	28.8	22.5	42.9	5.00	3.18	24.900	
261	D5-18	2		チャート	③	④	③	36.8	22.9	8.6	6.8	4.96	3.00	24.888	
262	D5-19	2		チャート	③	④	③	38.6	29.4	25.3	21.6	4.53	3.53	24.838	
263	D5-20	2		砂岩	③	④	③	34.9	24.7	10.1	8.6	4.86	3.20	24.892	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
264	D5-21	2		チャート	③	②	③	45.0	39.0	34.4	56.9	4.44	3.77	24.848	
265	D5-22	2		チャート	③	④	③	55.0	52.5	20.2	74.0	4.88	3.46	24.850	
266	D5-23	2		チャート	③	④	③	41.8	42.9	12.5	20.6	5.14	3.26	24.870	
267	D5-24	2		チャート	③	④	③	49.3	31.2	28.1	59.1	5.10	2.98	24.874	
268	D5-25	2		チャート	①	②	③	34.3	23.8	18.3	17.5	4.62	3.86	24.885	
269	D5-26	2		チャート	③	②	③	46.1	42.7	25.9	80.9	4.73	3.80	24.850	
270	D5-27	2		チャート	①	②	①	96.6	62.3	35.0	232.4	5.36	3.34	24.766	
271	D5-28	2	2a	チャート	③	④	③	43.5	33.5	23.6	29.4	5.17	3.46	24.786	
272	D5-29	2		チャート	①	④	③	49.0	18.6	18.0	28.0	5.00	3.64	24.860	
273	D5-30	2		チャート	③	④	③	49.8	37.5	24.8	76.1	4.96	3.45	24.846	
274	D5-31	2		チャート	①	③	③	57.1	42.5	30.6	95.0	5.30	3.46	24.870	
275	D5-32	2		チャート	②	④	③	31.8	24.4	16.6	13.3	5.42	3.63	24.776	
276	D5-33	2		チャート	③	④	③	42.8	33.3	22.7	30.6	5.75	1.40	24.785	
277	D5-34	2		チャート	②	④	③	31.6	31.4	33.0	58.4	6.40	1.40	24.776	
278	D5-35	2		チャート	③	④	③	50.8	28.5	17.7	23.6	4.94	3.00	24.882	
279	D5-36	2		チャート	④	④	③	59.1	46.9	39.7	163.0	4.22	3.18	24.872	
280	D5-37	2		チャート	③	④	③	47.2	22.3	22.0	25.4	4.70	5.95	24.780	
281	D5-38	2		チャート	③	④	③	28.4	20.8	19.4	14.3	5.22	5.90	24.716	
282	D5-39	2		砂岩	④	④	③	65.7	45.5	23.9	64.0	6.60	5.86	24.676	
283	D5-42	2		チャート	③	③	③	37.4	33.9	20.7	45.2	6.40	7.11	24.712	
284	D5-43	2		チャート	④	④	②	61.6	24.0	18.2	38.0	4.63	5.10	24.782	
285	D5-44	2		チャート	①	①	③	32.7	24.0	15.6	11.8	7.14	9.85	24.740	
286	D5-46	2		チャート	③	④	③	38.5	34.3	21.5	31.0	7.89	6.09	24.652	
287	D5-49	2		砂岩	④	④	③	71.8	66.1	27.1	156.9	4.40	0.95	24.864	磨石状
288	D5-50	2		チャート	③	④	③	54.0	23.5	20.3	23.3	3.82	3.03	24.754	
289	D5-51	2	6a	チャート	①	①	②	64.0	50.3	24.1	125.2	4.06	3.12	24.754	
290	D5-52	2		チャート	④	④	③	76.2	28.9	26.3	79.1	4.16	2.95	24.715	
291	D5-53	2		チャート	①	②	③	49.4	42.0	35.2	111.4	4.22	3.06	24.714	
292	D5-54	2		チャート	③	②	③	47.5	20.3	17.1	18.2	4.14	3.34	24.730	
293	D5-55	2	2b	チャート	①	①	③	65.8	41.4	24.8	93.7	4.22	3.40	24.722	
294	D5-56	2		チャート	①	③	②	96.4	53.9	26.7	133.2	4.29	3.20	24.706	
295	D5-57	2		チャート	①	④	②	56.7	45.6	22.6	83.3	4.41	3.00	24.676	
296	D5-58	2		砂岩	③	④	③	66.4	42.3	27.4	97.1	6.66	1.84	24.826	
297	D5-59	2	3a	チャート	①	④	③	46.5	18.0	14.7	21.8	6.66	1.72	24.870	
298	D5-60	2		チャート	①	②	③	50.8	58.0	24.7	111.2	6.60	1.62	24.892	
299	D5-61	2	3b	チャート	③	④	③	66.8	49.2	41.0	180.2	6.60	1.73	24.844	
300	D5-63	2		チャート	①	④	③	36.1	28.7	21.2	40.5	6.70	1.42	24.892	
301	D5-64	2		チャート	③	④	③	46.2	28.0	17.6	33.1	9.33	0.08	24.835	
302	D5-66	2		チャート	③	④	③	51.7	42.8	31.8	81.9	8.40	3.87	24.680	
303	D5-68	2	4a	チャート	①	④	③	42.7	31.4	9.7	17.4	2.70	0.25	24.960	
304	D5-70	2		チャート	③	②	③	39.5	32.9	9.9	12.3	6.63	2.00	24.788	
305	D5-71	2		砂岩	③	④	③	49.7	48.8	35.5	84.1	6.55	1.98	24.800	磨石状
306	D5-72	2		砂岩	③	②	③	42.1	50.1	30.5	64.0	7.12	2.14	24.828	
307	D5-73	2		チャート	①	②	①	59.8	49.1	43.0	180.4	5.10	3.17	24.799	
308	D5-74	2		チャート	③	④	③	80.5	33.1	29.8	135.1	5.20	3.15	24.792	
309	D5-75	2	5a	チャート	①	④	③	42.8	40.2	24.7	51.9	5.26	3.12	24.795	
310	D5-76	2		チャート	①	②	②	75.6	37.2	21.9	66.1	5.46	3.40	24.775	
311	D5-79	2		チャート	③	④	③	41.2	32.7	26.3	58.1	9.75	3.57	24.565	
312	D5-82	2		チャート	③	④	③	23.4	10.1	6.7	1.6	7.90	8.75	24.589	
313	D5-83	2		頁岩	③	④	③	16.9	15.6	9.9	2.9	7.65	8.92	24.543	
314	D5-86	2		砂岩	①	④	③	21.8	14.4	5.9	2.1	9.30	8.75	24.297	
315	D5-88	2		チャート	①	④	③	23.1	28.2	15.3	10.6	8.98	9.65	24.568	
316	D5-89	2		砂岩	③	④	③	19.9	16.9	10.2	3.9	1.76	2.17	24.765	
317	D5-96	2	4b	チャート	①	④	①	72.3	57.1	26.9	128.1	2.68	0.41	24.885	
318	D5-106	2		チャート	①	②	②	66.8	36.1	27.1	79.3	2.63	4.47	24.816	
319	D5-111	2	7a	砂岩	③	①	③	33.8	31.0	19.2	21.2	5.88	0.05	24.818	
320	D5-112	2	7b	砂岩	③	②	③	36.5	27.9	16.0	16.6	5.57	1.75	24.774	
321	D5-114	2		チャート	③	④	③	40.2	28.7	17.4	21.1	4.34	3.42	24.680	
322	D5-116	2		チャート	③	④	③	29.7	23.6	17.1	11.1	4.88	3.62	24.670	
323	D5-117	2		チャート	③	②	③	18.5	13.1	10.5	2.7	4.15	3.84	24.750	
324	D5-118	2	8a	チャート	①	②	③	41.0	27.6	17.8	16.5	5.54	3.96	24.725	
325	D5-120	2		チャート	①	②	②	73.4	54.9	24.7	139.4	4.91	3.21	24.801	
326	D5-121	2		チャート	①	③	①	62.2	49.3	28.9	97.5	4.91	3.24	24.800	
327	D5-122	2	8b	チャート	②	②	③	45.5	19.2	16.3	16.8	4.94	3.26	24.805	
328	D5-123	2		チャート	③	②	③	38.3	22.0	13.9	10.4	4.98	3.30	24.806	
329	D5-124	2	6b	チャート	③	②	③	29.5	19.4	9.2	6.3	5.08	3.17	24.762	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北南(m)	西東(m)	標高(m)	備考
330	D5-125	2		チャート	④	④	③	35.5	22.4	21.3	25.6	5.23	3.09	24.720	
331	D5-126	2	5b	チャート	①	④	③	47.9	33.5	28.9	43.5	5.23	3.20	24.795	
332	D5-127	2	9a	チャート	③	④	②	78.2	50.2	28.3	124.0	5.19	3.31	24.815	
333	D5-128	2		チャート	③	④	①	66.2	51.9	30.2	113.7	5.24	3.26	24.800	
334	D5-129	2	9b	チャート	③	④	③	35.3	15.4	14.1	10.8	5.38	3.29	24.787	
335	D5-130	2	9c	チャート	③	④	③	36.4	25.7	18.9	20.7	5.38	3.32	24.782	
336	D5-131	2		安山岩	③	③	③	39.5	36.7	19.8	24.1	1.53	7.65	24.830	
337	D5-132	3		チャート	①	①	③	13.1	12.8	11.0	2.5	8.75	8.49	24.110	
338	D5-133	3		砂岩	③	④	③	30.6	21.3	15.8	10.6	8.98	9.26	24.174	
339	D5-134	3	9d	チャート	①	④	③	37.2	19.1	12.7	7.9	5.23	3.27	24.770	
340	D6-4	3		チャート	①	①	③	43.4	20.7	10.5	18.6	8.79	2.95	24.807	
341	D6-5	3		チャート	①	①	③	38.2	25.5	14.7	22.7	9.26	3.03	24.778	
342	D6-6	3		チャート	①	④	③	41.7	39.0	17.3	40.5	9.40	3.00	24.780	
343	D6-7	3		チャート	①	①	③	27.1	18.6	20.7	16.0	9.62	3.10	24.770	
344	D6-8	3		安山岩	①	④	②	49.8	40.3	30.9	82.2	9.45	2.80	24.759	
345	D6-9	3		チャート	④	④	③	36.4	18.1	13.8	17.3	9.62	2.65	24.775	
346	D6-10	3		砂岩	①	①	③	36.4	14.3	15.0	21.7	9.75	2.62	24.760	
347	D6-11	3		チャート	④	④	③	34.8	19.2	14.4	22.9	9.99	3.40	24.785	
348	D6-12	3		チャート	①	④	③	39.9	24.4	6.9	11.3	9.00	0.47	24.757	
349	D6-13	3		チャート	④	④	①	52.8	38.1	14.9	50.8	8.92	1.38	24.804	
350	D6-14	3		チャート	①	④	③	31.9	17.2	18.1	15.5	8.93	1.60	24.810	
351	D6-15	3		チャート	④	④	③	47.4	17.6	13.9	19.1	9.03	1.55	24.804	
352	D6-16	3		チャート	①	①	③	30.6	27.5	19.3	28.1	9.03	0.62	24.775	
353	D6-17	3		チャート	①	①	③	33.6	21.7	24.5	34.0	9.55	0.87	24.745	
354	D6-18	3		チャート	①	④	③	48.6	34.5	18.0	51.9	9.62	1.36	24.740	
355	D6-19	3		チャート	④	④	③	52.4	29.2	31.8	72.8	9.93	1.05	24.808	
356	D6-20	3		チャート	④	④	③	58.6	20.6	19.9	30.2	9.65	2.02	24.705	
357	D6-21	3		砂岩	①	④	③	38.6	36.6	10.9	16.4	9.91	2.31	24.687	
358	D6-22	3		チャート	①	④	③	30.4	20.7	5.8	6.6	7.16	0.78	24.762	
359	D6-23	3		チャート	①	①	③	28.4	25.3	13.9	20.7	6.99	0.77	24.833	
360	D6-24	3		チャート	④	④	③	18.6	13.0	5.4	2.1	8.26	0.88	24.728	
361	D6-25	3		砂岩	①	④	③	20.6	9.3	7.5	1.8	8.55	0.86	24.706	
362	D6-27a	3		砂岩	④	①	③	31.4	30.1	14.8	15.4	8.43	1.06	24.700	
363	D6-27b	3		チャート	①	④	③	17.5	12.3	16.9	4.6	8.43	1.06	24.700	
364	D6-28	3		砂岩	①	③	③	37.6	36.5	9.6	17.6	8.15	0.77	24.799	
365	D6-29	3		砂岩	①	④	③	3.5	21.2	3.9	3.3	8.73	2.10	24.742	
366	D6-30	3		砂岩	①	④	③	27.3	25.5	12.9	11.7	8.78	2.39	24.757	
367	D6-31a	3		チャート	①	③	③	27.8	17.8	17.7	18.2	7.63	2.33	24.825	
368	D6-31b	3		チャート	③	①	③	24.0	19.5	13.2	12.9	7.63	2.33	24.825	
369	D6-31c	3		チャート	④	④	③	33.8	14.0	10.6	8.5	7.63	2.33	24.825	
370	D6-31d	3		チャート	①	②	③	32.8	17.1	6.2	4.6	7.63	2.33	24.825	
371	D6-32	3		安山岩	①	②	③	32.6	25.4	9.1	8.6	7.63	2.33	24.833	磨石状
372	D6-33	3		チャート	③	①	③	25.2	24.6	8.2	7.5	8.52	2.37	24.814	
373	D6-34	3		チャート	④	④	③	37.0	20.6	16.1	19.2	8.18	2.87	24.822	
374	D6-35	3		砂岩	①	③	③	34.4	30.6	17.3	21.3	7.46	3.00	24.863	
375	D6-37	3		チャート	①	④	③	24.9	14.8	5.4	2.4	8.86	3.00	24.775	
376	D6-38	3		砂岩	①	④	③	20.0	9.2	8.0	1.4	8.78	3.00	24.803	
377	D6-39	3		チャート	④	④	③	40.4	25.8	15.5	15.5	8.89	3.10	24.815	
378	D6-40	3		砂岩	①	①	③	41.4	39.8	19.6	36.6	8.79	3.18	24.840	
379	D6-41	3		チャート	①	④	③	21.3	13.0	13.7	4.5	8.73	3.28	24.845	
380	D6-42	3		チャート	①	④	③	24.8	9.4	8.3	2.9	7.84	4.10	24.890	
381	D6-43	3		チャート	④	④	③	65.9	24.3	17.4	18.8	8.38	0.85	24.665	
382	D6-44	3		チャート	③	④	③	26.8	17.1	13.1	6.7	8.50	1.35	24.723	
383	D6-45	3		砂岩	①	④	③	14.5	10.8	6.4	1.4	8.21	1.64	24.727	
384	D6-46	3		チャート	④	④	③	10.1	7.4	6.1	0.5	8.60	1.51	24.505	
385	D6-47	3		チャート	①	①	③	16.5	12.7	9.8	2.1	8.97	1.40	24.562	
386	D6-48	3	10a	チャート	③	④	③	19.1	16.3	12.3	5.7	8.67	0.46	24.640	
387	D6-49	3		砂岩	①	④	③	13.6	8.6	4.5	0.7	9.07	1.68	24.195	
388	D6-51	3		チャート	①	②	③	28.0	20.2	15.2	10.0	9.26	1.42	24.535	
389	D6-52	3		チャート	④	④	③	22.8	17.3	11.1	7.3	9.21	1.66	24.140	
390	D6-53	3		チャート	③	④	③	19.6	12.7	8.3	2.5	9.49	1.80	24.642	
391	D6-54	3		チャート	①	④	③	25.9	26.7	14.4	10.8	9.45	1.34	24.632	
392	D6-55	3		チャート	①	④	③	48.9	35.6	22.5	46.9	9.08	0.98	24.613	
393	D6-56	3		チャート	①	④	③	27.5	22.2	12.0	7.7	9.18	0.80	24.535	
394	D6-61	3		チャート	①	④	③	22.6	20.2	7.1	2.9	8.27	2.37	24.712	
395	D6-62	3		砂岩	①	①	③	28.3	20.6	12.1	7.7	8.19	2.50	24.707	

在家遺跡 4 次

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北南(m)	西東(m)	標高(m)	備考
396	D6-63	3		チャート	①	④	③	27.4	18.9	14.0	11.8	8.36	2.45	24.763	
397	D6-64	3		チャート	③	④	③	17.2	17.2	13.3	4.1	8.28	2.60	24.798	
398	D6-65	3		チャート	①	④	③	20.2	13.0	11.5	6.2	8.14	2.77	24.817	
399	D6-66	3		チャート	④	④	③	32.3	11.7	10.7	5.7	8.05	2.89	24.812	
400	D6-67	3		砂岩	①	④	③	12.8	10.9	3.3	0.9	8.53	2.97	24.808	
401	D6-68	3		砂岩	①	④	③	16.9	11.7	7.5	1.2	8.42	3.10	24.805	
402	D6-69	3		チャート	③	④	③	36.5	28.6	14.6	25.2	8.04	3.62	24.750	
403	D6-70	3		砂岩	①	④	③	19.5	12.4	8.0	2.7	8.20	3.60	24.795	
404	D6-71	3		チャート	③	④	③	26.2	15.0	11.8	8.5	8.26	3.78	24.810	
405	D6-72	3		チャート	①	④	③	34.8	14.1	9.0	7.3	8.34	3.69	24.772	
406	D6-73	3		チャート	①	④	③	24.2	13.6	7.3	4.1	8.75	3.98	24.730	
407	D6-74	3		チャート	①	③	③	45.8	18.2	25.7	22.3	8.74	3.87	24.787	
408	D6-75	3		チャート	④	④	③	18.0	6.5	5.4	0.8	8.68	3.50	24.808	
409	D6-76	3		チャート	①	①	③	20.5	18.7	11.3	6.9	8.74	3.33	24.725	
410	D6-77	3		チャート	④	④	③	8.6	2.8	4.4	0.2	8.74	3.23	24.800	
411	D6-78	3		チャート	②	①	③	18.2	13.7	3.5	0.9	8.86	3.34	24.772	
412	D6-79	3		砂岩	①	④	③	23.8	15.2	8.4	3.4	8.86	3.43	24.765	
413	D6-80	3		チャート	①	④	③	13.3	9.5	6.2	1.2	8.70	3.05	24.710	
414	D6-81	3		チャート	①	④	③	15.0	8.0	4.4	0.7	8.77	3.04	24.695	
415	D6-82	3		チャート	④	④	③	22.9	21.2	9.2	6.5	8.75	2.95	24.775	
416	D6-83	3		チャート	④	④	③	15.7	10.7	4.5	1.0	8.73	2.88	24.772	
417	D6-84	3		チャート	①	①	③	11.3	9.0	5.0	0.8	8.66	2.80	24.780	
418	D6-85	3		チャート	④	④	③	30.7	16.3	8.3	5.3	8.75	2.80	24.775	
419	D6-87	3		チャート	①	①	③	21.5	20.6	12.6	11.1	8.70	2.07	24.664	
420	D6-88	3		チャート	④	④	③	17.7	11.2	9.7	2.7	8.80	2.38	24.670	
421	D6-89	3		チャート	①	②	③	21.5	18.6	10.0	4.6	8.90	2.45	24.729	
422	D6-90	3		チャート	①	④	③	23.3	22.8	9.8	7.3	8.95	2.50	24.712	
423	D6-91	3		チャート	①	④	③	31.1	18.8	12.8	11.3	9.05	2.65	24.722	
424	D6-92	3		チャート	④	④	③	29.2	13.9	7.6	4.7	9.17	2.35	24.667	
425	D6-93	3		チャート	④	④	③	40.0	34.9	23.9	42.2	9.33	2.45	24.685	
426	D6-94	3		砂岩	①	④	③	17.7	10.9	12.3	2.4	9.44	2.40	24.700	
427	D6-95	3		チャート	①	①	③	8.4	4.7	5.2	0.2	9.05	2.87	24.655	
428	D6-96	3		チャート	①	③	③	26.9	24.4	11.9	10.8	9.07	3.07	24.780	
429	D6-98a	3		チャート	④	④	③	13.2	8.7	4.7	0.8	9.28	3.39	24.745	
430	D6-98b	3		チャート	④	④	③	10.3	6.3	7.3	0.5	9.28	3.39	24.745	
431	D6-100	3		チャート	④	④	③	45.3	20.5	23.0	25.2	9.35	3.78	24.822	
432	D6-101	3		砂岩	①	④	③	11.2	9.0	3.9	0.9	9.55	3.75	24.657	
433	D6-102	3		チャート	①	④	③	10.7	8.7	1.6	0.3	9.75	3.73	24.685	
434	D6-103	3		チャート	①	④	③	16.4	9.9	5.0	2.0	9.60	3.57	24.730	
435	D6-104	3		チャート	④	④	③	14.3	11.9	5.6	1.2	9.72	3.53	24.743	
436	D6-105	3		チャート	③	④	③	23.1	17.6	17.2	14.1	9.57	3.25	24.707	
437	D6-106	3		砂岩	①	④	③	37.5	16.1	20.0	19.3	6.36	2.15	24.788	
438	D6-107	3		安山岩	③	④	③	41.8	26.6	20.4	35.7	6.51	2.08	24.810	磨石状
439	D6-108	3		砂岩	①	④	③	24.0	16.5	10.7	8.3	6.52	2.29	24.772	
440	D6-110	3		砂岩	①	④	③	39.6	23.0	25.7	31.6	7.25	3.86	24.833	
441	D6-111	3		チャート	③	③	③	27.8	13.5	15.6	9.9	7.82	3.28	24.819	
442	D6-112	3		チャート	③	①	③	30.0	17.6	10.4	8.1	7.97	2.87	24.805	
443	D6-113	3		安山岩	③	②	③	18.0	14.0	8.1	2.8	7.80	2.68	24.790	
444	D6-114	3		チャート	①	④	③	17.6	10.7	8.8	3.7	7.70	2.43	24.835	
445	D6-115	3		チャート	②	④	③	35.1	20.1	32.2	28.4	7.71	2.10	24.725	
446	D6-116	3		チャート	④	④	③	29.5	19.7	16.0	12.6	6.85	1.45	24.795	
447	D6-117	3		チャート	③	①	③	33.7	20.3	10.6	8.3	7.76	1.82	14.712	
448	D6-120	3		チャート	①	③	②	50.1	31.5	37.4	100.8	4.40	5.77	24.820	
449	D6-125	3		チャート	①	④	③	28.5	16.6	8.9	6.5	8.77	3.00	24.745	
450	D6-126	3		チャート	①	①	③	31.1	18.6	17.6	17.7	8.67	3.00	24.654	
451	D6-129	3		チャート	①	④	③	28.1	13.7	11.5	8.0	9.76	2.68	24.716	
452	E5-2	3		砂岩	③	②	③	79.8	25.5	18.1	67.7	1.11	8.47	24.760	
453	E5-3	3		砂岩	③	④	③	43.3	26.1	24.0	54.5	1.16	8.40	24.769	
454	E5-4	3		チャート	③	④	③	34.7	31.3	23.9	33.5	1.22	8.52	24.755	
455	E5-5	3		安山岩	④	③	③	45.5	34.8	33.0	69.6	1.23	8.44	24.768	磨石状
456	E6-2	3		チャート	④	④	③	43.0	40.6	13.8	20.7	0.26	0.59	24.900	
457	E6-3	3		チャート	④	④	③	69.1	26.8	19.0	50.2	0.26	1.36	24.700	
458	E6-4	3		砂岩	③	②	③	37.6	33.7	13.4	33.5	0.36	1.88	24.739	
459	E6-5	3		砂岩	③	④	③	41.0	26.1	20.1	36.0	0.62	2.12	24.678	
460	E6-6	3		チャート	④	④	③	33.7	19.2	16.2	14.9	0.46	3.76	24.739	
461	E6-7	3		チャート	③	④	③	34.6	18.5	7.4	8.9	0.19	3.32	24.766	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北南(m)	西東(m)	標高(m)	備考
396	D6-63	3		チャート	①	④	③	27.4	18.9	14.0	11.8	8.36	2.45	24.763	
397	D6-64	3		チャート	③	④	③	17.2	17.2	13.3	4.1	8.28	2.60	24.798	
398	D6-65	3		チャート	①	④	③	20.2	13.0	11.5	6.2	8.14	2.77	24.817	
399	D6-66	3		チャート	④	④	③	32.3	11.7	10.7	5.7	8.05	2.89	24.812	
400	D6-67	3		砂岩	①	④	③	12.8	10.9	3.3	0.9	8.53	2.97	24.808	
401	D6-68	3		砂岩	①	④	③	16.9	11.7	7.5	1.2	8.42	3.10	24.805	
402	D6-69	3		チャート	③	④	③	36.5	28.6	14.6	25.2	8.04	3.62	24.750	
403	D6-70	3		砂岩	①	④	③	19.5	12.4	8.0	2.7	8.20	3.60	24.795	
404	D6-71	3		チャート	③	④	③	26.2	15.0	11.8	8.5	8.26	3.78	24.810	
405	D6-72	3		チャート	①	④	③	34.8	14.1	9.0	7.3	8.34	3.69	24.772	
406	D6-73	3		チャート	①	④	③	24.2	13.6	7.3	4.1	8.75	3.98	24.730	
407	D6-74	3		チャート	①	③	③	45.8	18.2	25.7	22.3	8.74	3.87	24.787	
408	D6-75	3		チャート	④	④	③	18.0	6.5	5.4	0.8	8.68	3.50	24.808	
409	D6-76	3		チャート	①	①	③	20.5	18.7	11.3	6.9	8.74	3.33	24.725	
410	D6-77	3		チャート	④	④	③	8.6	2.8	4.4	0.2	8.74	3.23	24.800	
411	D6-78	3		チャート	②	①	③	18.2	13.7	3.5	0.9	8.86	3.34	24.772	
412	D6-79	3		砂岩	①	④	③	23.8	15.2	8.4	3.4	8.86	3.43	24.765	
413	D6-80	3		チャート	①	④	③	13.3	9.5	6.2	1.2	8.70	3.05	24.710	
414	D6-81	3		チャート	①	④	③	15.0	8.0	4.4	0.7	8.77	3.04	24.695	
415	D6-82	3		チャート	④	④	③	22.9	21.2	9.2	6.5	8.75	2.95	24.775	
416	D6-83	3		チャート	④	④	③	15.7	10.7	4.5	1.0	8.73	2.88	24.772	
417	D6-84	3		チャート	①	①	③	11.3	9.0	5.0	0.8	8.66	2.80	24.780	
418	D6-85	3		チャート	④	④	③	30.7	16.3	8.3	5.3	8.75	2.80	24.775	
419	D6-87	3		チャート	①	①	③	21.5	20.6	12.6	11.1	8.70	2.07	24.664	
420	D6-88	3		チャート	④	④	③	17.7	11.2	9.7	2.7	8.80	2.38	24.670	
421	D6-89	3		チャート	①	②	③	21.5	18.6	10.0	4.6	8.90	2.45	24.729	
422	D6-90	3		チャート	①	④	③	23.3	22.8	9.8	7.3	8.95	2.50	24.712	
423	D6-91	3		チャート	①	④	③	31.1	18.8	12.8	11.3	9.05	2.65	24.722	
424	D6-92	3		チャート	④	④	③	29.2	13.9	7.6	4.7	9.17	2.35	24.667	
425	D6-93	3		チャート	④	④	③	40.0	34.9	23.9	42.2	9.33	2.45	24.685	
426	D6-94	3		砂岩	①	④	③	17.7	10.9	12.3	2.4	9.44	2.40	24.700	
427	D6-95	3		チャート	①	①	③	8.4	4.7	5.2	0.2	9.05	2.87	24.655	
428	D6-96	3		チャート	①	③	③	26.9	24.4	11.9	10.8	9.07	3.07	24.780	
429	D6-98a	3		チャート	④	④	③	13.2	8.7	4.7	0.8	9.28	3.39	24.745	
430	D6-98b	3		チャート	④	④	③	10.3	6.3	7.3	0.5	9.28	3.39	24.745	
431	D6-100	3		チャート	④	④	③	45.3	20.5	23.0	25.2	9.35	3.78	24.822	
432	D6-101	3		砂岩	①	④	③	11.2	9.0	3.9	0.9	9.55	3.75	24.657	
433	D6-102	3		チャート	①	④	③	10.7	8.7	1.6	0.3	9.75	3.73	24.685	
434	D6-103	3		チャート	①	④	③	16.4	9.9	5.0	2.0	9.60	3.57	24.730	
435	D6-104	3		チャート	④	④	③	14.3	11.9	5.6	1.2	9.72	3.53	24.743	
436	D6-105	3		チャート	③	④	③	23.1	17.6	17.2	14.1	9.57	3.25	24.707	
437	D6-106	3		砂岩	①	④	③	37.5	16.1	20.0	19.3	6.36	2.15	24.788	
438	D6-107	3		安山岩	③	④	③	41.8	26.6	20.4	35.7	6.51	2.08	24.810	磨石状
439	D6-108	3		砂岩	①	④	③	24.0	16.5	10.7	8.3	6.52	2.29	24.772	
440	D6-110	3		砂岩	①	④	③	39.6	23.0	25.7	31.6	7.25	3.86	24.833	
441	D6-111	3		チャート	③	③	③	27.8	13.5	15.6	9.9	7.82	3.28	24.819	
442	D6-112	3		チャート	③	①	③	30.0	17.6	10.4	8.1	7.97	2.87	24.805	
443	D6-113	3		安山岩	③	②	③	18.0	14.0	8.1	2.8	7.80	2.68	24.790	
444	D6-114	3		チャート	①	④	③	17.6	10.7	8.8	3.7	7.70	2.43	24.835	
445	D6-115	3		チャート	②	④	③	35.1	20.1	32.2	28.4	7.71	2.10	24.725	
446	D6-116	3		チャート	④	④	③	29.5	19.7	16.0	12.6	6.85	1.45	24.795	
447	D6-117	3		チャート	③	①	③	33.7	20.3	10.6	8.3	7.76	1.82	14.712	
448	D6-120	3		チャート	①	③	②	50.1	31.5	37.4	100.8	4.40	5.77	24.820	
449	D6-125	3		チャート	①	④	③	28.5	16.6	8.9	6.5	8.77	3.00	24.745	
450	D6-126	3		チャート	①	①	③	31.1	18.6	17.6	17.7	8.67	3.00	24.654	
451	D6-129	3		チャート	①	④	③	28.1	13.7	11.5	8.0	9.76	2.68	24.716	
452	E5-2	3		砂岩	③	②	③	79.8	25.5	18.1	67.7	1.11	8.47	24.760	
453	E5-3	3		砂岩	③	④	③	43.3	26.1	24.0	54.5	1.16	8.40	24.769	
454	E5-4	3		チャート	③	④	③	34.7	31.3	23.9	33.5	1.22	8.52	24.755	
455	E5-5	3		安山岩	④	③	③	45.5	34.8	33.0	69.6	1.23	8.44	24.768	磨石状
456	E6-2	3		チャート	④	④	③	43.0	40.6	13.8	20.7	0.26	0.59	24.900	
457	E6-3	3		チャート	④	④	③	69.1	26.8	19.0	50.2	0.26	1.36	24.700	
458	E6-4	3		砂岩	③	②	③	37.6	33.7	13.4	33.5	0.36	1.88	24.739	
459	E6-5	3		砂岩	③	④	③	41.0	26.1	20.1	36.0	0.62	2.12	24.678	
460	E6-6	3		チャート	④	④	③	33.7	19.2	16.2	14.9	0.46	3.76	24.739	
461	E6-7	3		チャート	③	④	③	34.6	18.5	7.4	8.9	0.19	3.32	24.766	

番号	遺物番号	礫群	接合	石質	赤化	付着物	残存	長さ	幅	厚さ	重量	北-南(m)	西-東(m)	標高(m)	備考
462	E6-8	3		チャート	④	①	③	31.5	26.8	15.4	17.1	0.80	2.08	24.667	
463	E6-9	3		チャート	③	④	③	35.7	25.2	29.5	21.1	0.89	0.76	24.866	
464	E6-10	3		チャート	①	④	③	27.4	18.6	21.7	20.2	1.08	1.93	24.670	
465	E6-11	3		チャート	③	④	③	29.9	20.5	15.2	19.5	1.52	1.77	24.645	
466	E6-12	3		チャート	③	④	③	37.0	33.4	27.2	52.3	1.94	2.33	24.620	
467	E6-13a	3		チャート	④	④	③	33.2	29.0	19.0	23.9	0.85	1.45	24.720	
468	E6-13b	3		チャート	④	④	③	39.6	21.0	14.7	17.8	0.85	1.45	24.720	
469	E6-14	3		チャート	④	④	③	27.9	19.5	18.2	15.1	0.97	1.34	24.788	
470	E6-15	3		チャート	①	④	③	54.1	33.1	22.0	60.0	0.80	1.10	24.720	
471	E6-16	3		チャート	④	④	③	43.8	22.3	10.2	11.7	0.97	1.02	24.690	
472	E6-17	3		チャート	③	④	③	43.3	26.6	24.1	44.5	1.56	1.32	24.665	
473	E6-18	3		砂岩	①	②	③	37.9	35.0	16.8	32.4	1.43	1.19	24.700	
474	E6-19	3		砂岩	①	②	③	31.6	27.1	15.5	26.8	1.53	1.17	24.590	
475	E6-20	3		チャート	④	④	③	30.2	19.4	18.2	17.1	1.79	0.31	24.198	
476	E6-21	3		安山岩	③	①	③	46.4	26.4	21.8	30.1	1.40	0.08	24.617	
477	E6-23	3		砂岩	③	①	③	24.4	15.6	11.3	6.5	0.50	0.28	24.458	
478	E6-24	3	10b	チャート	③	④	③	13.5	12.8	8.6	2.9	0.55	0.80	24.384	
479	E6-25	3		チャート	③	④	③	23.8	14.3	13.4	4.9	0.70	0.80	24.508	
480	E6-27	3		チャート	③	④	③	27.1	18.3	9.6	6.4	0.20	2.16	24.553	
481	E6-28	3		チャート	③	④	③	40.1	29.1	16.4	26.0	0.87	2.14	24.555	
482	E6-29	3		チャート	③	④	③	18.8	8.8	8.0	1.7	1.05	2.12	24.587	
483	E6-30	3		チャート	③	④	③	40.3	27.6	23.5	31.1	1.10	2.07	24.557	
484	E6-31	3		チャート	④	④	③	28.8	26.4	18.0	20.3	1.22	2.04	24.515	
485	E6-32	3		砂岩	③	④	③	13.4	8.8	5.8	1.1	1.35	2.06	24.174	
486	E6-33	3		チャート	④	④	③	19.3	11.6	9.2	2.3	1.99	2.51	24.555	
487	E6-34a	3		チャート	④	④	③	20.4	12.4	6.1	1.6	1.70	2.74	24.492	
488	E6-34b	3		チャート	④	④	③	17.7	5.7	5.3	0.8	1.70	2.74	24.492	
489	E6-35	3		チャート	④	④	③	23.2	18.8	5.2	2.9	1.58	2.61	24.618	
490	E6-36	3		チャート	③	④	③	11.0	6.9	4.6	0.5	1.45	2.63	24.553	
491	E6-37	3		チャート	④	④	③	8.1	6.6	4.1	0.4	1.40	2.56	24.528	
492	E6-38	3		チャート	③	④	③	20.8	18.9	11.9	5.9	1.38	2.46	24.600	
493	E6-39	3		チャート	③	①	③	16.9	12.2	9.3	2.5	1.03	2.40	24.465	
494	E6-40	3		チャート	③	④	③	12.1	4.3	3.2	0.6	0.95	2.42	24.625	
495	E6-41	3		チャート	③	④	③	21.5	14.1	12.2	3.8	1.18	2.93	24.598	
496	E6-42	3		チャート	③	④	③	33.1	27.0	17.5	19.4	0.67	2.54	24.653	
497	E6-43	3		チャート	④	④	③	16.6	12.5	8.2	1.5	0.48	2.75	24.614	
498	E6-44	3		チャート	③	④	③	20.3	14.4	4.5	2.0	0.24	2.66	24.645	
499	E6-45	3		チャート	④	④	③	18.0	14.0	10.0	5.2	0.80	3.13	24.678	
500	E6-46	3		ホルンフェルス	④	④	③	36.8	15.4	19.8	11.0	0.58	3.25	24.625	
501	E6-47	3		チャート	③	④	③	10.1	9.7	4.6	0.7	0.20	3.46	24.698	
502	E6-50	3		チャート	①	④	③	24.8	14.1	9.9	3.5	2.56	2.20	24.382	
503	E6-51	3		チャート	④	④	③	25.3	17.3	7.2	4.0	1.13	2.20	24.510	

凡例

長さ・幅・厚さの単位はmmとし、折損の場合は、() で表示

出土位置を示す座標は北西杭を基準とした10×10mの基本グリッドであり、遺物番号に付されたグリッド名を参照。

赤化①：全面赤化している礫。完形礫の場合は焼成を受けたもの。破損礫の場合は原礫面及び割れ口面全てが焼成を受けたもの。

赤化②：破損礫で原礫面が焼成され、割れ口が未焼成なもの。

赤化③：破損礫で原礫面及び一部の割れ口面が焼成され、一部の割れ口は未焼成なもの。

赤化④：完形礫、破損礫共に未焼成なもの。

付着物①：スス状（光沢の無い黒色物が面的に存在。）

付着物②：タール状（光沢のある点状の黒色物の存在。）

付着物③：スス状、タール状が両方付着するもの。

付着物④：付着物なし。

残存①：完形礫

残存②：準完形礫（9割以上残存）

残存③：破損礫

(2) 縄文時代

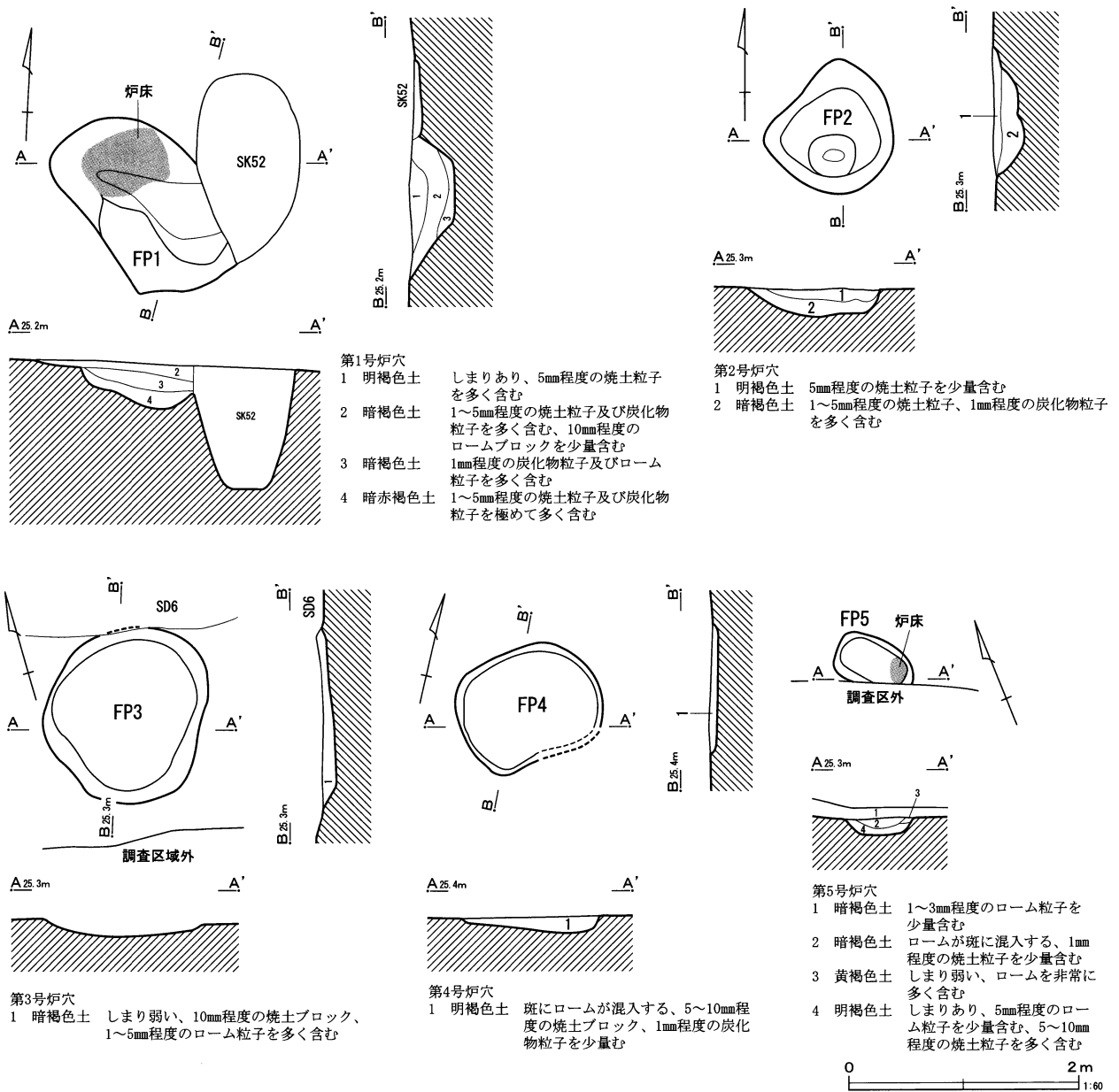
在家遺跡第4次調査で縄文時代の遺構は、縄文時代早期の炉穴5基、落とし穴3基、縄文時代中期と考えられる集石土壇1基が検出された。いずれも調査区南側に位置する。

炉穴は隣接するB区でも検出され、縄文時代早期後半の条痕文土器が出土している。4次調査で検出された炉穴も同時期のものである。4次調査では埋没谷谷頭部周囲に分布するのに対し、B区では、南側の大きな谷部の近くで検出され、分布域が離れて

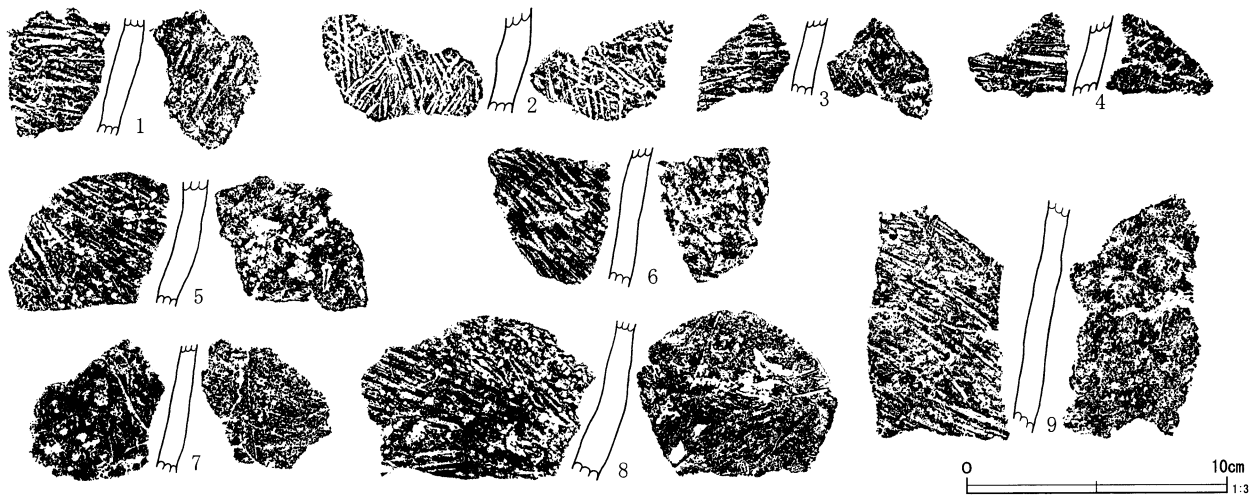
いる。

落とし穴は地形の傾斜に長軸方向を合わせて構築されている。長楕円形で、幅狭で底面からほぼ垂直に立ち上がり、上部で漏斗状に開く形態である。在家遺跡A区で同様の落とし穴が検出されている。

集石土壇は在家遺跡では初めて検出された。1基しか検出されなかったが、調査区外へ分布が広がる可能性がある。



第41図 炉穴



第42図 第1号炉穴出土土器

a 炉穴

炉穴は調査区南東隅の埋没谷谷頭部の周囲で検出された。4次調査で発見された炉穴は、掘込みの少ない小規模なものが多く、炉床の赤化も少ない。

隣接するB区でも同様の炉穴が検出されており、B区南側の大きな谷部に面して分布している。4次調査の炉穴と分布域が離れていることがわかる。

第1号炉穴 (第41図)

D-4グリッドに位置する。長径1.74m、短径1.02mで、深さは0.39mで、長軸方向はN-39°-Wである。近世の所産と考えられる第52号土壙と重複する。炉床は北西に偏った状態でみられる。炉床は赤化し硬化している。

第1号炉穴出土土器 (第42図1~9)

いずれも縄文時代早期後半条痕文系土器の胴部破片である。

表面の条痕は7が不明瞭である以外は明瞭な条痕を横位、斜位に施す。

1~3・6は内面にも斜位に条痕を施す。4・5・7~9の内面の条痕は不明瞭である。

第2号炉穴 (第41図)

C-4グリッドに位置する。長径1.18m、短径1.14m、深さは0.27mで、長軸方向はN-0°-Eである。

炉穴内には浅いピット状の落ち込みがみられる。明瞭な炉床は検出されなかったが、覆土中に焼土粒子、炭化物を含む。遺物は検出されなかった。

第3号炉穴 (第41図)

D-3グリッドに位置する。長径1.48m、短径1.38m、深さは0.14mで、長軸方向はN-12°-Wである。

明瞭な炉床は検出されなかったが、覆土中に焼土ブロック、焼土粒子を含む。遺物は検出されなかった。

第4号炉穴 (第41図)

C-3グリッド南東部に位置する。長径1.24m、短径0.96mで、長軸方向はN-37°-Wである。

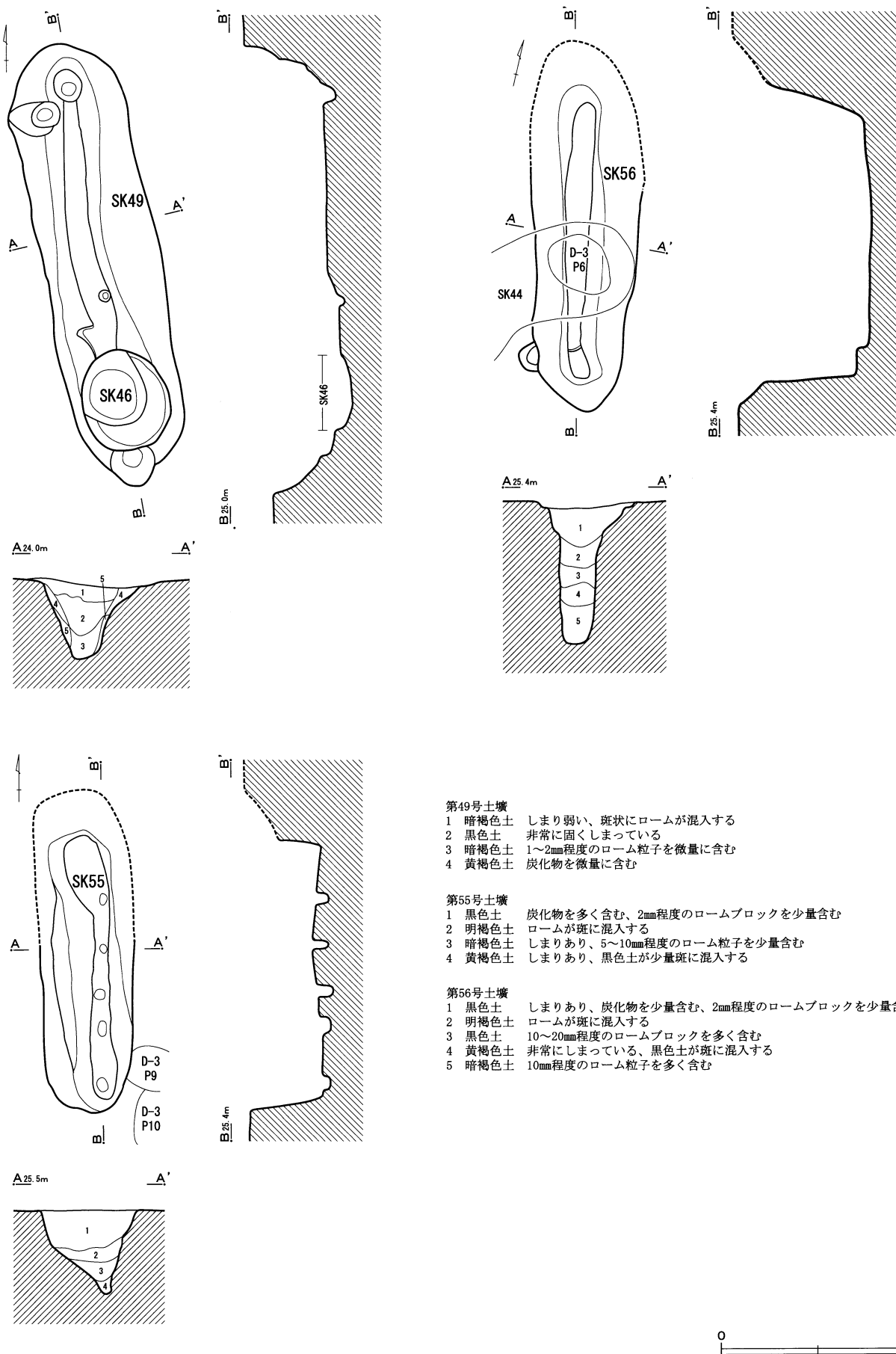
明瞭な炉床は検出されなかったが、覆土中に焼土ブロック、炭化物粒子を含む。遺物は検出されなかった。

第5号炉穴 (第41図)

D-6グリッドに位置する。長径0.70m、短径0.40mで長軸方向はN-42°-Eである。

きれいな隅丸方形を呈す。4分の1程度は、調査区外へ及ぶ。炉床は、東側の一部のみ検出された。

覆土中には焼土粒子が多く見られた。遺物は検出されなかった。



第49号土坑

- 1 暗褐色土 しまり弱い、斑状にロームが混入する
- 2 黒色土 非常に固くしまっている
- 3 暗褐色土 1~2mm程度のローム粒子を微量に含む
- 4 黄褐色土 炭化物を微量に含む

第55号土坑

- 1 黒色土 炭化物を多く含む、2mm程度のロームブロックを少量含む
- 2 明褐色土 ロームが斑に混入する
- 3 暗褐色土 しまりあり、5~10mm程度のローム粒子を少量含む
- 4 黄褐色土 しまりあり、黒色土が少量斑に混入する

第56号土坑

- 1 黒色土 しまりあり、炭化物を少量含む、2mm程度のロームブロックを少量含む
- 2 明褐色土 ロームが斑に混入する
- 3 黒色土 10~20mm程度のロームブロックを多く含む
- 4 黄褐色土 非常にしまっている、黒色土が斑に混入する
- 5 暗褐色土 10mm程度のローム粒子を多く含む

第43図 落とし穴

b 落とし穴

落とし穴は3基のみであるが、縄文時代炉穴と同様、調査区南側に分布する。長軸方向は3基共に北北西から南南東方向を指し、地形の傾斜する方向に向けて構築されている。出土遺物は無く明確な時期決定は出来ないが形態から縄文時代早期の所産と考えられる。

第49号土壌（落とし穴）（第43図）

D-5グリッドに位置する。落とし穴の長軸は埋没谷に向かっており、地形の傾斜する方向と同一である。平面形は船底状の長楕円形である。

近世の所産と考えられる第46号土壌と重複する。長軸4.6m、短軸1.2m、深さ1.0mで、長軸方向はN-10°-Wである。底面から、幅狭でほぼ垂直に立ち上がり、上部で開く漏斗状に掘削されている。

底面からは、ピット状の小穴が検出された。遺物は出土しなかった。

第55号土壌（落とし穴）（第43図）

D-3グリッド北西部に位置し、第56号土壌と対をなすように分布する。

調査区南東部の埋没谷ではなく、B区南側の大きな谷に向けて構築されているようである。長軸3.2m、短軸0.9m、深さ0.9mで、長軸方向はN-3°-Wである。

平面形は船底状の長楕円形である。横断面は底面が幅狭で上部に向かって末広がりになる形状である。底面からはピット状の小穴が長軸方向に4個並んで検出された。遺物は出土しなかった。

第56号土壌（落とし穴）（第43図）

D-3グリッド北西部に位置し、第55号土壌と対をなすように分布する。近世以降の所産と考えられる第44号土壌と重複する。

長軸3.7m、短軸1.0m、深さ1.4mで、長軸方向はN-14°-Wである。平面形は船底状の長楕円形である。横断面は底面から幅狭で、垂直に立ち上がり上部で開く漏斗状である。底面からはピット状の小穴は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

c 集石土壌

第8号土壌（集石土壌）（第44図）

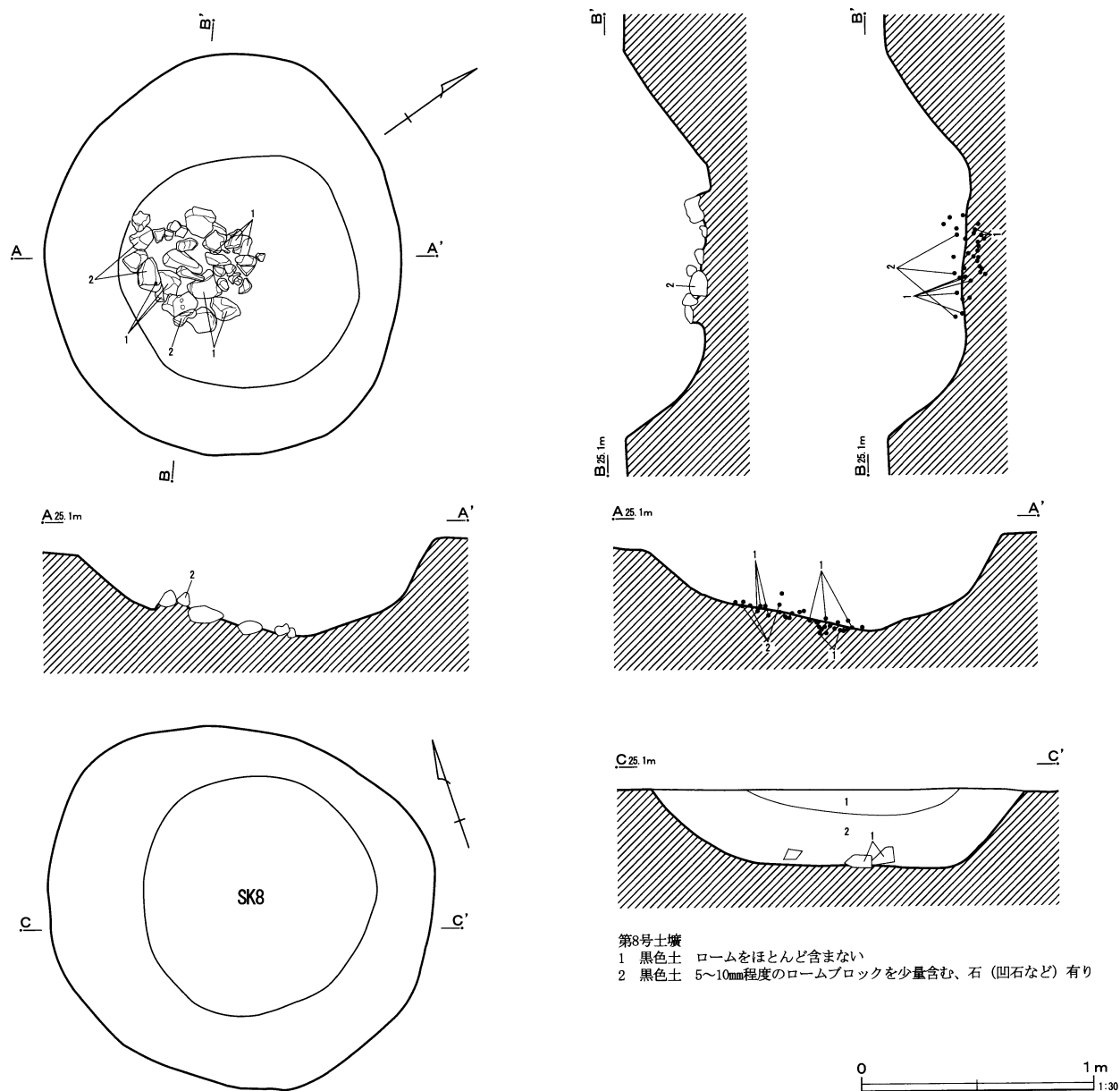
在家遺跡第4次で、縄文時代中期の所産と考えられる遺構はこの1基のみである。隣接するB区でも集石土壌は検出されていない。この集石土壌は調査区北東部に位置し、調査区外の北側、東側に集石土壌群が広がる可能性がある。

C-5・C-6グリッドで検出された。土壌の大きさは、長軸1.6m、短軸1.5m、深さ0.3mで、長軸方向はN-40°-Eである。ほぼ円形に近い形状をしており、土壌底面は平らな部分が広く、緩やかに立ち上がる。

土壌内の堆積層は2層に分けられ、1層はロームをほとんど含まない黒色土である。2層はロームブロックを含む黒色土である。いずれも炭化物粒を混入する。土壌内からは、71点、15.6kgの礫や石器が出土した。それらはすべて、2層土から出土しており、いずれも土壌底面付近に出土していることから、土壌底面での礫の使用の可能性も考えられるが、土壌底面に火気を受けた痕跡は明瞭ではない。

出土した礫は砂岩42点、チャート28点、ホルンフェルス1点で、重量は砂岩14.3kg、チャート1.1kgである。礫は接合し、砂岩製礫の接合個体は11個体、チャート製礫の接合個体は、2個体復元できた。砂岩の場合、チャートと比べて細かく破碎せず、拳大より大きい礫が多いのに対し、チャートのものは、細かく破碎が進んでいる。完形礫は無く、いずれも破損している。破損礫はほぼ完形に近い形まで復元でき、土壌内での接合率は極めて高い。

砂岩礫の場合、赤化が明瞭なものが多いが、チャート礫の場合、赤化が明瞭なものは少ない。いずれも被熱のために破損したと考えられるが、チャートの方が砂岩よりも、割れやすい性質を持ち、早い段階で破損したと推測される。砂岩礫にはスス状の付着物やタール状の付着物がわずかに観察される。チャート礫に関してはスス状の付着物、タール状の付着物は観察できなかった。



第44図 第8号土壌（集石土壌）

第8号土壌（集石土壌）出土遺物（第45図）

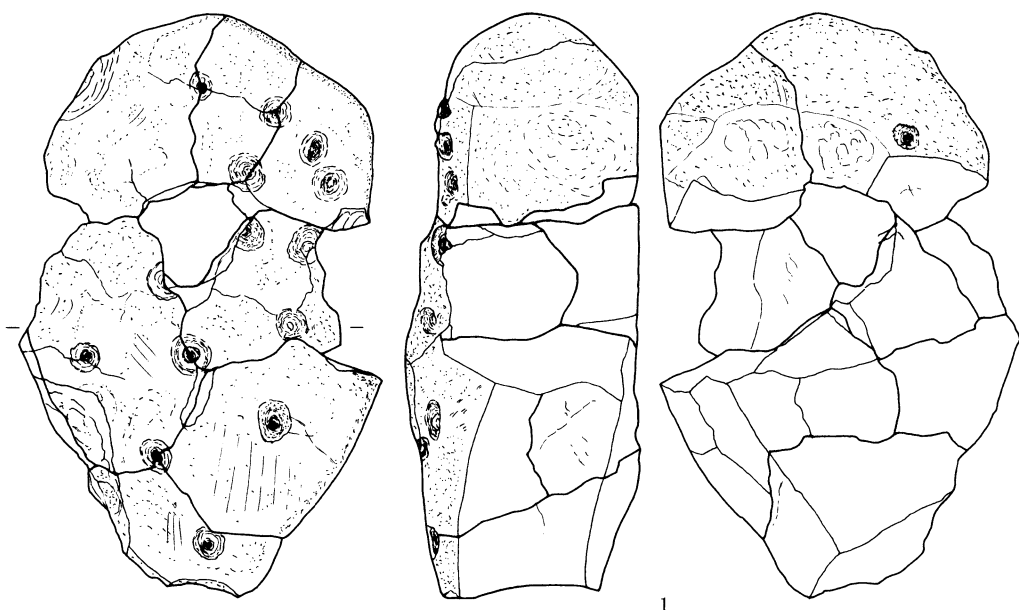
3点とも砂岩製の凹石である。やや軟質の砂岩を素材とし、石質は類似している。集石土壌内の石器はこの3点のみである。集石用の礫として転用され、いずれも土壌底面に接して出土している。

1は、10点が接合した。接合後の大きさは、長径29cm、短径17cm、厚さ11cmを測り、重さは5.7kgである。本来の大きさは、長さ35cm、幅20cm程度と考えられ、石鹼形に整形されている。被熱により顕著に

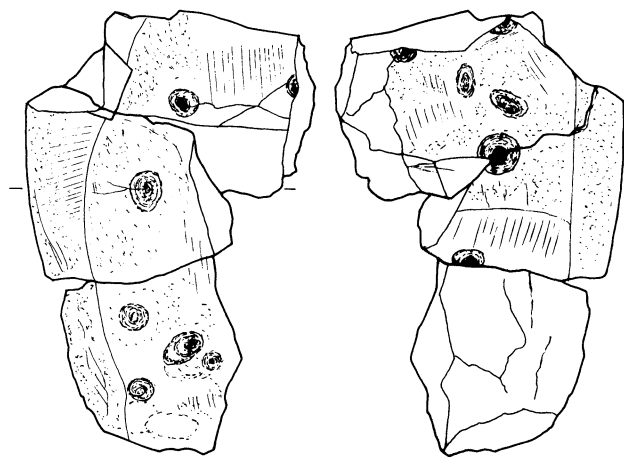
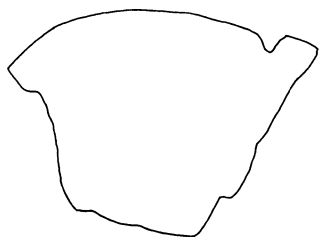
破碎されており、破損面にはスス状の付着物が観察される。

2は6点が接合し、接合後の大きさは、長径22cm、短径13cm、厚さ14cmを測り、重量は4kgである。破損しているが1と同じく石鹼形を呈する凹石と考えられる。破損面にはスス状の付着物が観察される。

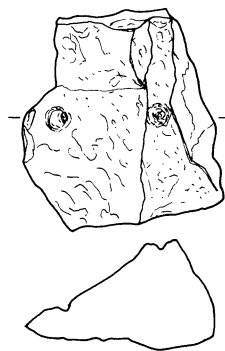
3は破損した状態で長径10cm、短径9cm、厚さ6cmを測り、重量は0.6kgである。表面にわずかに凹みが残存しているが、被熱により剥落している。



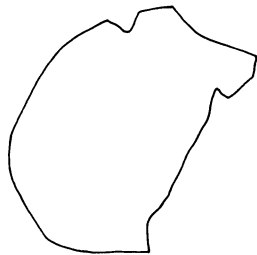
1



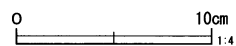
2



3



第45图 第8号土壙出土石器



遺構外出土縄文土器・石器 (第46図 1～33)

1～5は早期末の条痕土器である。1は口唇部に刺突、口縁部に竹管文、沈線文を施す。内面の条痕は不明瞭である。2は口縁部に沿って竹管文、斜位に沈線文を施す。内外面に明瞭な条痕を施す。3～5は胴部の破片である。いずれも内面の条痕は不明瞭である。

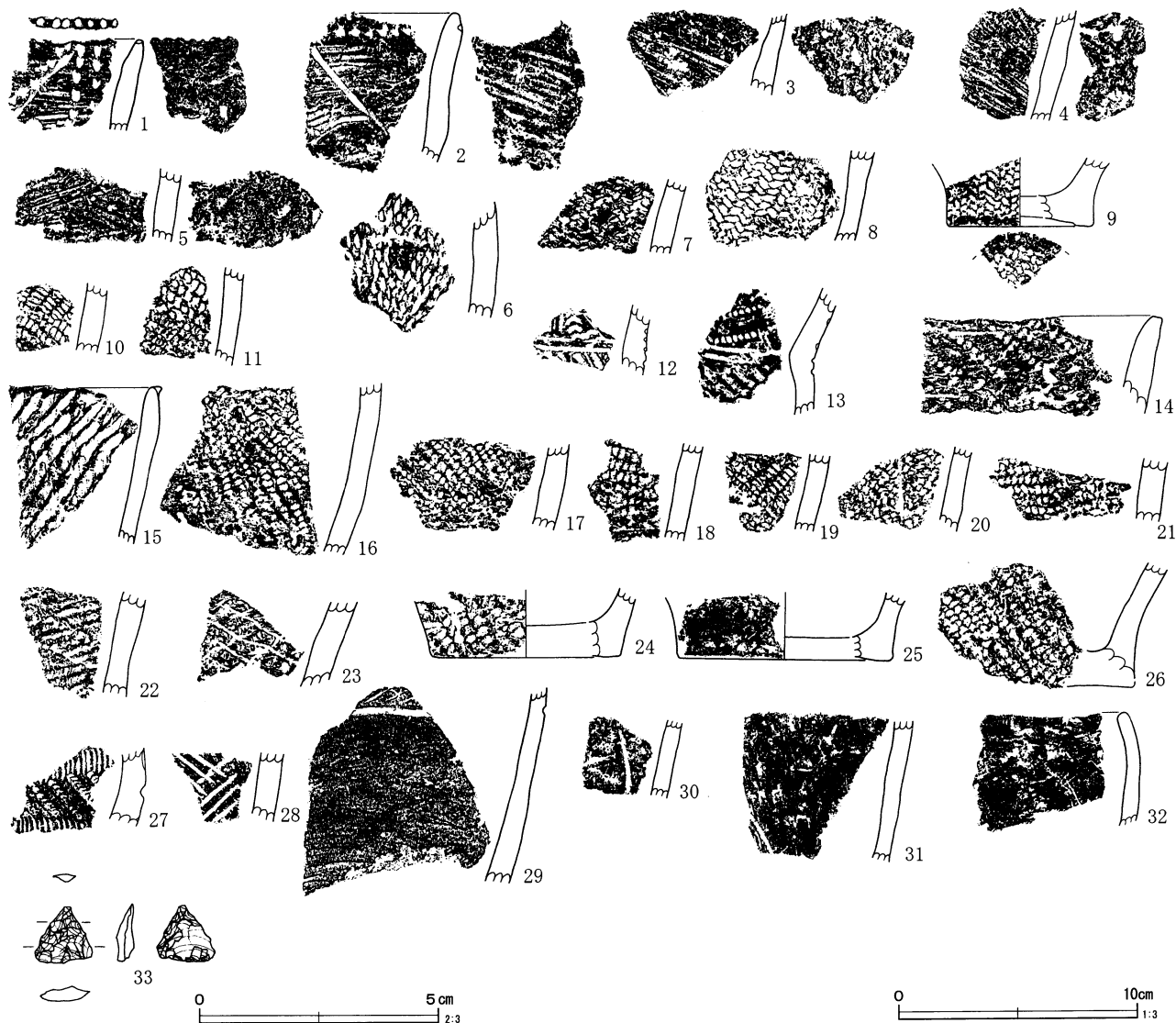
6～26は前期の土器である。6は撚糸文を菱形の構成で施文している。

7～12は関山式と思われる。7～9は組紐、10～12は単節の縄文を施す。9は底部の破片で、底面にも縄文を施す。10は羽状縄文を構成している。12は竹管文を施す。13～23は黒浜式と思われる。内

面の調整はいずれも丁寧であり、関山式の胴部破片も含んでいるかもしれない。13・15・22・23・25は無節、それ以外は単節の縄文を施文している。13は括れ部、14・15は口縁部、16～23は胴部、24～26は底部の破片である。

27・28は中期の勝坂式である。27は竹管文と爪形文、28は沈線文を施す。

29～32は後・晩期の土器である。29は横線と縄文を施す。後期の加曾利B式であろう。30・31は沈線文を施す。後期の土器と思われる。32は口縁部が内彎する晩期の無文土器である。33は石鏃である。石質は黒曜石である。長さ1.1cm、幅1.2cm、厚さ0.3cm、0.3gである。



第46図 遺構外出土縄文土器・石器

(3) 中・近世

a 溝跡 (第47図)

今回の調査では、10条の溝跡が検出された。調査区南東隅に湾入する埋没谷の谷頭を取り巻く斜面地に分布する一群と台地の肩部を画する一群に大きく分けられる。このうち調査区の西端に位置する第9号溝跡は、南側に隣接するB区で検出された第1号溝跡に繋がる可能性が考えられる。

全体に出土遺物が少なく、溝の性格や時期を特定することは難しいが、遺構の重複関係などから大半が近世以降の所産と推定される。

第1号溝跡

調査区北辺に並行して東西に約38m、ほぼ直線的に延びる。東寄りの部分には、北から第2・3・4号溝跡が直交するように取り付く。溝幅は1.8~4.3mと幅広いが、深さは0.45m以下と浅く、南壁がなだらかに立ち上がる。

埋土はローム粒子混じりの黒色土が主体で、土層断面の観察から第2号土壌に切られていることがわかった。

出土遺物は、土師質土器皿と丸瓦の破片が検出された(第55図)。1の土師質土器皿は小振りのもので、ロクロ整形の痕跡から、中世のものと思われる。

2の丸瓦の破片は、砂質の胎土で両面ともにナデ調整を施しており、古代に遡るものであろう。

第1号溝跡は、出土遺物の年代から近世の掘削と考えられる。その性格は現道におおむね並行することから、地境などの区画溝の可能性が考えられる。

第2・3・4号溝跡

第2・3・4号溝跡の3条は、第1号溝跡の東寄りに取り付くように台地上から斜面部に向かって、一部重複しながら、並走するように掘削されている。いずれも溝幅約50cm、深さ18cm以下と小さい。溝の走行方向には、第7・8・10号溝跡があり、本来は同一の可能性もある。性格については、第1号溝跡との関連が明確でないため判然としないが、埋没谷

の方を向いていることから、排水を目的に掘削されたのであろうか。

各溝跡とも出土遺物がなく、時期は不明である。

第5号溝跡

調査区中央の谷に面した斜面部に位置し、北東方に延び、東端でやや不自然に屈曲する。溝の規模は長さ約7.5m、幅0.6m、深さ0.1m以下と小さい。

出土遺物はなく、時期は不明である。

第6号溝跡

調査区中央南辺に位置し、西から谷部に向かってほぼ直線的に延びる。溝の規模は、長さ約8.6m、幅1.0m、深さ0.15m以下と小さい。第22・23号土壌と重複しているが、新旧関係は不明である。

遺物は出土しなかった。

第7・8号溝跡

調査区東側中央の埋没谷の谷頭に位置し、南下する第8号溝跡に第7号溝跡が合流しながら、谷部へ下り、南端が大きく広がる。溝跡の規模は、第7号溝跡が長さ約6.2m、幅1.8m、深さ0.1m以下、第8号溝跡が長さ約2.7m、幅0.6m、深さ0.15m以下である。また、西側に第10号溝跡が並行する。

両溝とも出土遺物がなく、時期は不明である。

第9号溝跡

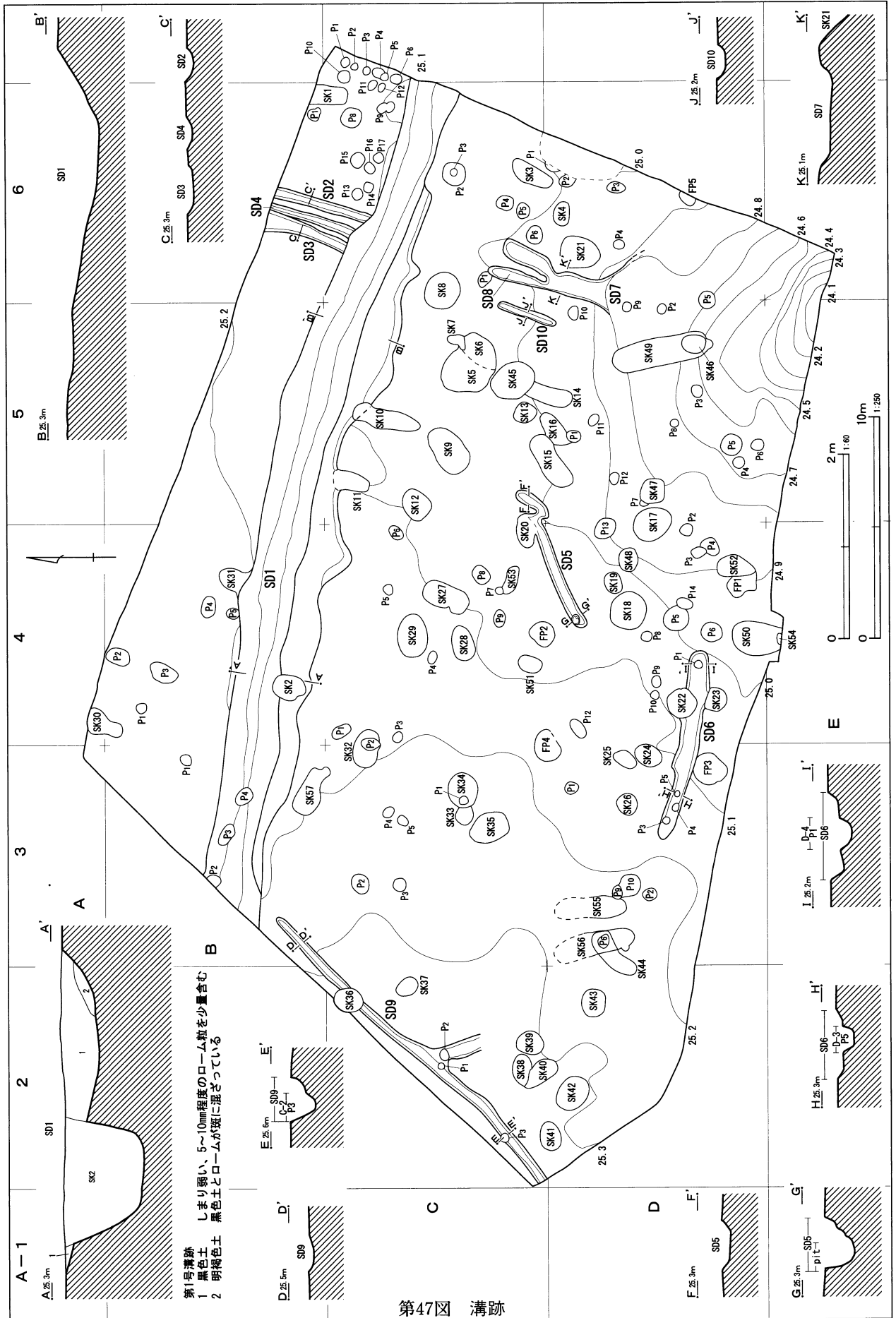
調査区西辺に並行するように南西方向に走行し、調査区外へと続く。途中に南東方向に分枝する溝が取り付く。第36号土壌と重複するが、新旧関係は不明である。溝の規模は、長さ約17.2m、幅0.9m、深さ0.3m以下である。

遺物は出土しなかった。

第10号溝跡

埋没谷の谷頭部斜面部に位置し、南下する。溝の規模は、長さ約2.7m、幅約40cm、深さ10cm以下である。東に第7・8号溝跡が並行し、北側延長線上の台地部には第3号溝跡がある。

出土遺物はなく、時期は不明である。



第5表 溝跡計測表

遺構	位置	長さ	幅		深さ		方位	方位	方位	重複関係
			最大	最小	最大	最小				
1	B-3~6 C-4~7	38.36	4.28	1.80	0.455	0.342	N-78°-W			SK2・10・11・31 SD2・3・4
2	B-6 C-6	4.34	0.50	0.30	0.177	0.052	N-16°-E			SD1
3	B-6 C-6	3.80	(0.90)	0.46	0.117	0.040	N-20°-E			SD1・4
4	B-6 C-6	4.00	0.44	0.32	0.12	0.054	N-18°-E			SD1・3
5	C-4・5 D-4・5	7.53	0.66	0.36	0.314	0.067	N-66°-E	N-32°-E	N-30°-W	SK20
6	D-3・4	8.58	1.00	0.68	0.152	0.060	N-78°-W			FP3 SK22・23
7	C-6 D-5・6	6.22	1.80	0.66	0.130	0.088	N-8°-E	N-32°-E		SD8
8	C-6 D-6	2.70	0.56	0.30	0.150	0.075	N-16°-E			SD7
9	B-2・3 C-2・3 D-2	17.16	0.86	0.27	0.208	0.032	N-52°-E	N-45°-E		SK36
10	C-5 D-5	2.72	0.38	0.34	0.121	0.073	N-28°-E			

b. 土壌

在家遺跡第4次調査で検出された土壌は53基である。多くの土壌は、調査区南東部にある埋没谷を取り巻くように存在する。

また、縄文時代の落とし穴3基も含まれている。3基とも軸を揃え、調査区西側に2基並んで、埋没谷の谷頭に1基存在する。

遺物は、第54号土壌から古銭が1点出土したのみで、時期の特定は難しい。しかし、他の遺構との重複関係や覆土の状態などから、ほとんどが近世以降の所産と考えられる。

第1号土壌 (第48図)

B・C-6グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、北側部分が調査区外に延びている。規模は短軸長0.72m、深さ0.45m、長軸は1.74m検出された。長軸方位はN-7°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第2号土壌 (第48図)

B-4グリッドに位置し、重複関係にある第2号溝跡よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.54m、短軸長1.20m、深さ0.94mである。長軸方位はN-0°-Eを指す。覆土にはローム粒子・ロームブロックが多く含まれ、人為的に埋め戻された可能性が高い。

遺物は出土していない。

第3号土壌 (第48図)

C・D-6グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長2.23m、短軸長0.59m、深さ0.19mである。長軸方位はN-39°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4号土壌 (第48図)

D-6グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長0.92m、短軸長0.74m、深さ0.16mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第5号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第6号土壌との新旧関係は不明だが、第7号土壌によって切られていた。

平面形状は隅丸方形と考えられ、規模は長軸長2.45m、深さ0.26m、短軸は1.30m検出された。長軸方位はN-12°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第6号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第5号土壌との新旧関係は不明だが、第7号土壌によって切られていた。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長2.09m、短軸長1.11m、深さ0.24m検出された。長軸方位はN-44°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第7号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第5・6号土壌よりも新しい。

平面形状は不整形で、規模は長軸長0.78m、短軸長0.46m、深さ0.38mである。長軸方位はN-11°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第8号土壌

縄文時代の集石土壌

第9号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長2.36m、短軸長1.33m、深さ0.34mである。長軸方位はN-40°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第10号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第1号溝跡よりも新しい。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長3.16m、短軸長0.70m、深さ0.22mである。長軸方位はN-11°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第11号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第1号溝跡よりも新しい。

平面形状は隅丸長方形と考えられる。規模は長軸長1.84m、短軸長0.92m、深さ0.07m検出された。長軸方位はN-8°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第12号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.47m、短軸長1.17m、深さ0.24mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第13号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.12m、短軸長0.96m、深さ0.16mである。長軸方位はN-30°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第14号土壌 (第48図)

C・D-5グリッドに位置し、重複関係にある第45号土壌によって切られていたが、平面形状は隅丸長方形と思われ、規模は短軸長0.72m、深さ0.14m、長軸2.00m検出された。長軸方位はN-13°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第15号土壌 (第48図)

C・D-5グリッドに位置し、重複関係にある第16号土壌よりも新しい。

平面形状は長方形で、規模は長軸長2.62m、短軸長0.94m、深さ0.23mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第16号土壌 (第48図)

C・D-5グリッドに位置し、重複関係にある第15号土壌によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.76m、短軸長0.72m、深さ0.34mである。長軸方位はN-60°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第17号土壌 (第48図)

D-4・5グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.90m、短軸長1.40m、深さ0.21mである。長軸方位はN-32°-Wを指す。

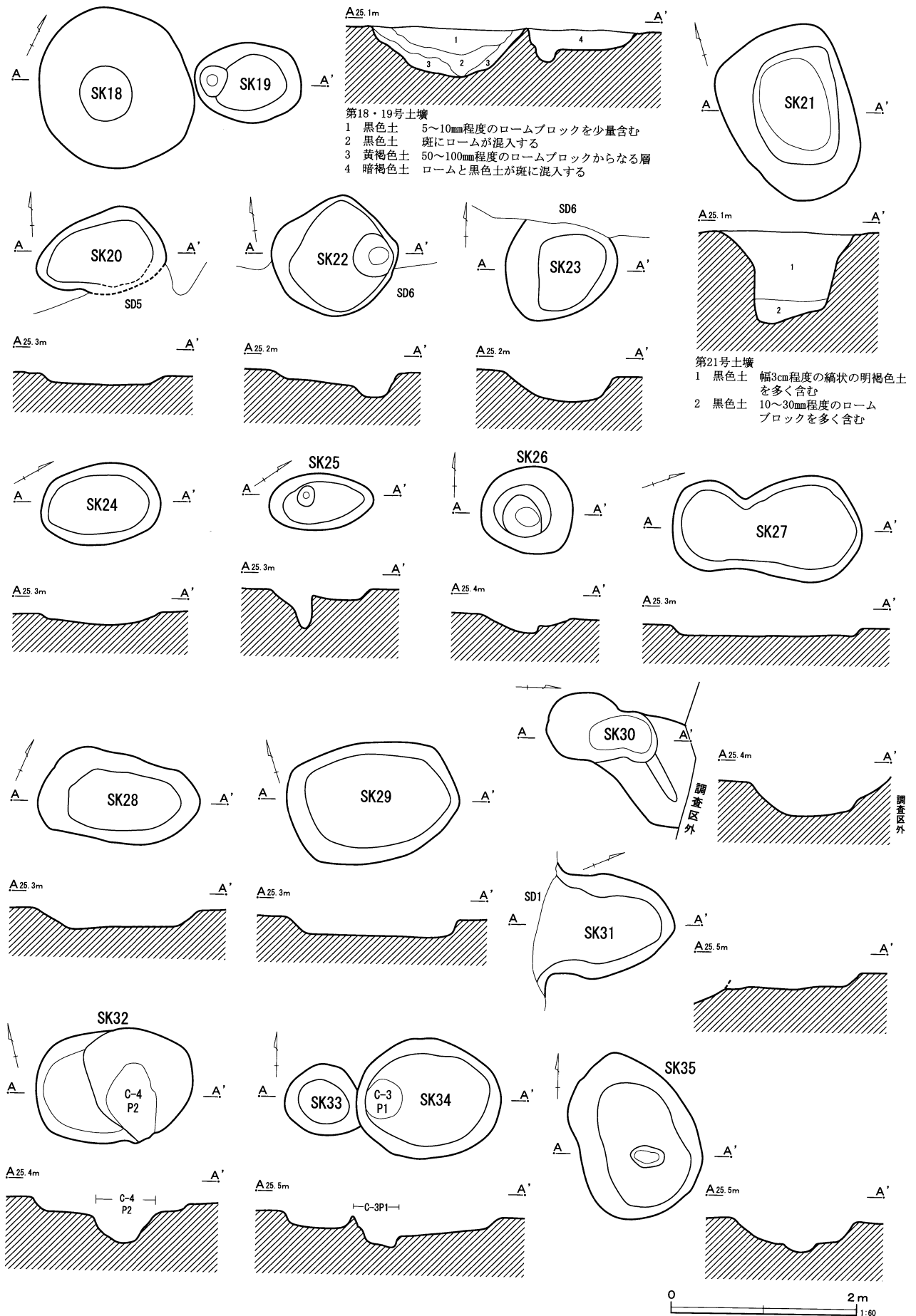
遺物は出土していない。

第18号土壌 (第49図)

D-4グリッドに位置する。

平面形状は円形で、規模は長軸長1.68m、短軸長1.66m、深さ0.51mである。長軸方位はN-22°-Wを指す。埋没状況は自然堆積と思われ、覆土にはロームブロックが含まれる。

遺物は出土していない。



第49図 土壌 (2)

第19号土壌 (第49図)

D-4グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、長軸長は1.12m、短軸長は0.88m、深さ0.36mである。長軸方位はN-59°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第20号土壌 (第49図)

C-4・5グリッドに位置し、重複関係にある第5号溝跡よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.32m、短軸長0.88m、深さ0.12m検出された。長軸方位はN-66°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第21号土壌 (第49図)

D-6グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.86m、短軸長1.36m、深さ1.01mである。長軸方位はN-0°-Eを指す。底面にはロームブロックを多く含む黒色土が堆積し、埋め戻された可能性が高い。

遺物は出土していない。

第22号土壌 (第49図)

D-4グリッドに位置し、重複関係にある第6号溝跡よりも新しい。

平面形状は円形で、規模は長軸長1.36m、短軸長1.30m、深さ0.30mである。長軸方位はN-81°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第23号土壌 (第49図)

D-4グリッドに位置し、重複関係にある第6号溝跡によって切られていた。

平面形状は円形で、規模は長軸長1.16m、短軸長1.12m、深さ0.32mである。長軸方位はN-30°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第24号土壌 (第49図)

D-3グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.28m、短軸

長0.86m、深さ0.13mである。長軸方位はN-28°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第25号土壌 (第49図)

D-3グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.14m、短軸長0.60m、深さ0.43mである。長軸方位はN-27°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第26号土壌 (第49図)

D-3グリッドに位置する。

平面形状は円形で、規模は長軸長0.97m、短軸長0.93m、深さ0.21mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第27号土壌 (第49図)

C-4グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、長軸長2.04m、短軸長0.96m、深さ0.13mである。長軸方位はN-19°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第28号土壌 (第49図)

C-4グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.74m、短軸長0.92m、深さ0.13mである。長軸方位はN-66°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第29号土壌 (第49図)

C-4グリッドに位置する。

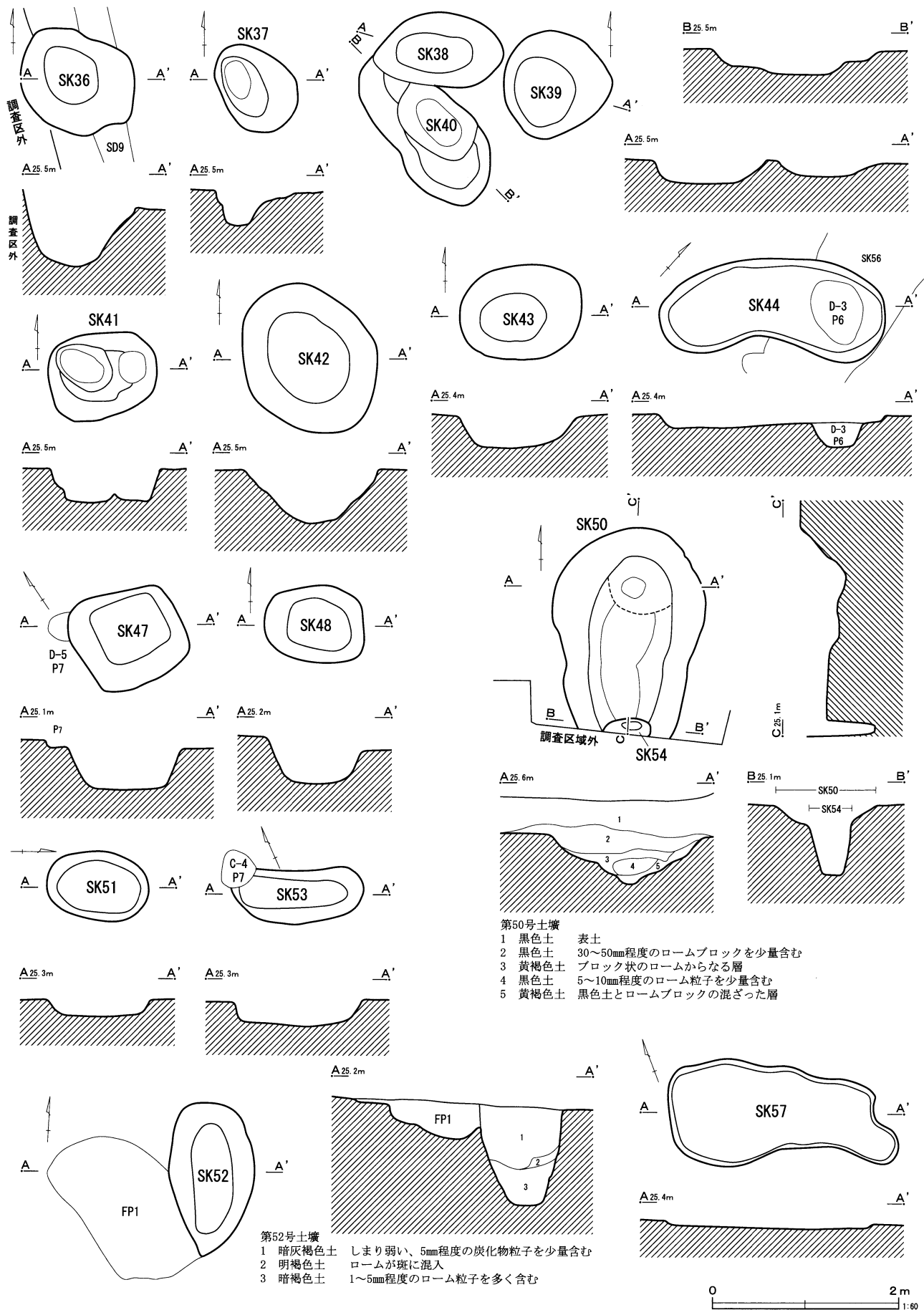
平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.78m、短軸長1.28m、深さ0.20mである。長軸方位はN-86°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第30号土壌 (第49図)

A・B-4グリッドに位置する。

平面に形状は不整形で、規模は長軸長1.68m、短軸長0.70m、深さ0.42m検出された。長軸方位はN



第50図 土壌 (3)

—25°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第31号土壌 (第49図)

B—4グリッドに位置し、重複関係にある第1号溝跡によって切られていた。

平面形状は楕円形と考えられる。規模は長軸長1.42m、短軸長1.12m、深さ0.17mである。長軸方位はN—23°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第32号土壌 (第49図)

C—3・4グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.70m、短軸長1.16m、深さ0.22mである。長軸方位はN—90°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第33号土壌 (第49図)

C—3グリッドに位置し、重複関係にある第34号土壌によって切られていた。

平面形状は円形で、規模は長軸長0.76m、短軸長0.75m、深さ0.16m検出された。長軸方位はN—90°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第34号土壌 (第49図)

C—3グリッドに位置し、重複関係にある第33号土壌よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.54m、短軸長1.30m、深さ0.34mである。長軸方位はN—85°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第35号土壌 (第49図)

C—3グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.80m、短軸長1.26m、深さ0.36mである。長軸方位はN—17°—Wを指す。

遺物は出土していない。

第36号土壌 (第50図)

C—2グリッドに位置し、重複関係にある第9号

溝跡よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.22m、短軸長1.14m、深さ0.86mである。長軸方位はN—37°—Wを指す。

遺物は出土していない。

第37号土壌 (第50図)

C—2グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.02m、短軸長0.74m、深さ0.42mである。長軸方位はN—36°—Wを指す。

遺物は出土していない。

第38号土壌 (第50図)

C—2グリッドに位置し、重複関係にある第40号土壌よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.28m、短軸長0.78m、深さ0.26mである。長軸方位はN—88°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第39号土壌 (第50図)

C—2グリッドに位置する。

平面形状は円形で、長軸長1.15m、短軸長1.14m、深さ0.18mである。長軸方位はN—85°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第40号土壌 (第50図)

C—2・D—3グリッドに位置し、重複関係にある第38号土壌によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形と考えられる。規模は長軸長1.86m、短軸長0.82m、深さ0.29mである。長軸方位はN—34°—Wを指す。

遺物は出土していない。

第41号土壌 (第50図)

C・D—2グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.18m、短軸長0.90m、深さ0.38mである。長軸方位はN—70°—Eを指す。

遺物は出土していない。

第42号土壌 (第50図)

D-2グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.68m、短軸長1.36m、深さ0.59mである。長軸方位はN-33°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第43号土壌 (第50図)

D-2グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.32m、短軸長1.02m、深さ0.49mである。長軸方位はN-71°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第44号土壌 (第50図)

D-2・3グリッドに位置し、重複関係にある第56号土壌よりも新しい。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長2.40m、短軸長0.84m、深さ0.14mである。長軸方位はN-53°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第45号土壌 (第48図)

C-5グリッドに位置し、重複関係にある第14号土壌よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.94m、短軸長1.67m、深さ1.27mである。長軸方位はN-25°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第46号土壌 (第50図)

D-5グリッドに位置し、重複関係にある第49号土壌よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.02m、短軸長0.88m、深さ0.59mである。長軸方位はN-9°-Wを指す。

遺物は出土していない。

第47号土壌 (第50図)

D-5グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.14m、短軸長1.01m、深さ0.50mである。長軸方位はN-80°

-Wを指す。

遺物は出土していない。

第48号土壌 (第50図)

D-4グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.04m、短軸長0.81m、深さ0.51mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第49号土壌

縄文時代の落とし穴

第50号土壌 (第50図)

D・E-4グリッドに位置し、重複関係にある第54号土壌によって切られていた。

平面形状は楕円形で、南側部分が調査区外に伸びている。規模は短軸長1.42m、深さ0.49m、長軸は2.18m検出された。長軸方位はN-3°-Eを指す。

堆積状況は自然堆積と思われ、覆土にはローム粒子・ロームブロックが含まれる。

遺物は出土していない。

第51号土壌 (第50図)

C-4グリッドに位置する。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.08m、短軸長0.74m、深さ0.18mである。長軸方位はN-2°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第52号土壌 (第50図)

D-4グリッドに位置し、重複関係にある第1号炉穴よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.62m、短軸長0.92m、深さ1.08mである。長軸方位はN-0°-Eを指す。底面にはローム粒子を多く含む暗褐色土が堆積しており、埋め戻された可能性が高い。

遺物は出土していない。

第53号土壌 (第50図)

C-4グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、長軸長1.32m、短軸長0.55m、深さ0.29mである。長軸方位はN-69°-W

を指す。

遺物は出土していない。

第54号土壌 (第50図)

E-4 グリッドに位置し、重複関係にある第50号土壌よりも新しい。

約半分が調査区外に位置しているが、平面形状は楕円形と考えられ、長軸長0.48m、深さ0.57m、短軸は0.16m検出された。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は、寛永通寶 (第51図3) が1点出土した。

第55号土壌

縄文時代の落とし穴

第56号土壌

縄文時代の落とし穴

第57号土壌 (第50図)

B・C-3 グリッドに位置する。

平面形状は歪んではいないが、隅丸長方形と考えられ、長軸長2.46m、短軸長1.14m、深さ0.10mである。長軸方位はN-90°-Eを指す。

遺物は出土していない。

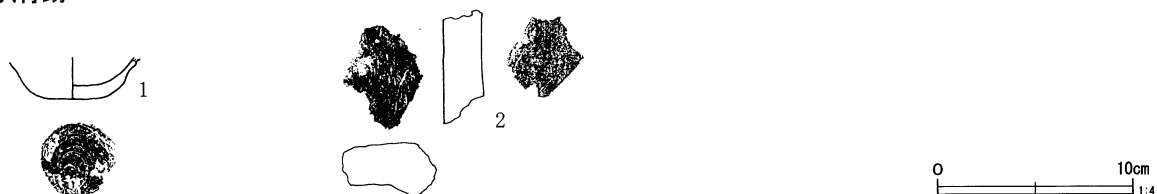
第6表 土壌計測表

遺構	位置	形状	長径	短径	深さ	方位	重複関係	遺構	位置	形状	長径	短径	深さ	方位	重複関係
1	B-6 C-6	(長方形)	(1.74)	0.72	0.45	N-7°-E		29	C-4	隅丸長方形	1.78	1.28	0.20	N-86°-E	
2	B-4	楕円形	1.54	1.20	0.94	N-0°-E	SD1	30	A-4 B-4	(不整形)	(1.68)	0.70	0.42	N-25°-E	
3	C-6 D-6	隅丸長方形	2.23	0.59	0.19	N-39°-E		31	B-4	(楕円形)	(1.42)	1.12	0.17	N-23°-E	SD1
4	D-6	楕円形	0.92	0.74	0.16	N-90°-E		32	C-3・4	隅丸長方形	1.70	1.16	0.22	N-90°-E	
5	C-5	(隅丸方形)	2.45	(1.30)	0.26	N-12°-E	SK6・7	33	C-3	(円形)	(0.76)	0.75	0.16	N-90°-E	SK34
6	C-5	(楕円形)	2.09	(1.11)	0.24	N-44°-E	SK5・7	34	C-3	楕円形	1.54	1.30	0.34	N-85°-E	SK33
7	C-5	不整形	0.78	0.46	0.38	N-11°-E	SK5・6	35	C-3	隅丸長方形	1.80	1.26	0.36	N-17°-W	
9	C-5	隅丸長方形	2.36	1.33	0.34	N-40°-E		36	C-2	楕円形	1.22	1.14	0.86	N-37°-W	SD9
10	C-5	隅丸長方形	3.16	0.70	0.22	N-11°-E	SD1	37	C-2	楕円形	1.02	0.74	0.42	N-36°-W	
11	C-5	(隅丸長方形)	(1.84)	0.92	0.07	N-8°-E	SD1	38	C-2	楕円形	1.28	0.78	0.26	N-88°-E	SK40
12	C-5	楕円形	1.47	1.17	0.24	N-53°-E		39	C-2	円形	1.15	1.14	0.18	N-85°-E	
13	C-5	楕円形	1.12	0.96	0.16	N-30°-W		40	C-2 D-3	隅丸長方形	1.86	0.82	0.29	N-34°-W	SK38
14	C-5 D-5	(隅丸長方形)	(2.00)	0.72	0.14	N-13°-E	SK45	41	C-2 D-2	隅丸長方形	1.18	0.90	0.38	N-70°-E	
15	C-5 D-5	長方形	2.62	0.94	0.23	N-60°-E	SK16	42	D-2	楕円形	1.68	1.36	0.59	N-33°-E	
16	C-5 D-5	隅丸長方形	1.76	0.72	0.34	N-60°-E	SK15	43	D-2	楕円形	1.32	1.02	0.49	N-71°-E	
17	D-4・5	楕円形	1.90	1.40	0.21	N-32°-W		44	D-2 D-3	隅丸長方形	2.40	0.84	0.14	N-53°-E	SK56
18	D-4	円形	1.68	1.66	0.51	N-22°-W		45	C-5	楕円形	1.94	1.67	1.27	N-25°-W	SK14
19	D-4	楕円形	1.12	0.88	0.36	N-59°-E		46	D-5	楕円形	1.02	0.88	0.59	N-9°-W	SK49
20	C-4・5	(楕円形)	1.32	(0.88)	0.12	N-66°-E	SD5	47	D-5	隅丸長方形	1.14	1.01	0.50	N-80°-W	
21	D-6	隅丸長方形	1.86	1.36	1.01	N-0°-E		48	D-4	隅丸長方形	1.04	0.81	0.51	N-90°-E	
22	D-4	円形	1.36	1.30	0.30	N-81°-W	SD6	50	D-4 E-4	(楕円形)	(2.18)	1.42	0.49	N-3°-E	SK54
23	D-4	(円形)	1.16	(1.12)	0.32	N-30°-E	SD6	51	C-4	楕円形	1.08	0.74	0.18	N-2°-E	
24	D-3	楕円形	1.28	0.86	0.13	N-28°-E		52	D-4	楕円形	1.62	0.92	1.08	N-0°-E	FP1
25	D-3	楕円形	1.14	0.60	0.43	N-27°-E		53	C-4	隅丸長方形	1.32	0.55	0.29	N-69°-W	
26	D-3	円形	0.97	0.93	0.21	N-90°-E		54	E-4	(楕円形)	0.48	(0.16)	0.57	N-90°-E	SK50
27	C-4	隅丸長方形	2.04	0.96	0.13	N-19°-E		57	B-3 C-3	隅丸長方形	2.46	1.14	0.10	N-62°-W	
28	C-4	隅丸長方形	1.74	0.92	0.13	N-66°-E									

※SK8は縄文時代の集石土壌

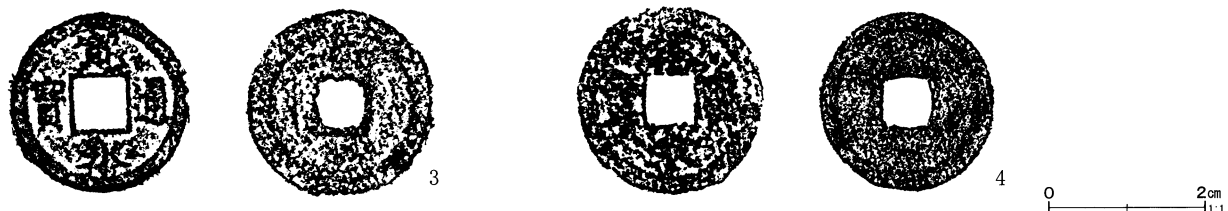
※SK49・55・56は縄文時代の落とし穴

第1号溝跡



第54号土壙

D-4グリッド



第51図 出土遺物（中・近世）

第7表 遺物観察表（土器）

番号	遺構	挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	備考	図版
1	SD1	51 1	土師質土器皿	—	2.0	1.8	D・F	良好	褐		

第8表 遺物観察表（瓦）

番号	遺構	挿図番号	種別	色調	焼成	長さ	幅	厚さ	備考	図版
1	SD1	51 2	丸瓦	灰	やや硬質	[6.2]	[5.0]	2.7	砂質 古代	10-17

第9表 遺物観察表（銭）

番号	遺構	挿図番号	銭名	初鑄年	直径(mm)	厚さ(mm)	孔(縦×横)(mm)	重さ(g)	備考	図版
1	SK54	51 3	寛永通寶	1636	24.12	0.91	5.58×5.87	2.5		10-18
2	D-4グリッド	51 4	寛永通寶	1636	22.55	0.97	6.25×6.37	2.3		10-19

cピット (第5図)

在家遺跡4次調査区からは、86基のピットが検出された。ピットの調査については、各グリッド別に検出した順に1から番号を付し、例えばB-3P1（グリッド番号-ピット番号）というように呼称し、調査を行った。調査中は柵列・掘立柱建物跡を想定

して調査を行った。しかし検出したピットには分布に規則性のあるものは見られなかった。

ピットから遺物は出土しておらず、はっきりとした帰属時期は不明であるが、覆土の状態から大多数は近世期の所産と推定される。

各ピットの計測値、覆土の状況を第10表に示した。

第10表 ビット計測表

遺構	長径	短径	深さ	方位	覆土	遺構	長径	短径	深さ	方位	覆土
B-3 P1	0.46	0.44	0.100	N-96°-E	B	C-7 P1	0.46	0.40	0.132	N-90°-E	B
B-3 P2	(0.54)	0.52	0.207	N-28°-W	E	C-7 P2	0.37	0.30	0.184	N-90°-E	B
B-3 P3	1.04	0.62	0.401	N-43°-W	E	C-7 P3	0.36	0.34	0.096	N-90°-E	B
B-3 P4	1.00	0.70	0.384	N-40°-W	E	C-7 P4	0.52	(0.40)	0.177	N-67°-W	B
B-4 P1	0.42	0.40	0.142	N-0°-E	C	C-7 P5	0.37	(0.35)	0.139	N-21°-E	A
B-4 P2	0.98	0.78	0.267	N-20°-E	C	C-7 P6	0.46	0.42	0.162	N-26°-E	B
B-4 P3	1.32	0.88	0.423	N-50°-E	A	D-3 P1	0.62	0.56	0.310	N-0°-E	E
B-4 P4	0.87	0.64	0.186	N-17°-E	C	D-3 P2	0.60	0.58	0.095	N-90°-E	D
B-4 P5	0.54	0.52	0.174	N-0°-E	C	D-3 P3	0.34	0.28	0.295	N-51°-W	B
B-6 P1	0.62	0.60	0.148	N-44°-W	D	D-3 P4	0.60	0.50	0.281	N-67°-W	E
C-2 P1	0.28	0.21	0.205	N-32°-E		D-3 P5	0.28	0.28	0.124	N-0°-E	B
C-2 P2	0.32	0.24	0.129	N-78°-E		D-3 P6	0.66	0.56	0.286	N-49°-W	A
C-2 P3	0.29	0.28	0.251	N-50°-E		D-3 P9	(0.57)	0.45	0.234	N-67°-W	C
C-3 P1	0.42	0.38	0.176	N-2°-W	B	D-3 P10	1.02	0.90	0.134	N-50°-W	D
C-3 P2	0.80	0.80	0.930	N-52°-E	C	D-4 P1	0.33	0.32	0.140	N-81°-W	D
C-3 P3	0.64	0.63	0.231	N-0°-E	D	D-4 P2	0.58	0.50	0.176	N-4°-W	D
C-3 P4	0.45	0.34	0.160	N-35°-W	C	D-4 P3	0.70	0.50	0.18	N-11°-E	C
C-3 P5	0.58	0.36	0.164	N-50°-E	D	D-4 P4	0.90	0.58	0.212	N-48°-E	D
C-4 P1	0.94	0.60	0.324	N-25°-W	D	D-4 P5	1.20	1.10	0.480	N-0°-E	D
C-4 P2	0.84	0.54	0.32	N-5°-E	D	D-4 P6	1.04	0.92	0.238	N-25°-E	B
C-4 P3	0.42	0.40	0.162	N-90°-E	D	D-4 P8	0.50	0.50	0.242	N-0°-E	C
C-4 P4	0.50	0.38	0.305	N-75°-W	E	D-4 P9	0.58	0.50	0.123	N-68°-E	C
C-4 P5	0.42	0.37	0.193	N-60°-W	E	D-4 P10	0.42	0.40	0.112	N-0°-E	C
C-4 P6	0.74	0.48	0.275	N-35°-E	A	D-4 P12	0.90	0.50	0.32	N-50°-E	A
C-4 P7	0.40	0.38	0.202	N-80°-W	E	D-4 P13	1.02	0.80	0.176	N-40°-W	C
C-4 P8	0.90	0.64	0.262	N-47°-E	D	D-4 P14	0.78	(0.50)	0.24	N-19°-W	D
C-4 P9	0.70	0.50	0.332	N-70°-W		D-5 P1	0.62	0.56	0.296	N-20°-W	D
C-6 P1	0.70	0.56	0.208	N-50°-W	A	D-5 P2	0.40	0.36	0.266	N-42°-E	C
C-6 P2	1.00	0.92	0.128	N-20°-E	A	D-5 P3	0.56	0.40	0.340	N-77°-E	B
C-6 P3	0.32	0.28	0.200	N-48°-E	A	D-5 P4	0.52	0.50	0.153	N-0°-E	B
C-6 P4	0.80	0.60	0.076	N-12°-E	C	D-5 P5	0.98	0.97	0.725	N-0°-E	B
C-6 P5	0.62	0.56	0.210	N-90°-E	D	D-5 P6	0.60	0.56	0.191	N-90°-E	B
C-6 P6	0.82	0.78	0.237	N-90°-E	B	D-5 P7	0.32	(0.20)	0.122	N-40°-E	C
C-6 P8	1.06	0.94	0.293	N-50°-W	D	D-5 P8	0.34	0.34	0.128	N-0°-E	B
C-6 P9	0.84	0.46	0.374	N-10°-W	A	D-5 P9	0.42	0.40	0.095	N-90°-E	B
C-6 P10	0.66	0.62	0.166	N-11°-W	B	D-5 P10	0.55	0.52	0.122	N-90°-E	B
C-6 P11	0.38	0.28	0.160	N-45°-W	B	D-5 P11	0.65	0.38	0.139	N-62°-W	A
C-6 P12	0.31	0.22	0.146	N-50°-W	B	D-5 P12	0.53	0.43	0.261	N-90°-E	C
C-6 P13	0.56	0.50	0.112	N-41°-W	A	D-6 P1	0.78	(0.28)	0.32	N-35°-E	F
C-6 P14	0.50	0.46	0.122	N-40°-W	A	D-6 P2	(0.52)	(0.46)	0.136	N-21°-W	E
C-6 P15	0.77	0.70	0.158	N-50°-W	C	D-6 P3	0.87	0.55	0.103	N-3°-E	A
C-6 P16	0.58	0.40	0.196	N-56°-E	D	D-6 P4	0.52	0.42	0.127	N-7°-E	C
C-6 P17	0.54	0.53	0.170	N-0°-E	B	D-6 P5	0.82	0.80	0.190	N-90°-E	C

覆土凡例

- A：ローム粒微量
 B：ロームブロック少量
 C：ローム粒子・ロームブロック斑状に混入
 D：ローム粒子・ロームブロック斑状に混入
 E：ローム粒子多量
 F：3cm～10cm程のロームブロック多量

IV 戸宮前館跡（第2次）・在家遺跡（第5次）

1. 遺跡の概要

戸宮前館跡・在家遺跡は川越市大字下広谷地内に所在する。戸宮前館跡2次・在家遺跡5次調査区は平成12年度に行われた戸宮前館跡1次調査区の北東側に位置する。1次調査に関しては、事業団報告書第297集（木戸2004）ですでに報告されている。

今回、同じ調査地点で2つの遺跡名が付されている。これは調査区内で戸宮前館跡と在家遺跡の遺跡範囲が交錯するためであり、二つの調査地点を表しているわけではない。

また、戸宮前館跡1次調査区と、戸宮前館跡2次・在家遺跡5次調査区の間は未調査区となっている。この区域は遺構の検出される面よりも深く攪乱され、また、埋め立て盛土されていたため調査区の範囲から除外された。

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査では、縄文時代や中世の遺構・遺物が検出された。

縄文時代では中期の竪穴住居跡1軒、土壙1基が検出された。

中世では柵列12条、掘立柱建物跡柱9棟、井戸跡5基、土壙48基、溝跡62条などがあり、区画を意識した溝跡や柵列、それに伴い、区画内には掘立柱建物跡が重複するように検出された。遺物は、常滑甕、播鉢、在地産鉢、内耳鍋、かわらけなどが出土している。時期は15世紀前葉が主体で、それより時期的に下る遺物はほとんど検出されなかった。

遺跡は中世を主体とする遺跡であり、時期的に前回の調査区と重複する部分が大きく、関連性が注目されることから、前回の戸宮前館跡第1次調査の概要を述べる。

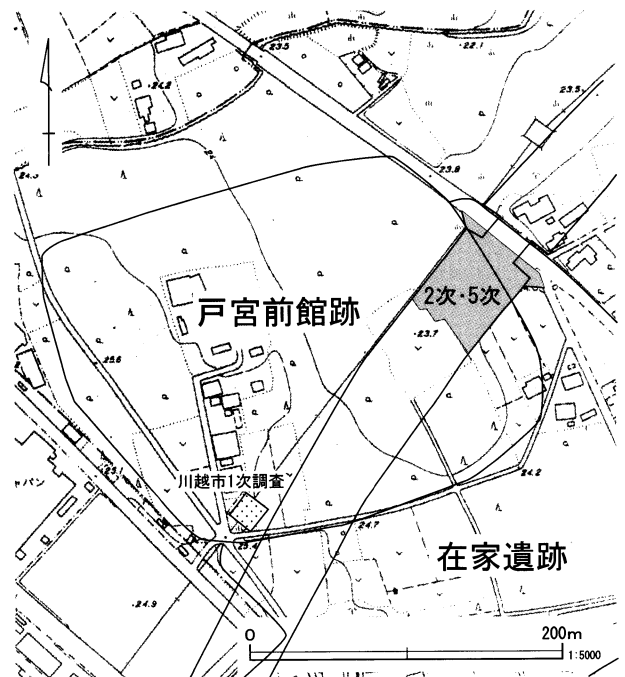
戸宮前館跡第1次調査では、掘立柱建物跡柱12棟、竪穴状遺構1基、井戸跡13基、溝跡50条、土壙167基、整地跡1ヶ所、地下式壙1基が検出された。今回の調査と同様に、区画が意識された溝跡が検出され、

区画内には建物群や土壙群が集中して検出された。出土遺物は今回の調査で検出されたものとほぼ同様である。時期的には戸宮前館跡1次調査の方が幅広く、12世紀から15世紀代のものが検出されている。そのなかで、中心となるのは、15世紀であり、今回の調査区との関連性が注目される。

戸宮前館跡は川越市教育委員会によっても調査が行われており、前回調査の西側にあたる部分で開発に伴い277㎡の調査が行われている。（第52図）溝跡5条、井戸跡1基が検出されている。

出土遺物は14世紀から15世紀末にかけての遺物が検出されている。

いずれの調査地点も15世紀代を中心とする遺構・遺物が検出されている。



第52図 周辺遺跡地図

2. 検出された遺構と遺物

(1) 縄文時代

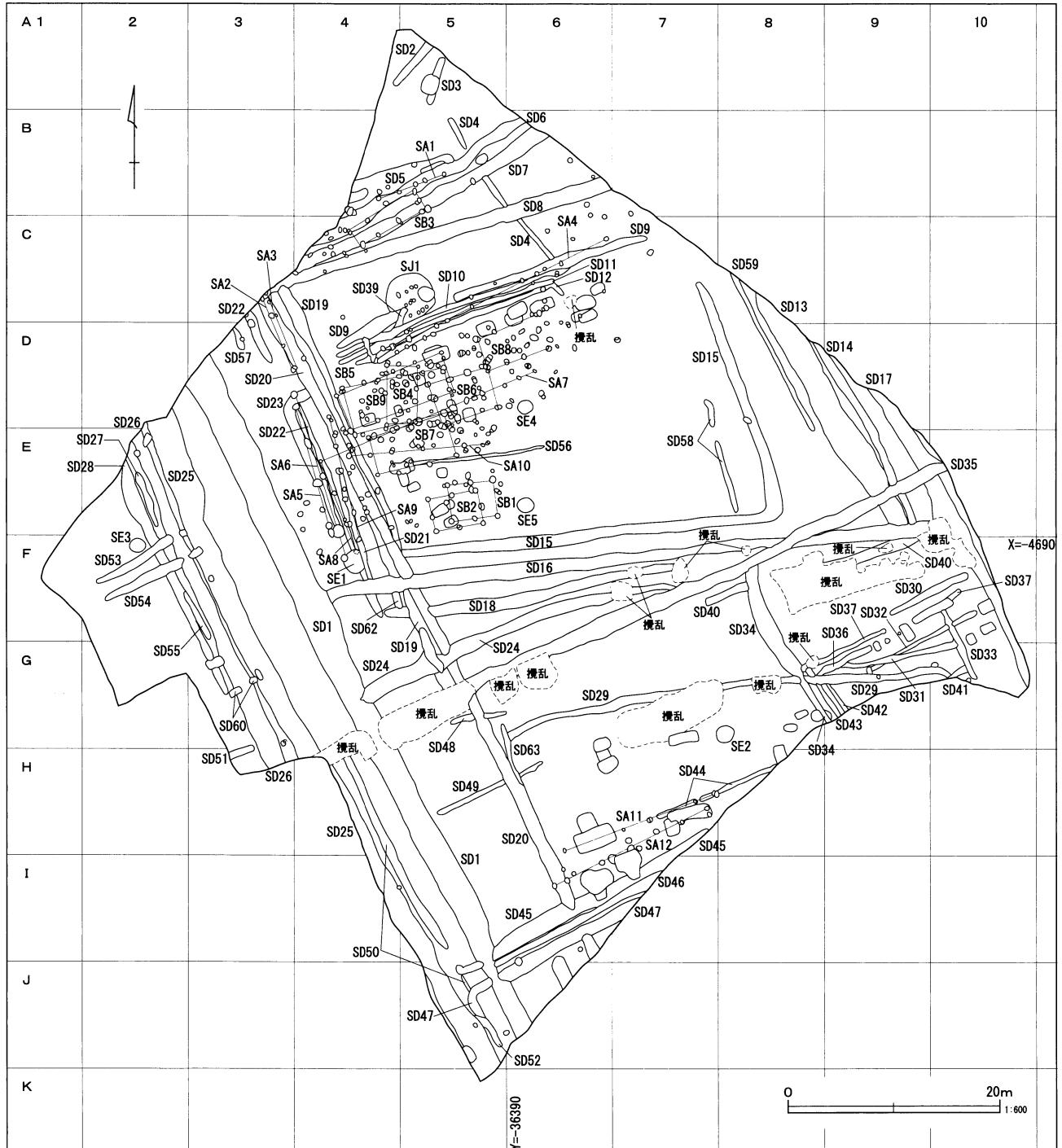
a 住居跡

第1号住居跡 (第54図)

C-5グリッドに位置する。長径4.5m、短径4.3m、深さ0.2mを測る。ほぼ円形の住居と考えられる。東壁を第32号土壌に切られ、南側を第10号溝跡、9

号溝跡、第39号溝跡に切られる。床面はやや凹凸がある。10本のピットが検出されたが、支柱穴は明確ではない。

住居跡北西側に4本のピットが並び、対をなすように南東側にピットが4本並ぶ。住居の入口部は



第53図 戸宮前 (2次)・在家 (5次) 全測図

ピットが空白となる南西側か、北東側と推定される。住居跡中央部には2本のピットが並び、P10は斜めに掘削されている。炉跡は検出されなかった。

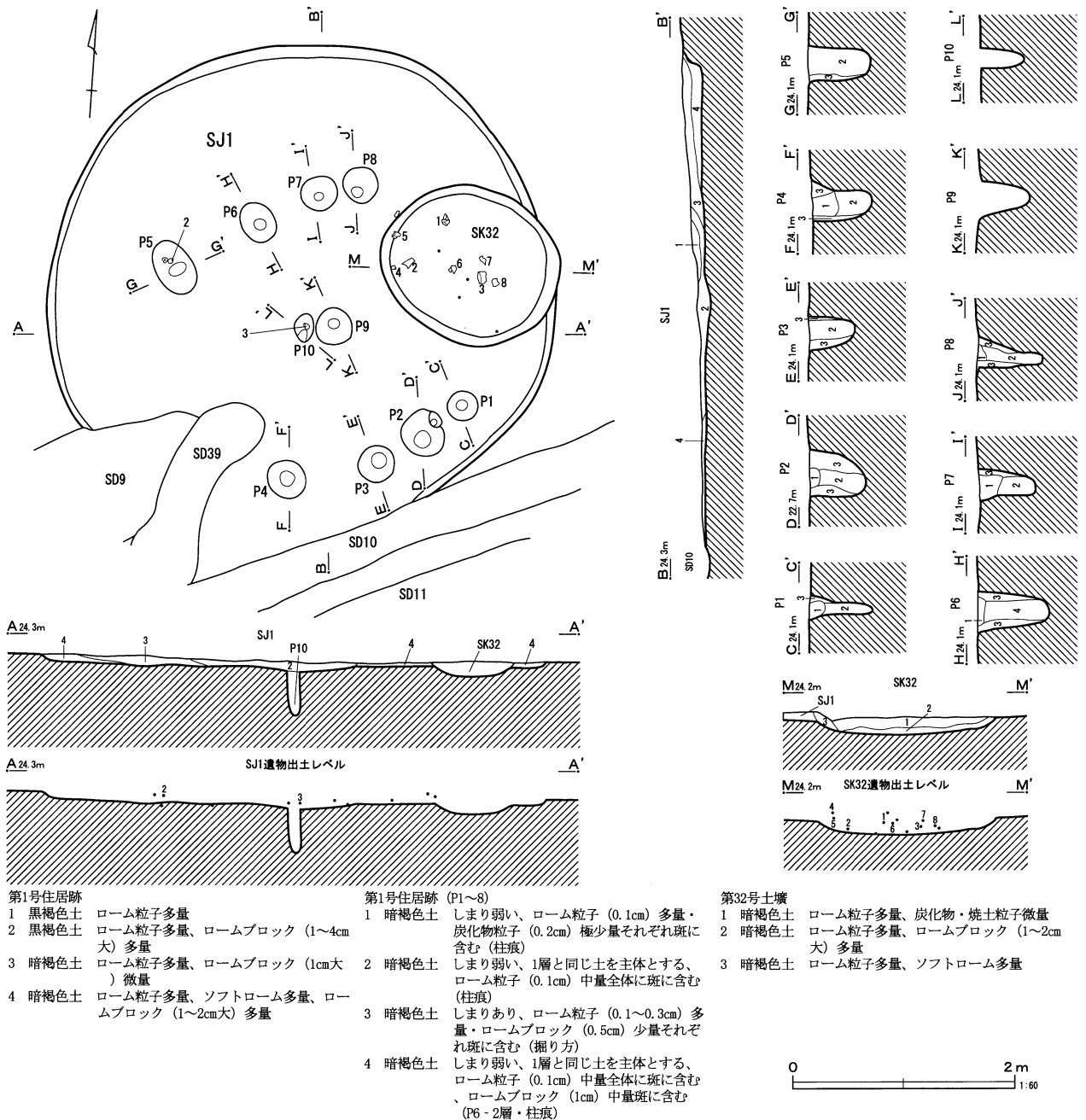
第1号住居跡出土遺物 (第55図)

いずれも中期の勝坂式である。1は平口縁の深鉢形土器である。2、3は胴部の破片である。2は円形の刺突を施す。3は無文部の破片である。

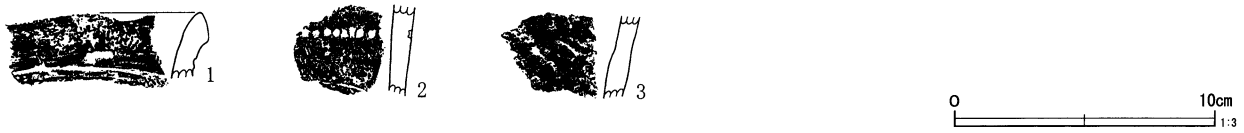
その他、図示しなかったが土器の細片12点、また、黒曜石の微小な剥片14点が検出された。

第32号土壙 (第54図)

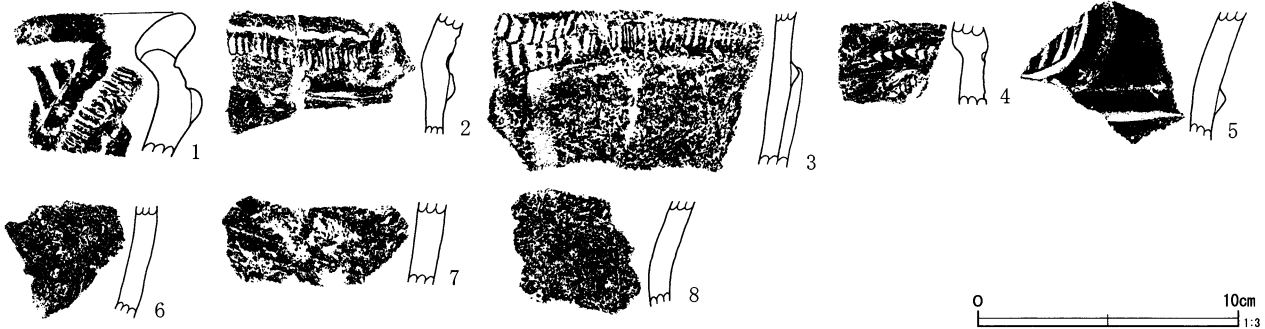
第1号住居跡確認時に平面プランが確認された。第1号住居跡を切る形で構築されている。長径1.6m、短径1.4m、深さ0.2mの楕円形である。土壙底面は、第1号住居跡床面よりも、わずかに低い。出土土器は第1号住居跡出土遺物と時期的に近接していることから、住居跡廃絶後、かなり早い段階で土壙が構築されていると思われる。



第54図 第1号住居跡・第32号土壙



第55図 第1号住居跡出土土器



第56図 第32号土壇出土土器

第32号土壇出土遺物（第56図）

いずれも縄文時代中期の勝坂式である。1～4は隆帯にそって爪形文を施す。1はキャリパー形の深鉢形土器、2～4は胴部の破片である。5は隆帯による楕円区画内に縦位の沈線文を施す。6～8は胴部の無文部である。

b 遺構外

遺構外出土遺物（第57図1～16）

1は前期の土器である。竹管文を横位に施す。諸磯式と思われる。

2・3は中期の勝坂式である。2は縦位の隆帯に沿って、爪形文・波状沈線を施す。

4～6は中期の加曾利E式である。4はキャリパー形土器の最大径部分の破片である。渦巻状の文様を施す。5は器台である。6は無文部の破片である。

7～12は打製石斧である。7～10は撥形を呈するものである。7は上端部を欠損する。石質はきめの粗いホルンフェルスである。長さ11.0cm、幅6.3cm、厚さ1.6cm、143gである。

8は上端部を欠損する。表面に自然面を大きく残す。裏面は両側縁からの大きな剝離面に覆われる。下端部は使用による欠損の可能性が高い。石質は砂岩である。長さ9.3cm、幅4.6cm、厚さ1.9cm、101g

である。

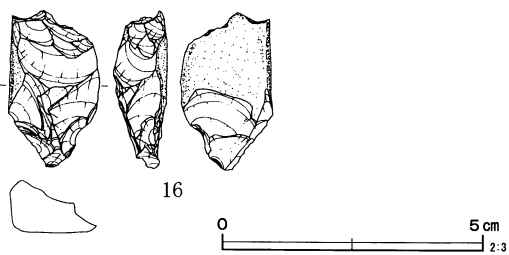
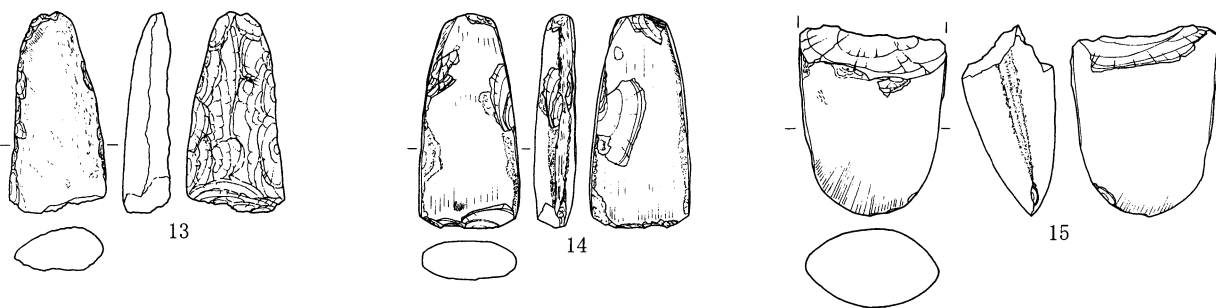
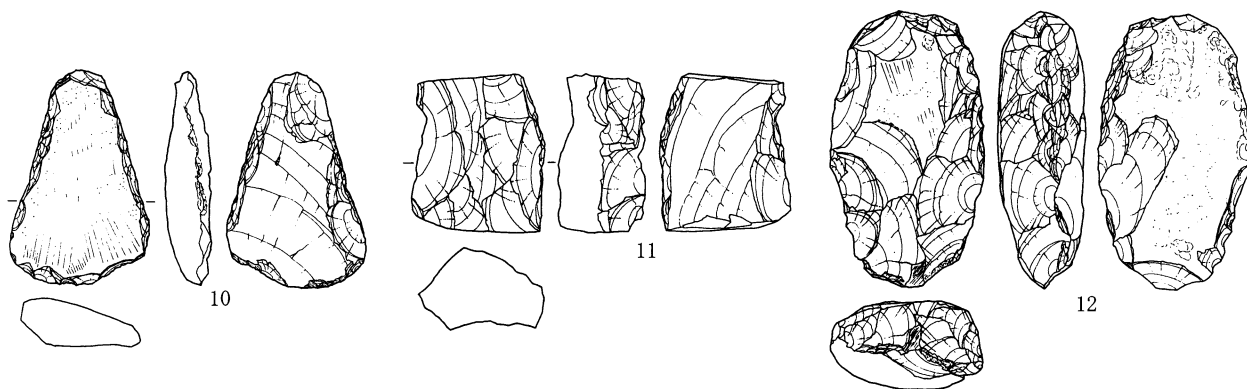
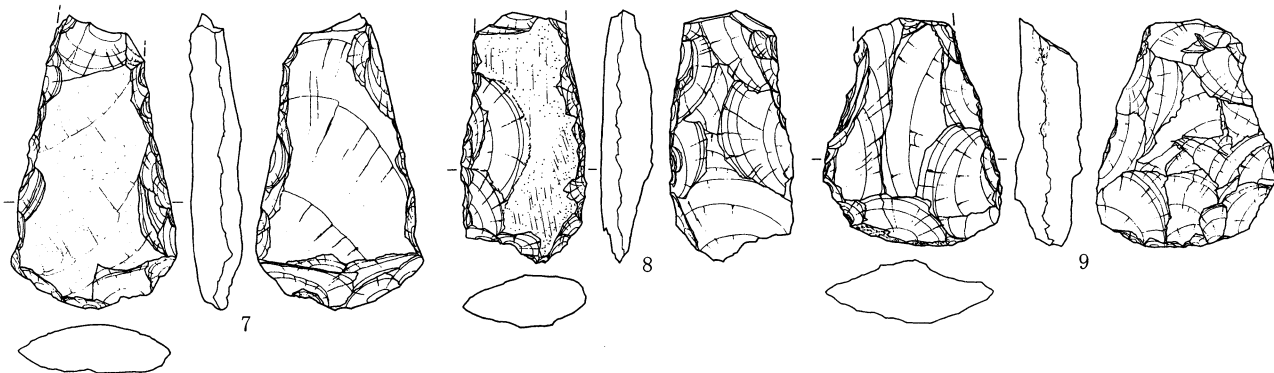
9は上端部を欠損する。両面とも両側縁からの大きな剝離面を残す。石質はきめの細かい頁岩で、風化し、白っぽい。長さ8.6cm、幅6.6cm、厚さ2.6cm、160gである。

10は表面に自然面を大きく残す。裏面は1次剝離面を大きく残す。二次加工は周縁部にとどまる。石質は砂岩である。長さ8.1cm、幅5.2cm、厚さ1.5cm、74gである。

11はかなり分厚い素材を用いている。上端、下端を欠損する。両側縁から、大きな加工を施している。石質は砂岩である。長さ6.0cm、幅4.9cm、厚さ3.1cm、129gである。

12は蒲鉾形を呈するものである。表面一部と裏面大部分に自然面を残す。左側縁部では裏面側に向かうやや小さな加工痕を残すが、裏面から表面に向かう加工が主体的である。両側縁部、上端部は、敲打により、角が潰されている。下端部はやや面的な加工が施され、やや鋭いエッジとなっており、一部に使用痕と思われる光沢を有する部分がある。石質はややきめの粗い緑色岩である。長さ10.5cm、幅5.7cm、厚さ3.3cm、282gである。

13は磨製石斧の未製品と考えられるものである。



0 10cm
1:3

0 5cm
2:3

第57図 遺構外出土縄文土器・石器

表面側に自然面を大きく残す。裏面側に向かう大きな調整と両側縁部の敲打の痕跡を持つ。石質は緑泥片岩である。長さ7.5cm、幅3.6cm、厚さ1.6cm、65gである。14、15は磨製石斧である。

14は小形の磨製石斧で、下端部を欠損する。欠損は使用によるものと思われる。石質は緑色岩である。長さ8.1cm、幅3.6cm、厚さ1.4cm、76gである。

15は、上半部を欠損する。下端は円弧状の刃部を

(2) 中世

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査区から発見された中世の遺構は、溝跡62条・柵列12列・掘立柱建物跡9棟・井戸跡5基・土壇48基・ピット多数である。

溝跡は、走行方向に規則性をみることができる。

ひとつは、N-25°-W前後の方向に走行する溝跡と、これに直交する一群である。これらの溝跡によって、調査区内全面にわたる方形区画域が形成されている。幅約1～3m、深さ約0.4～0.8m前後のしっかりとした掘り込みをもつものも多く、これに幅1m未満、深さ0.1～0.2m程度の溝跡が付随的に並走する。

次は、N-85°-E前後の東西方向に走行する溝跡と、これに関わる一群である。N-25°-W前後の一群の区画と重複して、別の方向を示す区画域が形成されている。幅1m未満、深さ0.1～0.2m前後と浅いものが大半を占めている。

柵列には、幅狭の浅い溝跡と方向を揃えて重複するか、もしくは溝跡の延長線上にピット列が延びるという特徴がみられる。このような状況から、柵列と溝跡が一体となった遺構である可能性が高く、板塀が連想される。柵列の柱穴が塀の支柱穴、溝跡が横架材基礎部分の痕跡と推定される。このように考えると、他の幅狭の浅い溝跡も、支柱穴が検出されていない塀の痕跡と想定することも可能である。

掘立柱建物跡は、第12・23・15号溝跡に画された区域に密集する。いずれも側柱建物跡で、総柱建物

持ち、周囲に向かって、厚みを増す。石質は緑色岩である。長さ7.0cm、幅5.5cm、厚さ3.3cm、167gである。

16は石核である。裏面に自然面を大きく残す。上下から剥片を剥離している。石質は黒色を呈する緻密な頁岩である。長さ5.8cm、幅3.3cm、厚さ1.8cm、35.5gである。

跡・庇付建物跡は確認されていない。掘立柱建物跡同士の重複から、数時期に及ぶ建て替えが推定される。また、第4・5号井戸跡が隣接し、掘立柱建物跡＝居住建造物との印象を強めている。

溝跡・柵列・掘立柱建物跡の時期決定は、遺物の出土量が少ないことから難しい。確たる根拠を示すことはできないが、方向性の一致に同時代性が反映されていると仮定すると、溝跡と柵列の組み合わせ3組、溝跡＋柵列＝塀跡と掘立柱建物跡の組み合わせ5組を把握することができる。

溝跡と柵列の組み合わせには、溝跡と柵列が並行する第5号溝跡と第1号柵列、第44号溝跡と第11・12号柵列の2組と、延長線が直交する第2・3号柵列と第4号柵列があげられる。

一方、溝跡＋柵列＝塀跡と掘立柱建物跡の組み合わせには、第4号溝跡と第3号掘立柱建物跡、第12・23号溝跡・第5・6号柵列・第7号柵列と第8・9号掘立柱建物跡、第22号溝跡・第8号柵列と第6・7号掘立柱建物跡、第21号溝跡・第9号柵列と第2・5号掘立柱建物跡、第15・56号溝跡・第10号柵列と第1・4号掘立柱建物跡があげられる。分布域の異なる第4号溝跡と第3号掘立柱建物跡を除き、塀による区画の中に2棟の建物が建ち並ぶ構図となっている。

溝跡・柵列・掘立柱建物跡の組み合わせの先後関係を把握することは困難である。状況証拠として、第2・3号柵列がしっかりとした掘込みをもつ第20

号溝跡と重複するが、深い溝を埋め戻して柵列を形成するとは考えがたいことから、延長線が直交する第 2・3 号柵列と第 4 号柵列の区画は古い段階に位置づけられよう。同様に、第 6・7 号溝跡の底面から柱穴が検出された第 3 号掘立柱建物跡は、古い段階の建物跡といえよう。また、第 6・7 号溝跡・第 20 号溝跡が N-25°-W 前後の方向に走行・直交する一群であることから、これらを新しい段階の区画に位置づけることが可能なのではないか。

a. 溝跡

今回の調査において計 62 条の溝跡を検出した。

第 1 号溝跡 (第 59・61 図)

調査区西端を横断する上幅 3.45m、深さ 1.6m の直線的に延びる溝跡で、断面 V 字形を呈する。土層観察では、下層部分に滞水状態を示す灰色土の堆積が認められた。主軸方位は N-27°-W を指し、第 20・25 号溝もほぼ同一方位を採る。現状で調査区に接する北側山林内に土塁状の高まりが確認されることから、第 1 号溝跡と西側を並走する第 25 号溝跡の間に土塁が築かれていたものと想定される。

遺物は、常滑甕、在地産瓦質陶器内耳鍋・片口鉢、古瀬戸縁釉小皿、天目茶碗、土師質土器皿 (第 66 図 1~16)、丸瓦、平瓦、砥石 (第 67 図 17~21) などが出土した。時期的には、15 世紀前葉を中心とした年代に位置づけられる。

第 2・3 号溝跡 (第 58 図)

調査区北端に位置し、北東から南西に向かって延びる小規模な溝である。第 2 号溝跡は北端が調査区外に続いているが、第 3 号溝跡は土壌に近い浅い掘り込みである。

第 4 号溝跡 (第 58 図)

調査区北端に位置し、北西から南東に向かって緩やかな曲がりをもって走行し、第 6~9 号溝跡に切られる。西側に存在する第 3 号掘立柱建物跡と溝の軸が直交することから、両者が組み合わさる可能性が高い。

遺物は、陶器鉢、在地産瓦質片口鉢の破片 (第 68 図 1・2) が出土した。

第 5 号溝跡 (第 58 図)

調査区北端に位置し、第 6 号溝の北側に取り付き、平場状の浅い掘り込みをもつ溝跡である。第 6 号溝跡に重なるように東西に延びる第 1 号柵列と組み合わせる可能性が高い。

遺物は在地産瓦質内耳鍋、緑泥片岩の板状石製品片 (第 68 図 3・4) が出土した。

第 6・7 号溝跡 (第 58 図)

調査区北端を東西方向に直線的に並走する溝跡で、両側とも調査区外へ延びている。北側に第 5 号溝跡が取り付き、第 3 号掘立柱建物跡と第 1 号柵列が重複しているが、先後関係は明確でない。おそらく建物や柵列が先行するものと考えられる。

第 8 号溝跡 (第 58 図)

調査区北端を東西に延びる直線的な溝跡で、幅約 1.7m、深さ約 0.9m を測り、断面 V 字形を呈する。西側は調査区域外にさらに延び、第 1 号溝跡に直交することから、方形区画を形成する溝跡になるものと想定される。

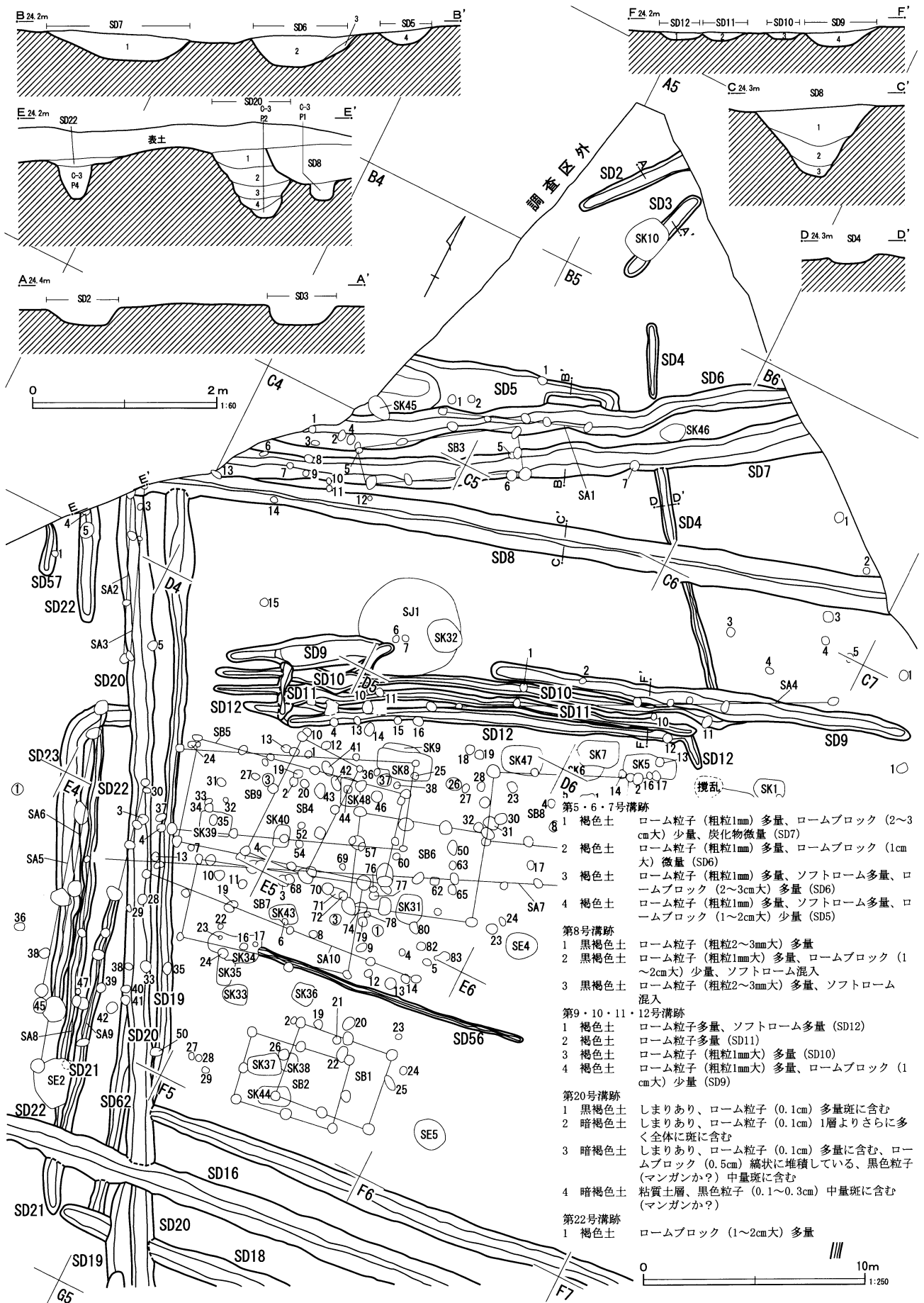
遺物は常滑甕、在地産片口鉢、天目茶碗、土師質土器皿、須恵器坏 (第 68 図 5~9) が出土した。

第 9・10・11 号溝跡 (第 58 図)

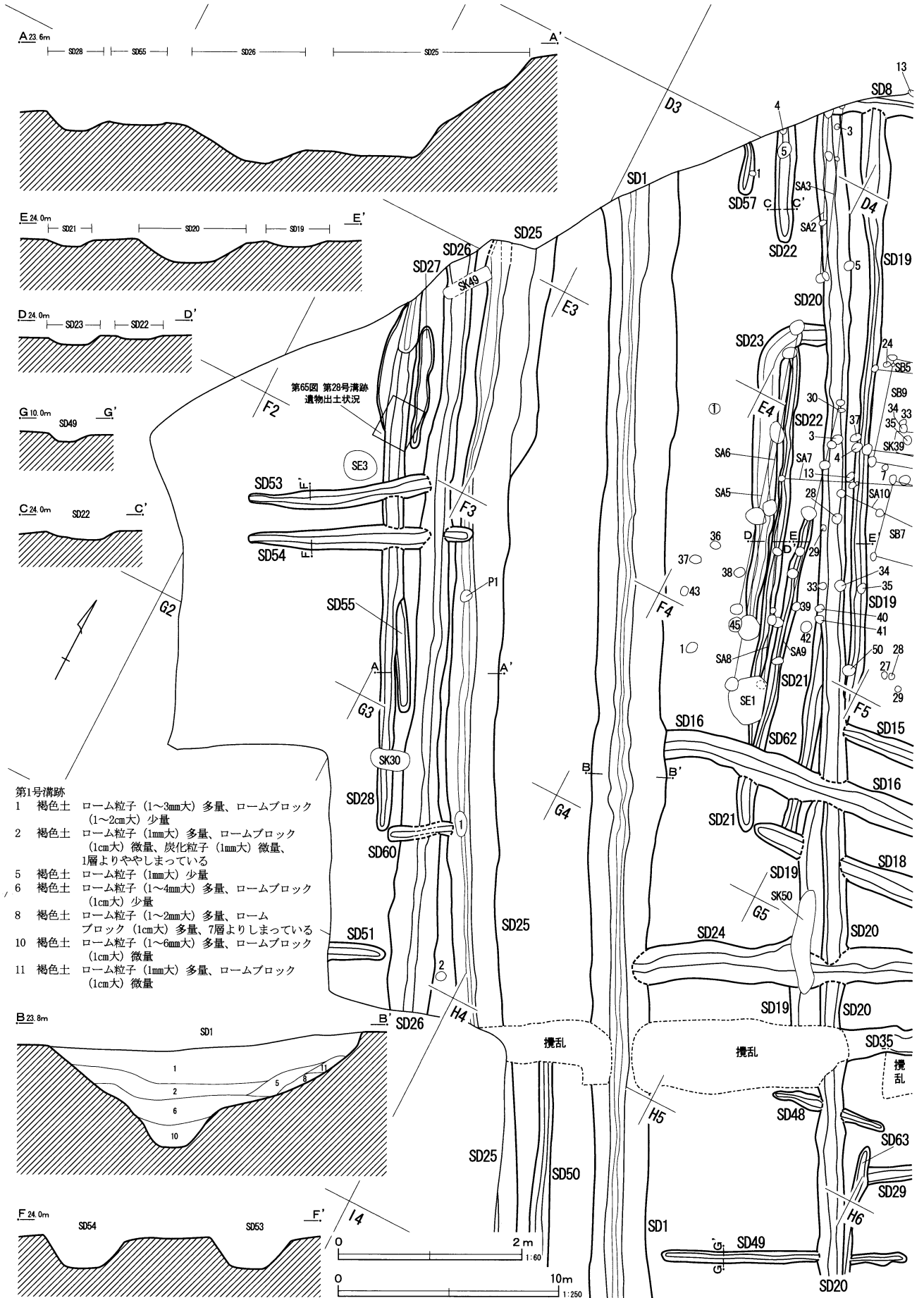
調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の北辺を画する溝跡で、各溝が接するように掘削されている。おそらく、建物群の変遷に伴い、繰り返して掘り直された結果であろう。

第 9 号溝跡は最も北側に位置し、断続的に掘り込まれている。第 10 号溝跡と第 11 号溝跡は概ね並走し、東端で第 10 号溝跡は第 9 号溝跡と重複する。これらの溝跡とほぼ重なるように第 4 号柵列が東西に延び、さらに西側延長線に直交するように第 2・3 号柵列が北に延び、調査区外へと続き、一つの遮蔽された区画を形成していたものと想定される。

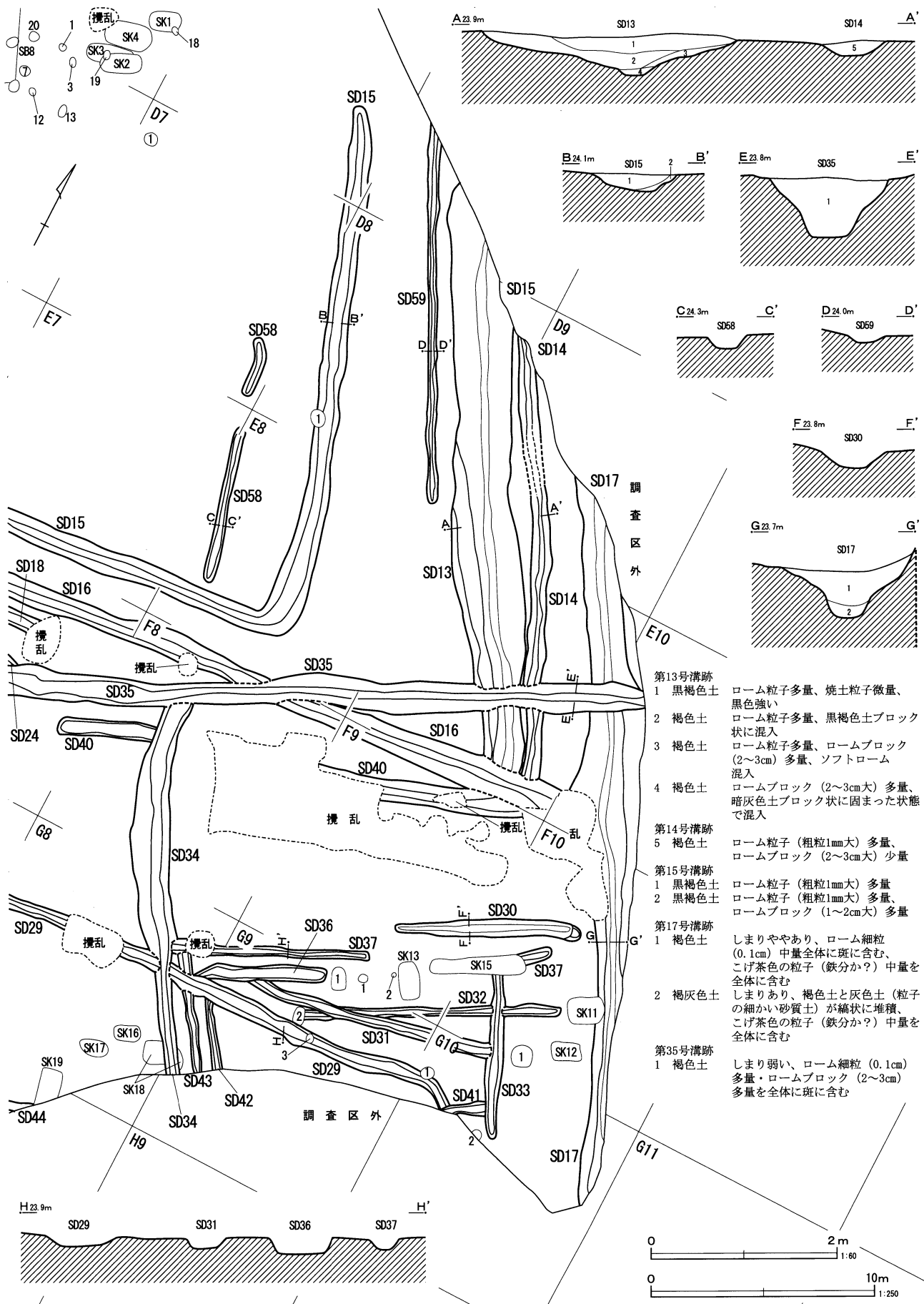
遺物は、第 9 号溝跡からベンガラが付着した天目茶碗、平瓦 (第 68 図 10・11)、第 11 号溝跡から須恵器



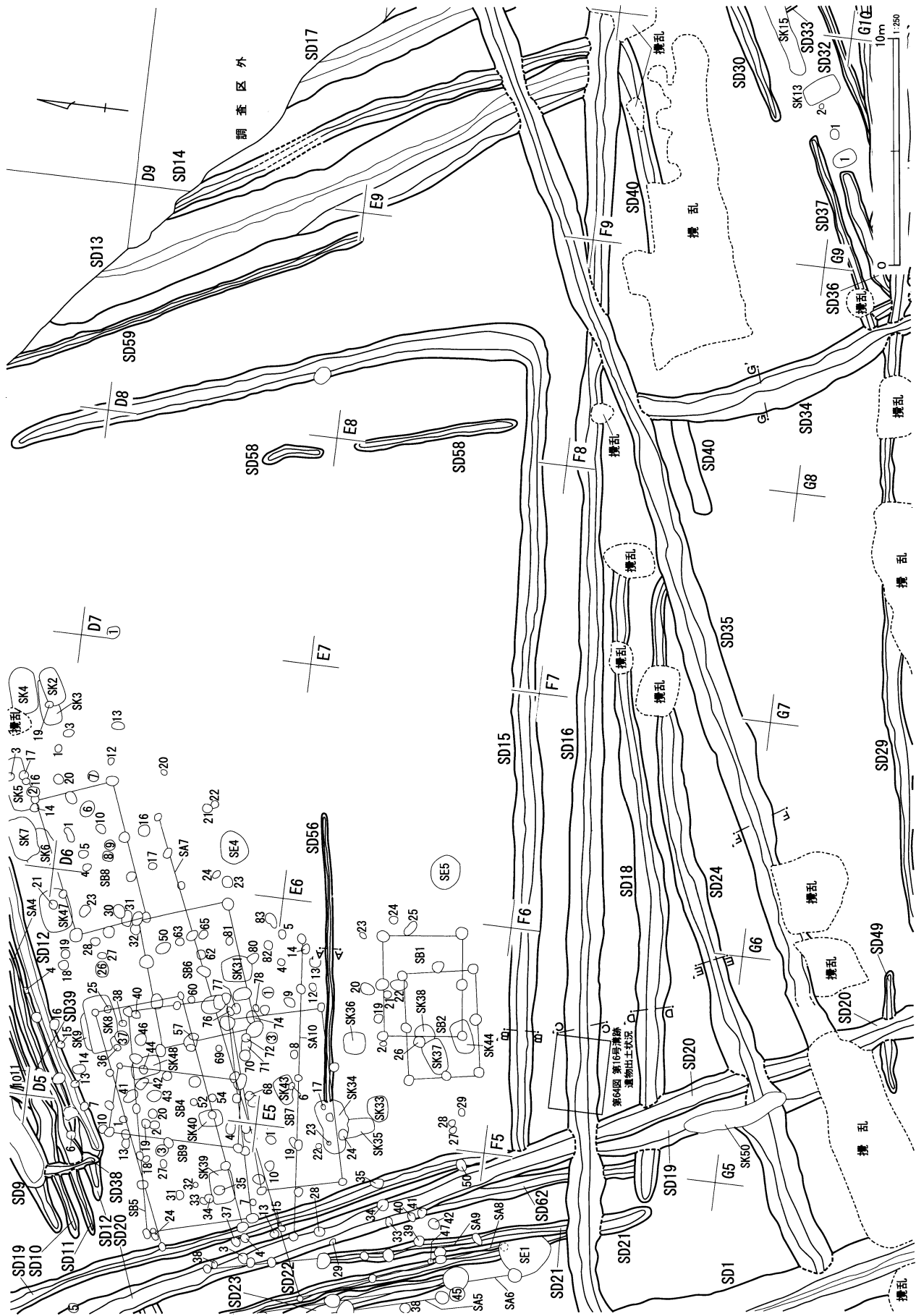
第58図 溝跡 (I)

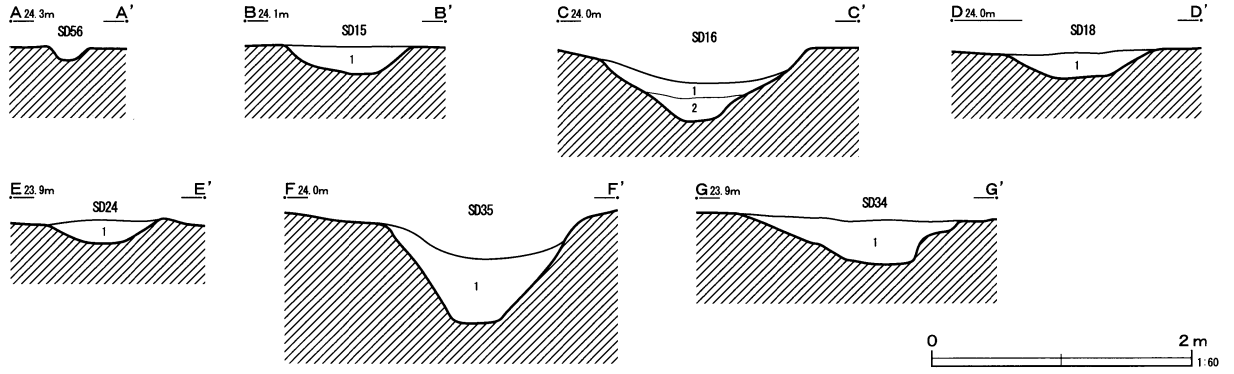


第59図 溝跡 (2)



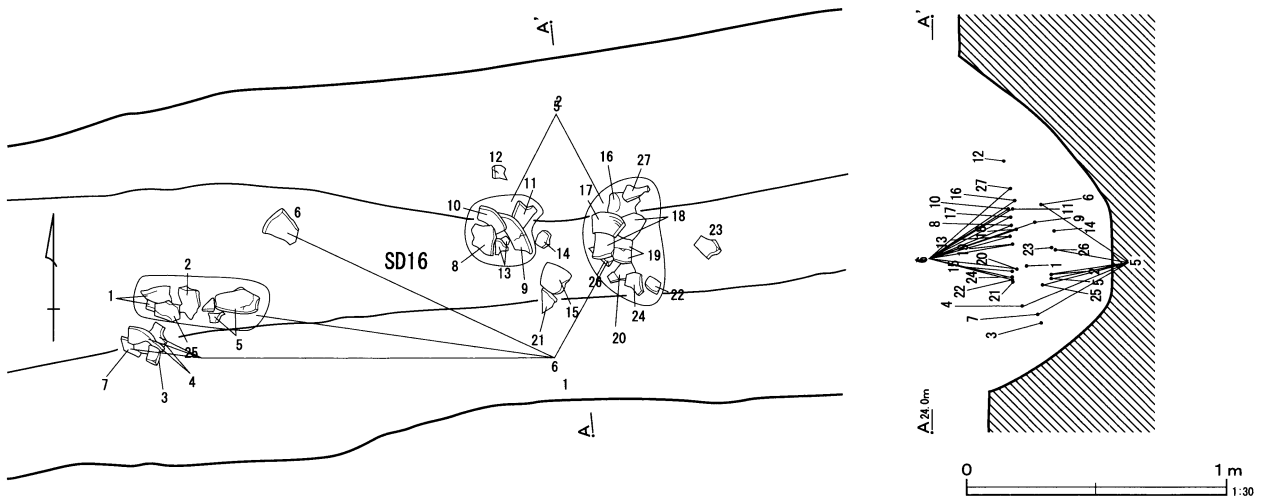
第60図 溝跡 (3)



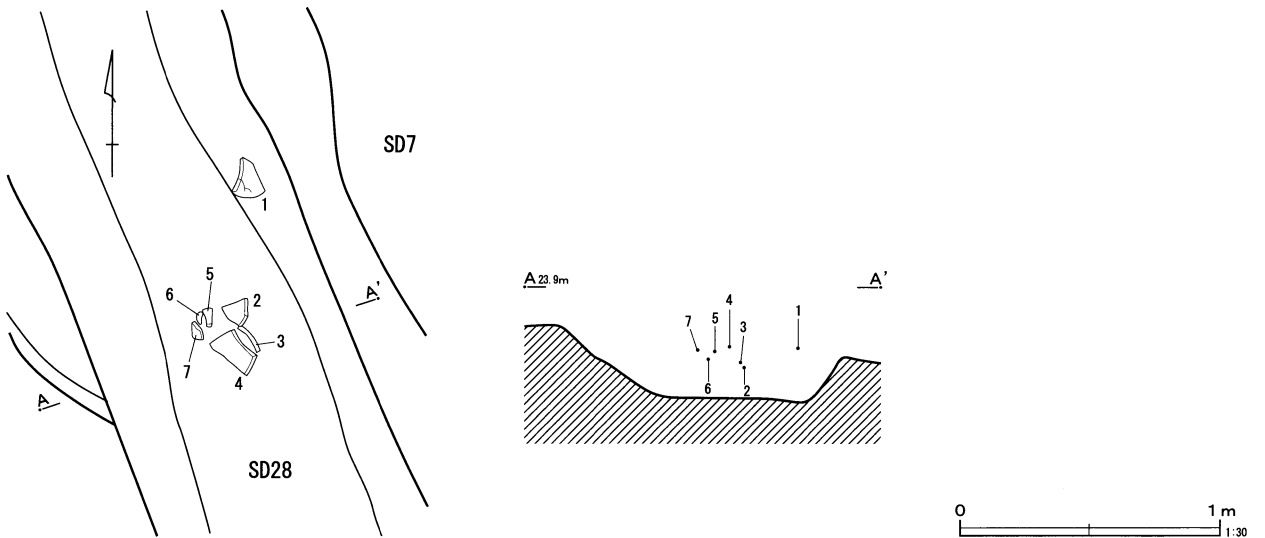


- | | |
|---|--|
| <p>第15号溝跡</p> <p>1 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒1mm大) 多量</p> <p>2 黒褐色土 ローム粒子 (粗粒1mm大) 多量、ロームブロック (1~2cm大) 多量</p> | <p>第24号溝跡</p> <p>1 褐色土 しまりなし、ローム細粒 (0.1~0.3cm) 多量・ロームブロック (1cm) 少量を全体に斑に含む</p> |
| <p>第16号溝跡</p> <p>1 褐色土 しまりなし、ローム細粒 (0.1~0.2cm) 少量を全体に斑に含む</p> <p>2 褐色土 しまり弱い、ローム細粒 (0.1~0.2cm) 多量・ロームブロック (0.5~1cm) 中量を斑に含む</p> | <p>第34号溝跡</p> <p>1 褐色土 しまり弱い、ローム細粒 (0.1cm) 多量斑に全体に含む、ロームブロック (0.5cm) 中量を両壁際に含む</p> |
| | <p>第35号溝跡</p> <p>1 褐色土 しまり弱い、ローム細粒 (0.1cm) 多量・ロームブロック (2~3cm) 多量を全体に斑に含む</p> |

第63図 溝跡 (6)



第64図 第16号溝跡遺物出土状況



第65図 第28号溝跡遺物出土状況

第11表 溝跡計測表

遺構	位置	長さ	幅		深さ		方位	方位	重複関係	時期
			最大	最小	最大	最小				
1	D~F-3 F~H-4 H~J-5 J-6	69.3	3.45	2.20	1.592	0.682	N-27°-W		SD16・24・45・46・47	A
2	A-4・5	5.15	1.00	0.56	0.192	0.145	N-41°-E			B
3	A-5	4.65	0.75	0.70	0.213	0.154	N-17°-E		SK10	B
4	B-5・6 C-6	16.5	0.52	0.29	0.179	0.050	N-40°-W	N-28°-W	SD7・8・9	B
5	B-4・5	10.3	2.23	0.46	0.282	0.109	N-70°-E	N-29°-W	SK45 SD46	B
6	B-4~6 C-4	21.6	1.81	0.74	0.295	0.005	N-50°-E		SD5 SB3 SK45	B
7	B-4・5 C-3・4	25.3	1.70	1.05	0.306	0.062	N-61°-E		SB3 SD4・8 SK46	B
8	B-5・6 C-3~6	34.5	1.68	0.86	0.890	0.578	N-73°-E		SD4・7・19・20	A
9	C-4~7 D-4	31.2	1.45	0.65	0.231	0.062	N-72°-E		SJ1 SD4・10・38	
10	C-5・6 D-4・5	23.5	0.82	0.32	0.276	0.061	N-69°-E		SJ1 SD9・11・38	
11	C-5・6 D-4・5	21.8	0.84	0.32	0.168	0.053	N-68°-E		SD10・12・38・61	
12	C-5・6 D-4・5	26.3	0.63	0.35	0.194	0.056	N-64°-E	N-46°-W	SD11・38・61	
13	C・D-8 D・E-9	25.0	3.05	1.80	0.478	0.179	N-30°-W		SD14・16・35	
14	D-8・9 E-9	19.3	0.95	0.61	0.215	0.094	N-29°-W		SD13・16・35	
15	C・D-7・8 E-6~8 F-5・6	48.9	1.53	0.70	0.321	0.080	N-83°-E	N-21°-W	SD19・20	
16	E-8・9 F-4~9	56.9	1.50	0.69	0.618	0.160	N-83°-E		SD1・13・14・20・21・35・40	A
17	D・E-9 E~G-10	31.6	1.28	0.57	0.631	0.361	N-27°-W		SK11 SD35	
18	F-4~7	27.5	1.38	0.70	0.202	0.067	N-78°-E		SD20・62	
19	C-3 C~F-4	40.7	1.33	0.40	0.199	0.050	N-24°-W	N-14°-W	SD8・20	
20	C・D-3 D~F-4 F~H-5 H・I-6	69.1	1.40	0.83	0.576	0.105	N-26°-W		SD8・15・16・18・19・23・24・45・46・47・48・49	
21	E・F-4	13.9	0.89	0.37	0.154	0.050	N-16°-W		S E1 SD16・22	
22	C・D-3 D~F-4	28.2	0.90	0.38	0.096	0.055	N-21°-W		SE1 SD21・23	
23	D-3・4 E-4	14.8	1.10	0.47	0.278	0.050	N-22°-W	N-65°-E	SD20・22	
24	F-5~7 G-4・5	31.6	1.80	0.48	0.310	0.009	N-65°-E		SD1・20・35	
25	D・E-2 E~F-3 G・I-4 I・J-5	68.8	2.90	0.55	1.213	0.094	N-28°-W		SD52・53・54	
26	E・F-2 F~H-3	33.4	2.10	0.90	0.733	0.211	N-23°-W		SD52・53・54・60	A
27	E-2	5.36	0.65	0.37	0.247	0.019	N-22°-W			
28	E・F-2 F・G-3	43.5	1.55	0.60	0.628	0.118	N-24°-E		SK30 SD53・54・55	
29	G-6~10	41.9	0.89	0.48	0.294	0.010	N-82°-E	N-60°-W	SD32・34・36・41・42・43	B
30	F-9・10	8.20	0.79	0.40	0.242	0.075	N-62°-E			B
31	F-10 G-9・10	11.3	0.62	0.38	0.242	0.118	N-78°-E		SD32・33・36	B
32	F-9・10 G-9	11.3	0.48	0.20	0.176	0.025	N-75°-E		SD29・31・33	B
33	F・G-10	7.25	0.80	0.38	0.167	0.065	N-25°-W		SK15 SD31・32・41	B
34	F-8 G-8・9	16.5	1.56	0.50	0.374	0.153	N-30°-W		SK18 SD29・35・37・40	B
35	E-8~10 F-6~8 G-5・6	49.1	1.95	0.90	0.994	0.424	N-65°-E		SD13・14・16・17・24・34	
36	G-8・9	5.05	0.68	0.41	0.200	0.122	N-82°-E		SD29・31	B
37	F-9・10 G-8・9	16.6	0.53	0.34	0.225	0.081	N-65°-E		SK15 SD34・43	B
38	D-4	2.55	0.56	0.19	0.187	0.026	N-22°-W		SD9~12	
39	C-4・5 D-4・5	2.15	0.55	0.42	0.074	0.039	N-27°-E			
40	F-7~9	20.07	1.03	0.83	0.150	0.043	N-74°-E		SD16・34	B
41	G-10	1.76	0.60	0.32	0.222	0.096	N-61°-E		SD29・33	B
42	G-9	3.10	0.34	0.21	0.079	0.042	N-35°-W		SD29	B
43	G-8・9	5.36	0.55	0.30	0.126	0.052	N-35°-W		SD29・37	B
44	H-7・8	12.15	0.54	0.30	0.207	0.022	N-66°-E		SK20	B
45	I-5~7 J-5	27.1	0.61	0.55	0.594	0.118	N-61°-E		SK22・23 SD1・20・46	
46	H-7 I-5~7 J-5	17.0	1.10	0.48	0.195	0.045	N-62°-E		SD1・20	
47	I-6・7 J-5・6	20.9	1.82	0.82	0.554	0.136	N-28°-W	N-60°-E	SD1・20	
48	G-5	5.28	0.70	0.32	0.141	0.036	N-80°-E		SD20	B
49	H-5・6	11.0	0.52	0.34	0.141	0.048	N-64°-E		SD20	B
50	H・I-4 I・J-5	25.0	0.95	0.20	0.225	0.008	N-29°-W		SD47	
51	G・H-3	2.50	0.74	0.60	0.246	0.074	N-69°-E			B
52	J-5	4.10	0.84	0.54	0.34	0.104	N-28°-W	N-72°-W	SD25・47	B
53	E・F-2	9.80	0.94	0.38	0.331	0.082	N-61°-E		SD25・26・28	
54	F-2・3	8.40	1.12	0.56	0.341	0.096	N-62°-E		SD25・26・28	
55	F-2・3	4.90	0.62	0.50	0.118	0.034	N-32°-W		SD28	
56	E-5・6	12.5	0.35	0.22	0.136	0.062	N-83°-E		SK34	B
57	D-3	2.34	0.65	0.26	0.074	0.022	N-23°-W			
58	D-7 E-7・8	11.0	0.56	0.38	0.325	0.120	N-15°-W			
59	C・D-8	16.9	0.54	0.30	0.151	0.037	N-28°-W			
60	G-3	3.00	0.66	0.58	0.210	0.052	N-57°-E		SD26	
61	欠番									
62	E・F-4	9.20	0.84	0.53	0.130	0.093	N-18°-W		SD16・18・22	
63	G-5・6 H-6	6.10	0.60	0.36	0.138	0.038	N-17°-W		SD20・29	

凡例 A：中世 B：近世

坏（第68図12）が出土した。

第12号溝跡（第58図）

調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の北辺を画する溝跡のひとつで、最も内側を巡り、東端は南に短く屈曲する。さらに、西側の延長上には第23号溝跡が続き、西辺を画する。建物跡や柵列との関係は、溝跡によって区画された内部を東西に延びる第7号柵列で南北に二分し、その北側に軸を揃えて第5・8号掘立柱建物跡が2棟建ち並び、第23号溝跡と重複するように第5・6号柵列が南北に延びる。

第13号溝跡（第60図）

調査区東辺の中央から南東に延びる幅3mを越す幅広い溝跡で、東側に第14号溝跡が接しながら並走する。北端は調査区外へさらに延びているが、南端は第16号溝跡に取り付く。

遺物は、須恵器長頸瓶の底部片（第68図13）が出土した。

第14号溝跡（第60図）

調査区東辺の中央から南東に延びる溝跡で、西側に第13号溝跡が接する。東西溝の第35号溝跡と交差し、第16号溝跡に取り付いた後、ほぼ直角に向きを西に変え、第40号溝跡に繋がるものと推定される。

第15号溝跡（第62図）

調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の南辺から東辺を画するL字形の溝跡である。総長約49m、幅1.5m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師質土器皿（第68図14）が出土した。

第16号溝跡（第62図）

調査区中央を横断するように西側の第1号溝跡と東端の第17号溝跡を直線的に連結する、幅1.5m、深さ0.6mの溝跡である。第20号溝跡との交差部分の東側からは、埋土中層から在地産の内耳鍋、片口鉢、土釜などがまとまって出土した（第64図）。

遺物は、在地産甕、常滑甕、在地産内耳鍋、片口鉢、土釜、土師質土器皿（第69図1～14）が出土し、15世紀前葉を中心に位置づけられる。

第17号溝跡（第60図）

調査区東辺を南北に走行する、掘り込みのしっかりした溝跡である。主軸方位はN-27°-Wを指し、第1・25号溝跡とほぼ一致することから、方形区画を形成する溝跡と考えられる。第35号溝跡が直交するように切り込む。

遺物は土師質土器風炉の破片（第70図1）が出土した。

第18号溝跡（第68図）

調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の南辺を画する溝跡で、内側を巡る第15号溝跡に概ね並行している。西端は第21号溝跡に接する。

遺物は、砥石（第70図2）が出土した。

第19・20号溝跡（第59・61図）

第20号溝跡は、調査区西側を横断するように真直ぐに延びる溝跡で、幅1.4m、深さ0.6mを測る。主軸方位は、西側を並走する第1号溝跡と同じくする。第19号溝跡は第20号溝跡の東側を並走しながら緩やかに曲がり、南側で第20号溝跡と交差する。両者の先後関係は、第19号溝跡が先行する。

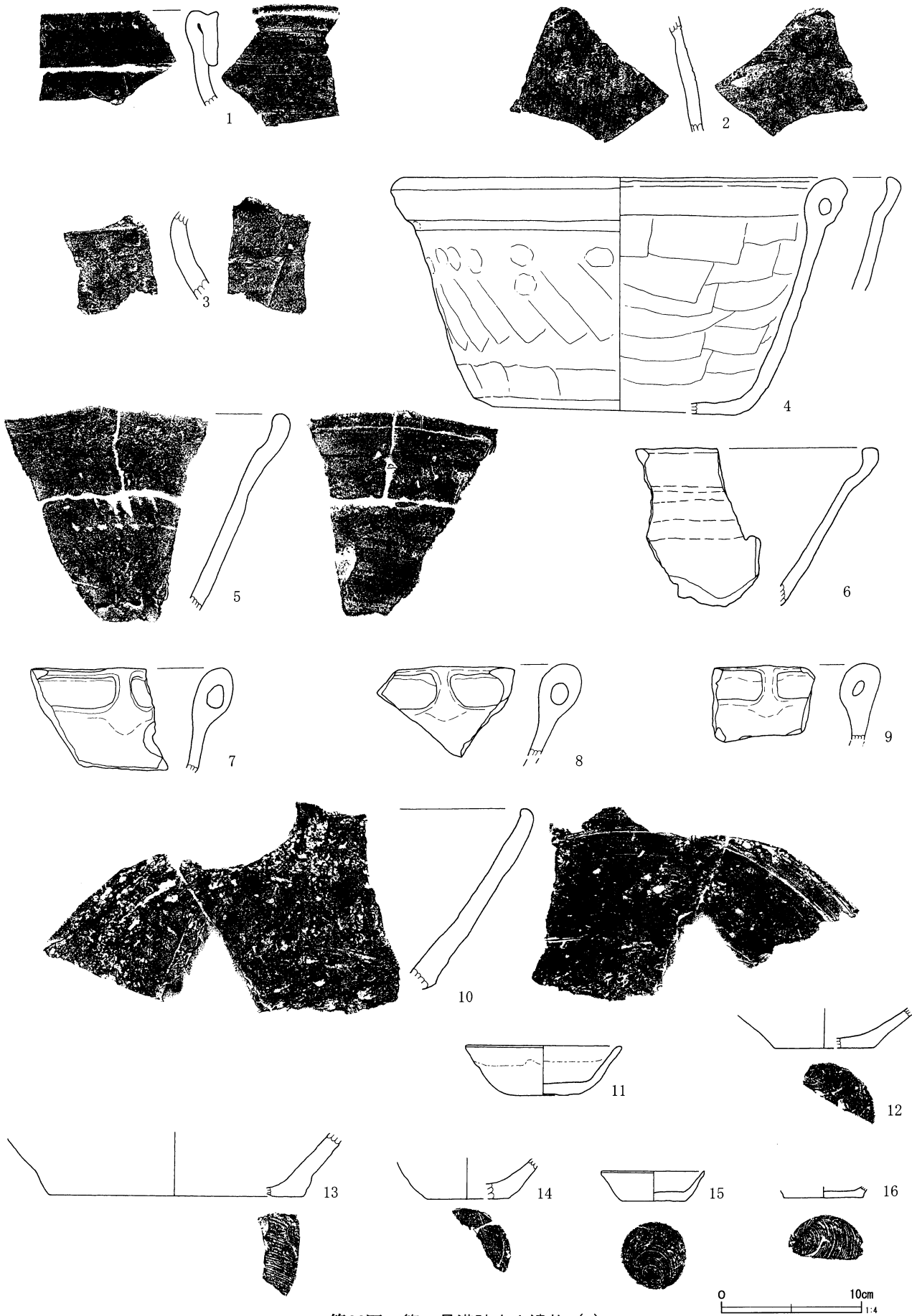
第21・22号溝跡（第58・59図）

調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の西辺を画する溝跡である。第21号溝跡は西辺の区画溝では最も内側に位置し、第9号柵列と重複し、南端は第18号溝東端に接し、大きく向きを変える。建物跡は、第2・5号掘立柱建物跡に伴う。

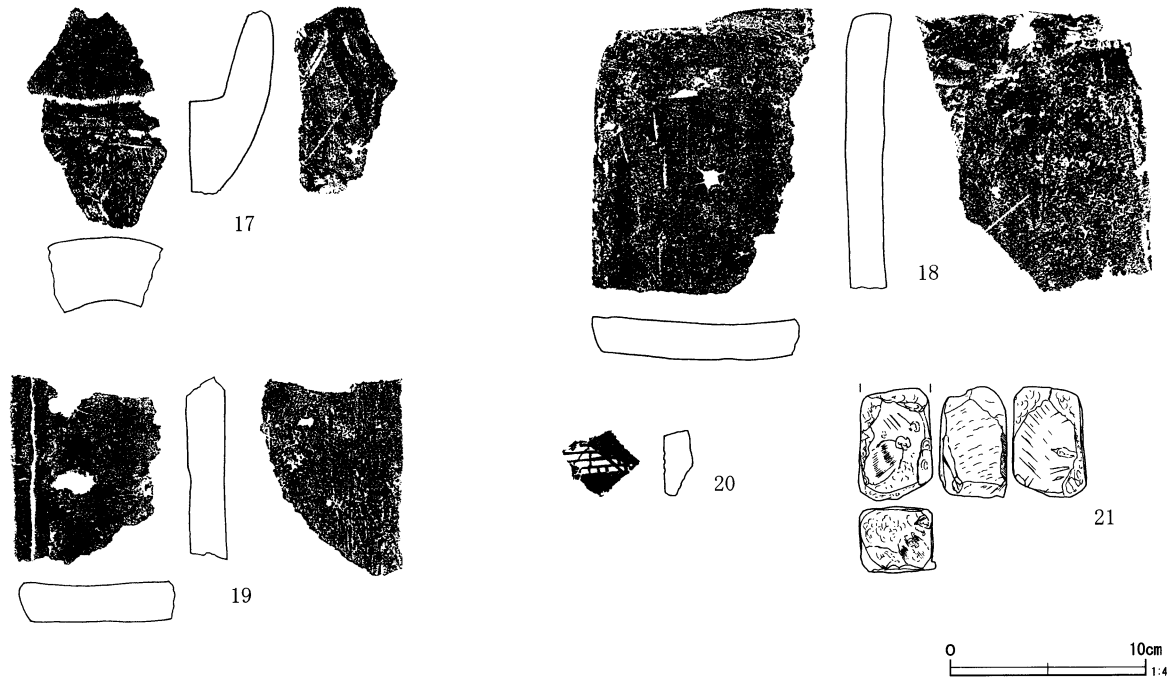
第22号溝跡は、両端部を第21・23号溝跡に切られており、西辺の区画溝としては最も古く位置づけられる。第8号柵列と重複し、第6・7号掘立柱建物跡が組み合うものと想定される。

第23号溝跡（第58・59図）

調査区中央の建物群を取り囲むように巡る区画溝の西辺を画するL字形の溝跡である。西端が第20号溝跡と重なっているため明確でないが、出入口部を設け、第12号溝跡へと繋がっていたようである。第5・6号柵列と重複することから、溝跡と柵列が一体となった遺構であることを示唆する。



第66图 第1号沟迹出土遗物 (1)



第67図 第1号溝跡出土遺物(2)

遺物は、在地産土釜、土師質土器皿、平瓦(第70図3～9)が出土した。

第24号溝跡(第62図)

調査区中央を東西に走行する比較的規模の大きな溝跡である。南北に走行する第1号溝跡に直交するように取り付き、東へ直線的に延び、第20号溝跡と交差し、中程で緩やかに南に曲がり第35号溝跡に合流する。

遺物は、青磁碗の破片(第70図10)が出土した。

第25・26号溝跡(第59・61図)

第25号溝跡は、調査区西端を横断するように直線的に延びる溝跡で、東側を並走する第1号溝跡の間に土塁が構築されていた。第26号溝跡は、第25号溝跡の西側に接するように掘削された溝跡で、南側で分岐している。

遺物は、第25号溝跡から砥石(第70図11)、第26号溝跡から土師質土器皿(第70図12)がそれぞれ出土した。

第27号溝跡(第59図)

調査区西端北寄りに位置し、第26号溝跡と第28号溝跡に接するように延びる小規模な溝跡である。

第28号溝跡(第59図)

調査区西端北寄りを南北に走る直線的な溝跡である。東に並んでいる第25・26号溝跡に付随するものであろう。なお、北側の第27号溝跡と接する部分から在地産甕、片口鉢、土釜などの遺物がまとまって出土した(第65図)。

遺物は、在地産甕、常滑甕、在地産片口鉢、土釜、土師質土器皿(第71図)などが出土した。

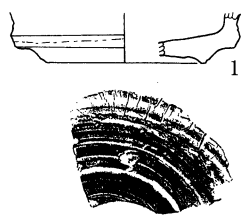
第29号溝跡(第59図)

調査区南側を緩やかな曲がりをもって東西に走行する溝跡で、西端は第63号溝跡に取り付き、東寄りで第32・34・36・42・43号溝跡と交差し、東端で第41号溝跡と重なり、最終的に調査区外へと延びる。走行方向は、北に位置する第15・16号溝と概ね一致している。

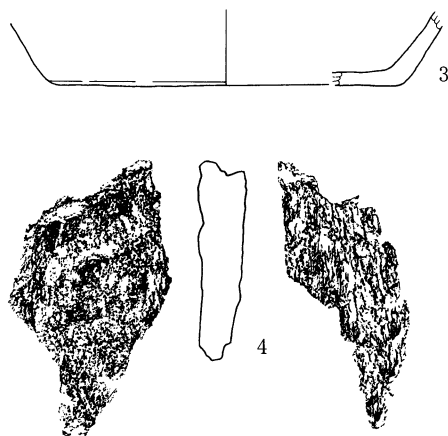
第30号溝跡(第60図)

調査区南東隅に位置し、東西に走行する長さ8.2mの溝跡である。南側の第32号溝跡とは、走行方向を同じくする。また、調査区東辺の第17号溝跡に直交している。

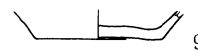
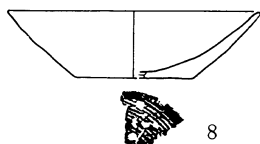
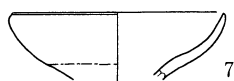
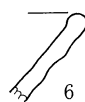
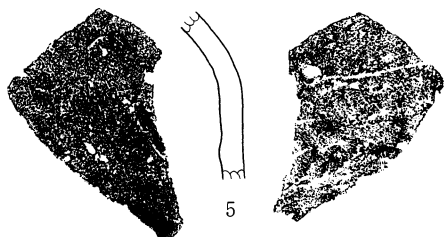
第4号沟迹



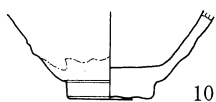
第5号沟迹



第8号沟迹



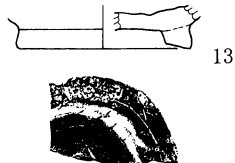
第9号沟迹



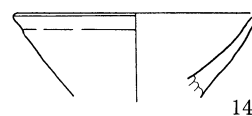
第11号沟迹



第13号沟迹

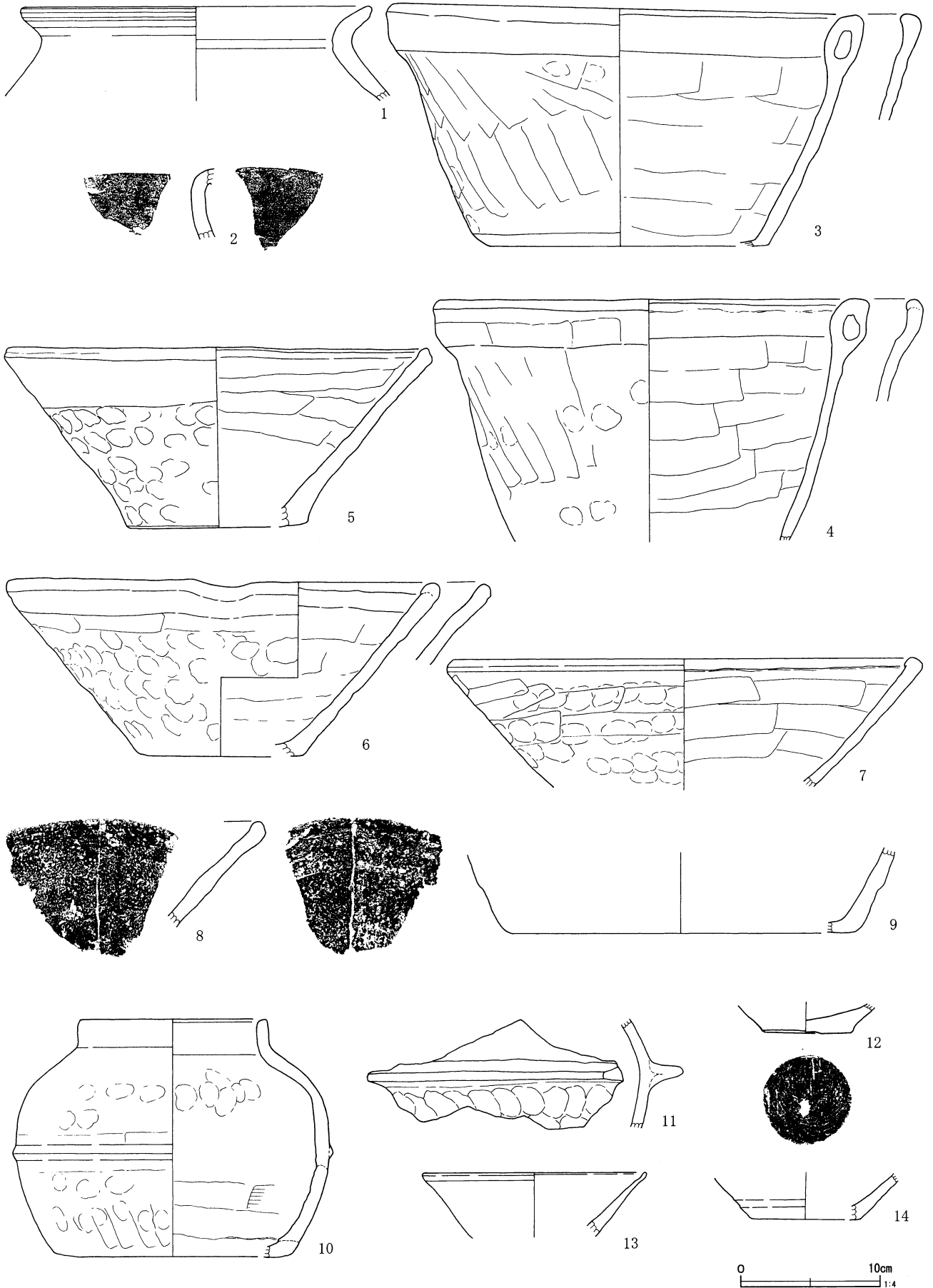


第15号沟迹



第68图 第4·5·8·9·11·13·15号沟迹出土遗物





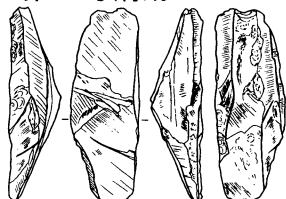
第69図 第16号溝跡出土遺物

第17号溝跡



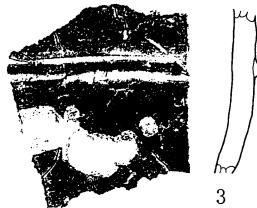
1

第18号溝跡



2

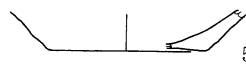
第23号溝跡



3



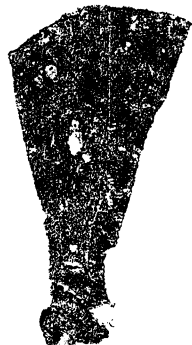
4



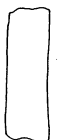
5



6



7



8



9

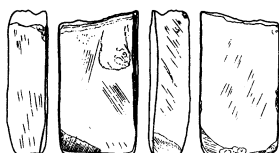


第24号溝跡



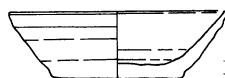
10

第25号溝跡



11

第26号溝跡



12



第70図 第17・18・23・24・25・26号溝跡出土遺物

第31号溝跡 (第61図)

調査区南東隅に位置し、東西溝の第36号溝跡と南北溝の第33号溝跡を繋ぐように緩やかに斜行する溝跡で、中程で第32号溝跡と交差する。

第32号溝跡 (第61図)

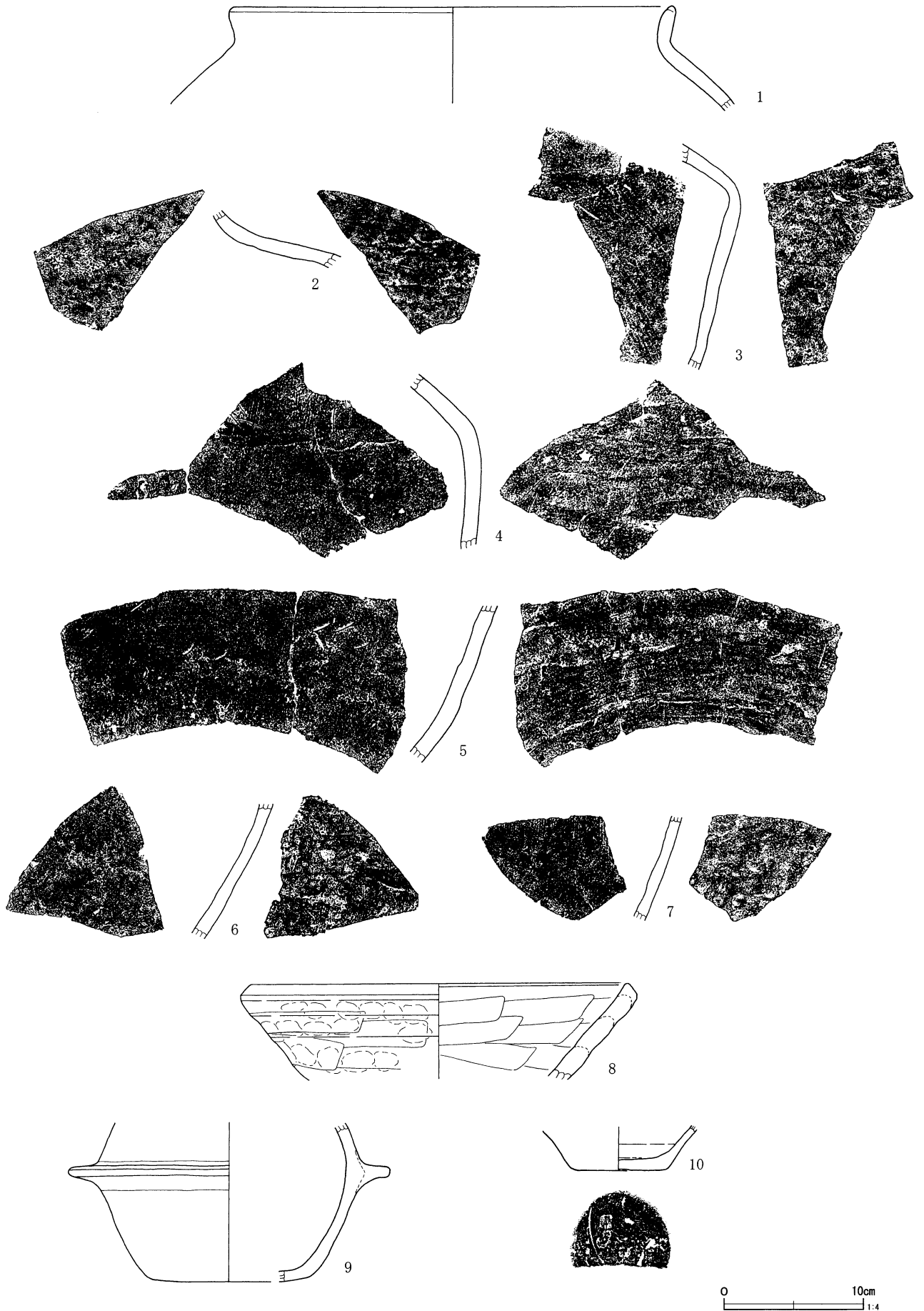
調査区南東隅に位置する小規模な東西溝で、第29号溝跡から分岐し、第31・33号溝跡と交差する。

第33号溝跡 (第61図)

調査区南東隅を南北に走行する小規模な溝である。第31・32・41号溝跡と重複し、北端は第15号土壇に取り付く。調査区東辺を南北に走行する第17号溝跡と並走し、第13号溝跡の延長線上にあたる。

第34号溝跡 (第61図)

調査区南東側に位置し、第35号溝跡と第29号溝跡



第71図 第28号溝跡出土遺物

を繋ぐように南北に緩やかに屈曲しながら延びる。

第35号溝跡 (第60・61図)

調査区中央を北東から南西方向に直線的に貫流する幅1～2m、深さ約1mの断面台形の溝跡である。覆土は、褐色土で一機に埋め戻された状況を示す。現在の耕地の境界溝にあたっているが、第20号溝跡に直交するように延びていることから、本来は方形区画を形成する溝跡の可能性も十分考えられる。

第36・37号溝跡 (第60図)

調査区南東隅に位置する小規模な溝跡群を構成し、東西に並走しながら延び、第36号溝跡は第29号溝跡に切られるため明確でないが、第37号溝跡は断続的に延び、西端は第34号溝跡に直交する。

第38号溝跡 (第58図)

東西に並行して延びる第9～12号溝跡の西端部を横切る短い南北溝である。

第39号溝跡 (第58図)

調査区北側の第10号溝跡から北へ分岐するやや屈曲した短い溝跡で、第9号溝跡に繋がる。

第40号溝跡 (第60図)

調査区東側に位置し、攪乱により詳細は不明であるが、途切れながら直線的に延びる溝跡である。東端部は第16号溝跡と重複するため明確でないが、直角に折れ曲がり、南下する第14号溝に繋がる可能性がある。

第41号溝跡 (第60図)

調査区南東端に位置し、第29号溝跡と第33号溝跡を結ぶように東西に延び、調査区外へと続く。

第42・43号溝跡 (第60図)

調査区南東隅に位置する小規模な溝跡群を構成し、南北に並走しながら調査区外へと延びる。第29号溝跡に切られるため明確でないが、第42号溝跡は第36号溝跡に、第43号溝跡は第37号溝跡にそれぞれ繋がるものと考えられる。

第44号溝跡 (第61図)

調査区南辺の中央に位置する東西方向に延びる幅狭の浅い溝跡で、東側は調査区外へと続く。第11号柵

列と一部重なることから、本来は板塀であったものと想定される。

第45・46・47号溝跡 (第61図)

調査区南端に位置し、東西に並走する溝跡である。第45・47号溝跡の西端は、第1号溝跡と第25号溝跡の間にまで延び、第45号溝跡が北へ、第47号溝跡は南へそれぞれ直角に折れ曲がる。

第48号溝跡 (第61図)

調査区南側に位置し、第20号溝跡と交差する東西方向の小規模な溝跡である。方位は、第16号溝跡に近似している。

第49号溝跡 (第61図)

調査区南側、東西溝の第35号溝跡と第45～47号溝跡のほぼ中央に位置する幅狭の浅い溝跡である。東側は南北溝の第20・63号溝跡と直交する。第11・12号柵列とともに区画域を構成している。

第50号溝跡 (第61図)

調査区西辺の南寄りを第25号溝跡に沿うように直線的に延びる。北端は攪乱されているが、南側は浅くなり一部途切れ、南端は第47号溝跡に取り付く。なお、調査区外に残る土塁の様相から第1号溝跡と第25号溝跡の間には土塁が構築されていたと想定されることから、この溝跡は土塁の構築に先行する区画溝の可能性が高い。

第51号溝跡 (第59図)

調査区西端中央に位置する東西溝で、西側は調査区外に延びる。第24号溝跡の延長線上に位置する点に注意される。

第52号溝跡 (第61図)

調査区南西隅に位置し、第25号溝跡の南端から分岐し、南に直角に折れ曲がる第47号溝跡に合流する。

第53・54号溝跡 (第59図)

調査区西端を南北に横断する第25・26・28号溝跡に直交するように並走する溝跡である。幅1m前後、深さ30cm以上と断面台形の比較的しっかりした掘込みをもつ。

第55号溝跡 (第59図)

調査区西端北寄りに位置する。第28号溝跡から分岐し、並走するように南へ延びる。

第56号溝跡 (第58図)

第12・15・23号溝跡などによって台形に画された区画内の掘立柱建物跡や柵列が集中する箇所をやや南寄りに位置する。東西に延びる幅狭の浅い溝跡で、西端は第34号土壌によって切られる。

掘立柱建物跡や柵列との組み合わせは、第15号溝跡と並走し、第1・4号掘立柱建物跡、ならびに第10号柵列と軸を揃えている点がうかがわれる。

第57号溝跡 (第59図)

調査区北西部に位置し、北端は緩やかに曲がりながら調査区外へと延びる。幅狭の浅い溝跡で、東に第20・22号溝跡が並走する。

第58号溝跡 (第60図)

調査区中央やや東寄りに位置し、第15号溝跡東辺の内側に並走する断続的な溝跡である。柱穴などは伴っていないが、板塀の可能性が考えられる。

第59号溝跡 (第60図)

b. 柵列

発見された12列の柵列は、いずれもグリッドピットとして調査されたもののなかから、調査区を区画する溝跡や掘立柱建物跡との方向性に着目し、柵列として再認定されたものである。そのため、重複する遺構との新旧関係については、ほとんどの場合が不明である。

柵列は幅狭の浅い溝跡の同方向・延長線上に柱穴列が延びるといった検出状況から、柵列と溝跡が一体となった板塀が連想され、柵列の柱穴は板塀の支柱穴と考えられる。さらに、方向性の一致から、溝跡・掘立柱建物跡との組み合わせも把握される。

第1号柵列 (第72図)

B-4・5グリッドに位置し、第6号溝跡と重複する。

東西方向に並ぶ柱穴5本・柱間4間の柵列と認定される。長さ6.60mを測り、軸方位はN-60°-Eを

調査区北東部の調査区外から南東に向かって直線的に延びる幅狭の浅い溝跡である。東側に位置する第14号溝跡と規模や主軸方位を同じくすることから関連性がうかがわれる。

第60号溝跡 (第59図)

調査区西端の南寄りに位置し、第25・26号溝跡と直交するように東西方向に断続的に延びる小規模な溝跡である。

第62号溝跡 (第58図)

調査区西側を南北に走行する第20号溝跡から分岐する小規模な溝跡で、南端は第16号溝跡と重複し、第18号溝跡に合流する。

第63号溝跡 (第61図)

調査区南側を南北に走行する第20号溝跡に合流する小規模な溝跡で、緩やかに屈曲しながら走行する。北端は第29号溝跡、南端は第49号溝跡とそれぞれ交差する。

指す。出土遺物はない。

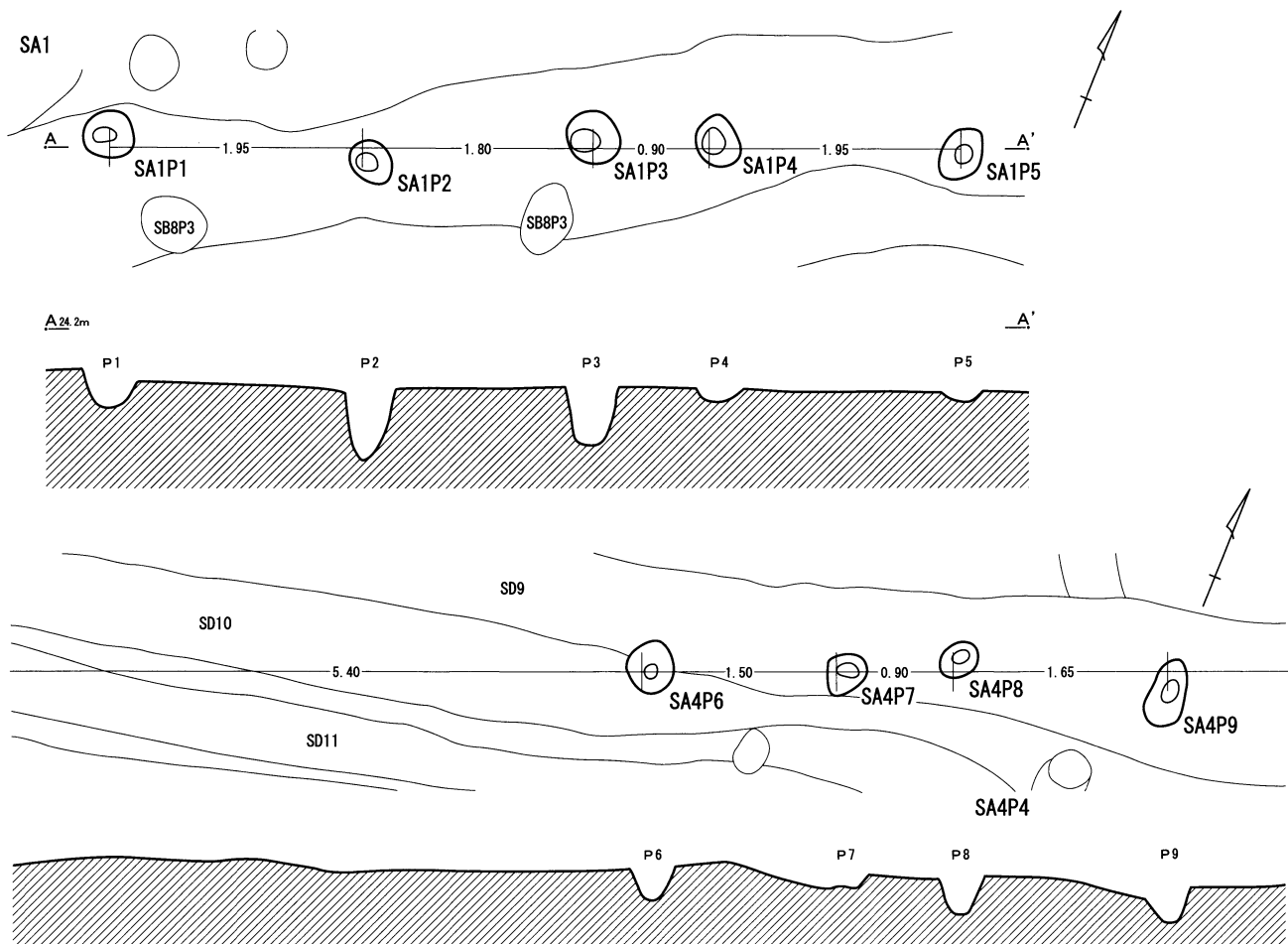
北側には第5号溝跡が、方向性を揃えて並走する。溝跡1条と柵列1列の組み合わせのみで、面的な区画域や軸を揃える建物跡は発見されていない。

第4号柵列 (第72図)

C-5・6、D-4・5グリッドに位置する。重複する第9・10・11・12号溝跡と、わずかに方向性を違える。

東西に並ぶ柱穴10本・柱間9間の柵列と認定される。長さ22.00mを測り、軸方位はN-63°-Eを指す。出土遺物はない。

柱間距離には統一性がなく、最短のP7-P8間(0.90m)と最長のP5-P6間(5.40m)では6倍もの差となっている。ただし、柱間距離の長いP5-P6間・P9-P10間(4.30m)は重複する第9・10・11・12号溝跡を斜めに横断する部分でもあ



第72図 第1・4号柵列

り、数本の柱穴が削平されている可能性も高い。一方で、P1～P5とP6～P9の2列の柵列と把握することも可能である。

第4号柵列は、第2・3号柵列と延長線がほぼ直交する位置関係にあり、L字形の区画ラインが形成されている。しかし、この区画内に掘立柱建物跡はなく、方向性を一致させる溝跡も検出されていない。

第2・3号柵列 (第73図)

C-3、D-3・4グリッドに位置する。南北に並行する2列の柵列で、第20号溝跡と重複する。

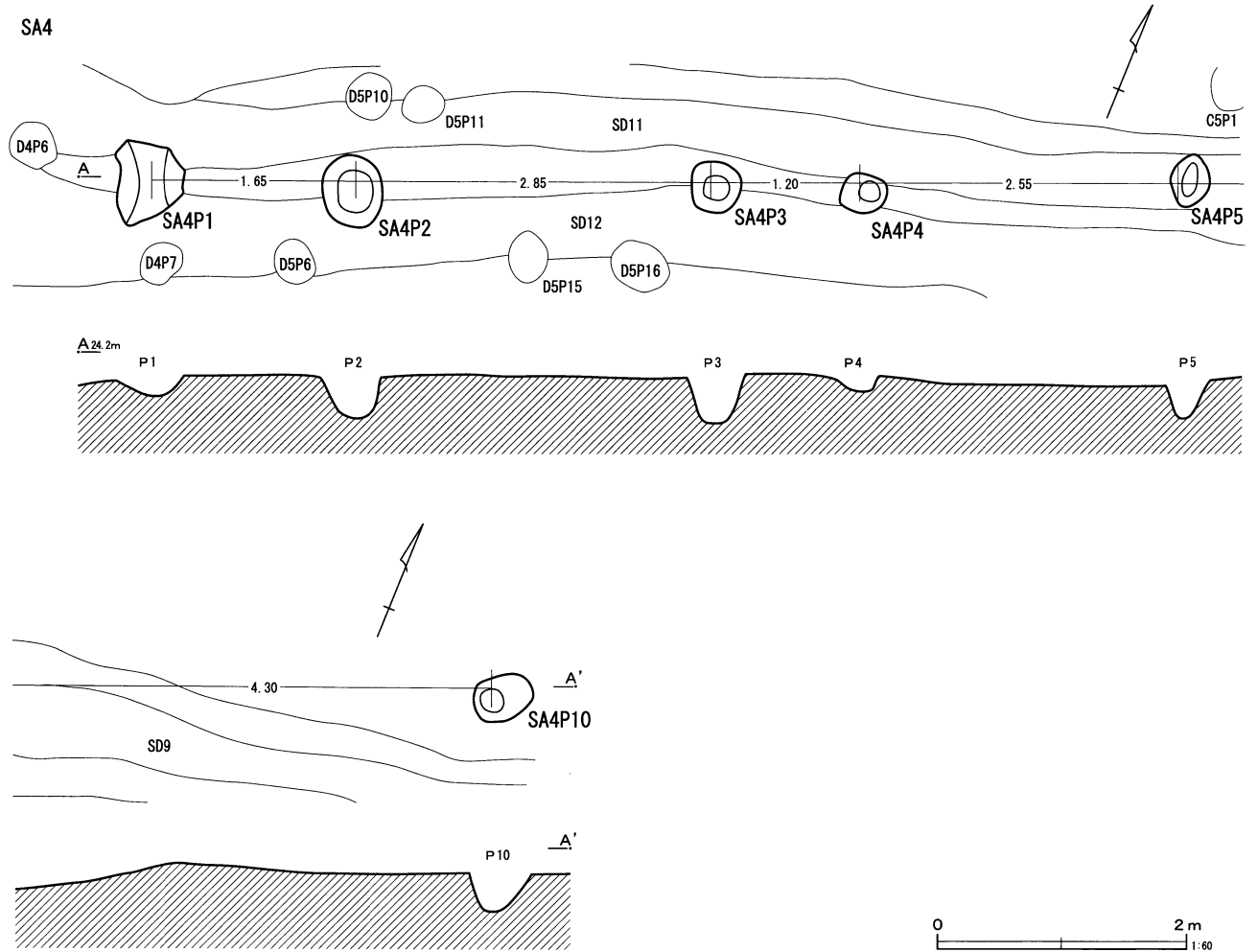
西側の第2号柵列は、柱穴4本・柱間3間の柵列と認定される。長さ7.35mを測り、軸方位はN-23°-Wを指す。

東側の第3号柵列は、柱穴3本・柱間2間の柵列と認定される。長さ7.65mを測り、軸方位はN-22°-Wを指す。P2-P3の柱間距離から、この間にもう1本の柱穴が存在し、第2号柵列と同様に4本

柱穴・柱間3間の柵列であったが検出できなかったことが予想される。

第2号柵列・第3号柵列ともに出土遺物がなく、新旧関係は不明であるが、並行する柵列が同時存在していた可能性が低いことから、建て替えと判断される。

第2・3号柵列の延長線と第4号柵列の延長線によって、L字形の区画ラインが形成されている。この区画内には掘立柱建物跡がなく、方向性を一致させる溝跡も検出されていない。第2・3号柵列は方向が異なる第20号溝跡と重複し、第4号柵列も重複する第9・10・11・12号溝跡とは方位が異なる。そのため、第2・3・4号柵列とこれらの溝跡との組合関係は認められず、新旧関係も不明である。しかし、第20号溝跡がしっかりと掘り込みを持ち、深く掘り込まれた溝跡を埋め戻してから柵列を形成することは常識的には考え難い。そこで、第2・3



号柵列と第4号柵列によって形成された区画は第20号溝跡よりも古い段階に位置づけられ、溝跡との組み合わせがないことから、この段階には板塀が構築されていない可能性も考えられる。

第5・6号柵列 (第73図)

D-4・5、E-4、F-4グリッドに位置する。南北に並行する2列の柵列で、第22・23号溝跡、第1号井戸跡と重複する。

西側の第5号柵列は、柱穴4本・柱間3間の柵列と認定され、P2を第6号柵列P2と共用する。長さ11.55mを測り、軸方位はN-15°-Wを指す。

東側の第6号柵列は、柱穴5本・柱間4間の柵列と認定される。P2を第5号柵列P2と共用する。長さ16.05mを測り、軸方位はN-22°-Wを指す。

いずれの柵列にも出土遺物がなく、年代的な確証はないが、並走する第5号柵列・第6号柵列は建て替えが予想される。また、重複する第23号溝跡や直

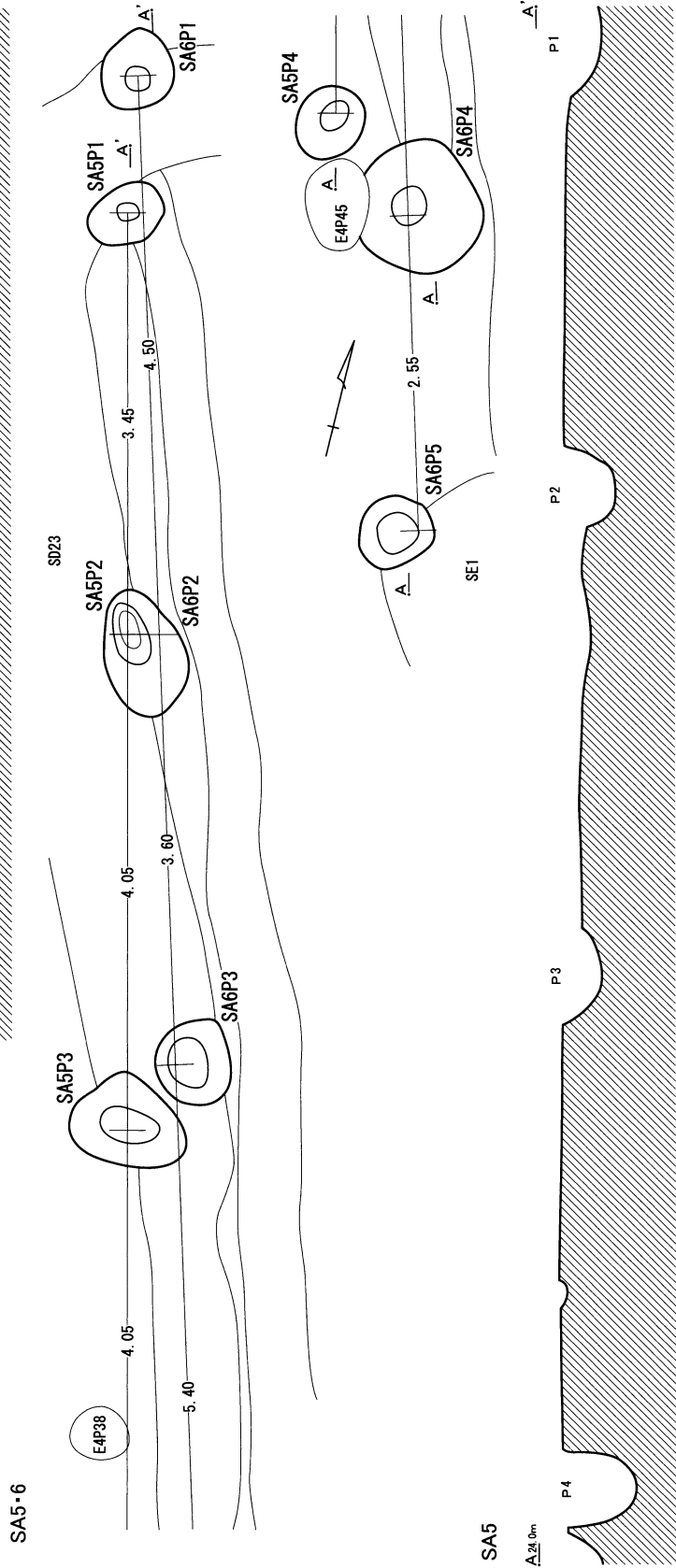
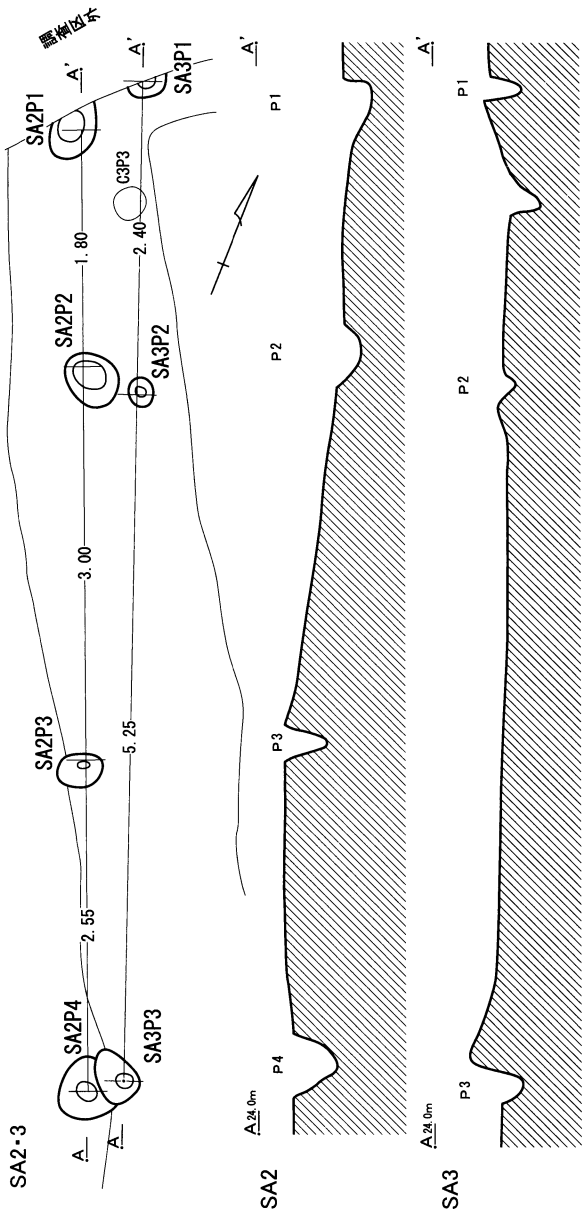
交する位置関係にある第7号柵列・第12号溝跡と区画を形成し、区画内には第8・9号掘立柱建物跡が並存する。

第7号柵列 (第74図)

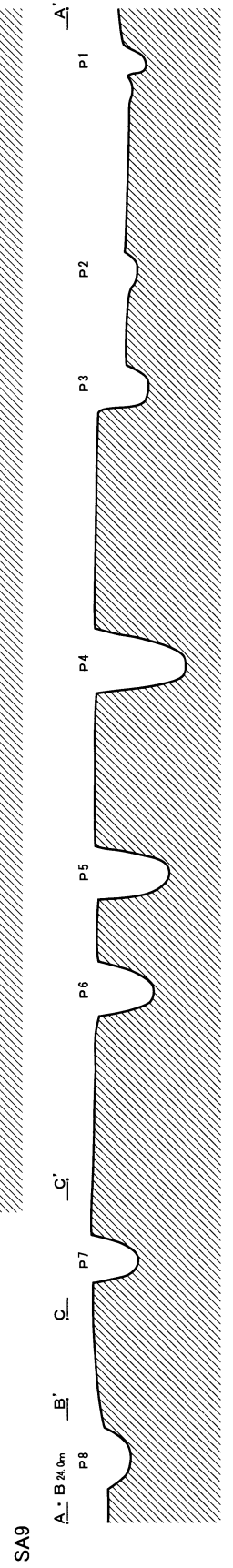
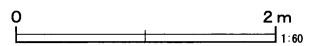
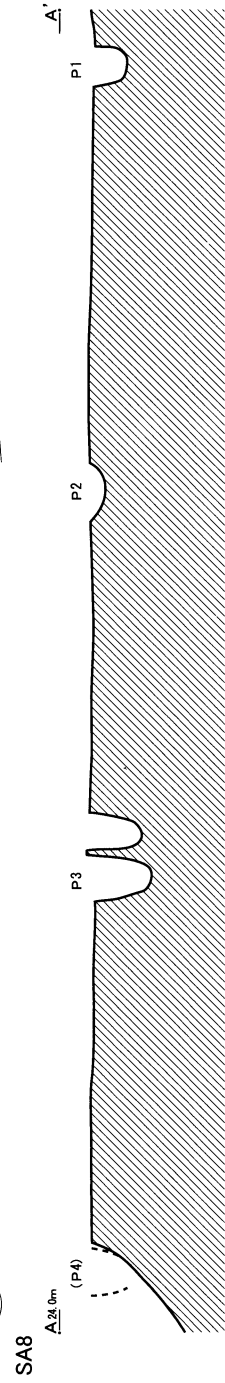
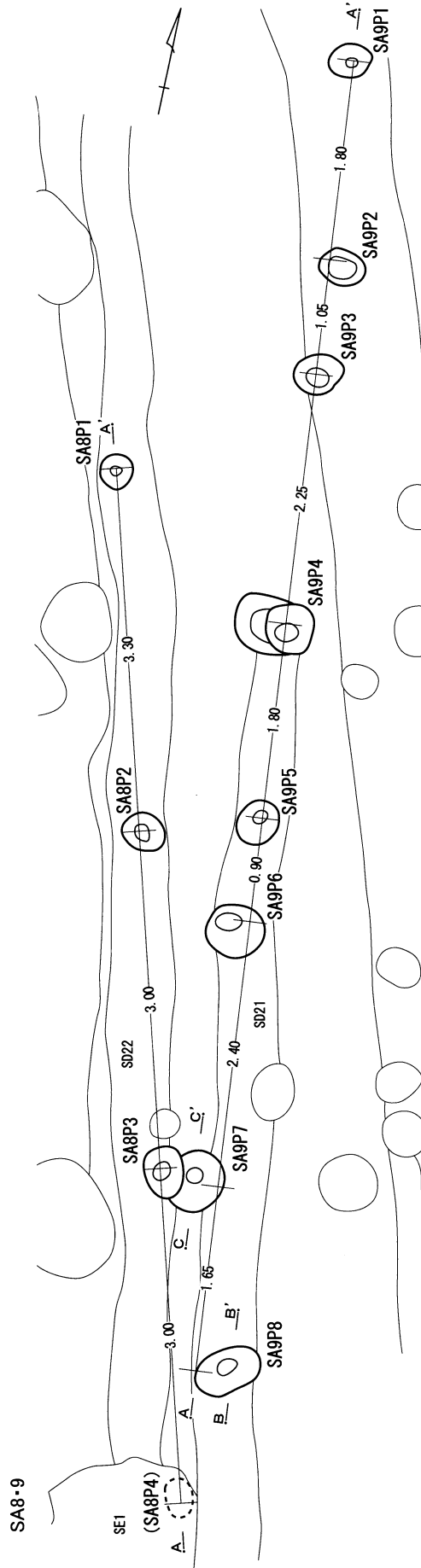
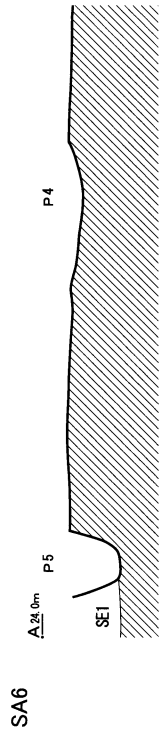
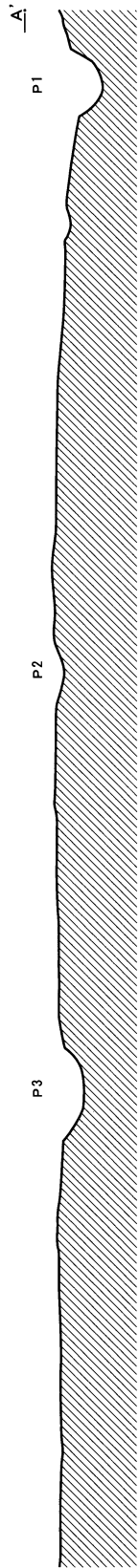
D-4・5・6、E-4グリッドに位置する。P1を第8号柵列P1と共用し、第22・20・19号溝跡、第4・5・6・7号掘立柱建物跡と重複する。

東西に並ぶ柱穴12本の柵列と認定されるが、P2とP3の位置関係から建て替えが予想される柱間10間の柵列と推定される。長さ22.00mを測り、軸方位はN-67°-Eを指す。出土遺物はない。

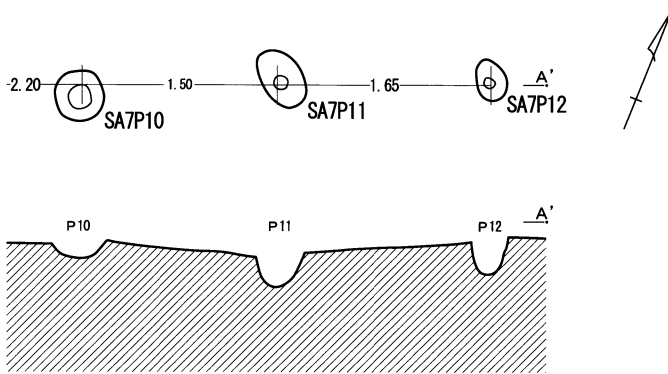
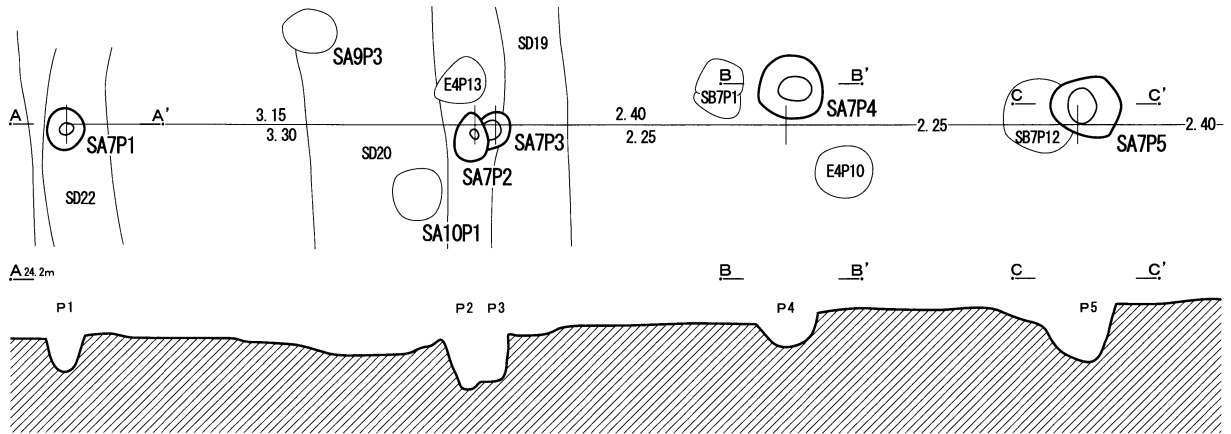
第7号柵列は、第5・6号柵列と第12・23号溝跡によって形成された区画域を南北に二分する。北側の区画域には、桁行3間の第8号掘立柱建物跡と桁行4間の第9号掘立柱建物跡が区画と軸を揃えて並存する。



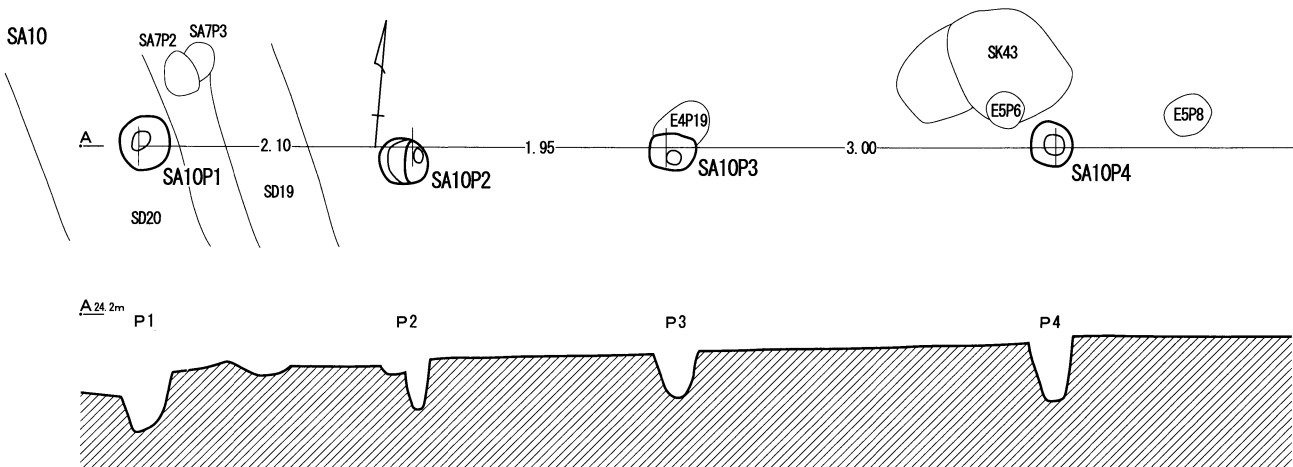
第73图 第2·3·5·6·8·9号栅列



SA7



SA10



第74図 第7・10号柵列

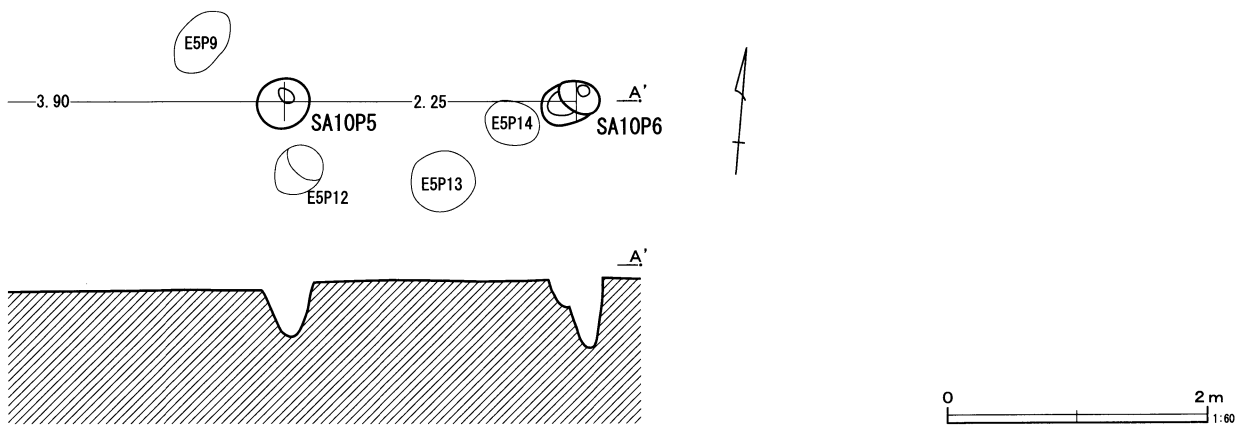
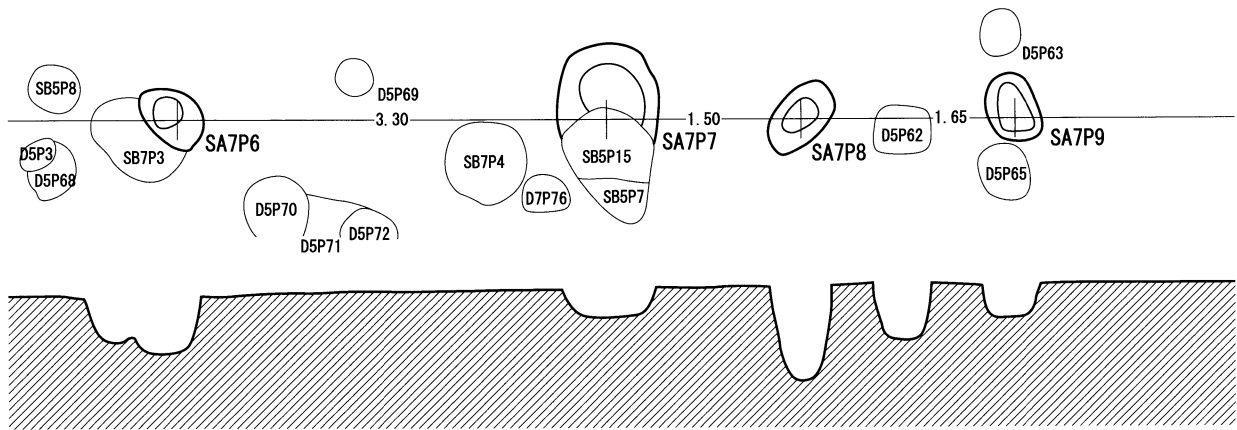
第8号柵列 (第73図)

E-4・F-4グリッドに位置する。すべての柱穴が第22号溝跡内に並んでいることから、板塀の支柱穴列と考えられる。

南北に並ぶ柱穴3本の柱穴列が確認されている。しかし、重複する第1号井戸跡や第16号溝跡との位置関係から、本来は柱穴4本以上・柱間3間以上の

柵列と予想される。P1を第7号柵列P1と共用する。長さが9.30~9.60m以上と推定され、軸方位はN-23°-Wを指す。出土遺物はない。

第22号溝跡・第8号柵列による板塀と軸を揃えて、第6・7号掘立柱建物跡が構築されている。両者は重複関係にあることから同時期の存在ではなく、建て替えが予想される。



第 9 号柵列 (第73図)

D-4、E-4、F-4 グリッドに位置する。南半部の柱穴が第21号溝跡内に並んでいることから、板塀の支柱穴列と考えられる。

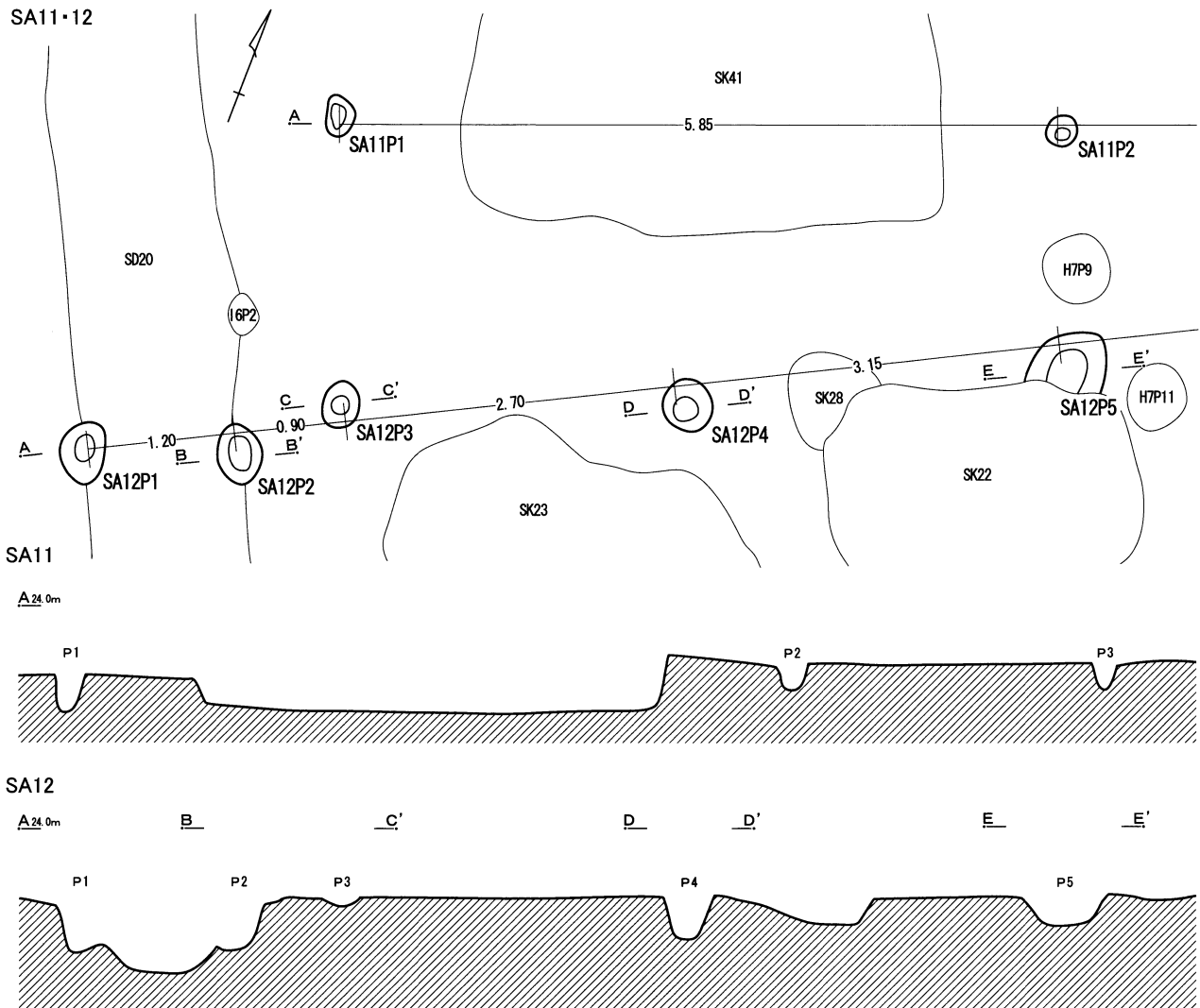
南北に並ぶ柱穴 8 本・柱間 7 間の柵列と認定される。長さ 11.85m を測り、軸方位は N-12°-W を指す。出土遺物はない。

第21号溝跡・第9号柵列によって形成された塀と方向を揃えて、第2号掘立柱建物跡と第5号掘立柱建物跡が南北に配置されている。

第10号柵列 (第74図)

E-4・5 グリッドに位置する。

東西に並ぶ柱穴 6 本・柱間 5 間の柵列と認定され、P 2 を第7号掘立柱建物跡 P 10 と共用する。長さ



第75図 第11・12号柵列

13.20mを測り、軸方位はN-83°-Eを指す。出土遺物はない。

第10号柵列は第56号溝跡と並列し、北側に第4号掘立柱建物跡、南側に第1号掘立柱建物跡が方向を揃えて位置する。第1号掘立柱建物跡の南側には幅の広い第15号溝跡が並走することから、第15号溝跡による大区画を南北に二分する柵列と位置づけられる。

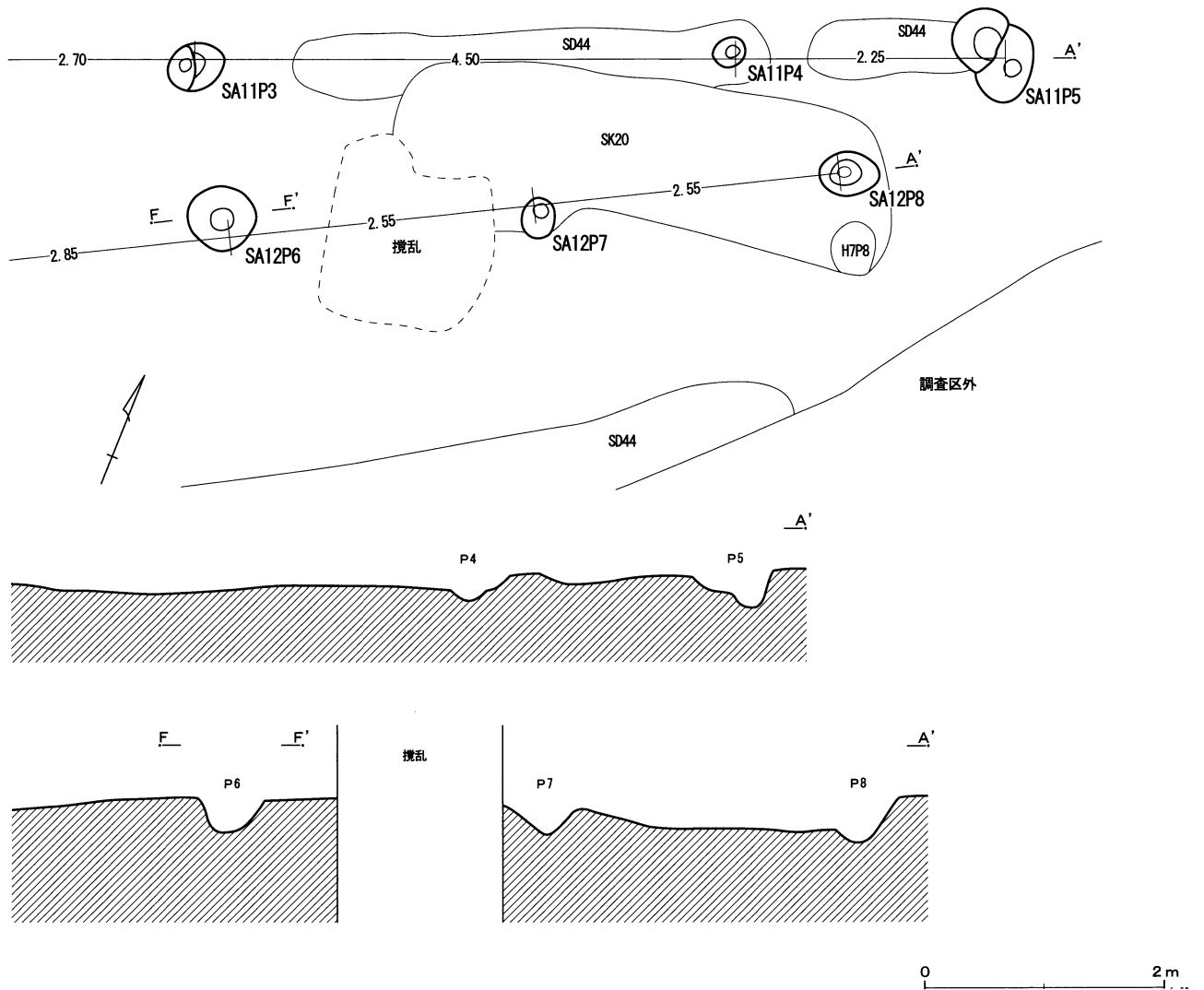
第11・12号柵列 (第75図)

H-6・7、I-6グリッドに位置する。第11号柵列の東半部の柱穴は第44号溝跡内に並んでいることから、板塀の支柱穴列と考えられる。

第11号柵列は柱穴5本・柱間4間の柵列と認定される。長さ15.30mを測り、軸方位はN-68°-Eを指す。

第12号柵列は柱穴8本・柱間7間の柵列と認定される。長さ15.90mを測り、軸方位はN-64°-Eを指す。

第11・12号柵列は軸方位を若干違えるが、近接する関連遺構が存在しないことから、建て替えが考えられる。また出土遺物がなく新旧関係は明確ではないが、第2・3・4号柵列例から柱穴が並ぶだけの第12号柵列のほうが先行することが予想される。



c. 掘立柱建物跡

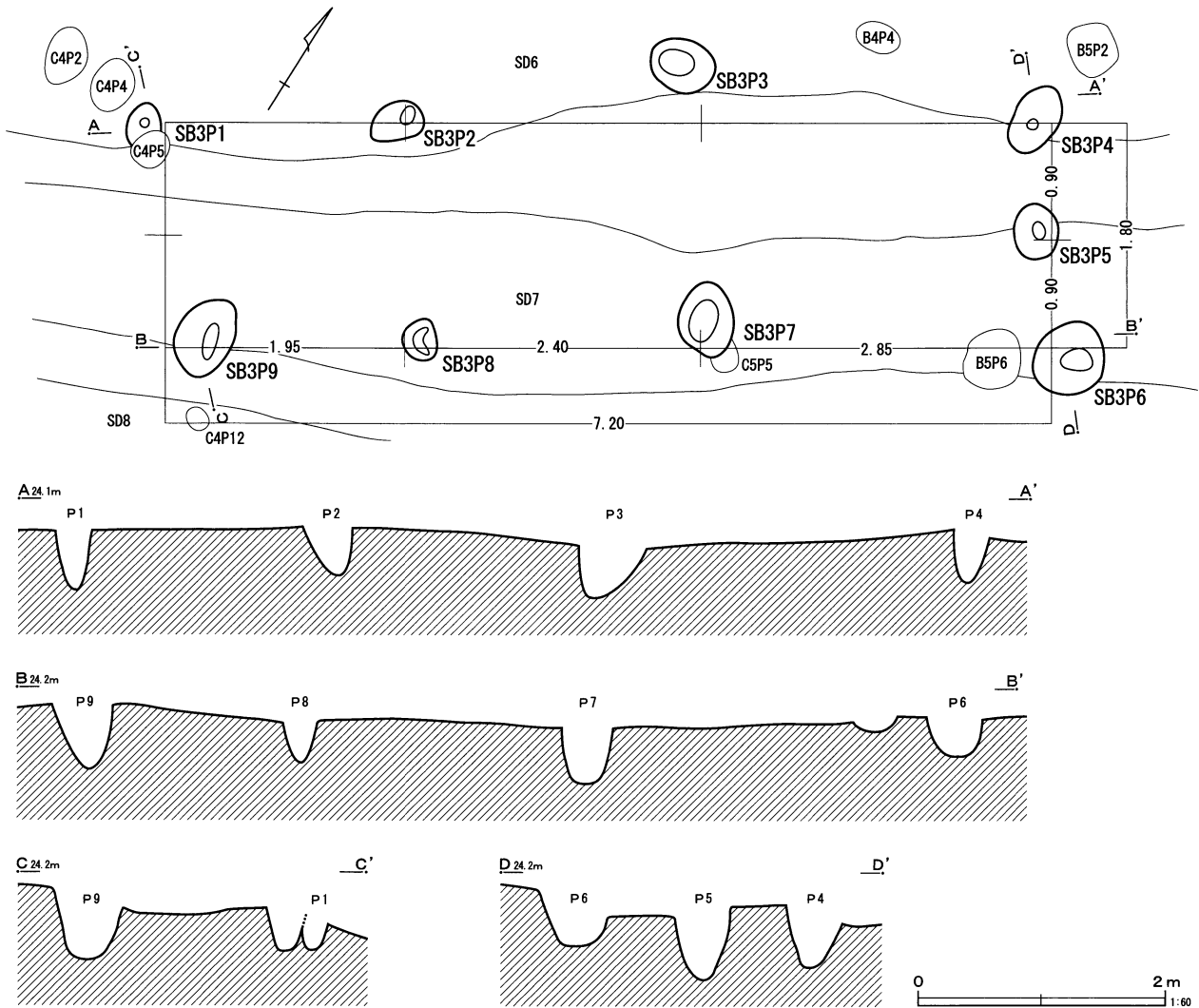
発見された掘立柱建物跡は9棟である。このうち第4～9号掘立柱建物跡の6棟は、グリッドピットとして調査されたもののなかから、区画溝や柵列、他の掘立柱建物跡との方向性に着目し、掘立柱建物跡として再認定されたものである。

分布は、第9～12号溝跡・第23号溝跡・第15号溝跡に画されたD-4・5・6、E-4・5グリッドに8棟が密集し、方向が一致する2棟1単位の構図が認められる。また、溝跡や柵列との組み合わせも把握できる。しかし、いずれの掘立柱建物跡も出土遺物がなく、新旧関係は不明である。

第3号掘立柱建物跡 (第76図)

B-4・5、C-4・5グリッドに位置する。唯一、第9～12号溝跡・第23号溝跡・第15号溝跡に画された区画外から発見された。柱穴は、重複する第6・7号溝跡の底面から検出された。

桁行3間×梁行2間の側柱建物跡で、柱穴の配置は不規則である。桁行を南北に向け、南北軸(梁行方向)はN-30°-Wを指す。規模は、桁行7.20m×梁行1.80m・面積12.96㎡を測る。梁行長が極端に短く、柱間距離も0.90mと狭いことから、非居住系の建物構造を想定する必要がある。桁行の柱間距離には統一性がない。



第76図 第3号掘立柱建物跡

東方には、方向を一致させる第4号溝跡が並走するが、直接的な関係は明確ではない。いずれも重複する第6・7号溝跡よりも古いという調査所見から、同時期性が考えられる。

第8号掘立柱建物跡 (第77図)

C-6、D-5・6グリッドに位置する。南西隅が第6号掘立柱建物跡と重複する。

桁行3間×梁行2間の側柱建物跡と認定される。発見された柱穴は9本で、第6号土壇と重複する位置の1本が見つからない。桁行を南北に向け、南北軸(梁行方向)はN-23°-Wを指す。規模は、桁行6.15m×梁行3.30m・面積20.295m²を測る。柱間距離は統一性がなく、桁行に比して梁行が短い。

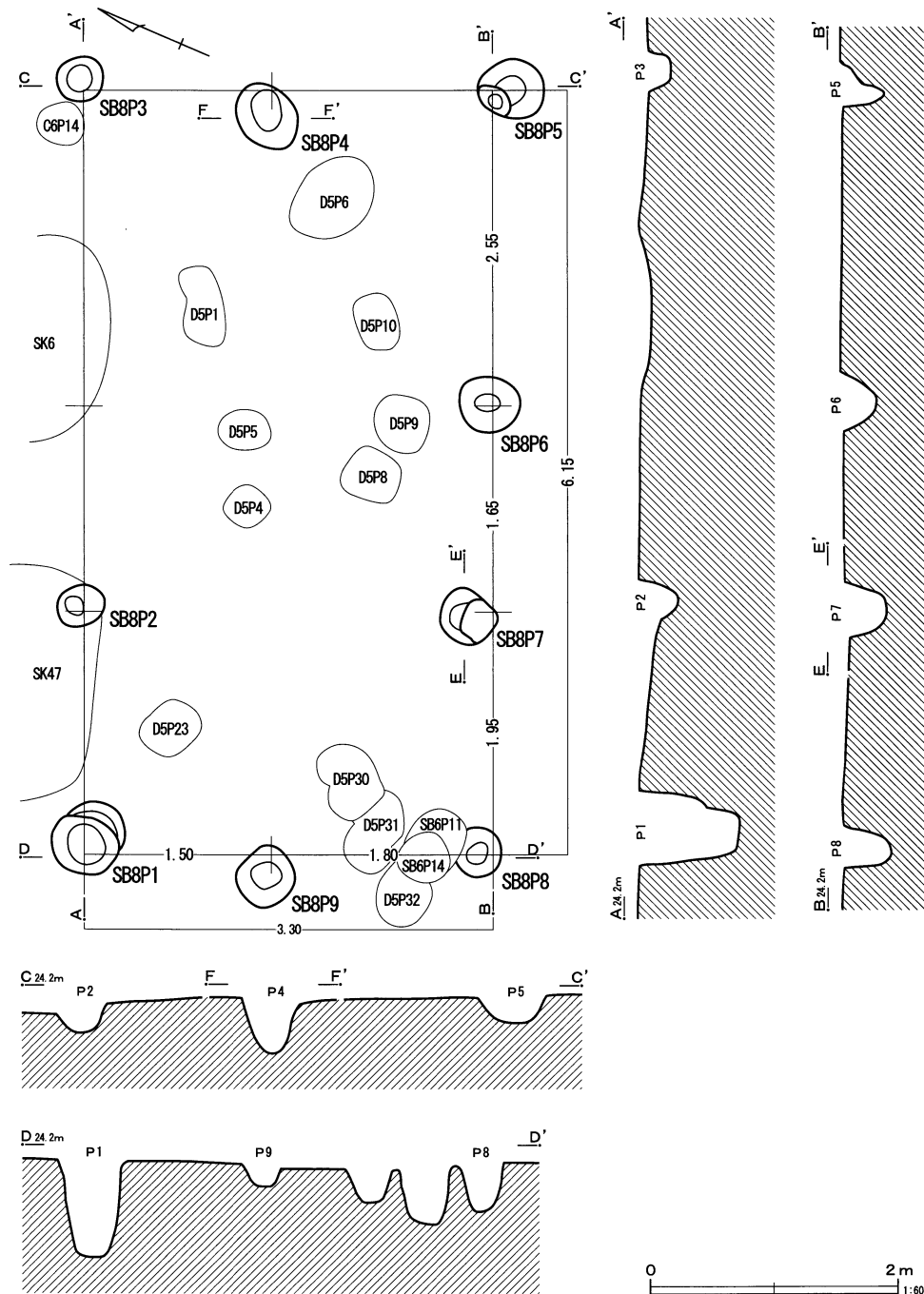
第8号掘立柱建物跡の西側には、軸を揃えた第9

号掘立柱建物跡が配置される。方向性の一致から、第12号溝跡、第23号溝跡・第5・6号柵列、第7号柵列によって形成された区画内に2棟の掘立柱建物跡が立地するものと捉えられる。

第9号掘立柱建物跡 (第78図)

D-4・5、E-4グリッドに位置する。軸方向を違える第4・5・6号掘立柱建物跡と重複する。

桁行4軒×梁行1間の側柱建物跡と認定され、発見された柱穴は10本である。桁行を南北に向け、南北軸(梁行方向)はN-22°-Wを指す。規模は桁行10.65m×梁行3.90m・面積41.535m²を測る。梁行の柱間距離は3.90mと極端に長い。西側の柱穴が重複する第19号溝跡に削平され、東辺は第5号掘立柱建物跡P5・第6号掘立柱建物跡P2と共用してい



第77図 第8号掘立柱建物跡

ると仮定することもできる。この場合には、梁行3間の建物となり、柱間距離は北から1.50m—1.35m—1.05mで他の掘立柱建物跡の梁行柱間距離と齟齬がなくなる。

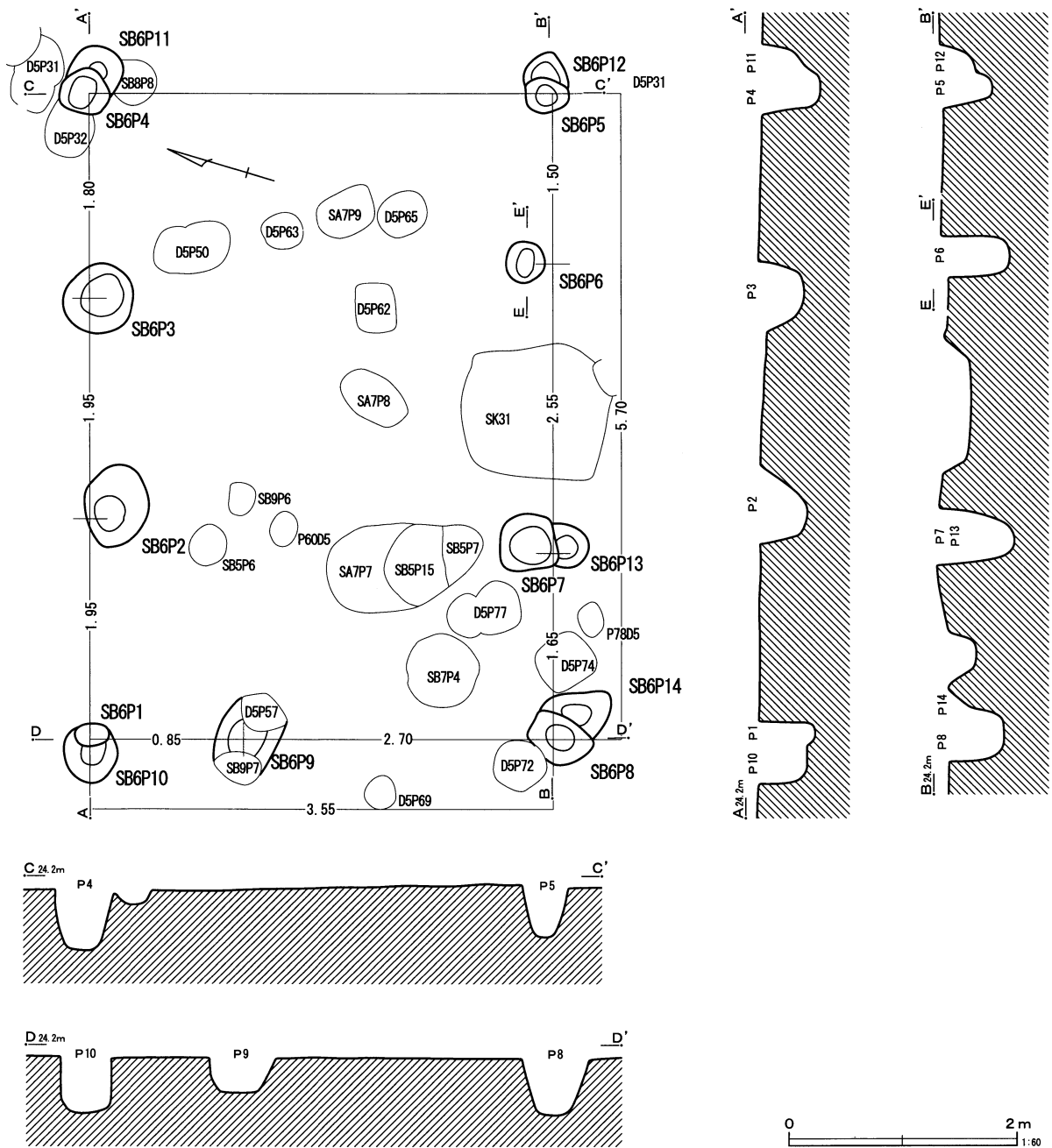
第9号掘立柱建物跡の西側には、軸を描いた第8号掘立柱建物跡が位置する。2棟の掘立柱建物跡は、方向が一致する第12号溝跡、第23号溝跡・第5・6号柵列、第7号柵列によって形成された区画内に配置されたものと捉えられる。また、第9号掘立柱建

物跡と第8号掘立柱建物跡の関係は、建物規模から第9号掘立柱建物跡が主屋、第8号掘立柱建物跡を副屋と想定できる。

第6号掘立柱建物跡 (第79図)

D—5グリッドに位置する。第5・7・8・9号掘立柱建物跡、第7号柵列と重複し、南東方に第4号井戸跡が所在する。

桁行3間×梁行2間の側柱建物跡と認定される。深い主柱穴と床を支える浅い束柱穴が並立すること



第79図 第6号掘立柱建物跡

から、上屋構造には高床建物跡が想定される。

桁行を南北に向け、南北軸（梁行方向）はN-17°-Wを指す。規模は、桁行5.70m×梁行3.55m・面積20.235㎡を測る。梁行の北辺と南辺の柱間距離は異なり、特に南面中央が広い。梁行では極端に異なる距離から奥行感を見出される。そこで、南方を正面と意識した建物が想定される。

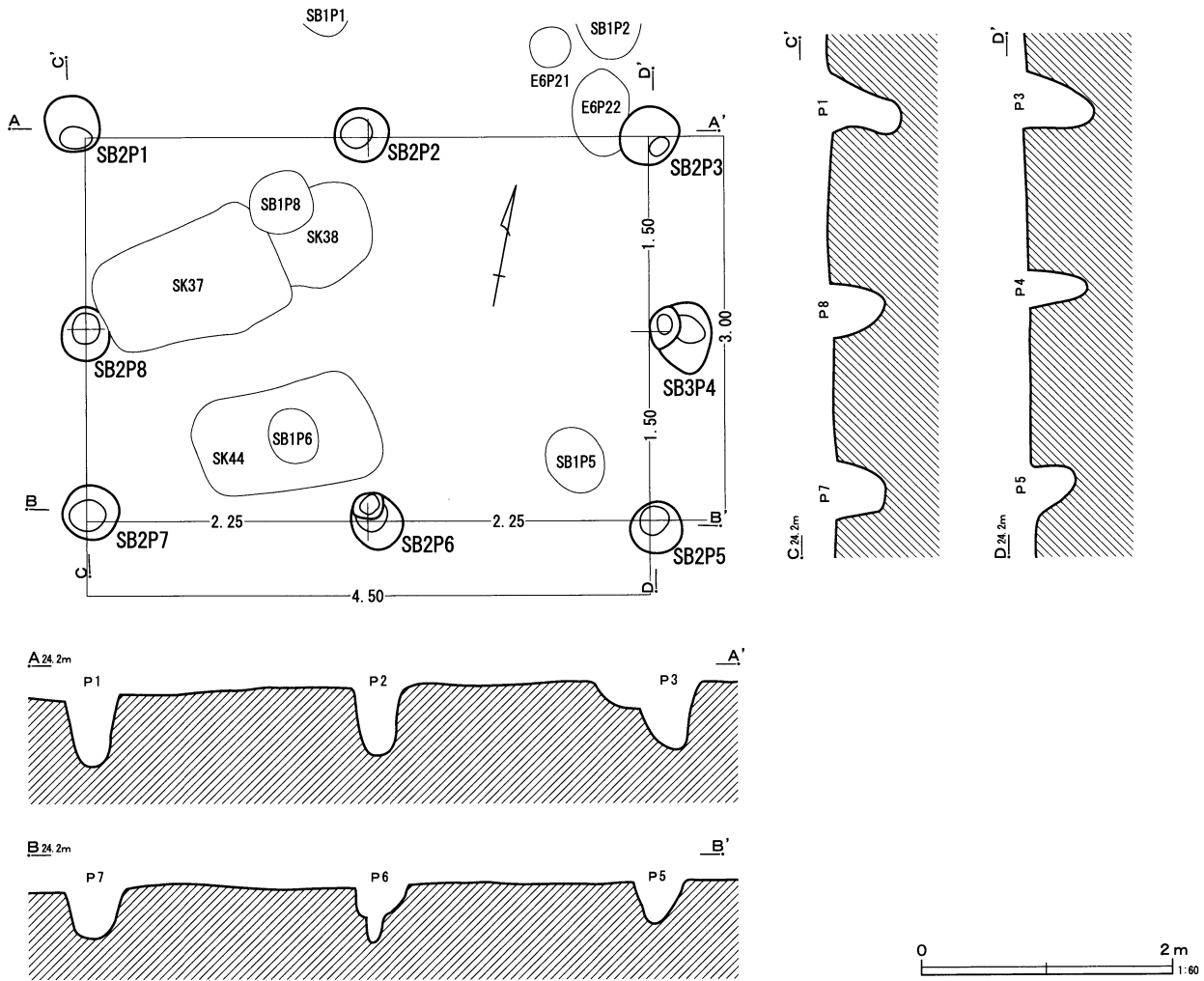
第6号掘立柱建物跡は、第22号溝跡+第8号柵列（板塀）と方向を揃えて配置される。第7号掘立柱

建物跡も同方向の建物であるが、南西隅が重複し、両棟は同時期に存在し得ない。

第7号掘立柱建物跡（第80図）

D-4・5、E-4・5グリッドに位置する。第4・5・6号掘立柱建物跡、第7・10号柵列と重複する。

桁行3間×梁行2間の側柱建物跡と認定され、発見された柱穴は10本である。P3は第4号掘立柱建物跡P8と、P10は第10号柵列P2と共用する。桁



第82図 第2号掘立柱建物跡

行を南北に向け、南北軸（梁行方向）はN-17°-Wを指す。規模は、桁行7.50m×梁行3.90m・面積29.25m²を測る。梁行の柱間距離差に奥行感がみられ、第6号掘立柱建物跡と同様の南方を正面と意識した建物が想定される。

第7号掘立柱建物跡は、第22号溝跡+第8号柵列（板塀）と方向が一致、軸を揃える第6号掘立柱建物跡と重複する。両棟は同時期に存在し得ないが、桁行北辺・南辺の柱間の不統一性や梁行柱間距離の奥行感に共通性が見られることから、順序は不明であるが、建て替え関係にあることが予想される。

第5号掘立柱建物跡（第81図）

D-4・5、E-4グリッドに位置する。第4・6・7・9号掘立柱建物跡、第7号柵列と重複する。桁行4間×梁行2間の側柱建物跡と認定される。深い主柱穴と床を支える浅い束柱穴が並立すること

から、上屋構造には高床建物跡が想定される。P16は第4号掘立柱建物跡P1と、P17は第9号掘立柱建物跡P10と共用する。

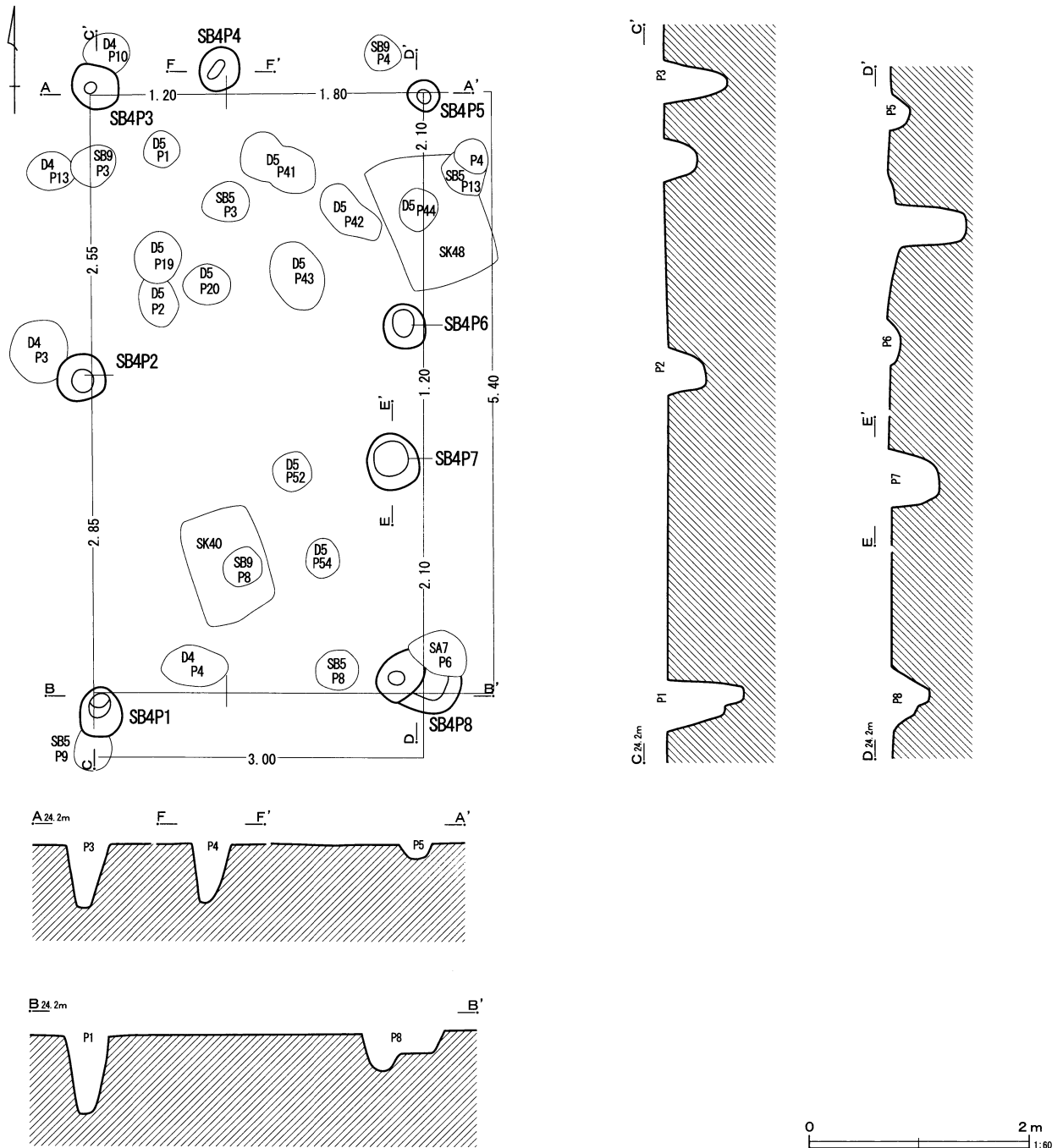
桁行を南北に向け、南北軸（梁行方向）はN-13°-Wを指す。規模は、桁行9.90m×梁行4.50m・面積44.55m²を測る。柱間距離は他の掘立柱建物跡に比べると、桁行・梁行ともに統一感がある。

西側に位置する第21号溝跡+第9号柵列（板塀）と方向性が一致し、南に所在する第2号掘立柱建物跡と軸を揃える。両棟を同時期のものとする、建物規模から第5号掘立柱建物跡が主屋、第2号掘立柱建物跡が副屋と捉えられる。

第2号掘立柱建物跡（第82図）

E-5グリッドに位置する。第1号掘立柱建物跡と重複し、東方に第5号井戸跡が所在する。

桁行2間×梁行2間の側柱建物跡である。桁行を



第83図 第4号掘立柱建物跡

南北に向け、南北軸（梁行方向）はN-10°-Wを指す。規模は、桁行4.50m×梁行3.00m・面積13.50㎡を測る。柱間距離は規則的で、桁行2.25m・梁行1.50mに統一されている。柱間数は同じであるが、梁行の長さ・柱間距離ともに1.5倍の長さに設計されている。

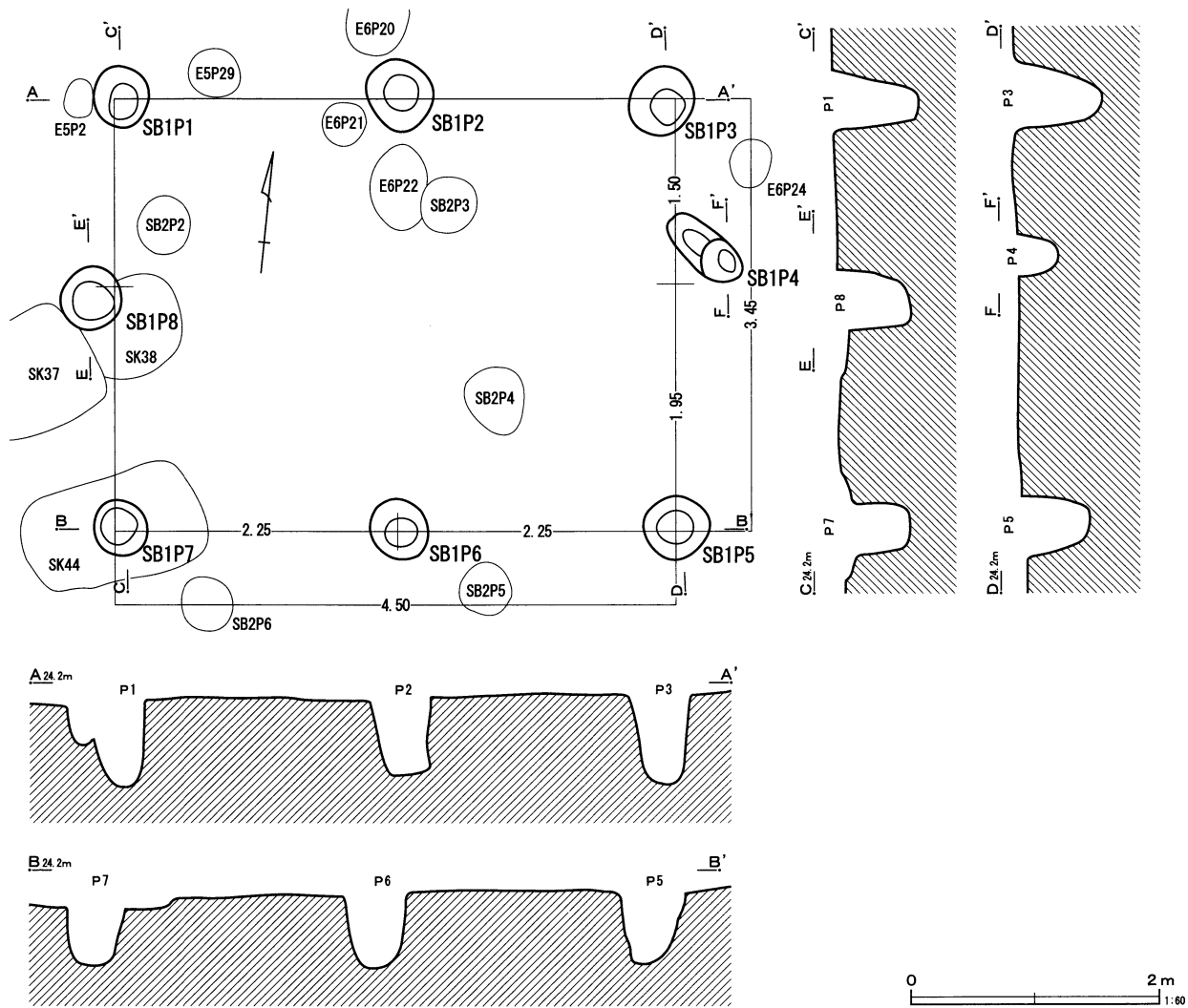
西側に位置する第21号溝跡+第9号柵列（板塀）と方向性が一致し、北側の第5号掘立柱建物跡と軸を揃える。建物規模から、第5号掘立柱建物跡が主

屋、第2号掘立柱建物跡が副屋と捉えられる。

第4号掘立柱建物跡（第83図）

D-4・5グリッドに位置し、第5・7・9号掘立柱建物跡、第7号柵列と重複する。

唯一、桁行を東西に向ける建物跡で、南北軸（梁行）をN-1°-Eに向ける。梁行2間の側柱建物跡と認定され、桁行は東辺3間・西辺2間と柱間数が異なる。発見された柱穴は8本で、梁行南辺の棟持柱を欠く。P8は第7号掘立柱建物跡P3と共用す



第84図 第1号掘立柱建物跡

る。規模は、桁行5.40m×梁行3.00m・面積16.20㎡を測る。柱間距離は、桁行・梁行ともに不均一である。

第15号溝跡によって画された大区画のなかを、並列する第56号溝跡・第10号柵列によって南北に二分された小区画の北側に位置する。南側には第1号掘立柱建物跡が軸を揃えて配されている。

第1号掘立柱建物跡（第84図）

E-5グリッドに位置する。当初は梁行1間と認識されていたが、P4（E-5 P25）・P8（E-5 P26）を棟持柱にあたる柱穴と再認定したものであ

る。第2号掘立柱建物跡と重複し、当方には第5号井戸跡が所在する。

桁行2間×梁行2間の側柱建物跡である。桁行を南北に向け、南北軸（梁行）はN-7°-Wを指す。規模は、桁行4.50m×梁行3.45m・面積15.525㎡を測る。柱間距離は桁行2.25m・梁行北から1.50m-1.95mで、梁行に比べ桁行が長い。

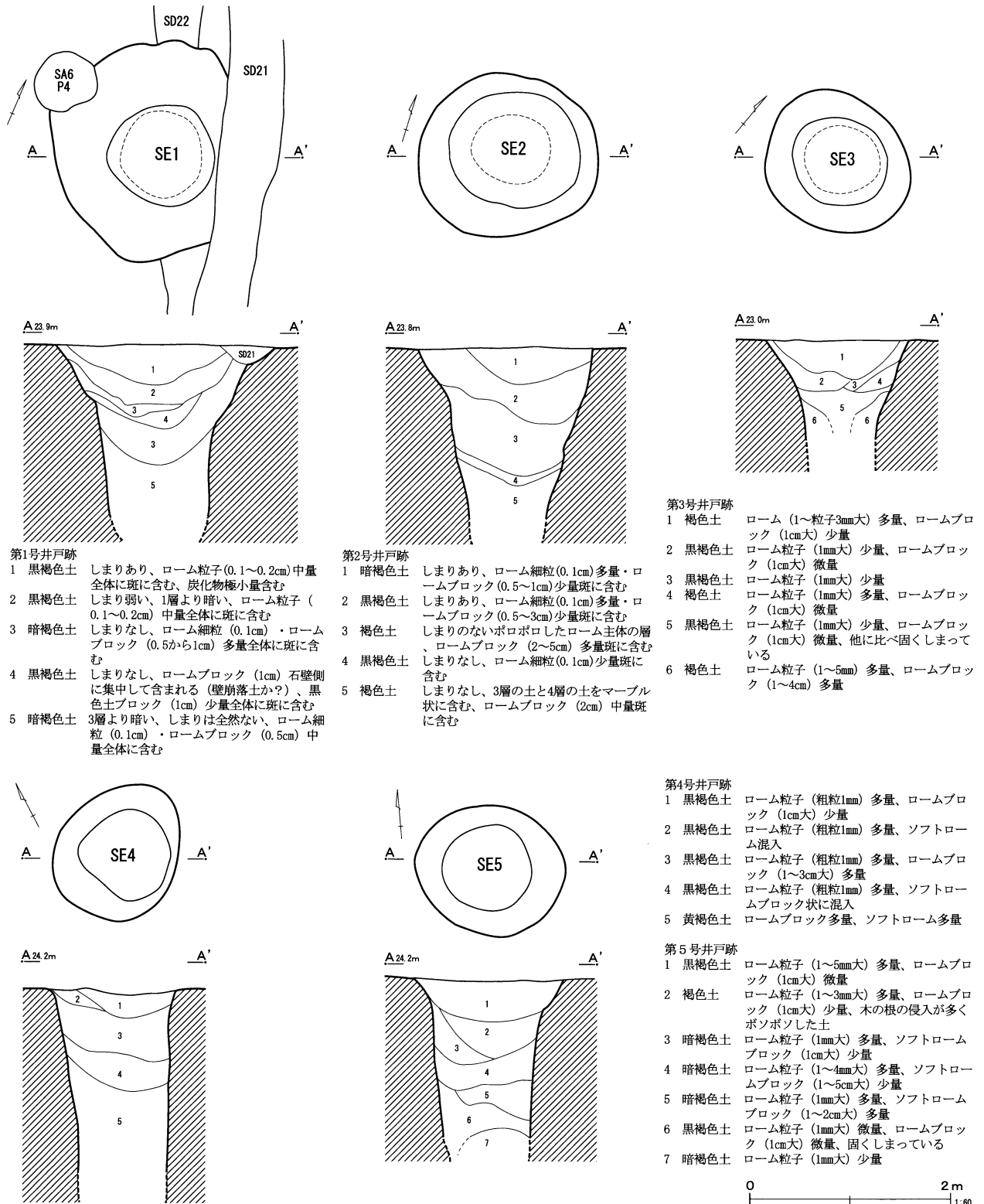
第15号溝跡によって画された大区画を、第56号溝跡・第10号柵列によって南北に二分された小区画の南側に位置する。北側には桁梁向きの異なる第4号掘立柱建物跡が軸を揃えて配されている。

d. 井戸跡

戸宮前館跡第2次・在家遺跡第5次調査で検出された井戸跡は5基で、近接する掘立柱建物跡あるいは区画に伴う可能性が高い。ただ、残念ながら底面

まで掘り上げられたものは1基もない。

第1・3号井戸跡は、溝が直交する辻部に近接している。第4号井戸跡は、密集する第4～9号掘立柱建物跡に、第5号井戸跡は、第1・2号掘立柱建



第1号井戸跡

- 1 黒褐色土 しまりあり、ローム粒子(0.1~0.2cm)中量全体に斑に含む、炭化物極少量含む
- 2 黒褐色土 しまり弱い、1層より暗い、ローム粒子(0.1~0.2cm)中量全体に斑に含む
- 3 暗褐色土 しまりなし、ローム細粒(0.1cm)・ロームブロック(0.5から1cm)多量全体に斑に含む
- 4 黒褐色土 しまりなし、ロームブロック(1cm)石壁側に集中して含まれる(壁崩落土か?)、黒色土ブロック(1cm)少量全体に斑に含む
- 5 暗褐色土 3層より暗い、しまりは全然ない、ローム細粒(0.1cm)・ロームブロック(0.5cm)中量全体に含む

第2号井戸跡

- 1 暗褐色土 しまりあり、ローム細粒(0.1cm)多量・ロームブロック(0.5~1cm)少量斑に含む
- 2 黒褐色土 しまりあり、ローム細粒(0.1cm)多量・ロームブロック(0.5~3cm)少量斑に含む
- 3 褐色土 しまりのないボロボロしたローム主体の層、ロームブロック(2~5cm)多量斑に含む
- 4 黒褐色土 しまりなし、ローム細粒(0.1cm)少量斑に含む
- 5 褐色土 しまりなし、3層の土と4層の土をマゼパル状に含む、ロームブロック(2cm)中量斑に含む

第3号井戸跡

- 1 褐色土 ローム(1~粒子3mm大)多量、ロームブロック(1cm大)少量
- 2 黒褐色土 ローム粒子(1mm大)少量、ロームブロック(1cm大)微量
- 3 黒褐色土 ローム粒子(1mm大)少量
- 4 褐色土 ローム粒子(1mm大)多量、ロームブロック(1cm大)微量
- 5 黒褐色土 ローム粒子(1mm大)少量、ロームブロック(1cm大)微量、他に比べ固くしまっている
- 6 褐色土 ローム粒子(1~5mm)多量、ロームブロック(1~4cm)多量

第4号井戸跡

- 1 黒褐色土 ローム粒子(粗粒1mm)多量、ロームブロック(1cm大)少量
- 2 黒褐色土 ローム粒子(粗粒1mm)多量、ソフトローム混入
- 3 黒褐色土 ローム粒子(粗粒1mm)多量、ロームブロック(1~3cm大)多量
- 4 黒褐色土 ローム粒子(粗粒1mm)多量、ソフトロームブロック状に混入
- 5 黄褐色土 ロームブロック多量、ソフトローム多量

第5号井戸跡

- 1 黒褐色土 ローム粒子(1~5mm大)多量、ロームブロック(1cm大)微量
- 2 褐色土 ローム粒子(1~3mm大)多量、ロームブロック(1cm大)少量、木の根の侵入が多くボソボソした土
- 3 暗褐色土 ローム粒子(1mm大)多量、ソフトロームブロック(1cm大)少量
- 4 暗褐色土 ローム粒子(1~4mm大)多量、ソフトロームブロック(1~5cm大)少量
- 5 暗褐色土 ローム粒子(1mm大)多量、ソフトロームブロック(1~2cm大)多量
- 6 黒褐色土 ローム粒子(1mm大)微量、ロームブロック(1cm大)微量、固くしまっている
- 7 暗褐色土 ローム粒子(1mm大)少量

第4号井戸跡

* 3~5層は一挙に埋戻された

第85図 井戸跡

物跡に近接し、関連性が高いことが考えられるが、併行する建物跡は定かではない。

第4号井戸跡を除く4基の断面は、上方が広がる漏斗状であるが、このことから上端部が崩落したことが推測される。

第1号井戸跡（第85図）

F-4グリッドに位置する。第1号井戸跡は、重複する第22号溝跡よりも新しく、第21号溝跡・第8号柵列によって切られていた。平面形状は円形で、規模は長軸長2.26m、短軸長2.18m、深さ2.01m以上である。長軸方位はN-84°-Eを指す。

遺物は、上部から手鞠大の石が2点出土したのみで、図示できるものは出土していない。

第2号井戸跡（第85図）

G-8グリッドに位置する。

平面形状は不整円形で、規模は長軸長1.80m、短軸長1.60m、深さ1.95m以上である。長軸方位はN-52°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第3号井戸跡（第85図）

F-2グリッドに位置する。

平面形状は不整円形で、規模は長軸長1.48m、短

軸長1.28m、深さ1.28m以上である。長軸方位はN-69°-Eを指す。

遺物は出土していない。

第4号井戸跡（第85図）

D-6グリッドに位置する。

平面形状は鶏卵形で、規模は長軸長1.40m、短軸長1.20m、深さ2.16m以上である。長軸方位はN-60°-Eを指す。

断面は筒状に掘り込まれていて、3~5土層は一挙に埋め戻されたと考えられる。

遺物は、丸瓦の破片（第78図1）が出土した。砂質の胎土で、裏面には、工具による明瞭な1本の沈線がみられる。古代の可能性も考えられる。

第5号井戸跡（第85図）

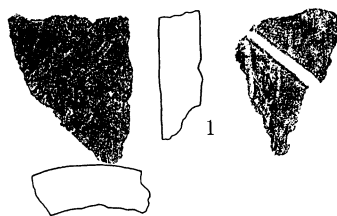
E-6グリッドに位置する。

平面形状は円形で、規模は長軸長1.48m、短軸長1.30m、深さ1.80m以上である。長軸方位はN-87°-Wを指す。

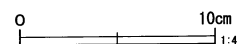
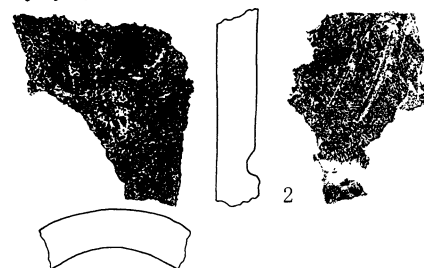
第1・2号掘立柱建物跡に近接していることから、いずれかに伴う遺構と考えられる。

遺物は出土していない。

第4号井戸跡



E-3グリッド



第86図 第4号井戸跡・E-3グリッド出土遺物

e. 土壌

戸宮前館跡第 2 次・在家遺跡第 5 次調査で検出された土壌は 48 基である。調査区北側の第 1～9・39・47 号土壌は第 9・11・12 号溝跡、東側の第 11・12・15 号土壌は第 30・32・37 号溝跡と軸を揃え、南側の第 20・21・25 号土壌は第 29 号溝跡、第 24・26・42 号土壌は第 20 号溝跡、第 29 号土壌は第 25 号溝跡、また、第 22・23・41 号土壌は第 46 号あるいは第 47 号溝跡と方向が一致する。

第 1 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長 1.44m、短軸長 0.88m、深さ 0.27m である。長軸方位は N-68°-E を指す。底面はやや丸みを帯び、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第 2 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置し、重複関係にある第 3 号土壌よりも新しい。

平面形状は長方形で、規模は長軸長 1.64m、短軸長 0.83m、深さ 0.16m である。長軸方位は N-64°-E を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は、須恵器杯の底部破片(92 図 1)が出土した。

第 3 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置し、重複関係にある第 2 号土壌によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形で、規模は短軸長 0.88m、深さ 0.11m、長軸は 2.02m 検出された。長軸方位は N-71°-E を指す。底面はほぼ平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第 4 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置する。

遺構の一部が攪乱によって壊されているが、平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長 2.06m、短軸長 1.17m、深さ 0.19m である。長軸方位は N-77°-E を指す。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やか

かである。

遺物は出土していない。

第 5 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置し、重複関係にある第 8 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長 2.34m、短軸長 1.10m、深さ 0.13m である。長軸方位は N-67°-E を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第 6 号土壌 (第 87 図)

C-5・6 グリッドに位置し、重複関係にある第 8 号掘立柱建物跡、第 7 号土壌によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長 1.66m、深さ 0.13m、短軸は 1.26m 検出された。長軸方位は N-70°-E を指す。底面は、重複する土壌との境にわずかな段を呈すが平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第 7 号土壌 (第 87 図)

C-6 グリッドに位置し、重複関係にある第 6 号土壌よりも新しい。

平面形状は長方形で、規模は長軸長 1.82m、短軸長 1.16m、深さ 0.13m である。長軸方位は N-65°-E を指す。底面は、重複する土壌との境にわずかな段を呈すが、平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第 8 号土壌 (第 87 図)

D-5 グリッドに位置し、重複関係にある第 9 号土壌よりも新しく、第 9 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は不整形で、規模は長軸長 2.46m、短軸長 1.22m、深さ 0.23m である。長軸方位は N-70°-E を指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

遺物は、瀬戸産の天目茶碗の口縁部破片(第 92 図 2)が、第 9 号土壌にかかった状態で出土した。

第9号土壙 (第87図)

D-5グリッドに位置する。

重複関係にある第8号土壙に本遺構の大部分が切られていたため、平面形状は明確にはできないが、楕円形と考えられる。規模は深さ0.12m、長軸は1.64m、短軸は0.30m検出された。長軸方位はN-70°-Eを指す。

重複関係にある第8号土壙によって大部分が切られていたため、底面は不明だが、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第10号土壙 (第87図)

A-5グリッドに位置し、重複関係にある第3号溝跡よりも新しい。

平面形状は隅丸方形で、規模は長軸長1.81m、短軸長1.57m、深さ0.21mである。長軸方位はN-25°-Eを指す。底面は平坦で、壁は緩やかで直線的に立ち上がる。

遺物は出土していない。

第11号土壙 (第87図)

F-10グリッドに位置し、重複関係にある第17号溝跡よりも新しい。

平面形状は長方形で、東側が調査区外に延びている。規模は短軸長1.18m、深さ0.26m、長軸は1.62m検出された。長軸方位はN-61°-Eを指す。底面は平坦である。壁の立ち上がりは、一方は重複する溝跡によって不明だが、もう一方は緩やかである。遺物は出土していない。

第12号土壙 (第87図)

F-10グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.28m、短軸長0.80m、深さ0.29mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第13号土壙 (第87図)

F-9グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.65m、短軸長0.90m、深さ0.20mである。長軸方位はN-35°-Wを指す。底面はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第14号土壙 欠番

第15号土壙 (第88図)

F-9・10グリッドに位置し、重複関係にある第33・37号溝跡よりも新しい。

平面形状は東西に長い長方形で、規模は長軸長4.26m、短軸長0.76m、深さ0.79mである。長軸方位はN-63°-Eを指す。底面は緩やかな丸みを帯び、壁はほぼまっすぐに立ち上がり、短軸長と深さがほぼ同じである。覆土はローム粒子・ロームブロックを含むことから、埋め戻された可能性が高い。近世以降のムロと考えられる。

遺物は出土していない。

第16号土壙 (第88図)

G-8グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.16m、短軸長0.70m、深さ0.14mである。長軸方位はN-65°-Eを指す。底面はやや丸みを帯び、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第17号土壙 (第88図)

G-8グリッドに位置する。

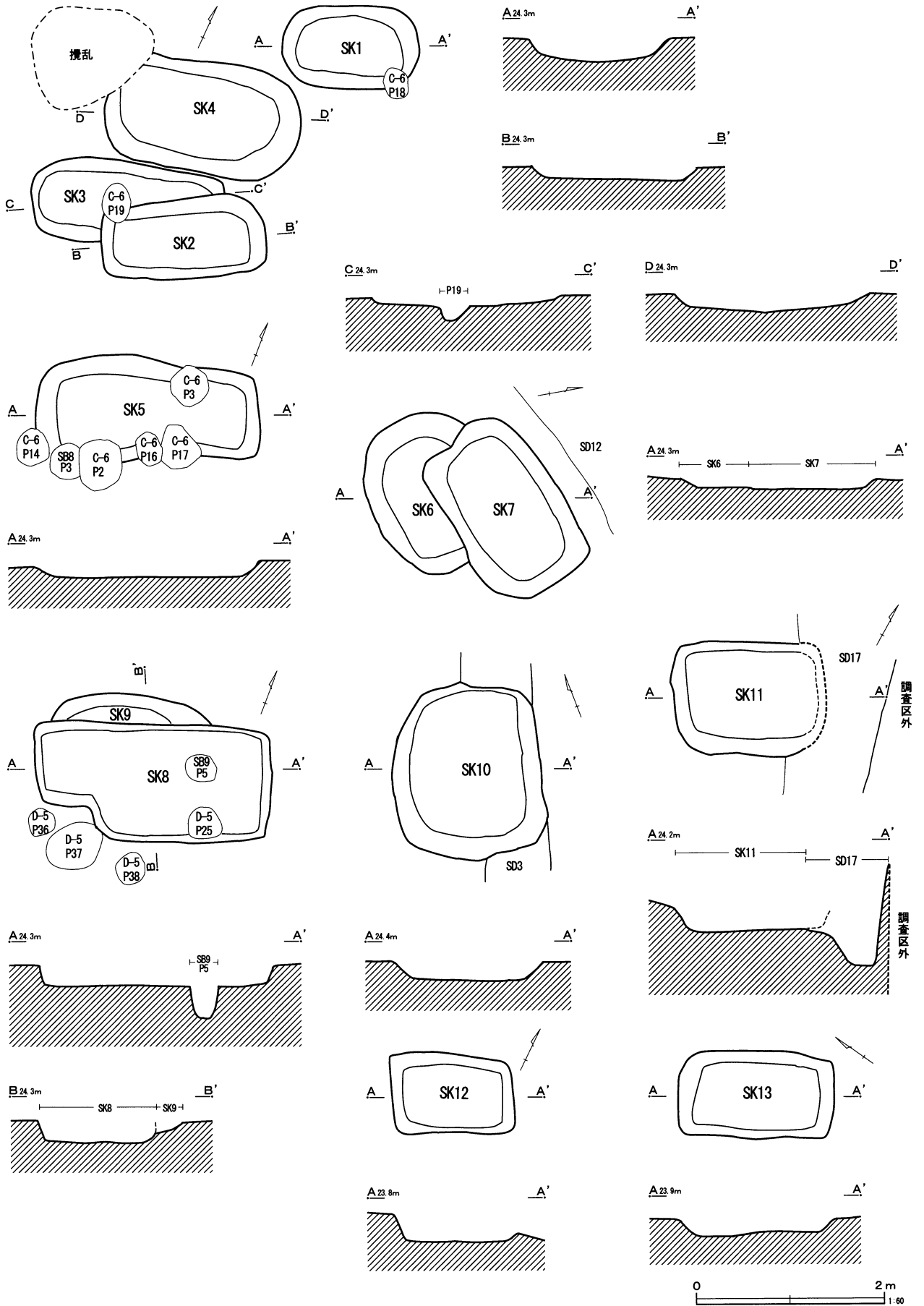
平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.30m、短軸長0.67m、深さ0.04mである。長軸方位はN-78°-Eを指す。底面は平坦で、掘り込みは極めて浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

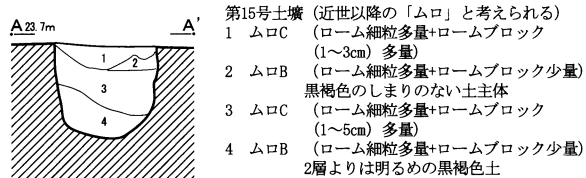
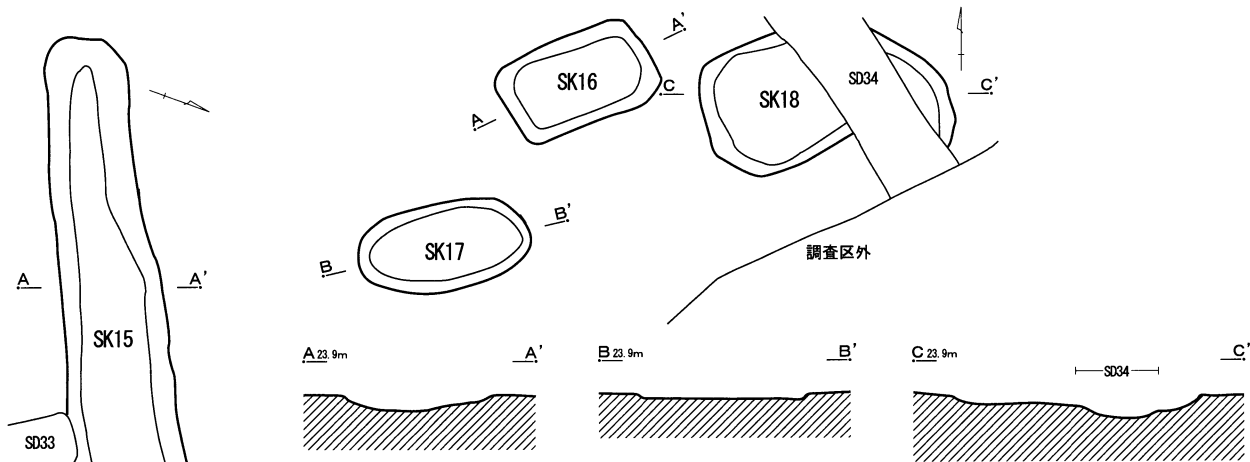
第18号土壙 (第88図)

G-8・9グリッドに位置し、重複関係にある第34号溝跡によって切られていた。

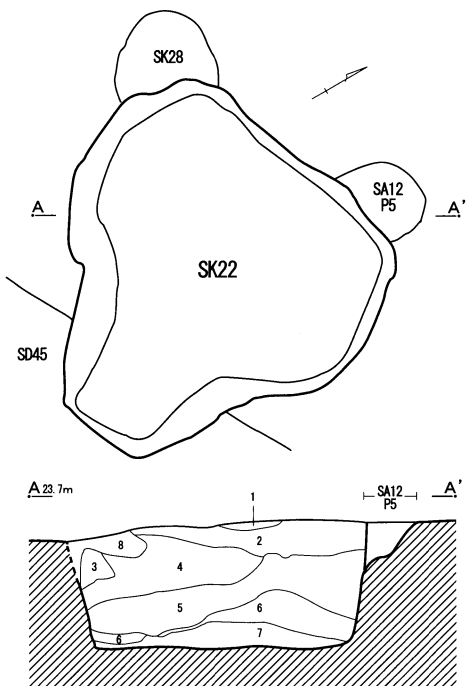
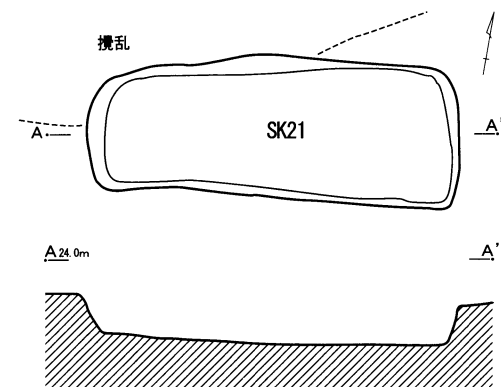
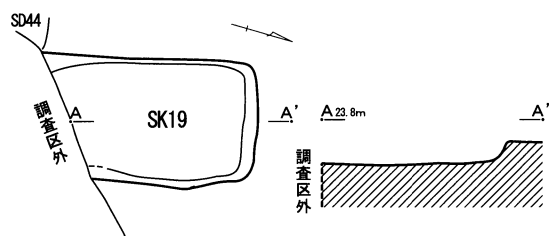
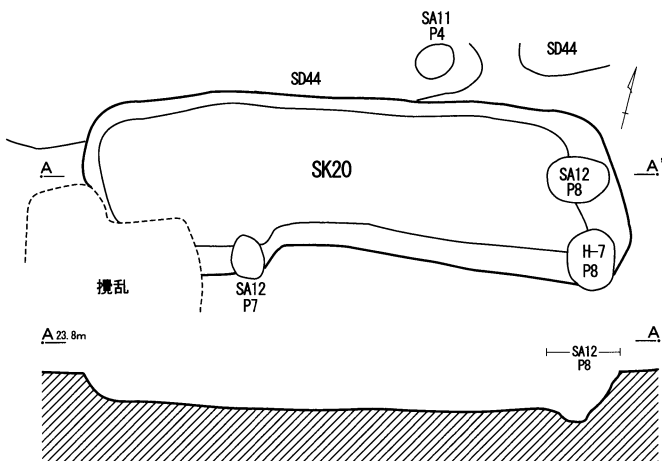
平面形状は不整形で、規模は短軸長1.05m、深さ0.16m、長軸は1.90m検出された。長軸方位はN-90°-Eを指す。底面は重複する溝跡によってわず



第87図 土壇 (I)

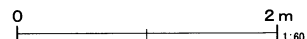


- 第15号土壌 (近世以降の「ムロ」と考えられる)
- 1 ムロC (ローム細粒多量+ロームブロック (1~3cm) 多量)
 - 2 ムロB (ローム細粒多量+ロームブロック少量) 黒褐色のしまりのない土主体
 - 3 ムロC (ローム細粒多量+ロームブロック (1~5cm) 多量)
 - 4 ムロB (ローム細粒多量+ロームブロック少量) 2層よりは明るめの黒褐色土

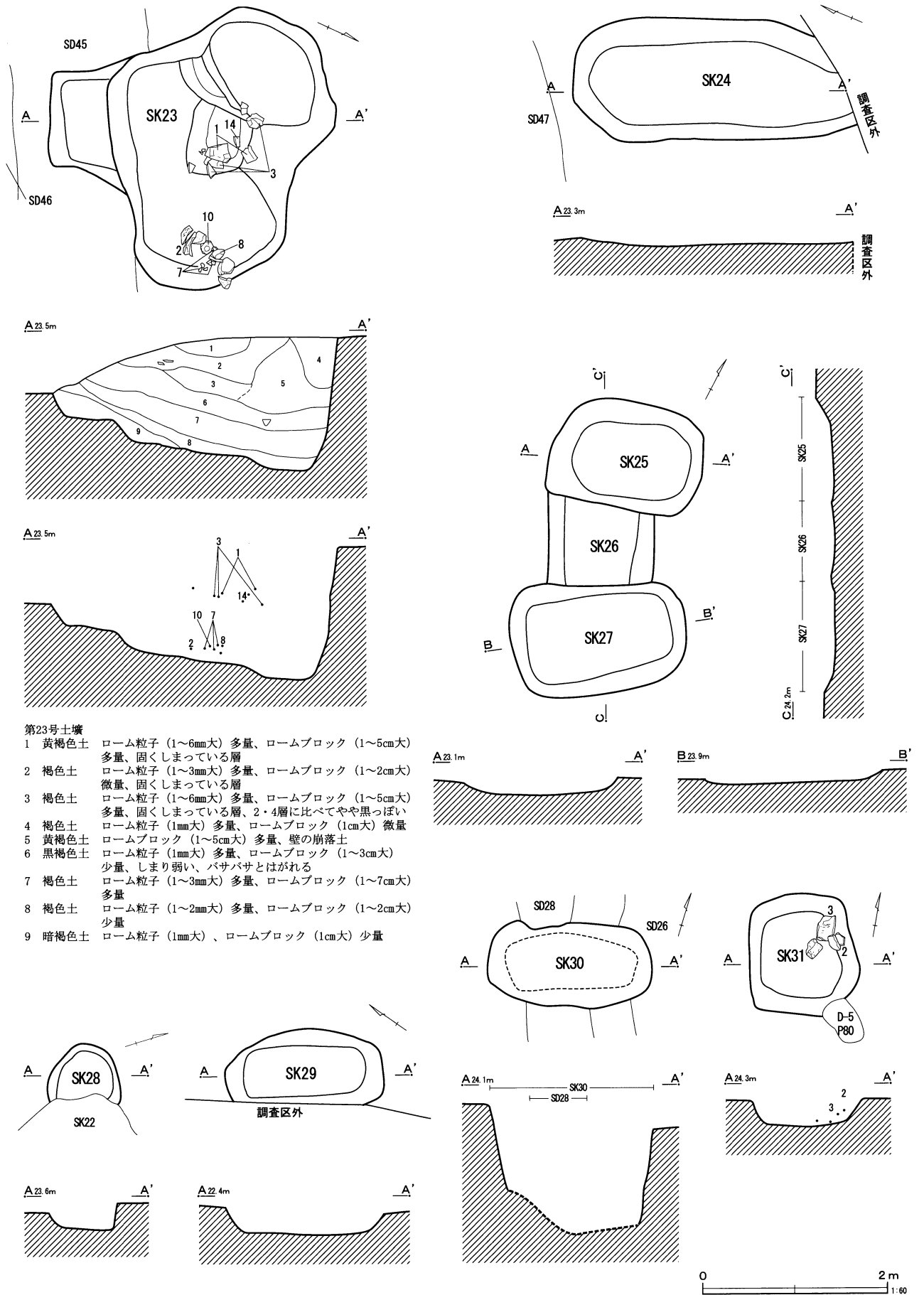


第22号土壌

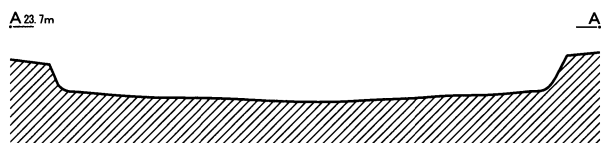
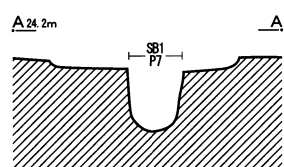
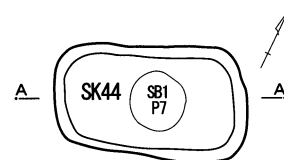
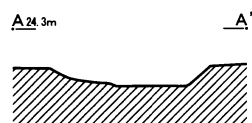
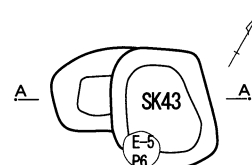
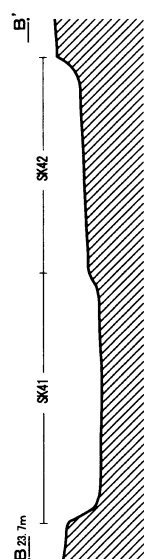
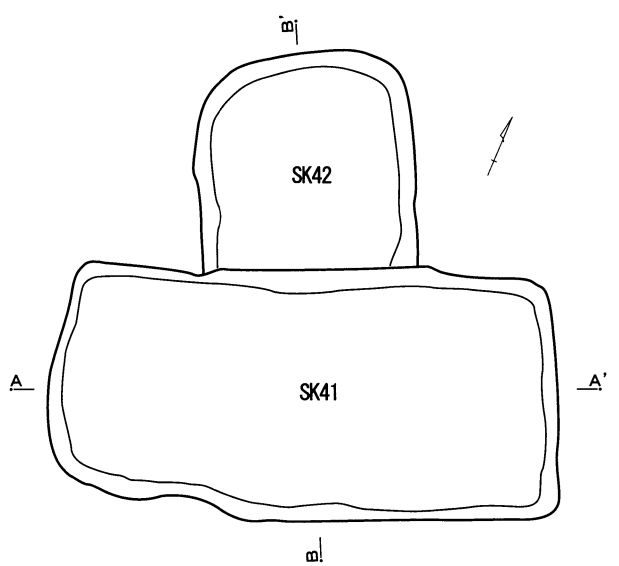
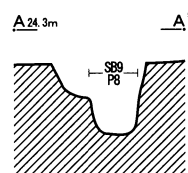
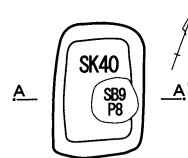
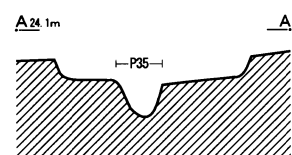
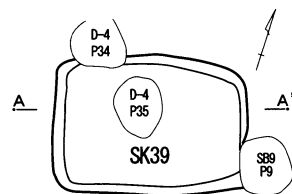
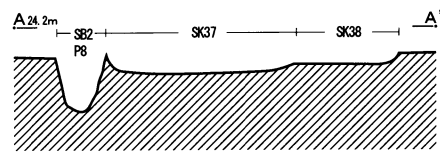
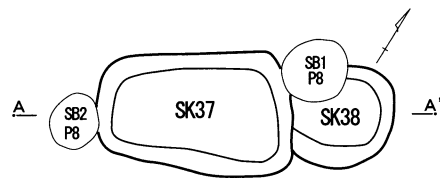
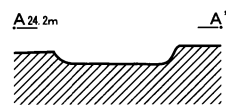
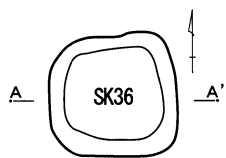
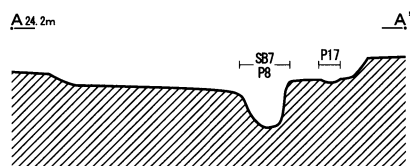
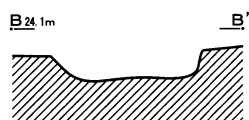
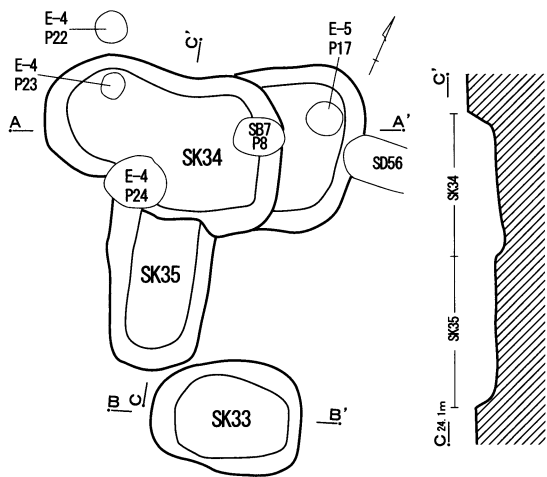
- 1 黒褐色土 しまりあり、ローム細粒 (0.1cm) ・ロームブロック (1~2cm) 多量斑に含む
- 2 黒褐色土 しまりあり、ローム細粒 (0.1~0.3cm) 多量斑に含む、炭化物少量含む
- 3 黒褐色土 しまり弱い、バサバサの土、ローム細粒 (0.1cm) ・ロームブロック (0.5cm) 少量斑に含む
- 4 暗褐色土 しまりあり、ローム細粒 (0.1~0.3cm) 多量に含む層とローム細粒・ロームブロック (1cm) 多量に含む層が交互に縞状に堆積
- 5 暗褐色土 しまり弱い、ローム細粒 (0.1cm) 多量+ロームブロック (0.5cm) 少量斑に含む層と、ローム細粒 (0.1cm) 多量+ロームブロック (0.5cm) 少量斑に含む+ロームブロック (1~7cm) 多量に含む層が交互に縞状に堆積
- 6 黒褐色土 しまりなし、バサバサした土、ローム細粒 (0.1cm) 中量・ロームブロック (0.5から2cm) 少量斑に含む
- 7 褐色土 しまりなし、ローム主体の層、ロームブロック (5cm) 多量含む、暗褐色土が少量マーブル状に混入する
- 8 黄褐色土 ローム主体、天井部



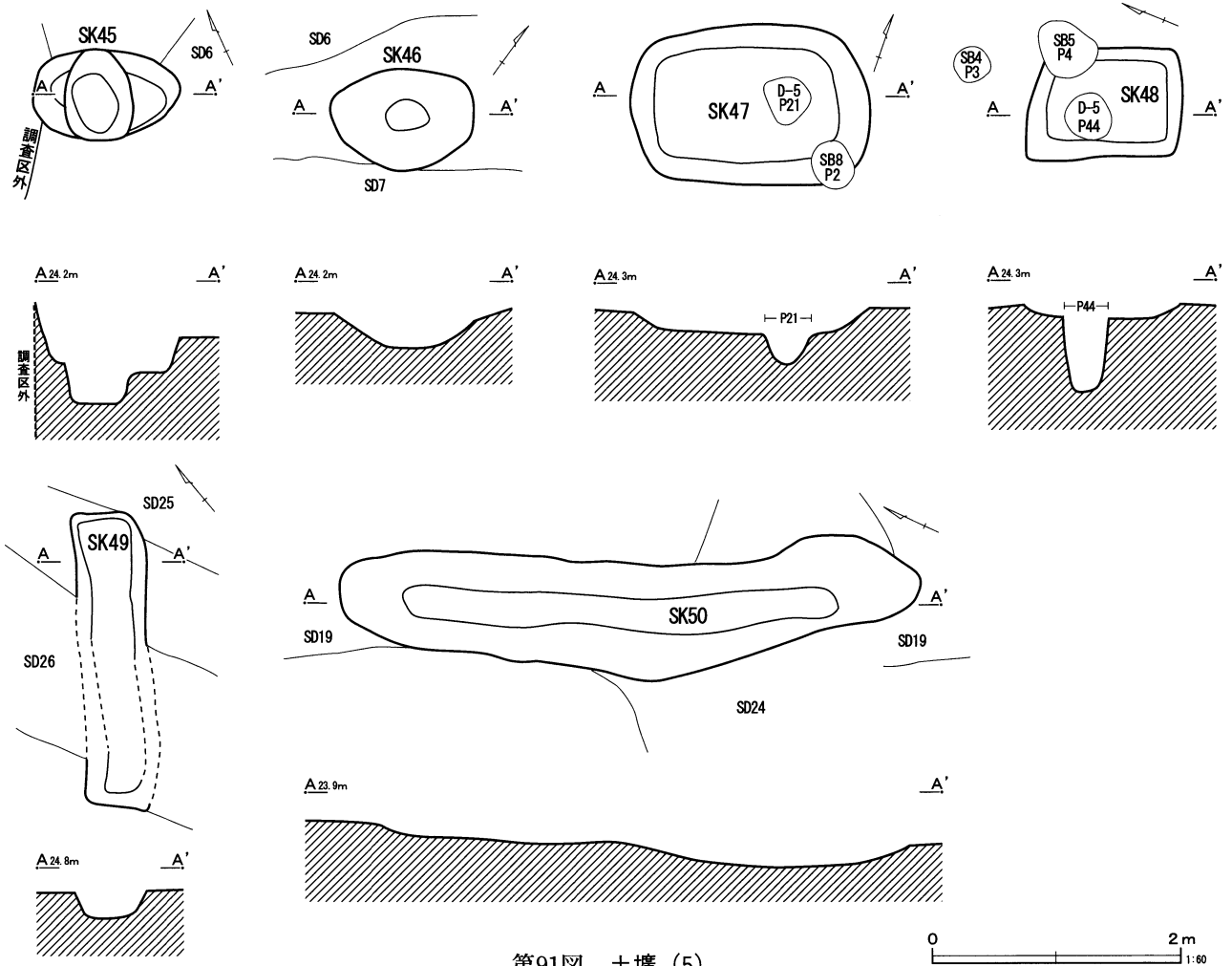
第88図 土壌 (2)



第89図 土壌 (3)



第90図 土壙 (4)



第91図 土坑 (5)

かに掘り込まれているが、平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第19号土坑 (第88図)

G・H-8グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、南側が調査区外に延びている。規模は短軸長1.00m、深さ0.24m、長軸は1.44m検出された。長軸方位はN-16°-Wを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは、一方は調査区外のため不明だが、もう一方は緩やかである。

遺物は出土していない。

第20号土坑 (第88図)

H-7グリッドに位置し、重複関係にある第44号溝跡よりも新しく、第12号柵列によって切られていた。

一部が攪乱によって壊されているが、平面形状は細い長方形で、規模は長軸長4.06m、短軸長1.14m、

深さ0.31mである。長軸方位はN-76°-Eを指す。底面はほぼ平坦で、壁の一方はピット状に掘り込まれているが、もう一方の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第21号土坑 (第88図)

G-7グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、規模は長軸長2.82m、短軸長1.06m、深さ0.39mである。長軸方位はN-79°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。

遺物は、瀬戸産の褐釉縁釉小皿の口縁部破片 (第92図3) が出土した。

第22号土坑 (第88図)

H・I-7グリッドに位置し、重複関係にある第28号土坑、第45号溝跡よりも新しい。

平面形状は不整形で、規模は長軸長2.58m、短軸

長2.52m、深さ0.97mである。長軸方位はN-64°-Eを指す。一部天井部が残っていることから、地下式墳の可能性もある。埋没状況は自然堆積と考えられる。底面は平坦で、壁はわずかに広がりながら直線的に立ち上がる。

遺物は、土師質土器皿2点（第92図4・5）が出土した。

第23号土壌（第89図）

I-6・7グリッドに位置し、重複関係にある第45号溝跡よりも新しい。

平面形状は不整形で、規模は長軸長3.05m、短軸長2.86m、深さ1.47mである。長軸方位はN-26°-Wを指す。底面は段を呈し、一方の壁は階段状に、もう一方は緩やかに立ち上がる。覆土の状況・遺物の出土位置から、埋め戻しおよび掘り直しが考えられる。

遺物は、在地産甕、瀬戸産陶器、土師質土器皿、青磁香炉、硯、砥石など15点（第93図1～15）が出土した。15世紀前葉～中葉に位置づけられる。

第24号土壌（第89図）

I・J-6グリッドに位置する。

平面形状は隅丸長方形で、南側が調査区外に延びている。規模は短軸長1.30m、深さ0.15m、長軸は2.94m検出された。長軸方位はN-24°-Wを指す。底面は平坦で、掘り込みは極めて浅く、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第25号土壌（第89図）

G-6グリッドに位置し、重複関係にある第26号土壌よりも新しい。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.63m、短軸長1.15m、深さ0.19mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第26号土壌（第89図）

H-6・7グリッドに位置し、重複関係にある第

25号土壌と第27号土壌によって切られていた。

平面形状は、両端を切られた状態のため明確にはできないが、長方形と考えられる。規模は短軸長1.12m、深さ0.12m、長軸は0.86m検出された。長軸方位はN-28°-Wを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは両方を切られているため不明である。

遺物は出土していない。

第27号土壌（第89図）

H-6・7グリッドに位置し、重複関係にある第26号土壌よりも新しい。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.88m、短軸長1.15m、深さ0.14mである。長軸方位はN-55°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第28号土壌（第89図）

H・I-6・7グリッドに位置し、重複関係にある第22号土壌によって切られていた。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長0.72m、深さ0.20m、短軸は0.60m検出された。長軸方位はN-18°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は、南比企産の須恵器甕の胴部破片（第94図1）が出土した。

第29号土壌（第89図）

J-5グリッドに位置する。

平面形状は長方形で、西側が調査区外に位置する。規模は長軸長1.68m、深さ0.30m、短軸は0.80m検出された。長軸方位はN-34°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第30号土壌（第89図）

G-3グリッドに位置し、重複関係にある第26号溝跡と第28号溝跡よりも新しい。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長1.74m、短軸長0.88m、深さ1.41mである。長軸方位はN-71°-Eを指す。底面は不明瞭だが、壁はわずかに

広がりながら直線的に立ち上がる。長軸長の約 8 割の深さである。

遺物は出土していない。

第31号土壌 (第89図)

D-5 グリッドに位置し、重複関係にある第 6 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は方形で、規模は長軸長 1.30m、短軸長 1.16m、深さ 0.24m である。長軸方位は N-11°-W を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は在地産片口鉢の口縁部破片 (第94図 2) と緑泥片岩製の板状石製品 (第94図 3) が出土した。

第32号土壌

縄文時代の土壌

第33号土壌 (第90図)

E-5 グリッドに位置する。

平面形状は隅丸方形で、規模は長軸長 1.14m、短軸長 0.84m、深さ 0.30m である。長軸方位は N-71°-E を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第34号土壌 (第90図)

E-4・5 グリッドに位置し、重複関係にある第 35 号土壌、第 56 号溝跡よりも新しく、第 7 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形で、規模は長軸長 2.42m、短軸長 1.20m、深さ 0.28m である。長軸方位は N-66°-E を指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第35号土壌 (第90図)

E-4・5 グリッドに位置し、重複関係にある第 34 号溝跡によって切られていた。

平面形状は隅丸長方形で、規模は短軸長 0.80m、深さ 0.18m、長軸は 1.16m 検出された。長軸方位は N-19°-W を指す。底面は平坦である。壁の立ち上がりは、一方は重複する土壌によって不明だが、も

う一方は緩やかである。

遺物は出土していない。

第36号土壌 (第90図)

E-5 グリッドに位置する。

平面形状は隅丸方形で、規模は長軸長 0.98m、短軸長 0.92m、深さ 0.11m である。長軸方位は N-90°-E を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第37号土壌 (第90図)

E-5 グリッドに位置し、重複関係にある第 38 号土壌よりも新しく、第 1・2 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長 1.46m、短軸長 0.88m、深さ 0.12m である。長軸方位は N-58°-E を指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第38号土壌 (第90図)

E-5 グリッドに位置し、重複関係にある第 37 号土壌、第 1 号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長 0.88m、深さ 0.09m、短軸は 0.60m 検出された。長軸方位は N-11°-E を指す。底面は平坦である。壁の一方は重複する土壌によって不明だが、もう一方は緩やかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

第39号土壌 (第90図)

D-4 グリッドに位置し、重複関係にある第 9 号掘立柱建物跡によって切られていた。

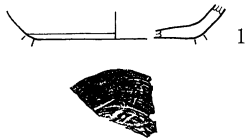
平面形状は長方形で、規模は長軸長 1.48m、短軸長 1.06m、深さ 0.26m である。長軸方位は N-74°-E を指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第40号土壌 (第90図)

D-4・5 グリッドに位置し、重複関係にある第

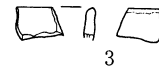
第2号土壌



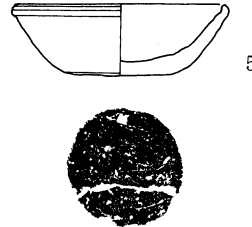
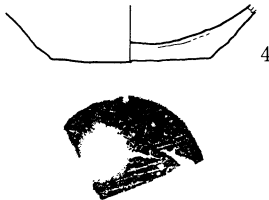
第8・9号土壌



第21号土壌



第22号土壌



第92図 第2・8・9・21・22号土壌出土遺物

9号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.00m、短軸長0.68m、深さ0.27mである。長軸方位はN-70°-Eを指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第41号土壌 (第90図)

H-6グリッドに位置し、重複関係にある第42号土壌よりも新しく、第11号柵列との新旧関係は不明である。

平面形状は長方形で、規模は長軸長3.88m、短軸長1.88m、深さ0.35mである。長軸方位はN-67°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第42号土壌 (第90図)

H-6グリッドに位置し、重複関係にある第41号土壌によって切られていた。

平面形状は明確にはできないが、長方形と考えられる。規模は短軸長1.64m、深さ0.27m、長軸は1.66m検出された。長軸方位はN-26°-Wを指す。底面は平坦である。壁の一方は重複する土壌によって不明だが、もう一方は緩やかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

第43号土壌 (第90図)

E-5グリッドに位置する。

平面形状は不整形で、規模は長軸長1.36m、短軸長0.93m、深さ0.22mである。長軸方位はN-82°-Eを指す。底面はわずかな段を呈していて、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第44号土壌 (第90図)

E-5グリッドに位置し、重複関係にある第1号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.45m、短軸長0.80m、深さ0.13mである。長軸方位はN-65°-Eを指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

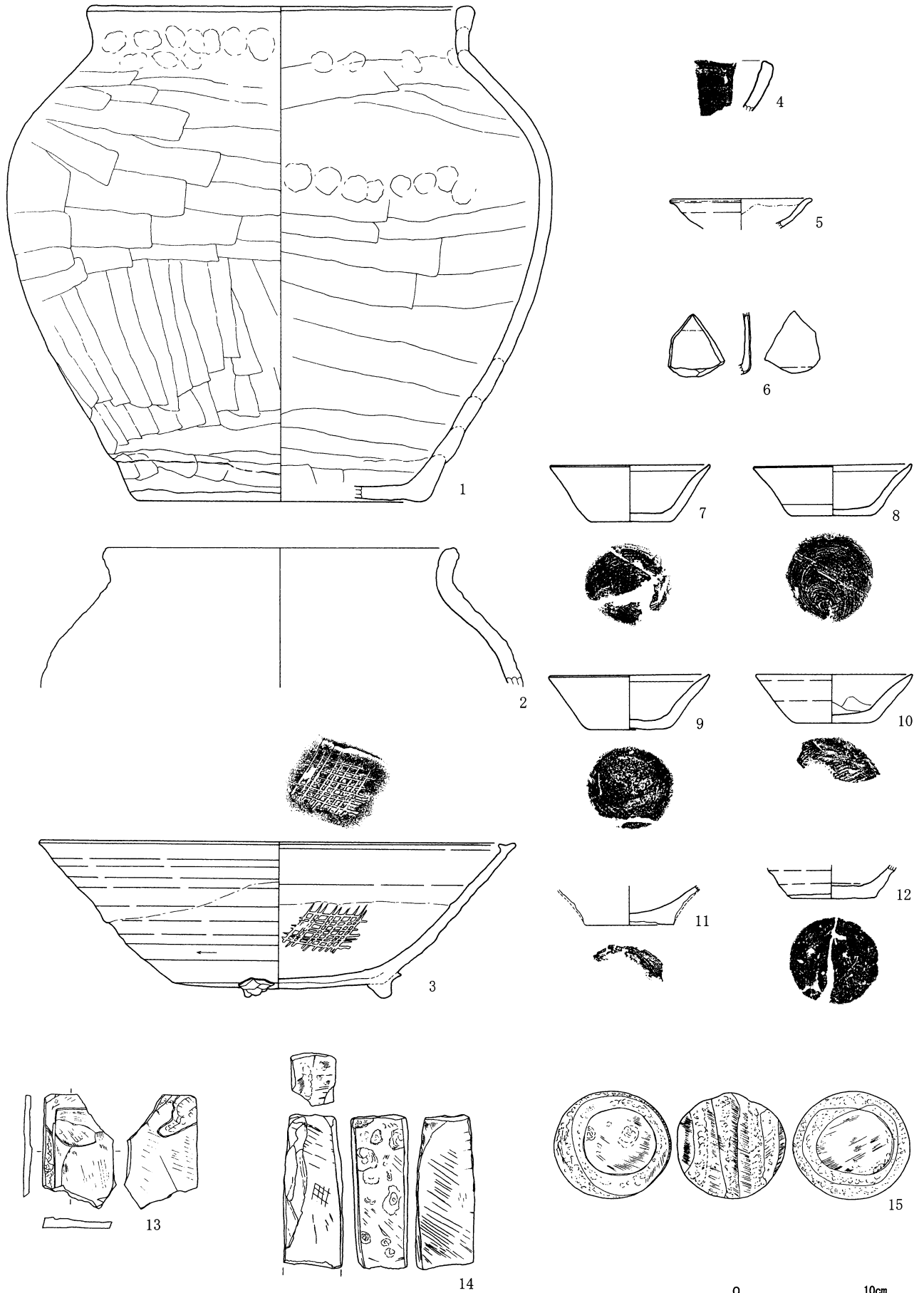
第45号土壌 (第91図)

B-4グリッドに位置し、重複関係にある第6号溝跡よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.17m、短軸長0.92m、深さ0.82mである。長軸方位はN-66°-Wを指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

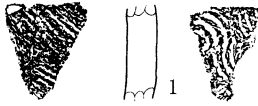
第46号土壌 (第91図)



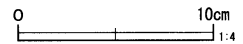
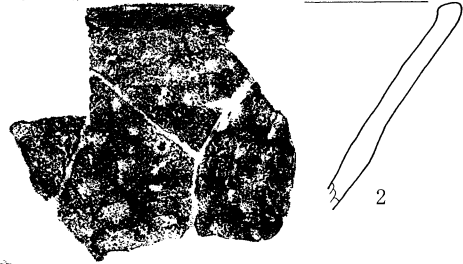
第93図 第23号土壙出土遺物

0 10cm
1:4

第28号土壇



第31号土壇



第94図 第28・31号土壇出土遺物

B-5グリッドに位置し、重複関係にある第7号溝跡よりも新しい。

平面形状は楕円形で、規模は長軸長1.12m、短軸長0.82m、深さ0.32mである。長軸方位はN-54°-Eを指す。底面は丸みを帯び、そのまま壁へ続き緩やかに立ち上がる。

遺物は出土していない。

第47号土壇 (第91図)

D-5グリッドに位置し、重複関係にある第8号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.90m、短軸長1.27m、深さ0.23mである。長軸方位はN-71°-Eを指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第48号土壇 (第91図)

D-5グリッドに位置し、重複関係にある第4・5号掘立柱建物跡によって切られていた。

平面形状は長方形で、規模は長軸長1.22m、短軸長0.85m、深さ0.11mである。長軸方位はN-20°

-Wを指す。底面は平坦で、ピット状の掘り込みがみられ、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第49号土壇 (第91図)

E-2グリッドに位置し、重複関係にある第25号溝跡よりも新しく、第26号溝跡によって切られている。

平面形状は長方形で、規模は長軸長2.31m、短軸長0.55m、深さ0.22mである。長軸方位はN-37°-Eを指す。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。

遺物は出土していない。

第50号土壇 (第91図)

F・G-5グリッドに位置し、重複関係にある第19・24号溝跡よりも新しい。

平面形状は南北に長い楕円形で、規模は長軸長4.62m、短軸長0.92m、深さ0.35mである。長軸方位はN-25°-Wを示す。底面は多少の凹凸を呈し、壁の立ち上がりは緩やかである。長軸長は短軸長の約5倍である。

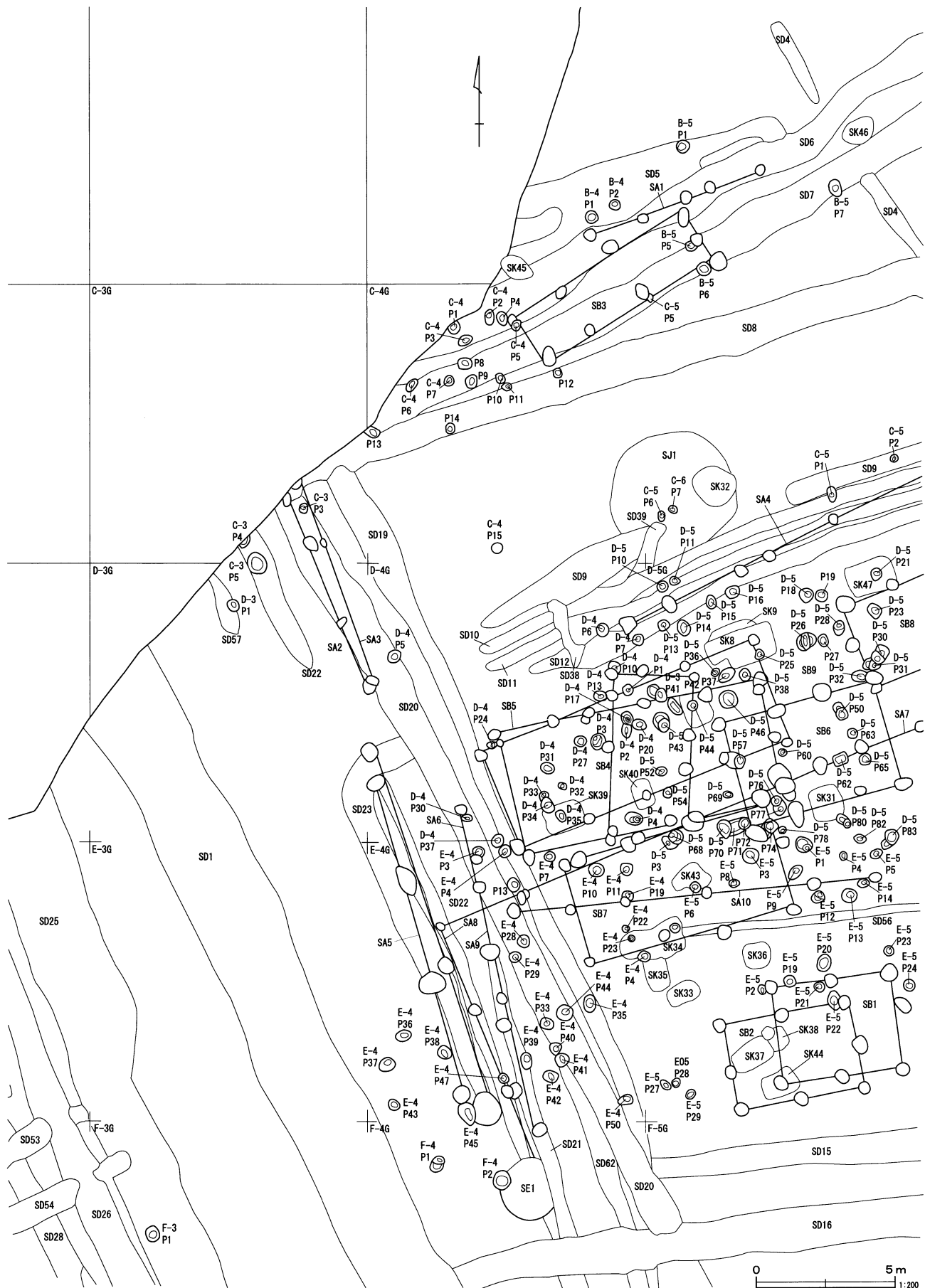
遺物は出土していない。

第12表 戸宮前 2 次在家 5 次土壌計測表

遺構	位置	形状	長径	短径	深さ	方位	重複関係	覆土	遺構	位置	形状	長径	短径	深さ	方位	重複関係	覆土
1	C-6	隅丸長方形	1.44	0.88	0.27	N-68°-E			26	H-6・7	(長方形)	(0.86)	1.12	0.12	N-28°-W	SK25・27	B
2	C-6	長方形	1.64	0.83	0.16	N-64°-E	SK3		27	H-6・7	長方形	1.88	1.15	0.14	N-55°-E	SK26	B
3	C-6	(隅丸長方形)	(2.02)	0.88	0.11	N-71°-E	SK2		28	H-6・7 I-6・7	(楕円形)	0.72	(0.60)	0.20	N-18°-E	SK22	D
4	C-6	隅丸長方形	2.06	1.17	0.19	N-77°-E			29	J-5	(長方形)	1.68	(0.80)	0.30	N-34°-E		
5	C-6	長方形	2.34	1.10	0.13	N-67°-E			30	G-3	隅丸長方形	1.74	0.88	1.41	N-71°-E	SD26・28	
6	C-5・6	(隅丸長方形)	1.66	(1.26)	0.12	N-70°-E	SK7		31	D-5	方形	1.30	1.16	0.24	N-11°-W		C
7	C-6	長方形	1.82	1.16	0.13	N-65°-E	SK6		33	E-5	隅丸方形	1.14	0.84	0.30	N-71°-E		A
8	D-5	不整形	2.46	1.22	0.23	N-70°-E	SK9		34	E-4・5	隅丸方形	2.42	1.20	0.28	N-66°-E	SK35 SD56	D
9	D-5	(楕円形)	(1.64)	(0.30)	0.12	N-70°-E	SK8		35	E-4・5	(隅丸長方形)	(1.16)	0.80	0.18	N-19°-W	SK34	C
10	A-5	隅丸長方形	1.81	1.57	0.21	N-25°-E	SD3		36	E-5	隅丸方形	0.98	0.92	0.11	N-90°-E		C
11	F-10	(長方形)	(1.62)	1.18	0.26	N-61°-E	SD17	B	37	E-5	長方形	1.46	0.88	0.12	N-58°-E	SB1・2 SK38	D
12	F-10	長方形	1.28	0.80	0.29	N-64°-E		C	38	E-5	(楕円形)	0.88	(0.60)	0.09	N-11°-E	SB1 SK37	C
13	F-9	長方形	1.65	0.90	0.20	N-35°-W		D	39	D-4	長方形	1.48	1.06	0.26	N-74°-E		A
14	欠番								40	D-4・5	長方形	1.00	0.68	0.27	N-70°-E		A
15	F-9・10	長方形	4.26	0.76	0.79	N-63°-E	SD33・37		41	H-6	長方形	3.88	1.88	0.35	N-67°-E	SK42	
16	G-8	長方形	1.16	0.70	0.14	N-65°-E		C	42	H-6	(長方形)	(1.66)	(1.64)	0.27	N-26°-W	SK41	
17	G-8	楕円形	1.30	0.67	0.04	N-78°-E		C	43	E-5	不整形	1.36	0.93	0.22	N-82°-E		
18	G-8・9	(不整形)	(1.90)	1.05	0.16	N-90°-E	SD34	C	44	E-5	長方形	1.45	0.80	0.13	N-65°-E	SB1	
19	G-8・H-8	(長方形)	(1.44)	1.00	0.24	N-16°-W		C	45	B-4	楕円形	1.17	0.92	0.82	N-66°-W	SD6	
20	H-7	長方形	4.06	1.14	0.31	N-76°-E	SD44	D	46	B-5	楕円形	1.12	0.82	0.32	N-54°-E	SD7	
21	G-7	長方形	2.82	1.06	0.39	N-79°-E		D	47	D-5	長方形	1.90	1.27	0.23	N-71°-E		
22	H-7・I-7	不整形	2.58	2.52	0.97	N-64°-E	SK28 SD45		48	D-5	長方形	1.22	0.85	0.11	N-20°-W		
23	I-6・7	不整形	3.05	2.86	1.47	N-26°-W	SD45		49	E-2	長方形	2.31	0.55	0.22	N-37°-E	SD25・26	
24	I-6・J-6	(隅丸長方形)	(2.94)	1.30	0.15	N-24°-W		D	50	F-5 G-5	楕円形	4.62	0.92	0.35	N-25°-W	SD19・24	
25	G-6	隅丸方形	1.63	1.15	0.19	N-70°-E	SK26	C	※ SK32は縄文時代の遺構								

覆土凡例

- A: 黒褐色土
 B: 褐色土 ローム粒子多量・ロームブロックを含まない
 C: 褐色土 ローム粒子多量・ロームブロック少量含む
 D: 褐色土 ローム粒子・ロームブロック多量に含む

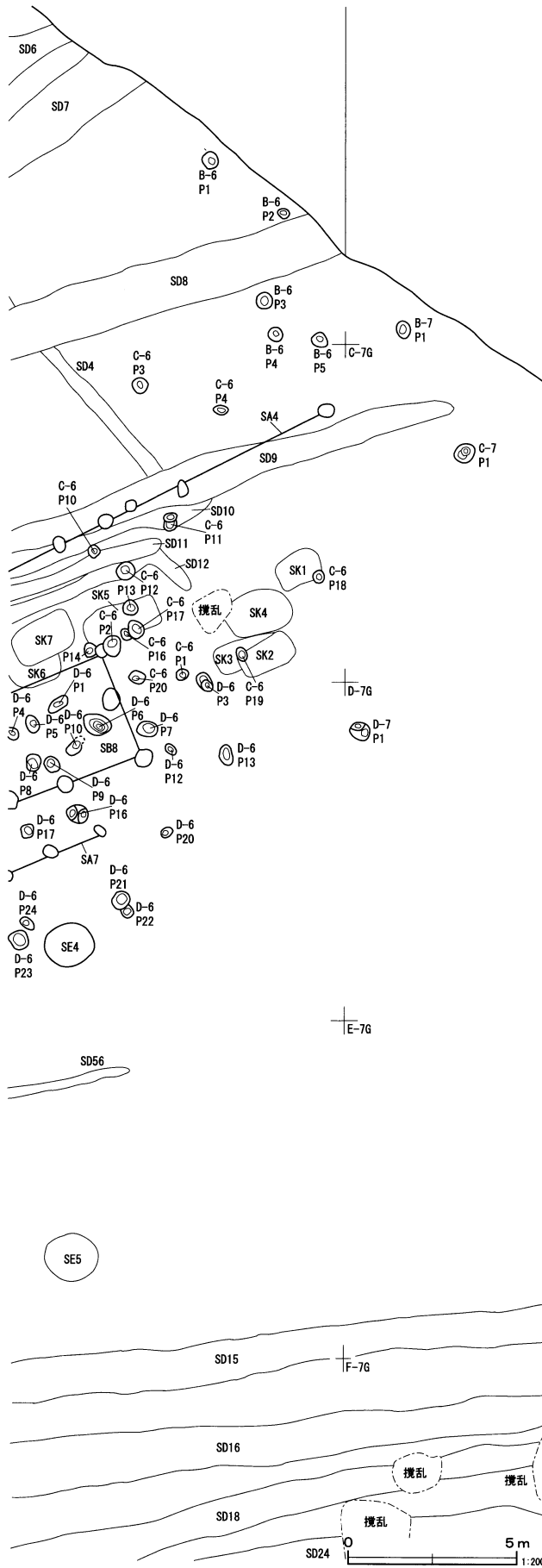


第95図 ピット群

f. ピット群

第6・7号溝跡、第1号溝跡、第35号溝跡に画されたC・D・E-4・5・6グリッドにピットが密集して存在していた。いずれも出土遺物はなく、時期の特定は難しい。

このなかから、区画を形成する溝跡や柵列、他の掘立柱建物跡との方向性の一致を手懸りに、規則性が認定される組み合わせを柵列・掘立柱建物跡として把握した。しかし、組み合わせを把握することができなかったピットも多数残存する。なかには数本のピットが列を形成している箇所も見受けられることから、認定できなかった柵列・掘立柱建物跡の存在も予想される。



第13表 ピット計測表

遺構	長径	短径	深さ	方位	遺構	長径	短径	深さ	方位
B-4 P1	0.43	0.38	0.234	N-19°-W	D-4 P10	0.42	(0.32)	0.338	N-75°-W
B-4 P2	0.32	0.32	0.239	N-0°-E	D-4 P13	(0.38)	0.34	0.264	N-90°-E
B-5 P1	0.42	0.32	0.287	N-72°-E	D-4 P19	0.47	0.44	0.350	N-0°-E
B-5 P5	(0.48)	0.30	0.416	N-90°-E	D-4 P20	0.46	0.34	0.592	N-90°-E
B-5 P6	0.51	0.46	0.264	N-0°-E	D-4 P24	0.36	0.30	0.308	N-41°-E
B-5 P7	0.55	0.42	0.522	N-20°-W	D-4 P27	0.40	0.30	0.526	N-90°-E
B-6 P1	0.45	0.40	0.318	N-0°-E	D-4 P29	0.40	0.32	0.350	N-54°-E
B-6 P2	0.30	0.30	0.176	N-0°-E	D-4 P31	0.42	0.40	0.304	N-0°-E
B-6 P3	0.50	0.48	0.466	N-90°-E	D-4 P32	0.30	0.22	0.254	N-81°-W
B-6 P4	0.40	0.37	0.325	N-0°-E	D-4 P33	0.36	0.22	0.306	N-66°-E
B-6 P5	0.42	0.36	0.251	N-0°-E	D-4 P34	0.41	0.40	0.536	N-64°-E
B-7 P1	0.46	0.36	0.288	N-16°-W	D-4 P35	0.45	0.35	0.274	N-20°-W
C-3 P3	0.28	0.24	0.210	N-0°-E	D-4 P37	0.46	0.33	0.376	N-35°-W
C-3 P4	0.38	(0.12)	0.425	N-33°-E	D-5 P3	0.56	0.36	0.555	N-46°-W
C-3 P5	0.80	0.60	0.290	N-0°-E	D-5 P10	0.80	0.78	0.192	N-0°-E
C-4 P1	0.32	0.30	0.320	N-50°-E	D-5 P11	0.32	0.30	0.048	N-90°-E
C-4 P2	0.50	0.36	0.308	N-10°-W	D-5 P13	0.35	0.33	0.262	N-43°-W
C-4 P3	0.44	0.26	0.662	N-64°-E	D-5 P14	0.58	0.40	0.477	N-15°-W
C-4 P4	0.42	0.34	0.532	N-9°-W	D-5 P15	0.40	0.32	0.205	N-25°-W
C-4 P5	0.33	0.26	0.360	N-11°-E	D-5 P16	0.50	0.36	0.374	N-90°-E
C-4 P6	0.42	0.18	0.498	N-45°-E	D-5 P18	0.45	0.40	0.752	N-44°-W
C-4 P7	0.27	0.22	0.330	N-55°-E	D-5 P19	0.42	0.40	0.269	N-0°-E
C-4 P8	0.46	0.35	0.640	N-90°-E	D-5 P21	0.39	0.38	0.228	N-19°-W
C-4 P9	0.30	0.27	0.173	N-13°-W	D-5 P23	0.50	0.40	0.565	N-58°-W
C-4 P10	0.30	0.23	0.364	N-38°-W	D-5 P25	0.34	0.34	0.157	N-25°-W
C-4 P11	0.25	0.17	0.400	N-85°-W	D-5 P26	0.67	0.52	0.355	N-78°-E
C-4 P12	0.18	0.16	0.211	N-90°-E	D-5 P27	0.36	0.34	0.364	N-3°-W
C-4 P13	0.52	0.22	0.384	N-79°-W	D-5 P28	0.46	0.32	0.674	N-10°-W
C-4 P14	0.30	0.28	0.334	N-70°-W	D-5 P30	0.62	0.46	0.623	N-45°-E
C-4 P15	0.34	0.34	0.276	N-0°-E	D-5 P31	0.67	0.38	0.566	N-90°-E
C-5 P1	0.48	0.34	0.25	N-16°-W	D-5 P32	(0.40)	0.42	0.134	N-80°-W
C-5 P2	0.30	0.25	0.161	N-11°-E	D-5 P36	0.29	0.29	0.266	N-0°-E
C-5 P5	0.21	(0.18)	0.440	N-31°-E	D-5 P37	0.62	0.50	0.401	N-38°-E
C-5 P6	0.32	0.29	0.292	N-7°-W	D-5 P38	0.34	0.32	0.243	N-0°-E
C-5 P7	0.34	(0.32)	0.442	N-58°-W	D-5 P41	0.73	0.40	0.428	N-63°-W
C-6 P1	0.34	0.33	0.575	N-0°-E	D-5 P42	0.65	0.32	0.381	N-45°-E
C-6 P2	0.56	0.50	0.581	N-0°-E	D-5 P43	0.63	0.47	0.459	N-20°-W
C-6 P3	0.40	0.35	0.353	N-35°-W	D-5 P44	0.38	0.36	0.607	N-0°-E
C-6 P4	0.39	0.30	0.301	N-90°-E	D-5 P46	0.53	0.52	0.344	N-0°-E
C-6 P10	0.32	0.24	0.244	N-0°-E	D-5 P50	0.64	0.42	0.528	N-25°-W
C-6 P11	0.57	0.38	0.665	N-0°-E	D-5 P52	0.36	0.36	0.730	N-0°-E
C-6 P12	0.48	0.44	0.278	N-20°-W	D-5 P54	0.36	0.32	0.320	N-0°-E
C-6 P13	0.42	0.40	0.271	N-8°-W	D-5 P57	0.44	0.32	0.363	N-10°-E
C-6 P14	0.40	0.34	0.260	N-38°-W	D-5 P60	0.32	0.24	0.270	N-90°-E
C-6 P16	0.48	(0.36)	0.249	N-44°-W	D-5 P62	0.44	0.38	0.461	N-69°-E
C-6 P17	0.34	0.27	0.436	N-55°-W	D-5 P63	0.36	0.34	0.420	N-0°-E
C-6 P19	0.40	0.31	0.173	N-19°-W	D-5 P65	0.46	0.36	0.278	N-48°-W
C-6 P20	0.42	0.40	0.410	N-90°-E	D-5 P68	0.50	(0.38)	0.745	N-65°-W
C-7 P1	0.52	0.38	0.210	N-28°-E	D-5 P69	0.30	0.28	0.266	N-90°-E
D-3 P1	0.33	0.28	0.248	N-50°-W	D-5 P70	0.57	0.48	0.411	N-45°-W
D-4 P1	0.33	0.32	0.308	N-46°-E	D-5 P71	(0.50)	0.52	0.260	N-84°-E
D-4 P2	(0.40)	0.38	0.332	N-0°-E	D-5 P72	0.44	0.44	0.272	N-0°-E
D-4 P3	0.56	(0.50)	0.308	N-41°-E	D-5 P74	(0.52)	0.50	0.245	N-41°-E
D-4 P4	0.63	0.38	0.540	N-90°-E	D-5 P76	0.36	0.30	0.678	N-60°-E
D-4 P6	0.40	0.36	0.262	N-86°-W	D-5 P77	0.44	(0.36)	0.484	N-52°-E
D-4 P7	0.34	0.30	0.344	N-55°-E	D-5 P78	0.29	0.20	0.417	N-66°-E

遺構	長径	短径	深さ	方位	遺構	長径	短径	深さ	方位
D-5 P80	0.48	0.33	0.402	N-42°-W	E-4 P43	0.41	0.37	0.265	N-8°-W
D-5 P82	0.42	0.32	0.368	N-90°-E	E-4 P45	0.73	0.50	0.344	N-18°-E
D-5 P83	0.72	0.48	0.379	N-45°-E	E-4 P47	0.28	0.28	0.415	N-0°-E
D-6 P1	0.65	0.32	0.832	N-47°-E	E-4 P50	0.54	0.39	0.313	N-50°-E
D-6 P3	0.50	0.36	0.590	N-10°-W	E-5 P1	0.58	0.50	0.315	N-28°-W
D-6 P4	0.33	0.33	0.558	N-71°-W	E-5 P2	0.30	0.22	0.344	N-0°-E
D-6 P5	0.40	0.32	0.416	N-35°-W	E-5 P3	0.52	0.49	0.325	N-43°-W
D-6 P6	0.80	0.55	0.344	N-65°-W	E-5 P4	0.32	0.28	0.335	N-25°-W
D-6 P7	0.52	0.44	0.472	N-90°-E	E-5 P5	0.38	0.28	0.357	N-79°-E
D-6 P8	0.46	0.39	0.456	N-82°-W	E-5 P6	0.30	0.28	0.258	N-41°-E
D-6 P9	0.48	0.46	0.45	N-59°-E	E-5 P8	0.36	0.31	0.330	N-52°-E
D-6 P10	0.42	0.33	0.512	N-49°-E	E-5 P9	0.55	0.35	0.438	N-33°-W
D-6 P12	0.28	0.22	0.234	N-30°-W	E-5 P12	0.42	0.34	0.406	N-30°-E
D-6 P13	0.54	0.34	0.574	N-19°-W	E-5 P13	0.50	0.46	0.503	N-90°-E
D-6 P16	0.56	0.47	0.508	N-25°-E	E-5 P14	0.43	0.32	0.263	N-67°-W
D-6 P17	0.40	0.33	0.528	N-20°-W	E-5 P17	0.27	0.26	0.285	N-90°-E
D-6 P20	0.32	0.22	0.450	N-30°-E	E-5 P19	0.41	0.39	0.190	N-90°-E
D-6 P21	0.47	0.42	0.302	N-0°-E	E-5 P20	0.64	0.47	0.257	N-0°-E
D-6 P22	(0.32)	0.30	0.212	N-33°-W	E-5 P21	0.34	0.33	0.215	N-0°-E
D-6 P23	0.54	0.44	0.322	N-90°-E	E-5 P22	0.68	0.44	0.205	N-8°-W
D-6 P24	0.42	0.28	0.408	N-37°-W	E-5 P23	0.30	0.28	0.193	N-90°-E
D-7 P1	0.52	0.50	0.378	N-24°-W	E-5 P24	0.38	0.35	0.492	N-6°-E
D-8 P1	0.84	0.62	0.438	N-37°-W	E-5 P27	0.32	0.22	0.190	N-30°-W
E-3 P1	0.50	0.50	0.414	N-0°-E	E-5 P28	0.31	0.25	0.177	N-30°-E
E-4 P3	(0.40)	0.42	0.149	N-24°-E	E-5 P29	0.32	0.28	0.190	N-55°-E
E-4 P4	0.40	0.32	0.295	N-58°-E	F-3 P1	0.60	0.50	0.317	N-15°-E
E-4 P7	0.32	0.30	0.405	N-90°-E	F-4 P1	0.65	0.41	0.448	N-30°-E
E-4 P10	0.44	0.41	0.419	N-82°-W	F-9 P1	0.42	0.40	0.350	N-22°-E
E-4 P11	0.42	0.36	0.450	N-0°-E	F-9 P2	0.25	0.20	0.113	N-0°-E
E-4 P13	0.42	0.32	0.576	N-45°-E	F-10 P1	0.96	0.93	0.090	N-29°-W
E-4 P19	(0.32)	0.32	0.270	N-41°-E	G-3 P1	1.08	0.50	0.567	N-36°-W
E-4 P22	0.26	0.26	0.344	N-0°-E	G-3 P2	0.50	0.40	0.840	N-34°-W
E-4 P23	0.20	0.18	0.276	N-0°-E	G-9 P1	0.90	0.57	0.288	N-25°-W
E-4 P24	0.36	0.26	0.304	N-68°-E	G-9 P2	0.73	0.49	0.576	N-11°-W
E-4 P28	0.46	0.40	0.439	N-0°-E	G-9 P3	0.41	0.32	0.508	N-12°-W
E-4 P29	0.34	0.30	0.283	N-90°-E	G-10 P1	0.62	(0.40)	0.162	N-76°-E
E-4 P33	0.42	0.32	0.525	N-90°-E	G-10 P2	0.46	(0.34)	0.154	N-90°-E
E-4 P34	0.55	0.44	0.356	N-90°-E	H-7 P8	0.45	0.37	0.308	N-25°-W
E-4 P35	0.54	0.38	0.304	N-5°-W	H-7 P9	0.56	0.56	0.442	N-0°-E
E-4 P36	0.46	0.34	0.356	N-67°-E	H-7 P11	0.54	0.49	0.180	N-14°-W
E-4 P37	0.54	0.38	0.305	N-50°-E	I-4 P1	0.40	0.32	0.179	N-73°-E
E-4 P38	0.48	0.42	0.467	N-90°-E	I-6 P2	0.32	0.25	0.152	N-19°-W
E-4 P39	0.51	0.38	0.329	N-0°-E	I-6 P6	0.42	0.42	0.342	N-0°-E
E-4 P40	0.42	0.32	0.255	N-41°-E	I-6 P7	0.83	0.70	0.369	N-0°-E
E-4 P41	0.41	0.40	0.245	N-78°-E	J-5 P1	0.40	0.34	0.536	N-53°-E
E-4 P42	0.54	0.50	0.690	N-90°-E	J-6 P1	0.53	0.38	0.488	N-78°-E

第14表 遺物観察表（土器）

番号	遺構	挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	備考	図版
1	SD1	66 1	甕	(27.0)	[6.7]	—	C・F・I	良好	暗褐	常滑	20-1
2	SD1	66 2	甕	—	—	—	F	良好	灰褐	常滑	20-2
3	SD1	66 3	甕	—	—	—	F・L	良好	暗赤褐	常滑	20-3
4	SD1	66 4	内耳鍋	32.2	16.7	20.0	A・F・L	普通	灰黄褐	瓦質陶器 在地産	17-1
5	SD1	66 5	内耳鍋	(29.0)	[14.1]	—	F・A	良好	にぶい橙	在地産	20-5
6	SD1	66 6	内耳鍋	(15.0)	[12.9]	—	B・C・F	普通	黄灰	瓦質陶器 在地産	20-6
7	SD1	66 7	内耳鍋	(28.0)	[7.4]	—	F・I	普通	暗灰黄	瓦質陶器 在地産 15C前葉	20-4
8	SD1	66 8	内耳鍋	(20.5)	[6.5]	—	F・B	普通	黒	瓦質陶器 在地産 15C前葉	20-7
9	SD1	66 9	内耳鍋	(13.5)	[5.4]	—	F・L	普通	暗灰黄	瓦質陶器 在地産 15C前葉	20-8
10	SD1	66 10	片口鉢	(13.5)	[12.7]	—	B・F・L	不良	黒褐	瓦質陶器 在地産	20-16
11	SD1	66 11	縁釉小皿	11.0	3.5	—	M	良好	灰白	古瀬戸15C中葉	19-2
12	SD1	66 12	土師質土器皿	—	—	(7.0)	A・H	良好	にぶい褐		20-10
13	SD1	66 13	片口鉢	—	[4.5]	(18.0)	F・I	良好	黄灰	瓦質陶器 在地産 底部にハケメ状のナデ	20-11
14	SD1	66 14	土師質土器皿	—	[2.8]	(6.0)	D・G	不良	にぶい褐		20-9
15	SD1	66 15	土師質土器皿	7.3	4.6	2.2	A・J	良好	灰黄	煤付着 南比企?	19-1
16	SD1	66 16	土師質土器皿	—	[0.8]	(5.6)	A・D・F	良好	灰褐		20-12
17	SD4	68 1	鉢	—	[2.6]	(8.0)	M	良好	灰黄・極暗赤褐	陶器	20-20
18	SD4	68 2	片口鉢	—	[6.5]	(4.0)	F・L	普通	黄灰	瓦質陶器 在地産	20-21
19	SD5	68 3	内耳鍋	—	[3.9]	(18.0)	A・F	普通	にぶい黄褐	在地産	20-23
20	SD8	68 5	甕	—	—	—	F・I	良好	にぶい黄褐	常滑	20-24
21	SD8	68 6	片口鉢	12.0	[5.4]	—	A・D・F	良好	褐灰	在地産	20-22
22	SD8	68 7	天目茶碗	(5.5)	[3.3]	—	M	良好	褐灰	瀬戸 15C前葉	20-26
23	SD8	68 8	土師質土器皿	—	3.4	(3.0)	D・F・H	普通	橙	中世	20-27
24	SD8	68 9	坏	—	[1.3]	3.2	F・J	良好	灰	須恵器 南比企 9C平安	20-28
25	SD9	68 10	天目茶碗	—	[4.5]	4.5	F・M	良好	褐灰	瀬戸 15C前葉 ベンガラ付着物	19-3
26	SD11	68 12	坏	—	[1.0]	(6.6)	F・J	良好	灰褐	須恵器 南比企 9C中葉	20-29
27	SD13	68 13	長頸瓶	—	[2.2]	(9.0)	F・I	良好	灰オリーブ 暗灰黄	須恵器 東金子 9C後半	20-30
28	SD15	68 14	土師質土器皿	(12.4)	[4.2]	—	D・F	普通	橙		19-4
29	SD16	69 1	甕	(24.4)	[6.7]	—	A・B・C・F・I・H	不良	明黄褐	在地産 表面風化	20-32
30	SD16	69 2	甕	—	—	—	F・I	良好	にぶい褐	常滑	20-33
31	SD16	69 3	内耳鍋	33.2	16.9	(20.1)	E・F・L	良好	黄灰	瓦質陶器 在地産 内耳2ヶ所	17-4
32	SD16	69 4	内耳鍋	31.0	17.2	—	C・F・H	良好	にぶい褐	在地産	17-5
33	SD16	69 5	片口鉢	30.0	13.1	13.0	B・C・F・H	普通	にぶい黄橙	在地産	17-3
34	SD16	69 6	片口鉢	30.2	[12.5]	(11.7)	B・E・F・I・L	良好	にぶい黄橙	在地産	17-2
35	SD16	69 7	片口鉢	(32.6)	[9.6]	—	A・B・C・F・G・H	良好	黒褐	在地産	20-31
36	SD16	69 8	片口鉢	(23.0)	[7.5]	—	A・B・C・F・G・H・K	良好	にぶい黄褐	在地産 内外面風化	20-36
37	SD16	69 9	片口鉢	—	[5.8]	(12.5)	B・F・I	良好	灰	在地産	20-34
38	SD16	69 10	土釜	(13.2)	[16.8]	(17.0)	C・F・L	普通	灰白	在地産	17-6
39	SD16	69 11	土釜	—	[7.9]	—	A・C・F・H・I・K	普通	灰黄褐	在地産	20-37
40	SD16	69 12	土師質土器皿	—	[2.0]	6.2	F・J・K	普通	明黄褐	南比企? 軟質	20-38
41	SD16	69 13	土師質土器皿	(15.7)	[4.6]	—	A・B・H・J・K	良好	橙	南比企? 軟質	20-39
42	SD16	69 14	土師質土器皿	—	[3.3]	(7.8)	A・B・C・F・K	不良	明黄褐	内外面に油煙付着	20-35
43	SD17	70 1	土師質土器風炉	—	[4.1]	—	A・H・I・K・L	良好	褐灰	細かいミガキ 外面黒色処理	20-40
44	SD23	70 3	土釜	—	—	—	B・F・I	良好	灰黄褐	在地産	20-42
45	SD23	70 4	土釜	—	—	—	B・F	良好	褐灰	在地産 取っ手	20-43
46	SD23	70 5	土師質土器皿	—	[1.9]	(8.4)	D・F	良好	にぶい黄橙		20-44
47	SD24	70 10	青磁碗	—	[1.8]	—	M	良好	灰オリーブ		20-49
48	SD26	70 12	土師質土器皿	(11.0)	3.4	6.6	G・H	良好	橙	軟質 風化	19-5
49	SD28	71 1	甕	(32.0)	[7.0]	—	B・F	良好	灰黄褐	在地産	20-53
50	SD28	71 2	甕	—	—	—	F・I・M	良好	褐	常滑	20-54
51	SD28	71 3	甕	—	—	—	F・I・M	良好	灰褐	常滑	20-56
52	SD28	71 4	甕	—	—	—	F・I・M	良好	褐	常滑	21-1
53	SD28	71 5	甕	—	—	—	F・I・M	良好	褐	常滑	21-3
54	SD28	71 6	甕	—	—	—	F・I・M	良好	にぶい褐	常滑	21-2
55	SD28	71 7	甕	—	—	—	F・I・M	良好	にぶい赤褐	常滑	20-55
56	SD28	71 8	片口鉢	(26.8)	[6.8]	—	A・B・C・F・H・I・L	良好	黄灰	瓦質陶器 在地産	20-52
57	SD28	71 9	土釜	—	[11.2]	(5.8)	A・F	良好	灰黄褐	在地産	20-51
58	SD28	71 10	土師質土器皿	—	[3.2]	6.8	A・C・F・G・H・I	不良	にぶい黄橙	軟質 内外面風化	19-6
59	SK2	92 1	坏	—	[1.8]	(8.0)	F・I	良好	灰白	須恵器	21-4
60	SK8・9	92 2	天目茶碗	(10.5)	[3.5]	—	K・M	良好	暗褐 黒	瀬戸	21-5

番号	遺構	挿図番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	備考	図版
61	SK21	92 3	褐釉縁釉小皿	—	[1.7]	—	M	良好	黒褐 におい黄	瀬戸	21-6
62	SK22	92 4	土師質土器皿	—	[2.8]	(8.0)	A・F	良好	橙		21-7
63	SK22	92 5	土師質土器皿	—	3.7	(5.6)	D・F	良好	橙		19-7
64	SK23	93 1	甕	(27.8)	35.4	(20.5)	A・B・F	良好	褐灰	在地産	18-3
65	SK23	93 2	甕	(25.5)	[10.0]	—	B・F・M	不良	暗灰黄	在地産	18-1
66	SK23	93 3	卸目付大皿	34.0	11.0	15.0	M	良好	灰オリーブ 灰白	古瀬戸 うるし継ぎ跡有り 三足盤	18-2
67	SK23	93 4	片口鉢	—	[3.6]	—	A・C・F・G・H・I	良好	褐灰	在地産	21-8
68	SK23	93 5	縁釉小皿	(9.7)	[2.1]	—	K・M	良好	淡黄	瀬戸	21-10
69	SK23	93 6	青磁香炉	—	[4.4]	—	I	良好	におい褐		21-9
70	SK23	93 7	土師質土器皿	11.4	4.0	5.8	G・H・I	良好	橙		
71	SK23	93 8	土師質土器皿	11.2	3.6	5.8	D・G・H	良好	橙		19-9
72	SK23	93 9	土師質土器皿	11.6	3.9	6.0	D・G・H	良好	橙		19-10
73	SK23	93 10	土師質土器皿	11.4	3.5	5.8	F・G・H	良好	橙		19-8
74	SK23	93 11	土師質土器皿	—	[2.8]	(6.4)	G・J	良好	におい褐	内外面剝離 南比企?	21-11
75	SK23	93 12	土師質土器皿	—	[2.4]	6.4	A・G・H	良好	におい橙		21-12
76	SK28	94 1	甕	—	—	—	F・J	良好	におい褐	須恵器 南比企	21-16
77	SK31	94 2	片口鉢	(28.0)	[11.5]	—	B・F	良好	灰黄褐	在地産	21-17

第15表 遺物観察表(瓦)

番号	遺構	挿図番号	種別	色調	焼成	長さ	幅	厚さ	備考	図版
1	SD1	67 17	丸瓦	黄灰	やや硬質	[9.9]	[6.8]	4.2	砂質	20-13
2	SD1	67 18	平瓦	黄灰	やや硬質	[14.7]	[11.8]	2.0	砂質 側部1面ヘラケズリ	20-15
3	SD1	67 19	平瓦	におい褐色	やや硬質	[10.3]	[8.1]	2.1	やや粘質 側部2面ヘラケズリ	20-14
4	SD1	67 20	平瓦	灰黄	やや硬質	[3.8]	[4.1]	2.4	古代	20-17
5	SD9	68 11	平瓦	黄灰	やや硬質	[18.0]	[18.4]	2.0	砂質 側部1面ヘラケズリ	20-19
6	SD23	70 6	平瓦	灰黄	やや硬質	[16.3]	[9.8]	1.9	砂質	20-45
7	SD23	70 7	平瓦	灰	やや硬質	[9.9]	[8.6]	2.0	砂質	20-46
8	SD23	70 8	平瓦	灰	やや軟質	[7.8]	[9.3]	2.3	やや砂質	20-47
9	SD23	70 9	平瓦	黄灰	やや軟質	[6.3]	[9.6]	2.2	やや粘質	20-50
10	SE4	86 1	丸瓦	灰	やや硬質	[8.3]	[6.2]	2.3	砂質 古代か?	21-19
11	E-3グリッド	86 2	丸瓦	灰	やや硬質	[10.8]	[8.6]	2.1	砂質	21-20

第16表 遺物観察表(石製品)

番号	遺構	挿図番号	種別	石質	長さ	幅	厚さ	重量	備考	図版
1	SD 1	67 21	砥石	凝灰岩	5.6	3.8	3.2	112.4		20-18
2	SD5	68 4	板状石製品	緑泥片岩	13.2	9.8	2.4	358.1		20-25
3	SD18	70 2	砥石	凝灰岩	9.6	3.6	2.3	79.2		20-41
4	SD25	70 11	砥石	凝灰岩	7.3	4.1	2.1	108.5		20-48
5	SK23	93 13	硯	粘板岩	8.2	5.3	0.8	34.8		21-15
6	SK23	93 14	砥石	凝灰岩	10.9	4.3	3.3	283.8		21-14
7	SK23	93 15	磨石状	安山岩	7.7	8.4	7.7	577.0	煤と赤色付着物	21-13
8	SK31	94 3	板状石製品	緑泥片岩	30.2	20.0	4.1	4454.8		21-18

第17表 中世遺物集計表

		生産地	点数	組成比	器種	点数
在地産	土師質土器・瓦質土器	447点	85.6%	皿(かわらけ)	135点	
				片口鉢	112点	
				内耳鍋	129点	
				土釜	27点	
				甕	33点	
				焙烙	8点	
風炉	1点					
その他	2点					
国内産	瀬戸	23点	4.4%	折縁深皿	14点	
				縁釉小皿	6点	
				天目茶碗	3点	
	常滑	47点	9.0%	甕	47点	
	その他	3点	0.5%	陶器鉢・器種不詳	3点	
外国産	中国	2点	0.3%	青磁香炉	1点	
				青磁碗	1点	

V 在家遺跡（4次）出土黒曜石の蛍光X線分析

在家遺跡4次調査（旧石器時代）出土の黒曜石について蛍光X線による産地推定を行った。結果を第18表に示す。

分析試料については、各石器集中区からなるべく均等に製品・剥片類を中心に、より大きなものから80点を選択した。

第1号石器集中区から110点中、52点（47%）、

第2号石器集中区から14点中、6点（42%）、第3号石器集中区から58点中、22点（38%）の黒曜石を分析試料として選択した。

分析の結果、和田峠群74点（93%）、冷山群が2点（3%）、不明が5点と判定された。

なお分析の詳細は『研究紀要』に掲載予定である。

第18表 在家遺跡（4次）黒曜石産地推定表

番号	押印番号	器種	母岩	石器集中区	接合	重量(g)	分析番号	誤差の目安	推定産地	備考	番号	押印番号	器種	母岩	石器集中区	接合	重量(g)	分析番号	誤差の目安	推定産地	備考
1	13図 2	ナイフ形石器	Ob-7	1		5.2	D3-150	m-m±0σ	和田峠群		41	27図 53	石核	Ob-4	2		5.3	D6-127	m-m±0σ	和田峠群	
2	13図 4	使用痕剥片	Ob-4	1		3.3	D4-69	m-m±3σ	和田峠群		42	33図 66	削器	Ob-2	3		2.5	SD6	m-m±1σ	和田峠群	
3	13図 6	縦長剥片	Ob-2	1		11.4	D3-88	m-m±0σ	和田峠群		43	33図 68	剥片	Ob-3	3		9.8	C5-10	m-m±1σ	和田峠群	
4	14図 8	縦長剥片	Ob-1	1		0.7	D3-104	m-m±3σ	和田峠群		44	33図 69	搔器	Ob-8	3		18.4	C5-24	m-m±1σ	和田峠群	
5	14図 9	縦長剥片	Ob-1	1		0.5	D3-112	m-m±0σ	和田峠群		45	33図 70	剥片	Ob-3	3		2.8	C5-17	m-m±0σ	和田峠群	
6	14図 10	剥片	Ob-4	1		14.7	D4-37	m-m±5σ	和田峠群		46	34図 73	使用痕剥片	Ob-1	3		29.8	C5-20-1	m-m±1σ	和田峠群	
7	14図 11	二次加工剥片	Ob-1	1		2.1	D3-106	m-m±0σ	和田峠群		47	34図 71	縦長剥片	Ob-1	3	14	17.8	C5-19	m-m±0σ	和田峠群	
8	14図 12	剥片	Ob-1	1		29.1	D3-69	m-m±0σ	和田峠群		48	34図 72	縦長剥片	Ob-1	3	14	16.4	C5-26	m-m±0σ	和田峠群	
9	15図 14	縦長剥片	Ob-1	1	1	3.4	D3-109	m-m±0σ	和田峠群		49	35図 75	剥片	Ob-2	3	15	1.5	C5-43	m-m±1σ	和田峠群	
10	15図 15	縦長剥片	Ob-1	1	1	1.8	D3-120	m-m±2σ	和田峠群		50	35図 76	剥片	Ob-3	3	16	2.8	C5-13	m-m±0σ	和田峠群	
11	15図 16	縦長剥片	Ob-1	1	1	7.3	D4-24	m-m±2σ	和田峠群		51	36図 78	剥片	Ob-1	3	17	6.2	C5-12	m-m±0σ	和田峠群	
12	15図 17	縦長剥片	Ob-1	1	1	3.2	D4-53	m-m±1σ	和田峠群		52	36図 79	剥片	Ob-1	3	17	3.4	C5-48	m-m±0σ	和田峠群	
13	15図 13	縦長剥片	Ob-1	1	1	0.7	D3-125	m-m±5σ	和田峠群		53	37図 80	石核	Ob-1	3	18	31.9	C5-9	m-m±0σ	和田峠群	
14	15図 18	縦長剥片	Ob-1	1	1	1.9	D3-98	m-m±0σ	和田峠群		54	37図 81	剥片	Ob-1	3	18	1.8	C5-40	m-m±1σ	和田峠群	
15	16図 22	縦長剥片	Ob-1	1	3	5.8	D3-50	m-m±3σ	和田峠群		55	38図 82	剥片	Ob-3	3	19	1.6	C5-14	m-m±5σ	和田峠群	
16	16図 21	縦長剥片	Ob-1	1	3	1.3	D3-75	m-m±5σ	和田峠群		56	38図 84	剥片	Ob-3	3	19	21.8	SK7	m-m±0σ	和田峠群	一括
17	16図 24	縦長剥片	Ob-1	1	3	7.6	D4-59	m-m±3σ	和田峠群		57	39図 85	石核	Ob-3	3	19	22.0	C5-4	m-m±0σ	和田峠群	
18	16図 23	縦長剥片	Ob-1	1	3	11.0	C3-37	m-m±1σ	和田峠群		58		剥片	Ob-1	1		1.2	D3-90	m-m±0σ	和田峠群	
19	17図 25	剥片	Ob-1	1	4	2.0	D3-119	m-m±0σ	和田峠群		59		縦長剥片	Ob-1	1		5.9	D3-92	m-m±1σ	和田峠群	
20	17図 26	剥片	Ob-1	1	4	0.4	D3-71	m-m±0σ	和田峠群		60		剥片	Ob-1	1		4.3	D3-96	m-m±2σ	和田峠群	
21	17図 27	剥片	Ob-1	1	5	2.3	D3-64	m-m±0σ	和田峠群		61		剥片	Ob-1	1		0.8	D3-103		不明	
22	17図 28	剥片	Ob-1	1	5	12.0	D3-70	m-m±5σ	和田峠群		62		剥片	Ob-1	1		0.7	D3-107		不明	
23	18図 29	剥片	Ob-1	1	6	6.0	D3-153	m-m±1σ	和田峠群		63		剥片	Ob-1	1		0.9	D3-115	m-m±2σ	和田峠群	
24	18図 30	剥片	Ob-1	1	6	2.9	D3-132	m-m±0σ	和田峠群		64		剥片	Ob-1	1	20	3.4	D3-137	m-m±1σ	和田峠群	
25	18図 32	剥片	Ob-1	1	7	1.9	D3-93	m-m±1σ	和田峠群		65		砕片	Ob-1	1		0.1	D3-138	m-m±2σ	和田峠群	
26	18図 31	使用痕剥片	Ob-1	1	7	1.9	D4-52	m-m±0σ	和田峠群		66		縦長剥片	Ob-1	1		0.5	D3-141	m-m±4σ	和田峠群	
27	19図 33	剥片	Ob-1	1	8	2.2	D3-114	m-m±1σ	和田峠群		67		縦長剥片	Ob-5	1		2.5	D4-35	m-m±0σ	和田峠群	
28	20図 37	剥片	Ob-1	1	10	0.8	D3-61	m-m±2σ	和田峠群		68		剥片	Ob-1	1		7.1	D4-47	m-m±5σ	和田峠群	
29	20図 38	剥片	Ob-1	1	10	1.3	D3-63	m-m±0σ	和田峠群		69		縦長剥片	Ob-6	1		0.4	D4-51		不明	
30	20図 39	縦長剥片	Ob-1	1	10	4.5	D4-33	m-m±1σ	和田峠群		70		剥片	Ob-1	1		3.9	D4-56	m-m±5σ	和田峠群	
31	20図 40	剥片	Ob-1	1	10	1.5	D3-78	m-m±3σ	和田峠群		71		剥片	Ob-1	1		3.8	D4-57	m-m±0σ	和田峠群	
32	21図 41	石核	Ob-1	1	10	28.2	D4-40		不明		72		剥片	Ob-1	1		0.8	D4-62	m-m±4σ	和田峠群	
33	22図 42	剥片	Ob-1	1	11	7.0	D4-54	m-m±0σ	和田峠群		73		縦長剥片	Ob-1	1		0.5	D4-66		不明	
34	22図 43	剥片	Ob-1	1	11	8.7	D4-63	m-m±1σ	和田峠群		74		剥片	Ob-1	2		3.0	E6-1	m-m±1σ	和田峠群	
35	23図 44	剥片	Ob-1	1	11	16.2	D4-27	m-m±1σ	和田峠群		75		剥片	Ob-1	3		3.1	C5-6	m-m±0σ	和田峠群	
36	23図 45	石核	Ob-1	1	11	45.5	D3-77	m-m±0σ	和田峠群		76		剥片	Ob-3	3		1.8	C5-15	m-m±2σ	和田峠群	
37	26図 47	二次加工剥片	Ob-2	2		1.8	D5-13	m-m±0σ	和田峠群		77		剥片	Ob-1	3		0.7	C5-18	m-m±3σ	和田峠群	
38	26図 48	角錐状石器	Ob-3	2	12	2.1	D5-77	m-m±2σ	冷山群		78		剥片	Ob-2	3		3.5	C5-31	m-m±1σ	和田峠群	
39	26図 49	角錐状石器	Ob-3	2	12	4.0	D5-84	m-m±3σ	冷山群		79		剥片	Ob-2	3		2.5	C5-46	m-m±1σ	和田峠群	
40	26図 50	錐器	Ob-4	2		8.7	D5-107	m-m±0σ	和田峠群		80		剥片	Ob-1			0.1	D3-一括-2	m-m±3σ	和田峠群	一括

VI 調査のまとめ

1. 在家遺跡4次（旧石器時代）

在家遺跡第4次調査では石器集中区3ヶ所、礫群3基が発見され、総数石器203点、礫503点が出土した。

在家遺跡B区（木戸2004）では礫群8基が発見され、総数石器72点、礫589点が出土している。

B区は4次調査区のすぐ南側に位置し、同時期に形成された一連の遺跡である可能性が高いため、今回の4次調査、前回の調査を総合しながら、考察を行いたい。まず前回調査の概要を述べる。

在家遺跡B区の概要

B区では、石器・礫は調査区南側へ向かうやや大きな谷部周辺やその谷部から北側へ樹枝状にのびる小さな埋没谷から主に出土している。埋没谷は、今回の調査区に延び、4次調査区南東部に谷頭部を有す。

前回調査では、主に埋没谷内部や、南側の大きな谷部に面した部分で試掘坑が設けられており、その部分で石器が発見されている。

B区では埋没谷周囲の台地上では、試掘坑が設けられておらず、不明な点が多いが、今回の調査の石器・礫の分布を見ると第1・2号石器集中区の南側のB区に分布は広がる可能性があると思われる。

B区では埋没谷からは石器とともに礫群8基が発見されており、B区の中で遺物集中密度の高い部分である。この埋没谷は立川ローム第IV層を切る形で開析されており、下底部はX層に到る。

基本土層やこの埋没谷を埋積する覆土について、前回の調査時に火山ガラス分析、テフラ分析が実施された。基本土層については、第V層（立川ローム第V層相当）に2枚のテフラが検出され、上位が始良Tn火山灰（AT）に由来するものである。下位も同様に、ATに由来するが、約1.9～2.4万年前の浅間板鼻褐色軽石群（As-BPGroup）のうち、最下部に

あたる室田軽石（Mp）に由来するテフラも含まれていることが確認された。埋没谷を埋積する土層は3～9層まで分層され、3～4層にかけては縄文土器が出土し、旧石器時代の石器・礫は谷の埋積層の最下層である9層下位から出土している。3層からは約8200年前に噴出した浅間藤岡軽石（As-Fo）が、下位の4層からは1.1万年前に噴出した浅間総社軽石（As-Sj）が、9層からは1.6万年前に噴出したとされる浅間大窪沢第2軽石（As-Ok2）が検出された。

以上のことから、石器、礫群の出土層位はAs-BPGroup（約1.9～2.4万年前）の少なくともAs-BP中部以上であり、AS-OK2（約1.6万年前）より下位にあたると推定された。

埋没谷から出土した礫は水の影響と考えられるローリングの痕跡などが見られないことから、水流などで谷の底部に集積した自然礫ではなく、人為的に集積された礫群と認識された。

石器は不純物の少ない良質な黒曜石を主体としており、他はチャート、凝灰岩、玉髓などの石器は単独に近い。定型的な石器は少なく、削器、石核や、打面調整を施した石刃状の剥片や稜付剥片が出土している。

礫群の構成礫はチャートが主体的で、今回出土した礫構成と一致する。在家遺跡1次で埋没谷から検出された礫群8基はいずれも小規模でまとまりの良い礫群で、それぞれが直径1m以内におさまり、集中域の明瞭な礫群である。

自然科学分析の結果や、稜付剥片、打面調整を有する石刃、小規模な礫群などの存在から編年的に「砂川期」あるいはそれに後続する編年的位置付けがなされた。

出土層位・垂直分布について

前回調査で、台地上に出土している石器はIV層のハードローム（4次調査のII層）から検出されており、4次調査の石器・礫の出土層位とほぼ同様で大きな違いは無いと考えられるが、今回の調査で石器集中区・礫群の垂直分布を詳細に検討してみると、それぞれに垂直分布の若干の違いがあることが判明した。その垂直分布の違いについては様々な原因が考えられよう。ここでは時期差ではない他の原因で、垂直分布に差が生じていると考えることにしたい。直ちに、その原因を究明する材料を持ち合わせていないが、垂直分布の違いが平面分布状況や、石器や礫の重量と何らかの相関関係にあるのではないかという視点から石器集中区・礫群の垂直分布を概観してみることにする。

第1号礫群の礫は広範囲に散漫に分布し、平均17gで非常に細かく破碎された礫が多い。出土層位はソフトロームでも中位から上位にかけて多い。礫群東側で石器が数点出土しているが、石器の垂直分布の方がやや低い位置にある。

第3号礫群も第1号礫群と同様に広範囲に散漫に分布し、平均15gで、細かく破碎された礫が多い。出土層位もソフトロームを中心としており、点数は少なくはっきりしたことは言えないが、石器の方が若干下位で出土している点が類似している。それに対し第2号礫群は密集した分布域を持ち、平均56gで、第1号・3号礫群の礫よりも重い。第1号礫群、第3号礫群では石器よりも礫の方が上位から出土しているのに対し、第2号礫群の礫は隣接した、第2号石器集中区の石器とほぼ同一レベルから出土している。

石器集中区では第1号石器集中区がちょうど、ソフトロームからハードロームへ移行する部分に石器の出土ピークがある。第2号石器集中区はソフトローム下部に出土ピークがあり、第1号石器集中区とほぼ同様な層位から石器は出土している。

それに対し、第3号石器集中区では、ハードロー

ムのII層下部からIII層を中心に石器は出土しており、1号2号石器集中区よりも、層位的に下位から出土している点に注意される。

第1号・第3号礫群に関して、礫の出土が石器よりも上位に位置する理由として、時期差以外の要因を考慮するとすれば、礫の重量の違いが挙げられよう。第2号礫群と比較した場合、重量的に重いことから出土位置も上下に分散せず安定して出土していると推測することが可能である。対する、第1号・3号礫群では重量が軽い場合、自然の営力などの影響で、礫が上下方向、特に上方向に動きやすい状況であったことなどが推測される。

第2号礫群と隣接する第2号石器集中区において、石器と礫がほぼ同一レベルから出土し、また、垂直分布に幅を持たないことから、比較的、原位置を留めているものと見なすことができるのではなかろうか。礫の場合、その形状等の理由で、重量が軽い場合には、自然の営力等の影響で本来の生活面よりも浮かびあがりやすい性質があるなどの理由が考えられよう。

第3号石器集中区の石器の出土位置が、第1号・第2号石器集中区よりも下位に位置しているということをどのように考えたらよいのだろうか。状況的に第3号石器集中区は、第1号石器集中区、第2号石器集中区よりも平面的に、密集した分布域を有しているということが関係しているのだろうか。ここでは、自然の営力による石器の落ち込み、遺構などの構造物の存在などの影響を想定しておきたい。

それぞれの石器集中区が全て同一時期とするならば、垂直分布に差が生じている理由について詳細に検討しなければならないが、これについては今後の課題としたい。

礫群について

在家遺跡4次調査では礫群3基を認定した。第1・3号礫群は、被熱により極めて小さく破碎された礫が出土し、広範囲な分布域を有するものである。対する第2号礫群は、重量も重く分布域が小さい。

前者については、礫の使用期間が長く、破損が進行し、使用できなくなった礫を捨てた状態、あるいは基準以下の大きさになった礫を抜き出して捨てている状態、廃棄された礫群の状態の典型例であろう。後者については、礫を使用した場所に置き残している状態、遺棄された状態を示していると考えられる。(辻本1987)(金山1988)(中村2001)

B区では8基の礫群が発見されている。いずれも埋没谷内にあり、まとまりの良い礫群である。小さな埋没谷内に8基がやや密集した状態で出土しており礫群間での接合率が高い。589点の礫が出土しており、平均69gである。完形礫は拳大程度の大きさであり、4次調査の完形礫とほぼ同様の大きさである。

構成礫についても今回の4次調査とB区では変わることなく同様な礫を使用しており、付近の礫層の礫を使用していると思われる。

分布は、細長い埋没谷底面が中心で、肩部にかけてはあまり出土していない。一見、窪地である埋没谷内に礫を廃棄するという行為を考えがちであるが、廃棄しているのであれば、埋没谷肩部にも礫の広がりが見られるところである。

礫は水の影響を受けておらず、また被熱痕跡や、付着物を有する礫も出土している。分布上の特徴も台地上で通常見られる礫群と変わるところはない。埋没谷内から発見されている礫群は遺棄された状態を示しており、礫の使用「調理の場」としてこのような窪地を意図的に利用していると考えざるを得ない。

埋没谷内部から発見された礫群は4次調査の第2号礫群と共通した特徴を有し、礫群としては一般的なあり方と言えるのではないだろうか。第1号・第3号礫群は破砕が顕著で分布域が広く、極端な例と言えよう。

石材利用状況と剥片剥離技術

在家遺跡第4次調査では黒曜石8母岩、チャート4母岩、珪質頁岩3母岩を認定した。そのうち、B

区で設定された母岩と共通するものは黒曜石5母岩、珪質頁岩(前回報告では黒色頁岩)1母岩である。

前回調査では、石器は主に4次調査区南東部に谷頭を持つ埋没谷内を中心に礫群内、その周囲から主に出土している。B区では石器は、72点出土しており、Ob-1は12点、Ob-2は5点、Ob-3が12点、Ob-4が8点、Ob-7が2点、SSh-1が7点、計46点が共通する母岩である。72点中42点(58%)という高率で共通する母岩があり、接合関係は確認できなかったが、4次調査区・B区共に基本的には同一時期の石器群とみなして良いであろう。B区から出土した石器には、縦長剥片・稜付剥片などがあり、剥片剥離技術に共通性を見出すことも可能である。

4次調査区内では、石器集中区間で接合関係は見られなかったものの、黒曜石については、母岩を共有している。黒曜石の母岩の比率を石器集中区別に見ると次のようになる。

Ob-1は全体で、115点出土し第1号石器集中区では97点(84%)、第2号石器集中区で1点(1%)、第3号石器集中区で17点(15%)である。

Ob-2は全体で、19点出土し、第1号石器集中区では3点(16%)、第2号石器集中区では2点(11%)、第3号石器集中区では14点(74%)である。

Ob-3は全体で、35点出土し、第1号石器集中区では4点(11%)、第2号石器集中区では6点(17%)、第3号石器集中区では25点(71%)である。

Ob-4は全体で、7点出土し、第1号石器集中区では2点(29%)、第2号石器集中区では4点(57%)、第3号石器集中区では1点(14%)である。

集中区間で母岩の構成比率は異なるが、4母岩をそれぞれ共有していることが分かる。

単独母岩についてはツールの割合が高く、搬入品と推定されるものが多い。Ob-7は4次調査では単独出土で、ナイフ形石器(第13図2)に使用されている。Ob-8は、第3号石器集中区で搔器(第33図69)に使用されている。Ch-2(第13図1)は第1

号石器集中区で尖頭器に使用されている。この尖頭器は長期間使用されてきたのだろうか、磨耗痕らしき痕跡が顕著である。

Ch-3は第2号石器集中区でナイフ形石器(第26図46)に使用されている。SSh-2は縦長剥片素材の削器(第13図5)である。SSh-3は稜調整の痕跡を残す縦長剥片を素材とした削器(第33図67)である。

また、本書では蛍光X線による黒曜石産地推定を行っており、その結果から、産地単位でも大きな共通性をみることができた。産地推定の分析結果を第18表に示す。

分析試料については各石器集中区から均等に、製品・剥片類を中心に、より大きなものから、80点を選択した。

産地推定の結果は、和田峠群が74点(93%)を占める。不明が5点あり、冷山群が2点(3%)である。ほとんどが和田峠群と判定された。

Ob-1からOb-8まで、また第1号～第3号石器集中区全体に和田峠群を含んでいる。冷山群と判定された2点は、肉眼では、Ob-3と認定したもので、第2号石器集中区の角錐状石器(第26図48・49)である。肉眼による分類では、他の和田峠群と判定されたOb-3と識別できなかった。

和田峠群が圧倒的多数を占めており、産地推定結果からも一括性の高い石器群であることがうかがえよう。

次に、母岩別に、剥片剥離技術を接合資料や、石核や剥片などからみていく。

Ob-1は、調整加工された石器は全く無く、接合資料からは剥片剥離作業の痕跡のみが認められる。石刃状の縦長剥片(第15図13～18・第16図21～24)は、接合状態で10cm弱である。大形の石核から剥離されており、剥片の背面構成からは剥離がかなり進行した段階であることが観察される。石核は調査区外へ搬出されたのであろう。

第21図37～41は扁平な角礫の側縁部から、縦長剥片を剥離後、打面を更新し、礫の平坦面でやや寸詰

まりな剥片を剥離している。

第22図42～45も扁平な角礫の側縁部から縦長剥片を剥離し、作業面の状態が悪化すると礫の平坦面に作業面を移動、また、180°打面転移を行い、下部から剥片剥離を行っている。

Ob-1の接合資料から、扁平な角礫を石核とする場合、まず、礫の側縁部に作業面が設定され縦長剥片が剥離される。その後、作業面の悪化に伴い、礫の平坦面に作業面を移すという点に共通性をみることが出来る。

以上は、第1号石器集中区のOb-1の剥片剥離技術であるが、同様な技術を第3号石器集中区のOb-3にも見ることが出来る。(第38図82～85)母岩は異なるものの第1号石器集中区・第3号石器集中区共に技術を共有しているといえる。

以上は縦長剥片剥離を主とする技術であるが、一方で幅広あるいは横長剥片を剥離する技術が認められる。

分厚い、縦長剥片腹面の平坦面を打面として利用し、幅広の剥片を剥離している第3号石器集中区の第37図80・81(Ob-1)や、第2号石器集中区の第27図53(Ob-4)は、打面転移が頻繁に行われた石核で幅広剥片・横長剥片を剥離している。

同じくOb-4の錐器、(第26図50)も礫面を打面とし、裏面に幅広な剥片剥離を行った痕跡を残している。

在家遺跡で観察される剥片剥離技術は次のように要約される。

大形の石核で縦長剥片を剥離できる段階では優先的に縦長剥片を剥離しており、作業面の状況の悪化に伴い、寸詰まり、あるいは幅広剥片を順次、剥離していく様子が観察される。また、分厚い剥片も石核として利用し、幅広・横長剥片を剥離する。臨機応変に縦長剥片から幅広剥片まで石核形状に応じて作りわけている。節約的な石材利用と言えるかもしれない。

帰属時期について

第2号石器集中区から出土した角錐状石器はV層～IV層下部段階を象徴する石器といえる。

ナイフ形石器には縦長剥片素材、(第13図2)横長剥片素材(第26図46)がある。当該期のナイフ形石器は剥片形状に応じて二次加工を行う部位、加工量を臨機応変に行うことが指摘されている。素材を供給する剥片剥離技術も、接合資料等から、縦長剥片・幅広剥片・横長剥片まで多様な剥片を剥離する技術が観察された。このような特質もV層～IV層下部段階と合致するといえよう。

帰属時期を推定できる石器として角錐状石器の他に、有樋尖頭器(第13図1)がある。尖頭器は東内野型に類似した左側縁部がくの字に張り出すものである。裏面に主要剥離面を一部残し、背面、左側縁側には大きく素材剥離面を残し、それは、調整加工によって切られている。

同様な石器は相模野台地では、B2U層で出土し、相模野III期・段階Vに遡る。V層～IV層下部段階でも新しい段階で出現する。相模原市下九沢山谷遺跡第4文化層、大和市県営高座渋谷団地校地内遺跡第V文化層で出土している。器体の一部に未調整の縁辺を残すという手法、つまり、最後の樋状剥離によって刃部を形成していない点がこの時期の特徴のようである。(栗原2000)

道沢氏は東内野型尖頭器が、切出形石器と角錐状石器が融合派生したものであると述べ、切出形に近い形状のものから、砂川期にみられるような二側縁加工ナイフ形石器のような縦長のものになっていくと同時に樋状剥離による刃部が象徴的に作り出されて形態的に特化し、地域的に限定された東内野型となると述べている。(道沢1994・2000・2005)

在家遺跡の有樋尖頭器は、素材剥離面を刃部として残すもので、切出形石器との技術的な親和性がみられる。V層～IV層下部段階でも比較的新しい時期に位置づけられよう。

角錐状石器については層位的出土例、石器群の様

相、形態等から亀田氏が編年を行っている。(亀田1996)

在家遺跡では2点しか出土しておらず、全体的な傾向は不明であるが、黒曜石を素材とし、小形であり、周縁部を細かく調整していることなどからI～III期に分けられたうちのIII期に相当し、V層～IV層下部段階でも一番新しい時期に位置づけることが可能である。

西井氏はV層～IV層下部段階の文化層が複数認められた遺跡をもとに石器組成・形態などから当該期を、I～IV期に細分している。(西井1996・金子他1996)

西井氏の編年案に従うと、小形の角錐状石器を組成し、縦長剥片を素材とした基部加工のナイフ形石器、小口から縦長剥片を剥離する石核が組成され、縦長剥片が卓越する時期、第IV期に位置づけられよう。V層～IV層下部段階でも一番新しい編年の位置である。代表的な遺跡には東京都小金井市野川中洲北遺跡IV中～下層(千葉他1989)、世田谷区嘉留多遺跡第2文化層(高杉他1982)、東久留米市多聞寺前遺跡第IV中2層(栗島1983)、国分寺市はけうえ遺跡第IV中層(阿部他1980)等が挙げられている。

在家遺跡では縦長剥片剥離技術が優勢であると共に、横長・幅広剥片がみられること、小形の角錐状石器を組成すること、また、未加工な素材縁辺を残す尖頭器を有すことから在家遺跡の編年の位置づけは、IV下～V層段階の終末期であると認識したい。

今後の課題

西井氏も指摘しているように、IV中・上段階(砂川期)への移行期をどのように捉えるかが問題である。V層～IV層下部段階の終末期であるIV期から、砂川期へ漸移的な移行を想定するのは現状では難しい。またIII期とIV期との関係性も注目されよう。西井氏がIII期とした遺跡は武蔵野台地では、国分寺市花沢東遺跡第3文化層、前原遺跡IVM2層、大宮台地では鴻巣市新屋敷遺跡C区(金子他1996)、さいたま市大和田高明遺跡(田代1992)、明花向遺跡C区(田

中1984) 等がある。

これらの遺跡は小形の切出し形石器を組成し、基部が丸く、打面を残置するような形態が多い。また角錐状石器も小形である。剥片剥離技術は横長・幅広剥片を主体とするもので、縦長剥片を剥離しているものは少ない。石核も小形のものが多く、石核の素材となる礫もこれらの遺跡ではやや小さいのではないかと推定される。当然のことながら小形の原石を石核とした場合、剥片も幅広のものが多くなると考えられる。在家遺跡では、石刃状の縦長剥片(第15図13~18)がみられる一方、新屋敷遺跡C区等でもよく見られるような、幅広剥片を剥離している石核(第27図53)もあり、両方の技術的な素地を有し

2. 戸宮前館跡2次・在家遺跡5次(中世)

戸宮前館跡2次・在家遺跡5次調査区は前回の戸宮前館跡1次調査区の北側に位置する。未調査区をはさむが、一連の遺跡であり、関連性が高いため、前回の調査、今回の調査を総合しながら考察を行いたい。1次調査では、溝で囲まれた4つの大きな区画(第I区画~第IV区画)が認識され、それぞれの区画の中で、掘立柱建物跡や、土壇群が重複して検出されている。

前回報告では、主に溝の新旧関係から遺構の変遷がI~IV期に区分された。(木戸2004)I a期は15世紀中葉と推定され、溝による区画が形成され、区画内に掘立柱建物跡、井戸跡等が作られた時期である。I b期は15世紀後半代と推定され、拡充整備された時期で、区画溝の拡張が行われ、掘立柱建物跡、井戸跡の他に、竪穴状遺構、平場などが整備された時期である。II期は廃絶期で、同じく15世紀後半代で、土壇群が形成された時期である。III期は16世紀代と推定され、細い溝による小区画が形成された時期である。IV期は17世紀以降と推定され、近世の溝により地形が一部改変された時期である。

今回の調査区の第1号溝跡と第25号溝跡の間には、土塁が築かれていたと推定され、南西側の谷部

ている。石核の素材となる原石の大きさ・形状等によって、技術的選択が行われる可能性もあるのではなかろうか。

もちろん、III期とIV期が編年的な差異である可能性は否定しないが、編年的差異とすれば、その変化には、どのような背景・要因があったのか興味のあるところである。

詳しい検討はしておらず、可能性を指摘するに留める。このあたりも今後の課題としておきたい。

在家遺跡が、同一時期に形成された一括性の高い遺跡であると仮定すると、上記のことが、疑問点として浮かばざるを得ないのである。

を挟み、前回報告で第1区画とされた部分と対峙するような位置関係にある。

第1号溝跡や、前回の調査で第1区画を形成する32号溝跡は大区画を形成する溝跡である。

このような掘り込みの深く、しっかりした溝の走行する方向は、前回の調査区と今回の調査区で、一致している。また、掘立柱建物跡の主軸も概ね一致しており、1次調査区でI~IV区画がそれぞれの居住域として同時に機能していたと考え、今回の調査区の掘立柱建物跡群等も居住域として同時期に機能していた可能性が高いものと思われる。

本書では、溝・柵列・掘立柱建物跡の時期決定する際に、その方向性の一致に同時代性が反映されているという観点から、組み合わせ関係を詳細に検討した。その結果、溝と柵列の組み合わせ3組、溝跡・柵列・掘立柱建物跡5組に方向性の一致が確認でき、同時期に掘立柱建物跡2棟が並存している景観が復元された。少なくとも、5回は柵列・掘立柱建物跡の建て替えが行われていたことを意味しており、これは極めて短期間の中で、建て替えが頻繁に行われていたことを意味している。今回の調査区の出土遺物は15世紀前葉~中葉の資料が中心で、14世紀代や

15世紀後葉以降の遺物は皆無と言ってよい。時期的に限定されたものが出土している。

区画に伴う溝跡と柵列、掘立柱建物跡は当然、同時期に存在している可能性が高い。土壌に関しては通常、重複している場合には、区画溝、掘立柱建物跡との先後関係があると考えられる。しかし、溝跡や土壌の出土遺物の帰属時期に大きな違いは無いようである。

上記のことから、この区画は居住域としては、一時期のみ盛行し、すぐに衰退したと理解される。それは、遺構の配置からも読みとれる。掘立柱建物跡、ピット群は、調査区北西部の一箇所だけに集中して検出され、それ以外に広がりを持たないことや、墓壇と推定される土壌・地下式墳の数が少なく、また重複する土壌の数も少ないことなどがあげられる。

前回報告で、遺構の変遷過程が推定されⅠ～Ⅳ期まで区分された。今回の調査で検出された区画と掘立柱建物跡等の形成時期と時期的に重複するとすれば、Ⅰa期となるだろうか。前回報告で推定された変遷案に従うならば、今回の調査区が居住域として利用されなくなりつつあったころ、前回調査区では居住域が形成され、発展しつつある状況が想像される。もちろん前回の調査区では、一番古いもので、12世紀代に属する遺物が検出され、それ以降連綿と、土地利用がなされ各時期の遺物も出土し、中心となる15世紀以降も土地利用が行われている。今回の調査区では15世紀前葉から中葉という限定された時期に居住域としての土地利用がなされ、前後の時期は空白となっているところに特色がある。

最後に、同様な時期に形成された遺跡の陶磁器類の組成について触れておきたい。

14世紀から16世紀初頭に盛行した毛呂山町堂山下遺跡（宮瀧1991）や、ふじみ野市本村遺跡（第8地点）の事例から比較する。

第17表（141頁）は戸宮前館跡2次・在家遺跡5次で出土した中世陶器類の点数を産地別・器種別に数え、比較したものである。破片は1点ずつ数えた。復元されたものも破片の状態の数えている。また掲載資料のみならず、非掲載資料も含めている。

遺物組成は在地産が447点（85.6%）と極めて高い比率である。瀬戸は23点（4.4%）、常滑は47点（9%）である。中国産は0.3%で極めて少ない。堂山下遺跡では、在地産は769点（65.8%）、瀬戸は46点（3.9%）、常滑326点（27.9%）、中国産19点（1.6%）である。遺物組成は瀬戸や、中国産が少ない点は堂山下遺跡と類似している。

堂山下遺跡は常滑産の比率が高い分だけ、在地産の割合がやや低い。戸宮前館跡2次・在家遺跡5次では常滑産の割合が低く、その分だけ在地産の割合が極めて高いと思われる。

ふじみ野市本村遺跡（第8地点）では13世紀～16世紀にかけての陶磁器類が183点出土している。在地産は91点（49%）、瀬戸は26点（14%）、常滑は57点（31%）、中国産5点（3%）である。

本村遺跡では在地産の割合が比較的lowく、瀬戸、常滑の比率が高い。

このような陶磁器類の組成比の違いは、その遺跡の機能的な側面を表出している可能性が指摘されている。今回の調査区では在地産の陶磁器類の構成比が極めて高いことが明らかである。第17表を他の遺跡との比較作業に利用していただければ幸いである。

引用・参考文献

- 網野喜彦・石井 進他 『よみがえる中世3』 1990『よみがえる中世6』
- 阿部祥人他 1980 『はけうえ』 国際基督教大学考古学研究センター
- 井口信久 2002 『宮廻館跡（第2次調査）報告書』川越市遺跡調査報告第25集 川越市遺跡調査会
- 梅沢太久夫 2003 『中世北武蔵の城』岩田書院
- 大井町遺跡調査会 1993 『本村遺跡（第8地点）』大井町調査会報告 第4集
- 大屋道則他 2006 「石器材料及び石器の理化学的分析値（1）」『研究紀要』第21号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 織笠 昭 1987 「角錐状石器の形態と技術」『東海史学』東海大学史学会 第22号
- 加藤恭朗 1985 『附島遺跡』坂戸市教育委員会
- 加藤恭朗 1997 『景台遺跡』坂戸市遺跡発掘調査団
- 加藤晋平・鶴丸俊明 1991 『図録 石器入門事典 先土器』
- 金子直行・大谷徹他 1996 『新屋敷C区』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第175集
- 金山喜昭 1988 「礫群の用途と機能」『古代文化』第40巻 第8号
- 亀田直美 1996 「角錐状石器」『石器文化研究』5 石器文化研究会
- 木戸春夫 2004 『戸宮前／在家／宮廻』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 297集
- 栗島義明 1983 『多聞寺前遺跡II』多聞寺前遺跡調査会
- 栗原伸好 2000 「槍先形尖頭器の変遷」『石器文化研究』9 石器文化研究会
- 小池 聡他 1995 「大和市县営高座渋谷団地内遺跡」県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団
- 埼玉考古学会 1997 『埼玉考古—特集号 埼玉の旧石器時代—』別冊第5号
- 埼玉考古学会・上尾市教育委員会 2005 『県指定文化財 上尾市殿山遺跡シンポジウム—石器が語る2万年—』
- 埼玉県教育委員会1988 『埼玉の中世城館跡』
- 柴田 徹 2006 「黒曜石の産地分析結果からみる地域性について」『石器に学ぶ』第9号
- 関口和也 1990 「埼玉県川越市下広谷の城址群」『中世城郭研究』中世城郭研究会
- 高崎直成 2002 『町内遺跡群X』大井町文化財調査報告第33集
- 高杉尚宏他 1982 『嘉留多遺跡・砧中学校7号墳』世田谷区遺跡調査会
- 竹岡俊樹 1989 『石器研究法』
- 田代 治 1992 『大和田高明遺跡』大宮市遺跡調査会報告 第38集
- 田中 信 1996 『川越市埋蔵文化財発掘調査報告書（X I）』川越市教育委員会
- 田中 信 2001 『図説 川越の歴史』郷土出版社
- 田中 信 2002 『戸宮前館跡（第1次調査）』川越市遺跡調査報告第26集 川越市遺跡調査会
- 田中英司 1984 『明花向・明花上ノ台・井沼方馬堤・とうのこし』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第35集
- 田中英司 1995 『横田遺跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第163集
- 千葉 寛他 1989 『野川中洲北遺跡』小金井市遺跡調査会
- 辻本崇夫 1987 「礫群の形成過程復元とその意味」『古代文化』第39巻 第7号
- 中村喜代重 1979 「神奈川県相模原市下九沢山谷遺跡の石器群」『神奈川考古』第7号
- 中村倉司 2001 「礫群と集土土壙—蒸し焼き調理法の意義—」『埼玉考古』第36号
- 西井幸雄 1996 「V層～IV下層段階の細分」『石器文化研究』5
- 保坂康夫 1987 「礫群使用の非日常性について」『古代文化』第39巻 第7号
- 道澤 明 1994 「東内野型尖頭器の出現と変遷」『古代文化』第46巻 第12号
- 道澤 明 2000 「下総台地（千葉）の石器とその地域性」『石器文化研究』9
- 道澤 明 2005 「下総台地の有穂尖頭器—東内野型尖頭器の再検討—」『地域と文化の考古学』I
- 宮瀧交二 1991 『堂山下遺跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第99集

写 真 图 版



1 全景 (南から)



2 全景 (北から)



1 旧石器出土状況（谷部に向かって）



2 第1号石器集中区（北から）



3 第2号石器集中区（南から）



4 第2号石器集中区（東から）



5 第3号石器集中区（南から）



6 第1号礫群（西から）



7 第2号礫群（南から）



8 第3号礫群（西から）



1 第1号炉穴



2 第2号炉穴



3 第3号炉穴



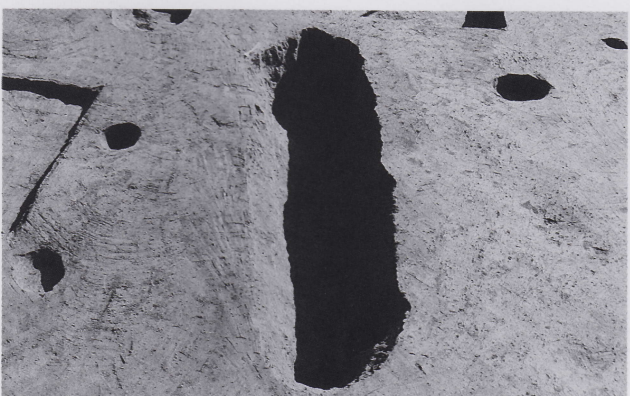
4 第4号炉穴



5 第5号炉穴



6 第8号土壙 (集石)



7 第49号土壙 (落とし穴)



8 第56・55号土壙 (落とし穴)



1 第1号沟迹



2 第2·3·4号沟迹



3 第5号沟迹



4 第6号沟迹



5 第9号沟迹



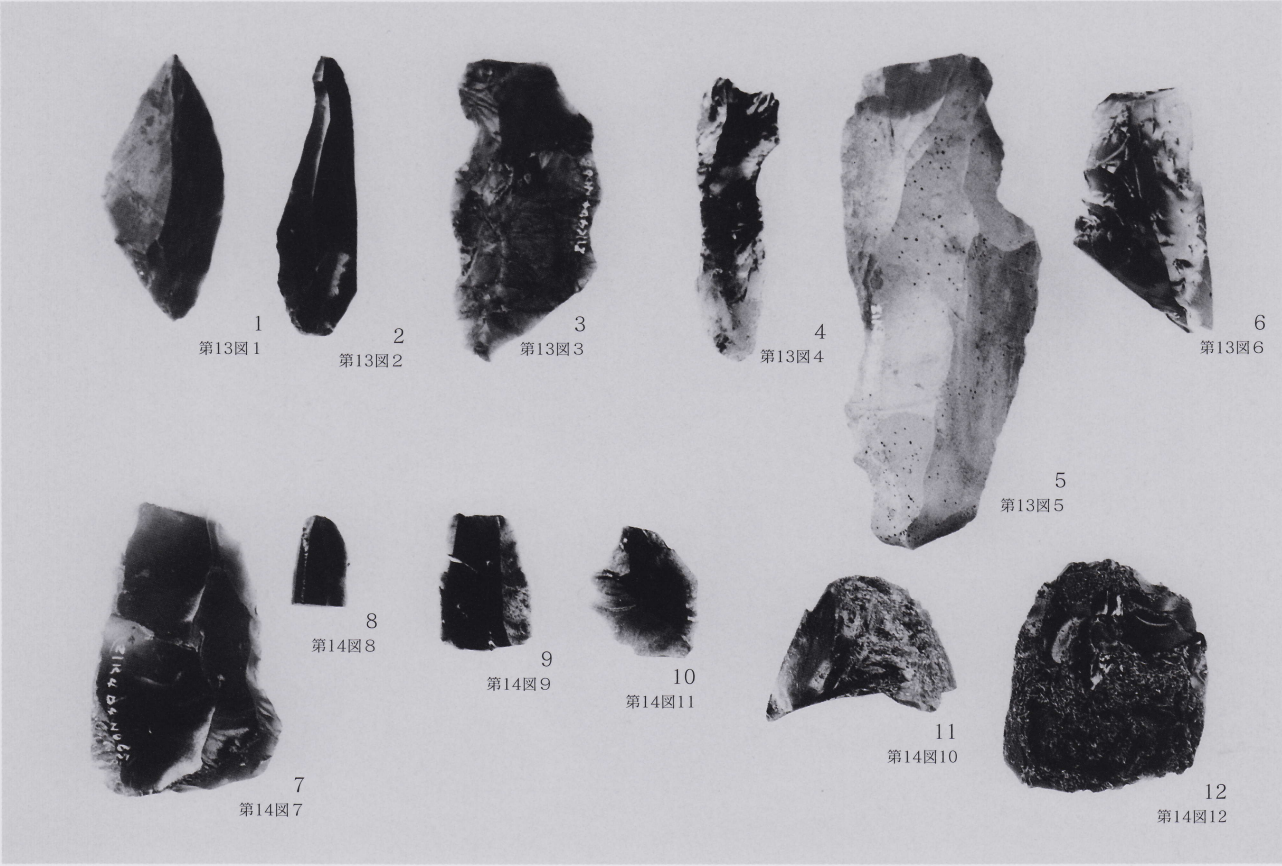
6 第9号土壤



7 第15·16号土壤



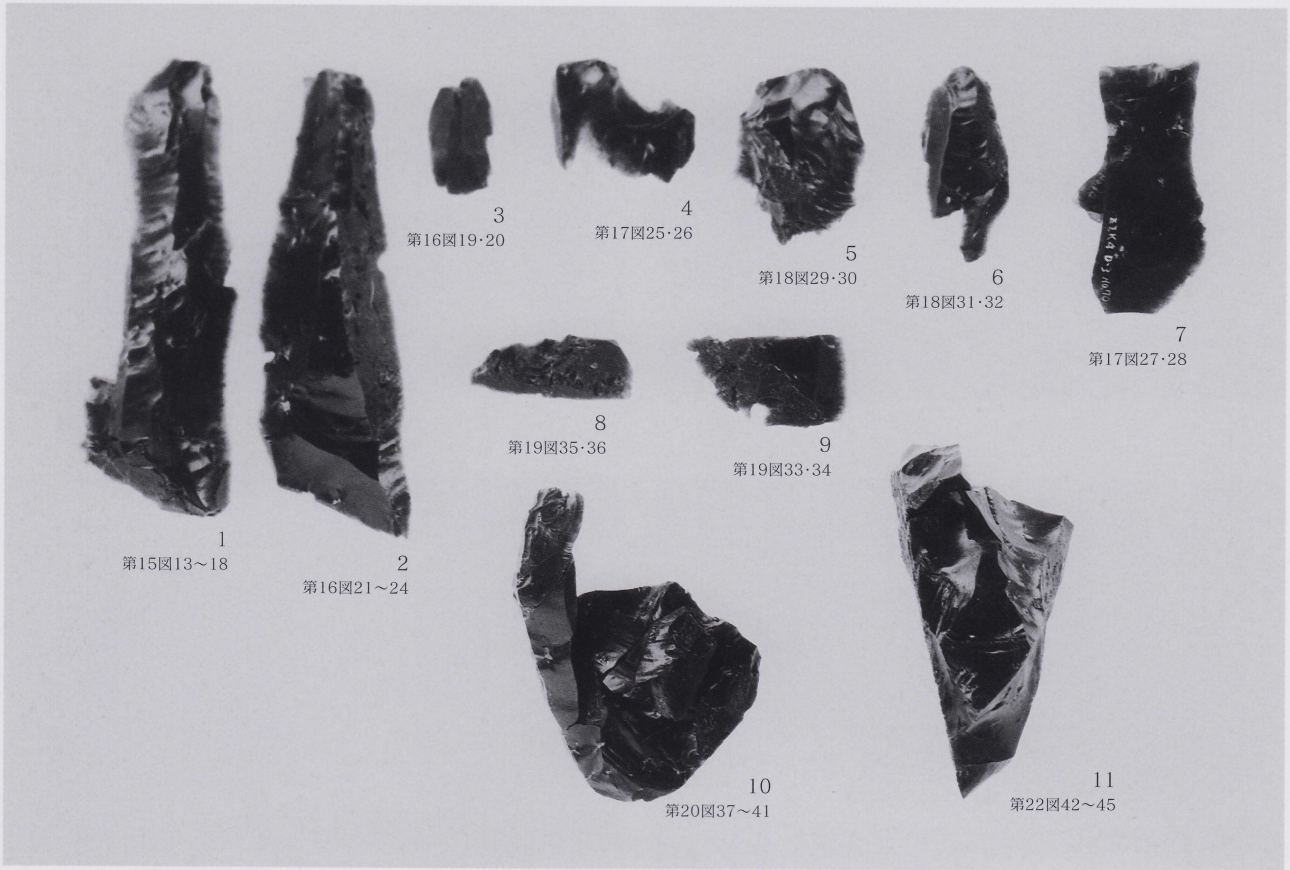
8 第38·39·40·41·42号土壤



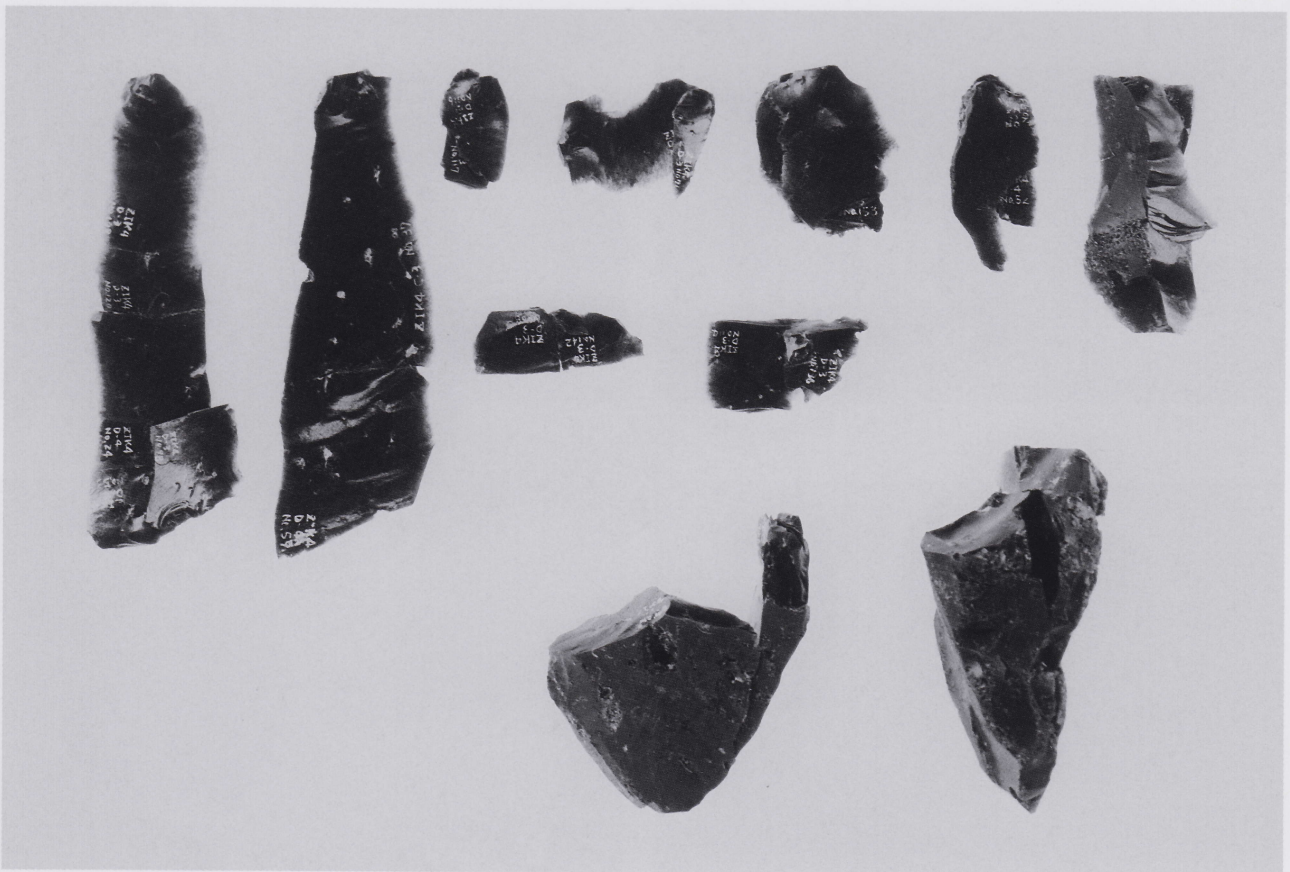
1 第1号石器集中区出土石器(1)(表)



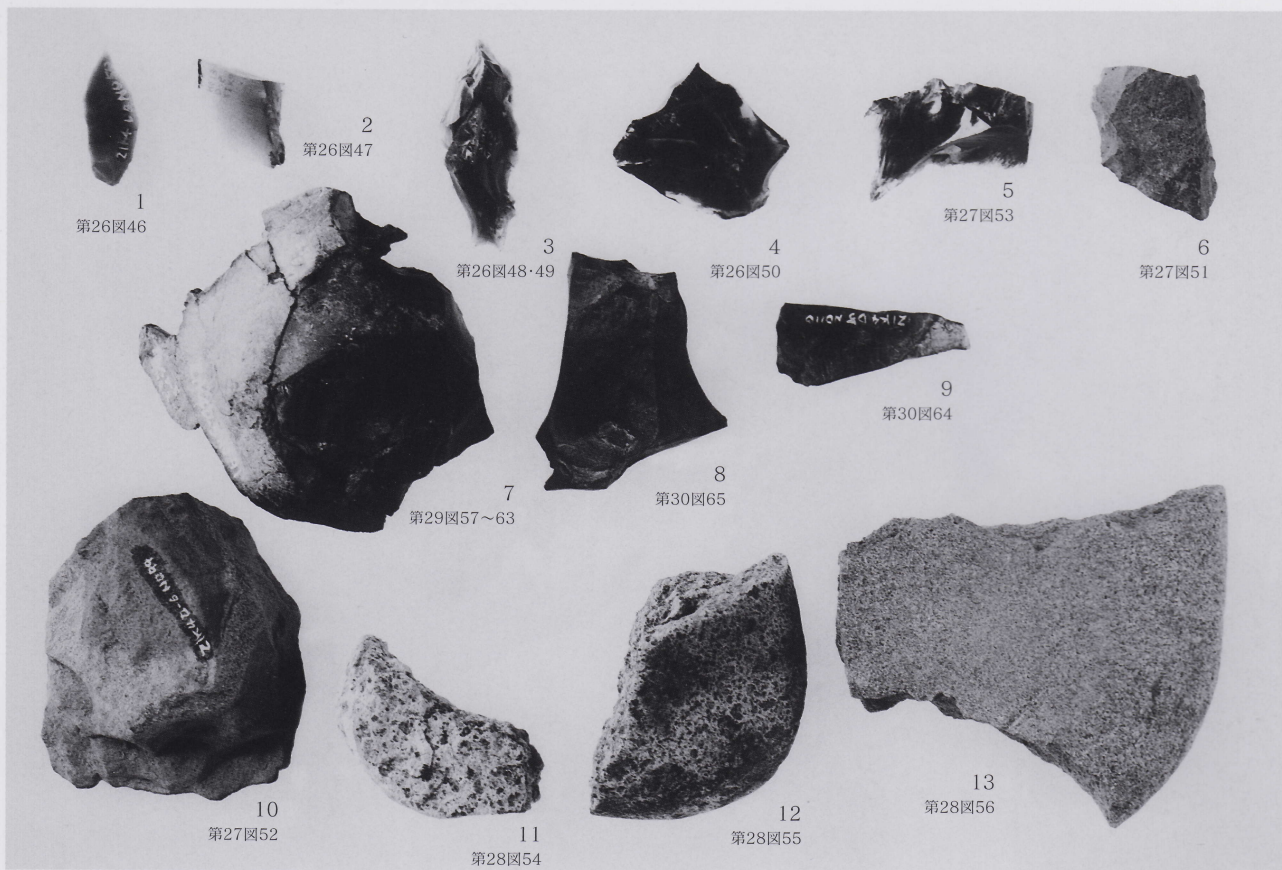
2 第1号石器集中区出土石器(1)(裏)同上



1 第1号石器集中区出土石器 (2) (表)



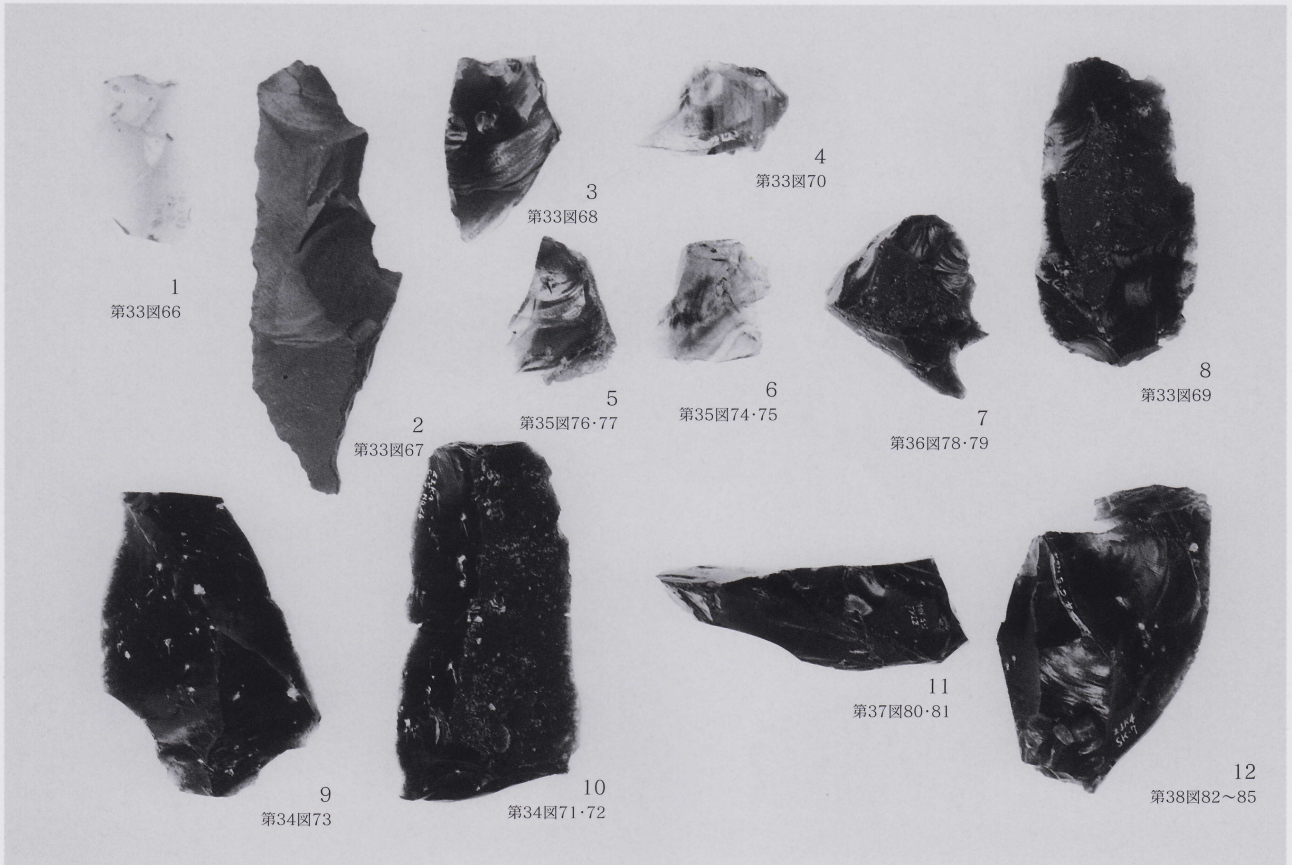
2 第1号石器集中区出土石器 (2) (裏) 同上



1 第2号石器集中区出土石器 (表)



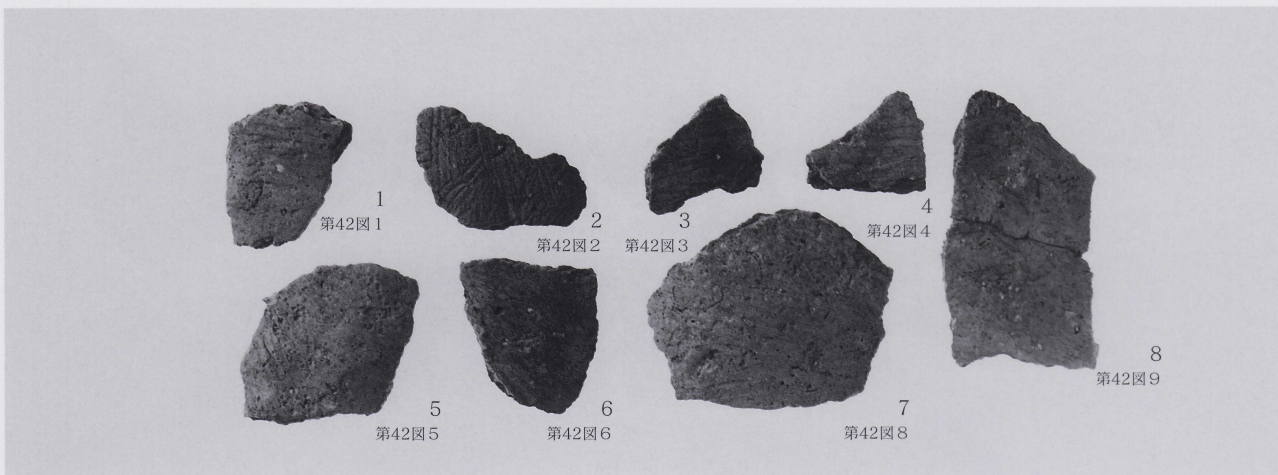
2 第2号石器集中区出土石器 (裏) 同上



1 第3号石器集中区出土石器（表）



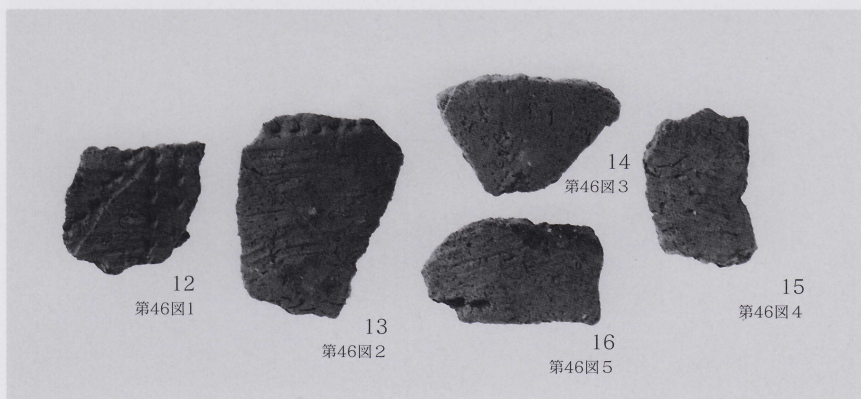
2 第3号石器集中区出土石器（裏）同上



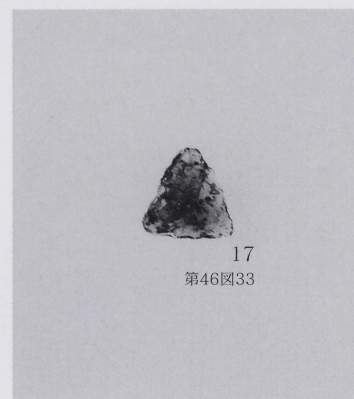
1 第1号炉穴出土遺物



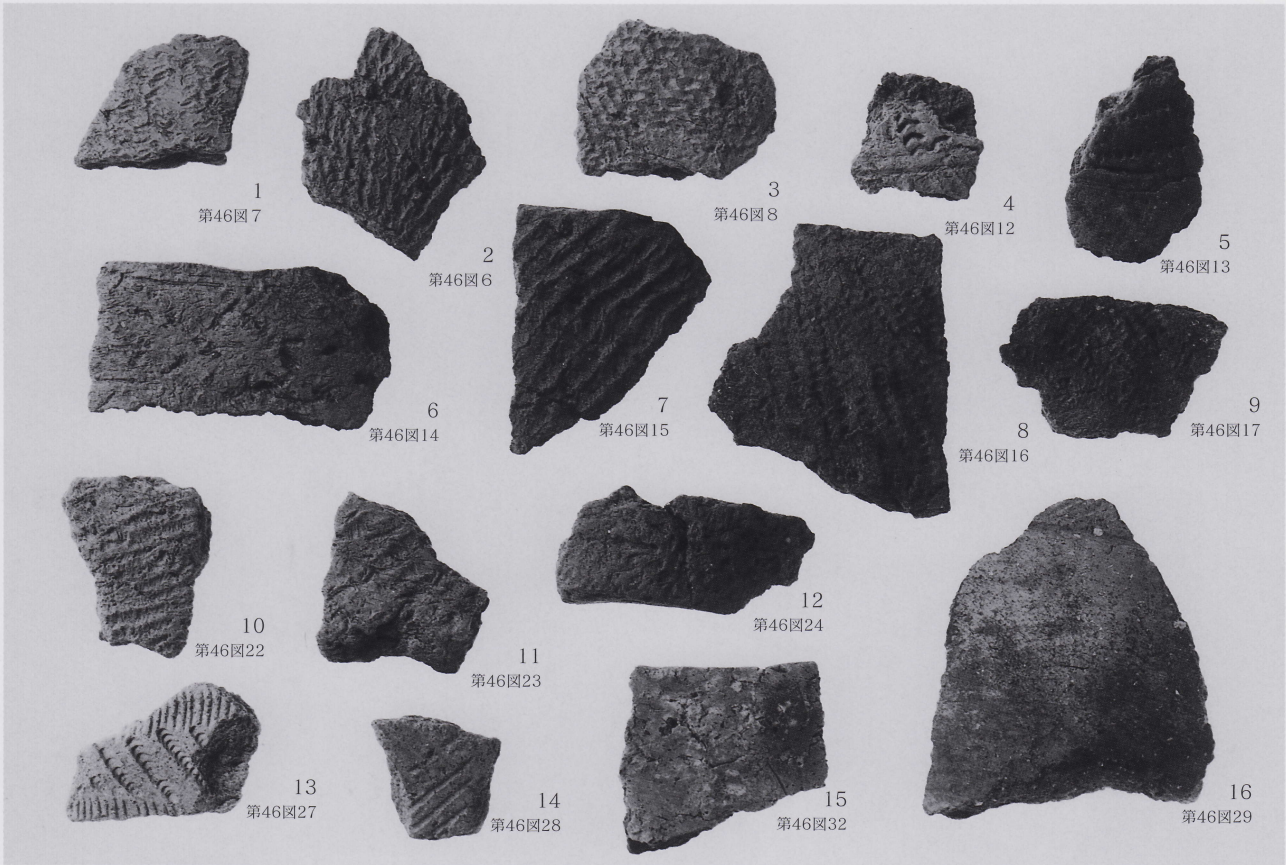
2 第8号土壇出土遺物



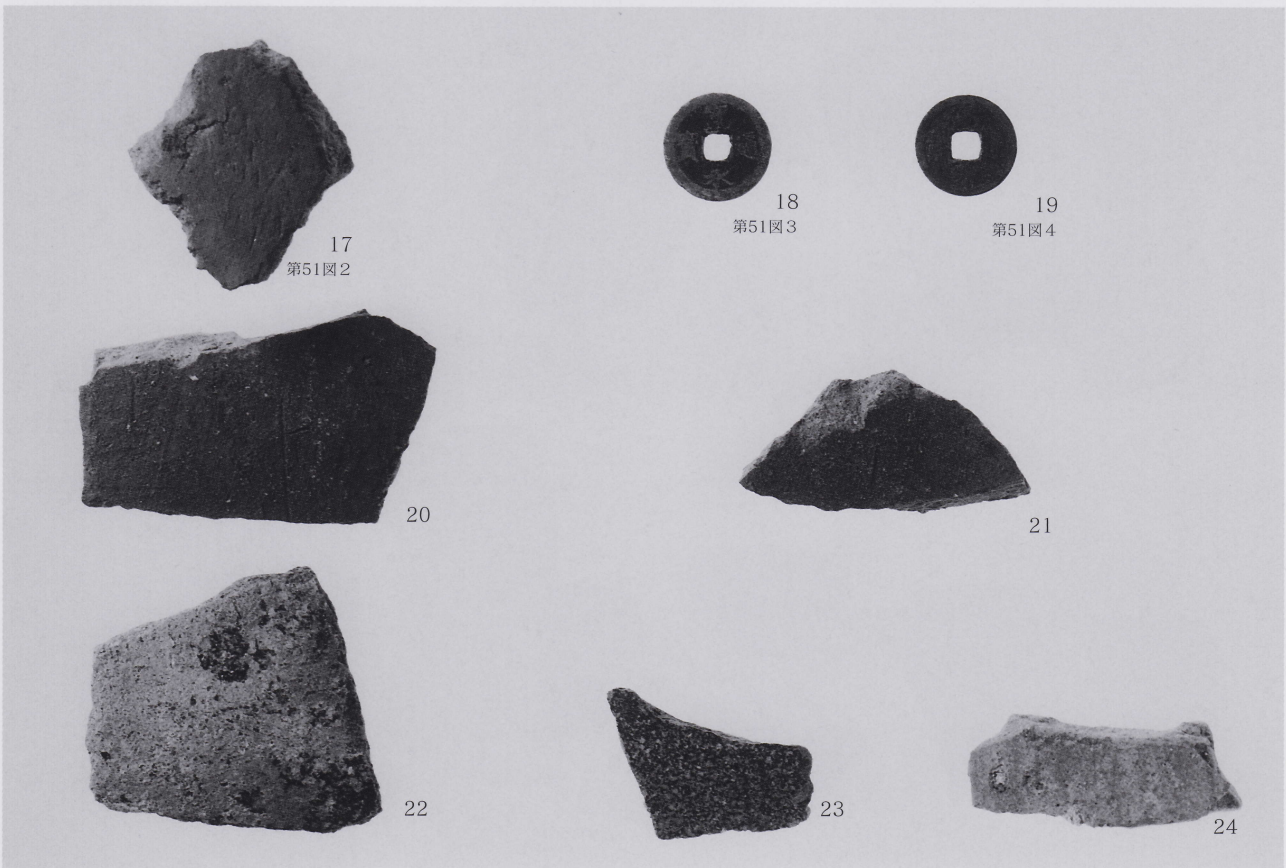
3 遺構外出土縄文土器



4 遺構外出土石器



1 遺構外出土縄文土器



2 出土遺物 (中・近世)



1 全景（西から）



2 ピット群（西から）



1 第1号住居跡



2 第32号土壙遺物出土状況



3 第1号溝跡



4 第5・6・7号溝跡



5 第9・10・11・12号溝跡



6 第13・14・15・17号溝跡



7 第15・16号溝跡



8 第18・24号溝跡



1 第20号溝跡



2 第19・20・21・22・23号溝跡



3 第25・50号溝跡



4 第25・26・27・28・51・55号溝跡



5 第34・40号溝跡



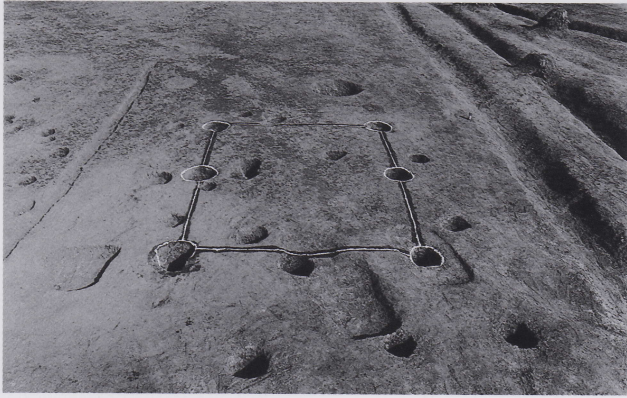
6 第30~37・41~44号溝跡



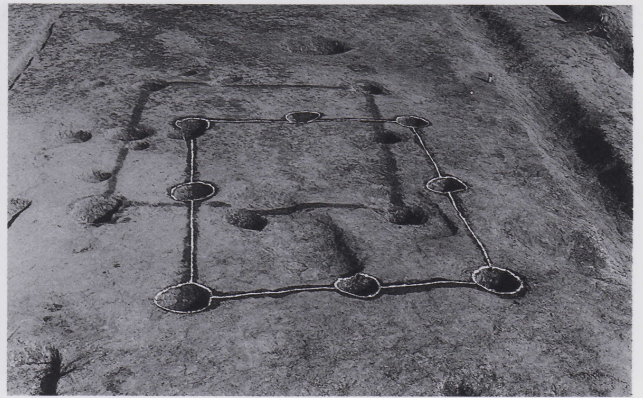
7 第45・46・47号溝跡



8 第53・54号溝跡



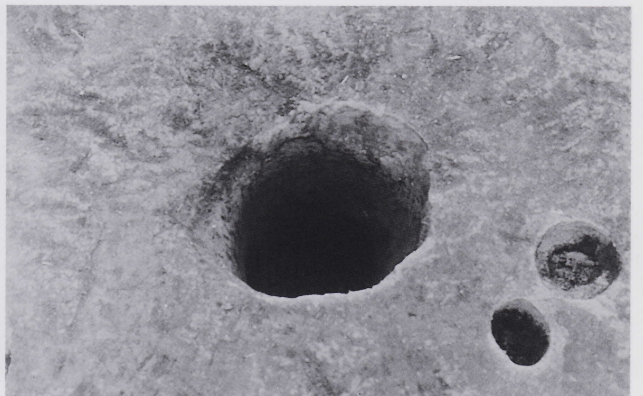
1 第1号掘立柱建物跡



2 第2号掘立柱建物跡



3 第1号井戸跡



4 第4号井戸跡



5 第8・9号土壇



6 第20号土壇



7 第21号土壇



8 第22・28号土壇



1 第23号土壇遺物出土状況



2 第23号土壇(完掘)



3 第29号土壇



4 第30号土壇



5 第31号土壇遺物出土状況



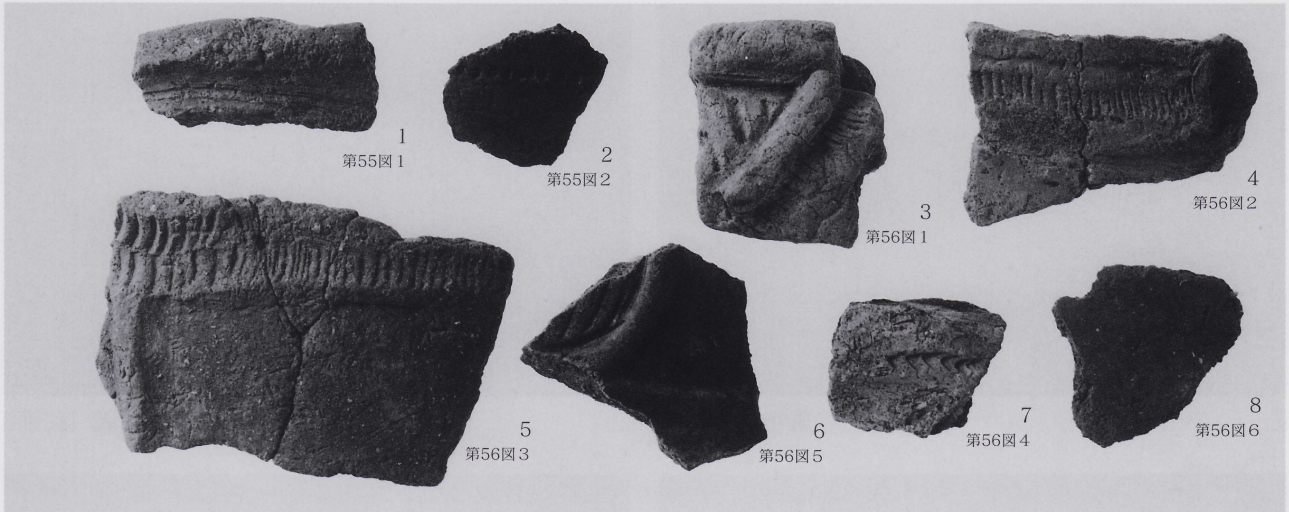
6 第36号土壇



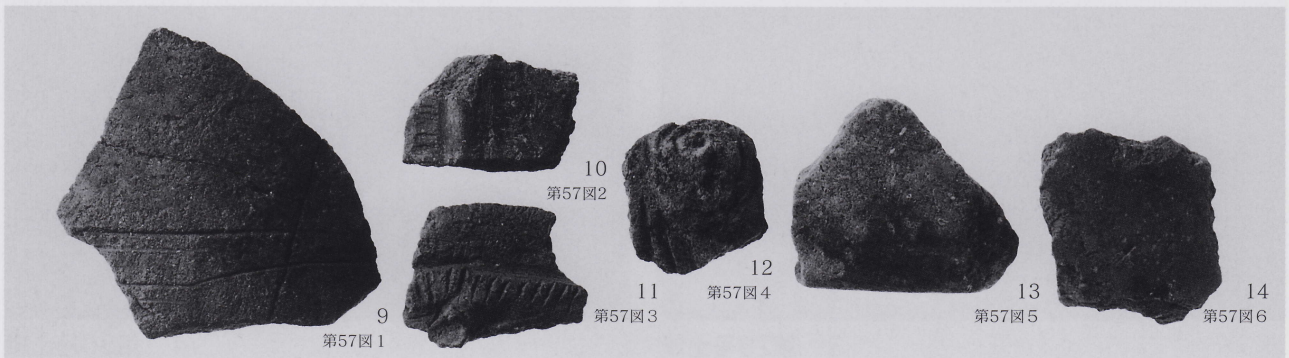
7 第40号土壇



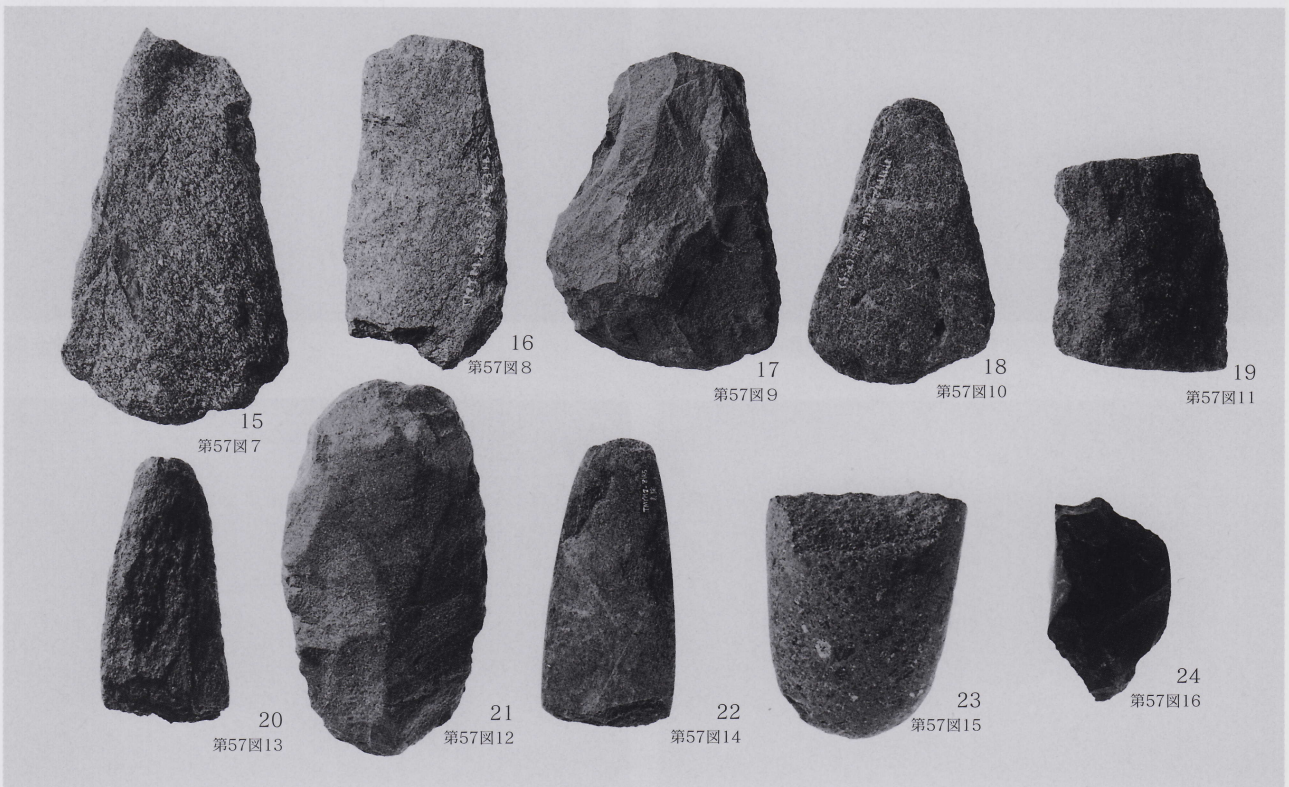
8 第41・42号土壇



1 第1号住居跡・第32号土壌出土土器



2 遺構外出土縄文土器



3 遺構外出土石器



1 第1号溝跡出土遺物 (第66図4)



2 第16号溝跡出土遺物 (第69図6)



3 第16号溝跡出土遺物 (第69図5)



4 第16号溝跡出土遺物 (第69図3)



5 第16号溝跡出土遺物 (第69図4)



6 第16号溝跡出土遺物 (第69図10)



1 第23号土壙出土遺物 (第93図2)



2 第23号土壙出土遺物 (第93図3)



3 第23号土壙出土遺物 (第93図1)



1 第1号溝跡出土遺物 (第66図15)



2 第1号溝跡出土遺物 (第66図11)



3 第9号溝跡出土遺物 (第68図10)



4 第15号溝跡出土遺物 (第68図14)



5 第26号溝跡出土遺物 (第70図12)



6 第28号溝跡出土遺物 (第71図10)



7 第22号土壇出土遺物 (第92図5)



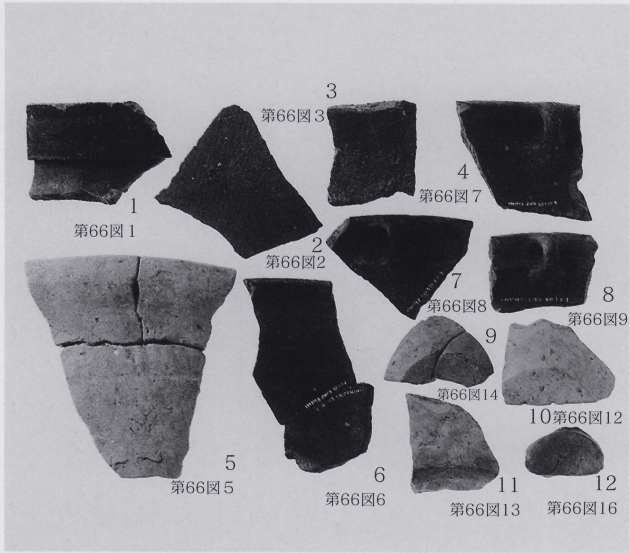
8 第23号土壇出土遺物 (第93図10)



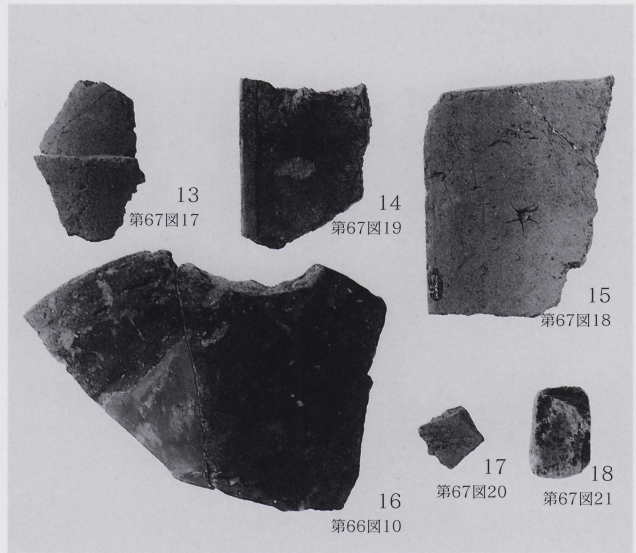
9 第23号土壇出土遺物 (第93図8)



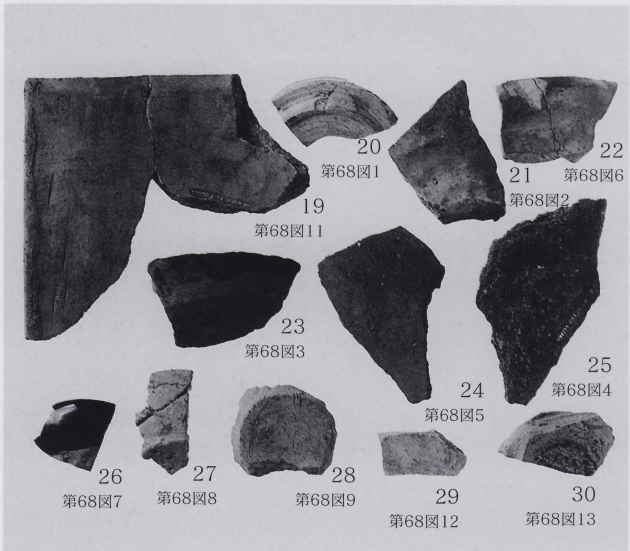
10 第23号土壇出土遺物 (第93図9)



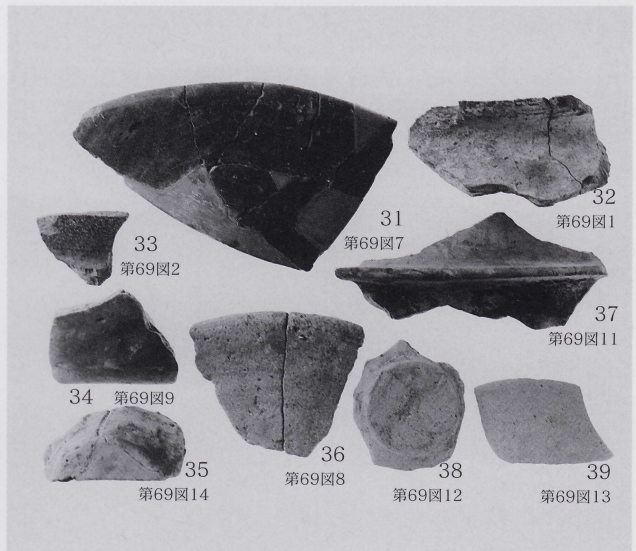
1 第1号沟迹出土遺物 (1)



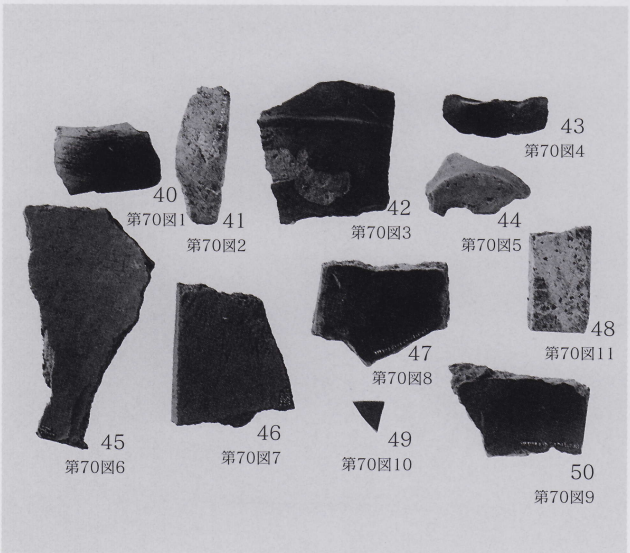
2 第1号沟迹出土遺物 (2)



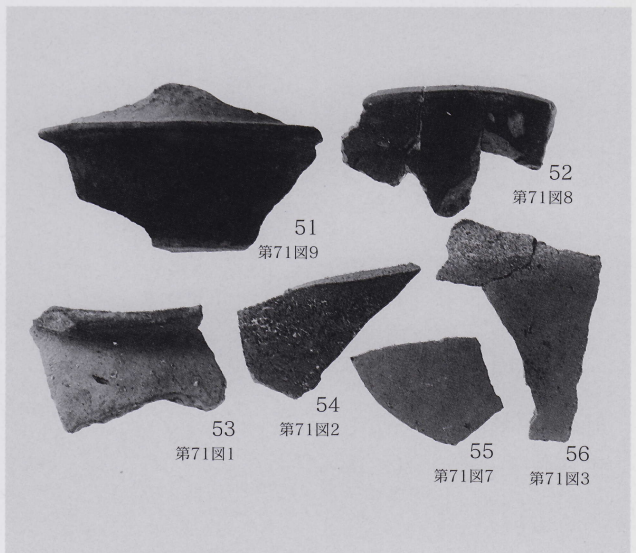
3 第4・5・8・9・11・13号沟迹出土遺物



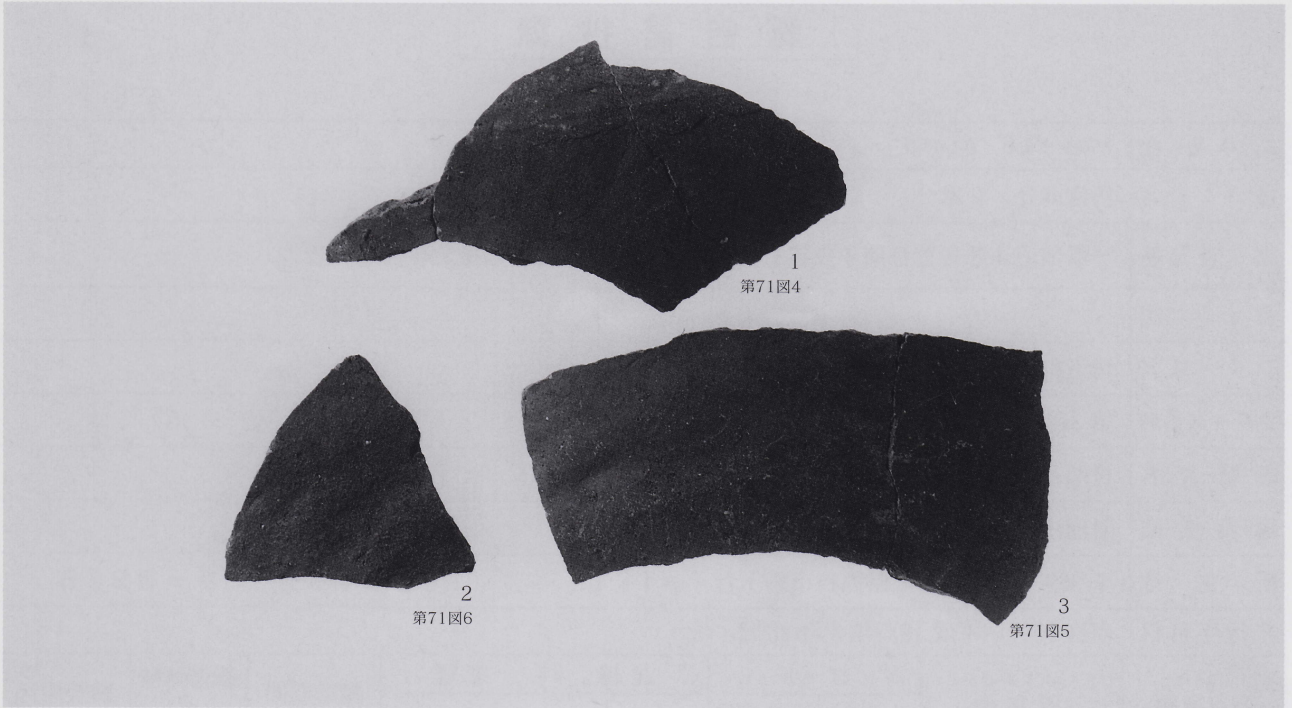
4 第16号沟迹出土遺物



5 第17・18・23・24・25号沟迹出土遺物



6 第28号沟迹出土遺物 (1)

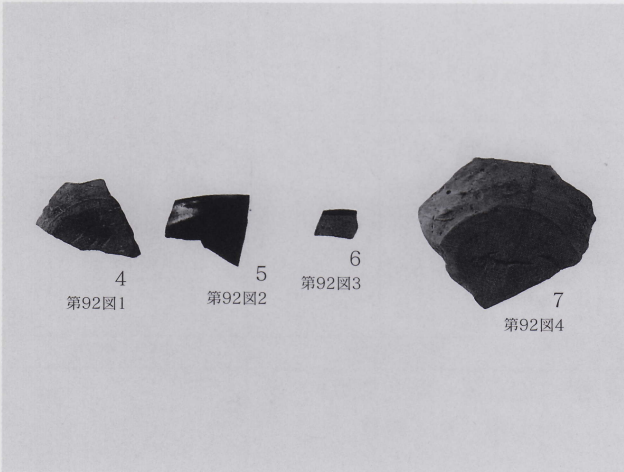


1
第71図4

2
第71図6

3
第71図5

1 第28号溝跡出土遺物 (2)



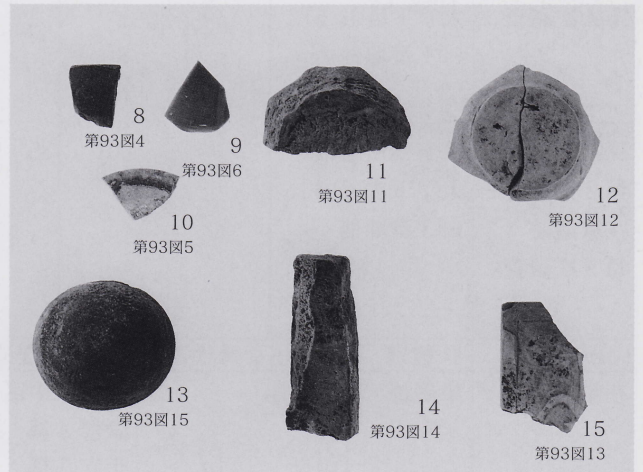
4
第92図1

5
第92図2

6
第92図3

7
第92図4

2 第2・8・9・21・22号土壇出土遺物



8
第93図4

9
第93図6

11
第93図11

12
第93図12

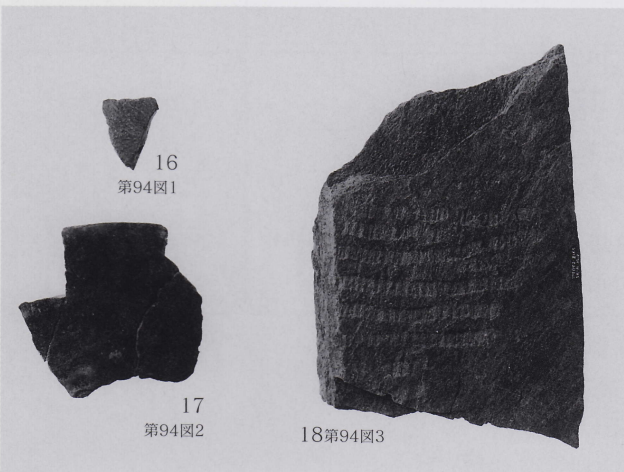
10
第93図5

13
第93図15

14
第93図14

15
第93図13

3 第23号土壇出土遺物

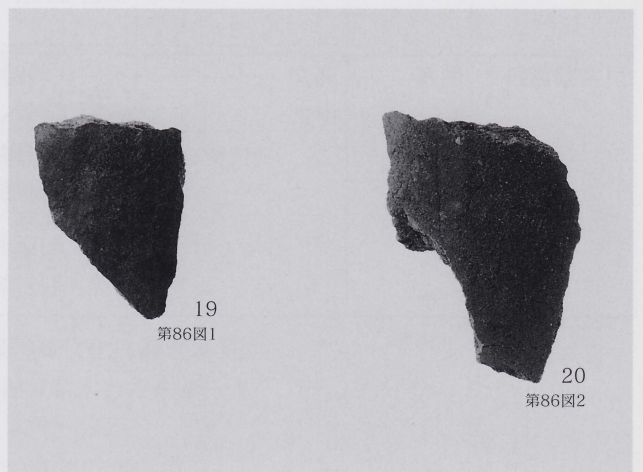


16
第94図1

17
第94図2

18
第94図3

4 第28・31号土壇出土遺物



19
第86図1

20
第86図2

5 第4号井戸跡・E-3グリッド出土遺物

報告書抄録

ふりがな	とみやまえⅡ／ざいけⅡ							
書名	戸宮前Ⅱ／在家Ⅱ							
副書名	一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業関係埋蔵文化財調査報告							
巻次								
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第 342 集							
編著者名	村端和樹							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒 369 - 0108 埼玉県熊谷市船木台 4 - 4 - 1			TEL 0493 - 39 - 3955				
発行年月日	西暦 2007 (平成 19) 年 3 月 28 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
ざいけ いせき 在家遺跡 第 4 次調査	さいたまけんかわごえし 埼玉県川越市 おおあざしもひろや 大字下広谷 673 - 1 番地他	11201	228	35° 57' 21"	139° 25' 54"	20050915 ~ 20060310	5,940	道路建設
とみやまえかんせき 戸宮前館跡 第 2 次調査・ ざいけ いせき 在家遺跡 第 5 次調査	さいたまけんかわごえし 埼玉県川越市 おおあざしもひろや 大字下広谷 431 - 3 番地他		001 228	35° 57' 09"	139° 25' 55"			
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
在家遺跡	集落跡	旧石器 縄文 中世 近世		石器集中区 3ヶ所 礫群 3 基 炉穴 5 基 土壇 57 基 溝跡 10 条	旧石器 縄文土器 土器 瓦 錢貨			
戸宮前館跡	館跡	縄文 中世		竪穴住居跡 1 軒 柵列 12 条 掘立柱建物跡 9 棟 井戸跡 5 基 土壇 49 基 溝跡 62 条	縄文土器 石器 土器 陶器 瓦			

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第342集

川 越 市

戸宮前Ⅱ／在家Ⅱ

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告

平成19年3月20日 印刷

平成19年3月28日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4-4-1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／朝日印刷工業株式会社